

刀 林

第 拾 號

原
干
或
木
炭
中

需
木
料
炭
土

題字 茂木先生

畫 木村先生

畫

木林決主

題字

黃木決主

刀林

才十号

碧山



祝
開
局
十
五
週
年

◇潮の日六十◇

日六十月六曆陰
潮大
潮大も日明

浦安方面の青ギスは盛夏に入つて好漁を續け、十四日は四十九尾を竿頭として三十尾内外になつたのも數人あり、慶應病院の茂木外科部長、唐澤小兒科部長等もそれぐ相當の釣りをした。



學 術 欄

日本外科學會
日本整形外科學會
慶應醫學總會

宿題「春髓外科」の報告を終つて
宿題報告後記

岩原寅猪 空
野崎寛三 交

小 平 記

外科教室より出でたる文献
整形外科教室より出でたる文献
外科集談會
整形外科集談會
抄 讀 會

食研鬼ヶ島
新人紹介
御目出度今昔

F、T、M 一四
A、K、N、生 一五

醫 局 欄

閑、徒、苦 夫
編 輯 員 齒

病院近況
醫局近況
新入局員 赴旅行記
静岡地方震災御見舞の記
警女病院の手術場
下谷雑話
與瀬鮎漁の記
仙
北見の旅
「パンネク」失敗記
鶴岡の斷片

S 菅 生 一〇〇
士 方 生 一〇五
秀 坊 生 一〇二
瀬 田 加 野 放 一〇六
朴 世 堂 一〇三
敏 さ ん 一〇三
布 留 文 夫 一〇四
山 口 生 一〇九

可哀そうなネコちゃん
新婚劇
口の湯
一の湯
喫茶閑談
披露餘談
何が彼をトンがらしたか

醫局大菩薩峠
醫局便り

戀 住 痴 老 一五
多 童 子 一四
志 當 蘭 一四
舊 當 誌 一四
沈 當 誌 一四
舊 當 誌 一四
舊 當 誌 一四
志 當 蘭 一四
惡 童 子 一四
多 童 子 一四

スポーツと救護

對青山外科懇親競技會

一、水 泳
二、麻雀戰
三、競演會

赤 倉 一五
忠 公 一三
T S U N E 一三

シークランクハイト
富士救護座談會
救護一種一談
野球早慶戦秘話

ク ロ ッ ツ 一八
K、A、記 一三
閑 狂 生 一八



刀林 第十號 目次

表紙 題字 茂木先生 論文通過 昇格 新入局 局 赴任 結婚 産

同窓會欄

慶應整形外科教室の回顧 犬養六郎 一 成松清敏 六 柳壯一 七 大庭國紀 八 大庭國紀 九 大庭國紀 一〇 梅村六郎 二 川田正雄 三 鍋島勉 五 中野宗夫 七 佐藤憲一 三 大曾根生 五 草醫瑣談 大 會根生 五

學術欄

日本外科學會 空 日本整形外科學會 空 慶應醫學總會 空 宿題「脊髄外科」の報告を終つて 岩原寅猪 空 宿題報告後記 野崎寛三 六 病院近況 閑、徒、苦、夫 編輯員 齒 新入局員 辻旅行記 S 菅生 一〇 静岡地方震災御見舞の記 土方生 一〇 警友病院の手術場 秀坊生 二二 下谷雜誌 瀬田加野放 二六 與瀬鮎漁の記 朴世堂 三三 仙北見の旅 敏さん 三三 「パンネク」失敗記 布留文夫 三四 鶴岡の斷片 山口生 三九

スポーツと救護

對青山外科懇親競技會 赤倉一夫 一五 一、水泳 忠倉公三 一三 二、麻雀戦 T S U N E 一三 三、競演會 額兵衛 一三 四年連勝醫局對抗戦走 小林忠 一七 醫局對抗野球戦記 坂一吉 一七 外科庭球の戦蹟を顧みて 霧一夫 一七 蹴球 霧一夫 一七 小臺遠漕 霧一夫 一七 三四會船試合記 霧一夫 一七

文苑

昔譚 四谷情景 多津乃 一五 古事記 歸參 禿筆 一六 現代小説 春宵橋上男同志話 小便小僧 一六 歌 樂しかりき 案山子 二〇 新作落語 盲腸炎と猫 百酒家 定五郎 二〇 歌 青空 文鎮 二〇 夜の手術場 紫夢 二二 實話 身體検査異聞 山田庸夫 二二 經驗談 植物雜考 A 理學博士 二二 隨筆 往來雜感 案山子 二二 歌 とも 案山子 二二 葉山の十日間 藤ちやん 二二 つながり蜻蛉 甘井太郎 二六 横濱談議 殿様 二九 軟調文學 握飯 二三 逸話 どもりながら 一三五 漫談 飲酒漫語 杉野一葉 二五 劇 中山莊の印象 たけぼ 二九 寸劇 特診 憲坊 二九 體験談 相撲愚感 名倉厚 二九

編輯餘談

お色けは兎角御婦人に多い様だ 不知人 二四 新聞は毎朝よく見ておくこと 助 二五 戀心 久かか 二五 戀心 久かか 二五 天の原 文ひか 二五 スープ 文ひか 二五 口惜しいワ 治生 二六 秋、三題 治生 二六 伊エ戦争と吳清源 關東求子 二六 幕末異聞 五角 禿筆 二六 少年物語 酒吞童子の悲しみ 庸兵 二七 先生からお土産 姚瑟若 二七 時の流れ 多香子 二七 雨の滴 多香子 二七 病院文學 徒然草 T S U N E 二七 ニュース 感違ひ 二七

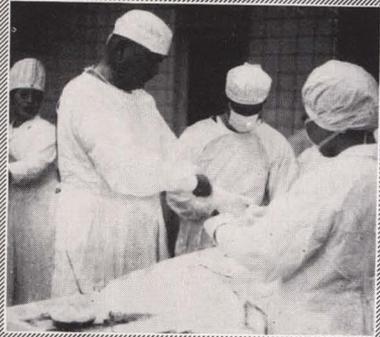
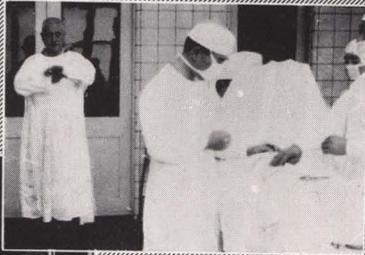
食研鬼ヶ島

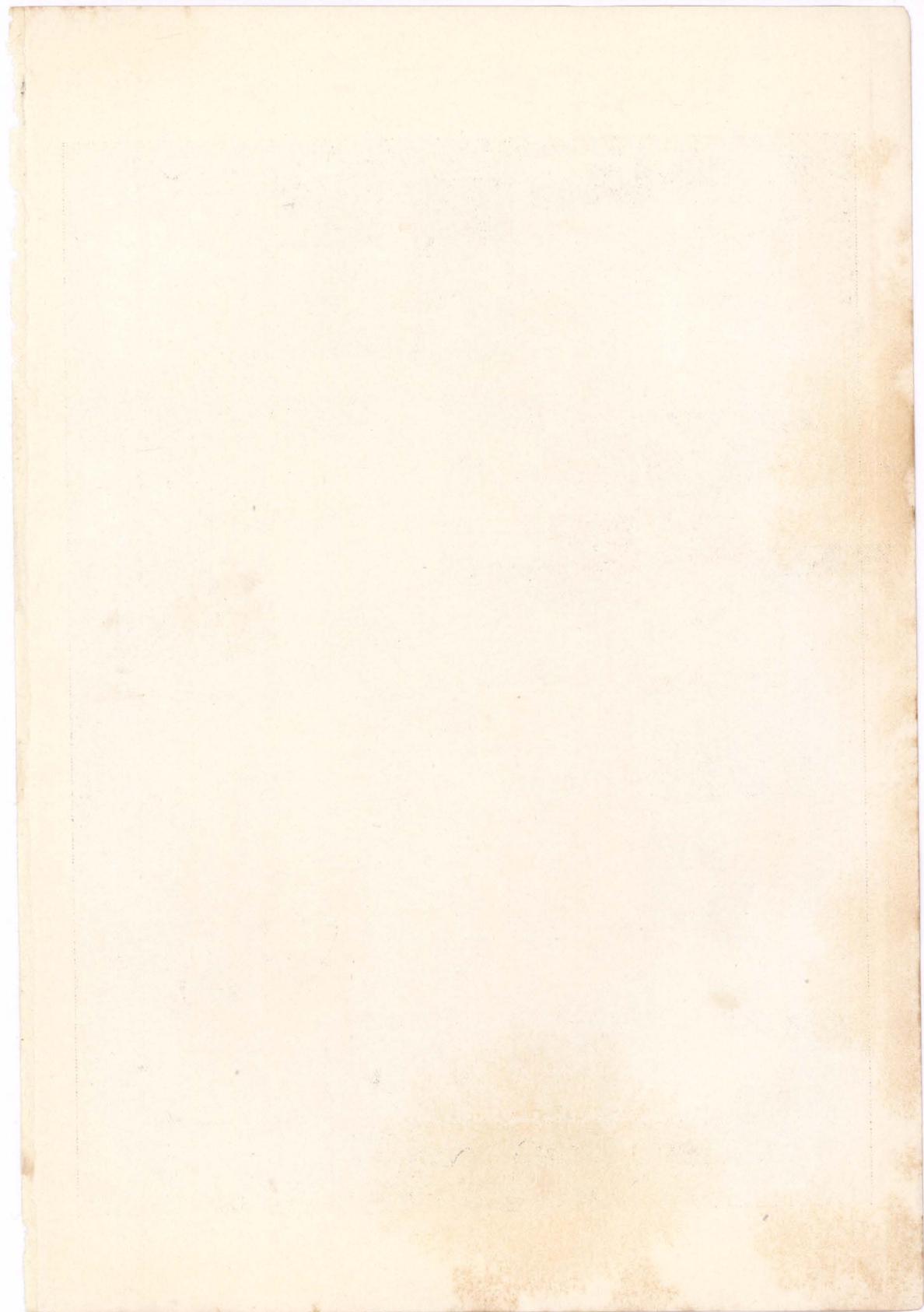
食研鬼ヶ島 閑、徒、苦、夫 新人紹介 御目出度今昔 可哀そうなネコちゃん 舊當誌 一四 新婚劇 沈當誌 一四 一の湯 舊當誌 一四 喫茶閑談 志當誌 一四 披露餘談 惡童子 一四 何が彼をトンがらしたか 多霧一夫 一五 醫局大菩薩峠 戀住痴老 一五 醫局便り 閑、徒、苦、夫 一五 シークランクハイト クロツツ 一八 富士救護座談會 K、A、記 一八 救護一種一談 閑、徒、苦、夫 一八 野球早慶戦秘話 閑、徒、苦、夫 一八 プールで拾った話 比古 一八 神宮競技救護哀話 MONCHAN 一八 軍教 菅里 一八 拳闘救護は物騒な 千津の字 一八 葉山水泳部救護 阿津の字 一八 球場の影 ひか 一八

歌句

歌句 文鎮 二四 注意事項 新聞は毎朝よく見ておくこと 助 二五 紀行文 思ひ出草 久かか 二五 戀心 久かか 二五 十二月 文ひか 二五 新作落語 天の原 文ひか 二五 秘話 スープ 文ひか 二五 長屋情話 口惜しいワ 治生 二六 童話 伊エ戦争と吳清源 關東求子 二六 幕末異聞 五角 禿筆 二六 少年物語 酒吞童子の悲しみ 庸兵 二七 先生からお土産 姚瑟若 二七 時の流れ 多香子 二七 雨の滴 多香子 二七 病院文學 徒然草 T S U N E 二七 ニュース 感違ひ 二七

祝
刀
林
第
十
號





祝 賀

論文通過

土方 久顯君 昭和九年十二月

小野田 肇君 昭和十年二月

豊田 秀穂君 昭和十年三月

鎌田 竹次郎君 昭和十年六月

島田 信勝君 昭和十年十月

昇 格

外科講師 横山 虎雄君 昭和十年二月

整形外科講師 島中 卓助君 昭和十年四月

歡 迎

新 入 局

岩崎一平君 (十三回生)
 蓮江信行君
 尾村偉人君
 大木猪四郎君
 渡邊仁七郎君
 渡邊昇君
 中山一郎君
 名倉厚君

小林忠君 (十三回生)
 小林不二夫君
 小坂慶一君
 赤倉一郎君
 木本多喜雄君
 河田清士君 (舊姓高橋、京都府立醫大ヨリ)
 今井光君 (大阪高等醫專ヨリ)

歸 局

渡邊敬君 昭和九年十二月 二十六聯隊ヨリ
 高木宗吉君 昭和十年三月 滿鐵四平街病院ヨリ
 渡邊治生君 三月 北條館山病院ヨリ
 布留文夫君 五月 藥物學教室ヨリ
 大岡保司君 五月 横須賀重砲隊ヨリ

送 別

| 入 | | | 出 | | | 赴 | | | | | | | | | | |
|----------|-----|---------|---------|------------|-----------------|------------|------------|---------------|----------|------------|-------------|-------------|-----------------|------------|----|-------------|
| 渡邊 | 山田 | 竹内 | 大塚 | 島田 | 佐藤 | 照井 | 岩崎 | 重盛 | 釜江 | 中野 | 古山 | 渡橋 | 高原 | 葛尾 | 宮島 | 銅尾 |
| 庸 | 夫 | 實 | 信 | 憲 | 一 | 七 | 省 | 宗 | 真 | 眞 | 眞 | 眞 | 眞 | 眞 | 眞 | 眞 |
| 昇君 | 夫君 | 實君 | 廣君 | 勝君 | 一君 | 侃君 | 平君 | 郎君 | 司君 | 夫君 | 實君 | 隼君 | 雄君 | 一君 | 啓君 | 勉君 |
| 昭和十年九月 | 同 | 昭和九年十二月 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 昭和十年二月 | 同 | 昭和九年十二月 |
| 築地海軍々醫學校 | 近歩三 | 近歩三 | 大塚、康樂病院 | 十月 芝、濟生會病院 | 九月 滿洲國、ハルビン鐵路醫院 | 九月 秋田、秋田病院 | 九月 鎌倉、大庭病院 | 五月 岡山、鐵道岡山診療所 | 四月 自宅 開業 | 四月 秦野診療所外科 | 三月 北海道、小樽病院 | 三月 橫濱、大雄山病院 | 三月 南洋興發會社テニアン島詰 | 二月 芝、濟生會病院 | 同 | 十二月 甲府、渡邊病院 |

慶 事

出 産 結 婚

| | |
|-------------------|-----------------|
| 土 島 山 布 古 君 神 久 鍋 | 笹 河 蓮 荻 門 赤 濱 土 |
| 方 中 留 山 島 產 | 島 田 江 尾 倉 名 方 |
| 久 卓 文 敏 | 次 清 信 又 一 元 久 |
| 顯 助 廸 夫 明 正 雄 章 勉 | 郎 士 行 八 勇 郎 中 顯 |
| 君 君 君 君 君 君 君 君 | 君 君 君 君 君 君 君 君 |

(舊姓高橋)

| | | |
|---------------------------------------|-----------------------------------|-------------|
| 長 次 次 長 長 次 次 長 長 | 同 同 同 同 同 同 同 | 昭 和 十 年 一 月 |
| 男 女 女 男 女 男 女 女 男 | 十 一 月 十 一 月 十 一 月 十 月 四 月 四 月 一 月 | |
| 同 同 同 同 同 同 同 昭 和 十 年 三 月 昭 和 十 年 二 月 | | |
| 十 一 月 十 一 月 九 月 九 月 九 月 六 月 六 月 | | |

+++++
 +同窓會+
 +++++



慶應整形外科教室の回顧

犬 養 六 郎

慶應義塾大學病院の開院並に外科教室の甫めて出来た大正九年には、整形外科教室は未だ出来て居なかつたのである。慶應整形外科教室の出来たのは其翌年の大正十年十一月である。茂木先生が外科教室主任になられた初めに於て、先生の意向は、慶應に於ては外科と整形外科とは互に密接の連絡を持つて行きたい、具體的に曰へば東大の外科對整形外科の状態でなくて京大の外科對整形外科の關係でありたいといふ御意見で、吾々は度々之を聞いたのであつた。

慶應病院の開院當初に於ては整形外科には主任も無く助手もまだ無かつた。尤も前整形外科教授前

田友助氏が將來整形外科の教授となる豫定で助手の名目で歐米に留學中ではあつた、當時整形外科的
患者は外科で兼ねて治療を行つて居たのであつた。開院當初ではあり又専門の整形外科で無かつた關
係もあつたであらうが、整形外科的患者の數は少なかつたのも事實である。が兎に角外科でギプス繻
帶を巻きもしたし、關節の手術治療も行つても居たのである。

慶應整形外科に最初に専門家として患者の診療に従事したのは桂秀三君であつて、大正十年の暑中
休暇の頃からであつた、桂君は東大整形外科の助手であつたのを、茂木先生が慶應に招いて來る事
なり、任用の辭令は未だ出ては居なかつたのであるが、茂木先生の意向で兎に角大正十年の夏から患
者の診療丈けに一週一回來て居たのであつた。講師として辭令の出たのは其年の秋十一月一日であつ
た。

最初の整形は整形外科といふ名稱ではなくて、整形接骨科といふ事になつて居た。之は桂君の命名
であつたのである。現在の整形外科といふ事になつたのは現前田和三郎教授來任の後に改へられたの
である。そして外來診察室及ギプス室は現在のものではなくて、只今産科で使用して居る産科外來診
察室がそれであつた。然かも病院の開院當時は此等の室は全くガラあきで、時にはビンポンをやる爲
めのテーブルを置いた事もあり、又成松君が油畫の個人展覽會場に使用した事もあつたのである。尙
整形の手術室としては専屬のものはなく現在の外科手術室を日を異にして外科と共同で使用して居た

のであつた。

桂君が整形外科講師として任用せられた大正十年秋から其設備に取りかゝつて、診察治療を整形獨立でやるようにしたのであつた。そして最初の助手としては小坂慶夫君で、現外科助手小坂慶一君の「オトツツアン」が一人であつた。

現在の整形外科診察室、ギブス室、手術室等は其後年を経て設計せられ、以前動物室として建て、あつた建物を取毀して其跡へ今日の如く建築したのであつて、落成したのは昭和三年十二月中旬であつた。又器械治療室は最初は病院全體の細菌及病理研究室即ち第一研究室と曰はれた室であつたが、今日の食養研究所の建物が落成したので、總ての研究室は其方へ移つたので、其不用になつた室を整形で現在の器械治療室としたのである。又今日の整形外科教授室は前記第一研究室の一部を割いて設けられたものであり、整形外科研究室は、病院の出來た最初には雨天の際の洗濯物や小兒科の「おしめ」の乾燥室として作り其設備も拵へてあつたが、此の目的には餘りに使用する事がなかつたので、此れを取り除いて産婦人科で使用して居たものを、整形外科外來診察室、ギブス室及び手術室等の落成と共に、産科が舊整形外科外來の跡に移轉したと同時に整形外科の研究室になつたと記憶する。

大正十年秋洋行中の前田友助氏は歸朝と共に整形外科助教授に任用せられ、慶應整形外科主任として學生の指導患者の診療に従事せられる事になつた。前田友助氏の教授に任用せられたのは大正十一

年六月十六日である。即ち講師に桂君あり、教授に前田友助氏ありであつたが、然し慶應の始まつた時の茂木先生の念として居られた、整形外科及外科は渾然一體となつてやるといふ事とはかけ離れたものが出来上つたのであつた、現在とても整形外科及外科は嚴然たる獨立科目である事は敢て曰ふを要せない處であるが、現在の如くに内面的には一體となつて居るといふのとは餘程かけ離れた状態であつたといふ意味である。助手は最初には小坂慶夫君唯一人で、次で石田忠治君が居り、次に村上晋君、關口林五郎君、眞木武次君等が助手に任用せられるようになった。

桂秀三君が洋行する事になつたので、其不在中を代理として東大整形外科から中村兩造君が講師として任用せられたのであつた。桂君は大正十一年二月十日に助教に任用せられ、洋行したのは同年三月で歸朝したのは大正十三年二月で、其不在二年間は中村兩造君が前田友助教授を助けて、學生の指導、患者の診療を行つて居たのである。大正十三年二月桂君が歸朝したので、中村兩造君は其年の八月に辭職せられ、其後現在の如く朝鮮京城醫大の整形外科教授として赴任せられたのである。

前田友助教授は昭和二年九月十五日に教授の職を辭し、現在の赤坂見附の前田外科病院を新築、開業せらるゝに至つたのである。従つて助教の桂君は自分では當然教授に昇進するものときめて、前祝として整形醫局の助手諸君におごつたといふ話も聞いた事があつたが、其後如何なる理由か、桂教授なるものは實現しなかつたのであつた。桂君は昭和三年十一月二十三日附で依願助教免職となり

其後は講師としての名目はあつても出勤はなく、昭和五年五月十五日附で講師も免じ全く慶應と關係を斷つ事になつて居る。

昭和三年十二月現教授前田和三郎氏が熊本醫科大學より轉任せられて以後の事は余輩の敢て記載を要せない處である。

現前田和三郎教授の就任せられた以後特に茲に認めておきたい事は、以前の整形外科教室員諸君は此の同窓會とは全然無關係の状態であつたものであるが、現前田和三郎教授來任後、同窓會は外科及整形外科の合同のものとなるに至つたのである。茂木先生最初の念として居られた、外科と整形外科とは打つて一丸となすとの理想が實現出來た事である。慶應病院始まつてより正に九年を経て居る。

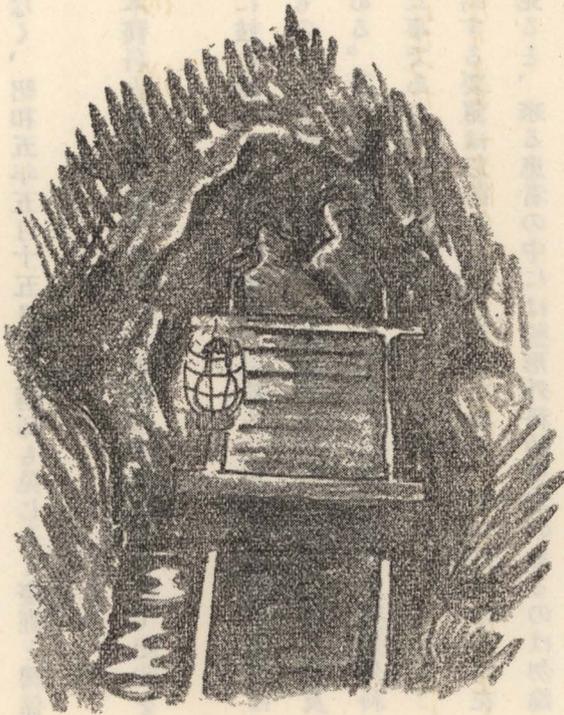
尙又整形外科と外科との密接なる連絡に對する要望は以前からあつたのである。即ち外科のみに在勤した諸君が地方に赴任し、又は開業して見ると、來る患者の中には整形外科的患者のあるのは勿論の事であるから、此の現實の整形外科的患者に對する診察並に治療に就ての經驗を得られなかつたが爲めに蒙る不便や、損失などに就て屢々訴へられた處があつたのである、今や此要望は完全に滿される事になつて居るから昭和四年以後に醫局に入局した諸君は此點に於て大に幸福であるのである。



災害醫學講座

成
松
清
敏

小生の様に産業第一線に働くアルツトは少くとも災害外科の素養の必要を痛感いたします。軌近の様に産業並に交通機關の異常の發展はどうしても災害醫學を伴はなくてはならない筈だと思ひます。それで小生はせめて大學あたりで獨立した「災害醫學講座」の設立を常に待望してやまない次第であります。





北海道より

柳

壯

一

開局十五年、刀林が第十號を發行する様になつたと云ふことは小生が慶應の外科に茂木教授と共に働いた時からもう十五年立つたと云ふ事になります。「光陰矢の如し」とは古い言葉ですが實にうまく表はしたものだと思ひます。

札幌ももう十一年たちまして今では古い方で、どうやら根がついて中々動けさうもありません。しかし極北の大學で所謂エルムとポブラの都でいつまでも若い人を相手にして、それらの人が生長して行くのを見ると仕事甲斐を感じます。いつも元気でやつて居ります。醫局の野球の投手は昨年廢業、此の頃は時々一壘手、今年の醫局のトーナメントでは私の方が優勝しました。皆様の御壯健と御發展を祈ります。



鎌倉近況

大庭國紀

舊臘（昭和九年）廿七日、突然病床につきまして、診療も將に支障を來たさういたしました處、茂木先生の御配慮のもとに即日學友梅村博士を遣せられ、善後策を講じていただきました、同學兄が横濱大雄山病院々長に赴任いたされるまで熱心に院務をとつていただきました。その後は天佑とも申しますか、青森増田病院を御辭しになりました學友村上博士が梅村學兄の後をついで下さいました。

これまた非常な御精勵で平素に倍する好成績を擧げていただきました。其の間心身とも十分なる靜養が出來まして發病以來九ヶ月目、九月終りから醫局より新人岩崎學士の後援を仰ぎまして醫院内容を更に充實いたしましたして、從前通り診療に従事いたしました。

如斯診療に支障を來たさず心身共に靜養し得たることは、一重に茂木先生の御徳の光りと學友諸兄の御同情によるものと深く感謝いたす處で、甚だ失禮とは存じましたが誌上で感謝の意を表して私の

近況を申し上げさせていただきます。

吾 醫 局 史 (希望の一)

危なく黒枠をまぬかれたといふわけでもあり、又年の勢でもありませんか、先輩學友の健在中に、茂木先生を中心とする我醫局史を編纂し置くことは種々の方面に甚だ意味あることで、殊に現代日本精神鼓吹時代に適應したものと思はれます。尙ほその史を正面から見た所謂正史と裏及側及立及横から觀察され觀察した物語的のものを残して置くも更に有意義のことと思はれます。

歴史が建國に當り紀元前があつて、建國に甚だ必要であることを教へる如く、我醫局にもこれと同様紀元前のあることは新人諸兄には御存じないことと思ひます。

で (一)紀元前 (二)紀元元年 (三)紀元二年より第一回卒業生入局迄 (四)第一回生入局後……といふ如く、劃期的に内局的に記述すると共に對外的關係、例へば茂木先生一行の滿洲救護の如き或は他醫局、例へば理學的診療科、或は整形醫局、或は學研的關係教室、或は研究室といふが如く記すことも面白く意味あることと思ひます。

かくしてその梗概を略圖的に刀林に毎回掲載し置けば、新入局諸君の吾醫局史の全貌を知るに便とし、更にその詳細を知らんとするものは史を繕けば我醫局の今日あるを知るに十分であると思はれま

す。
尚ほ紀元前及紀元元年には犬養、梅村、中村諸君等を以て各分擔的に筆をとつていただいたら甚だ妙であると思ひます。

親族會議（希望の二）

醫局と我々の如き院外のもが更に相近く相親しく相語ることは、恩師に對して孝であることは申すまでもないことである。家族に親族會議があつて家族制度の徳を保護する如く吾が家族醫局同窓會にもこれが應用が出来れば………。評議員等の名はあるが、未だ實が伴つてゐる様に思はれません。もし充分に活用が出来たら物事が更に明朗に愉快に解決が出来るかと思はれます。例へば今回の北里先生圖書館寄附の如きもその結果に於ては同じであつてももし吾が親族會議を利用してゐたらその風味に於ては他の追従を許さないものがあつたではないかと少なくとも私には思はれますが？





とても嬉しかったこと

梅村六郎

喜怒哀樂を色に現はさないと云ふのは久しい間日本武士の修養の目標であつた。自分達も子供時代にそのため幾度も叱責せられたものである。

ところが西洋文化の輸入により、一部人士間に喜怒哀樂は素直に現はした方が當然であり自然であるとせられるやうになつて、近頃は積極的と云ふのか随分デカタン的な表現法を試みる連中がある。何れが是か非か、それ〴〵根據も理由もあらうが是非は閑人の論議に任せて、さて實際問題になるとなかく困難な事である。ともあれ近頃もつとも痛快に思つた事は山田中佐の自決であつた。

なせつて？ それは！ 見給へ世の腐敗をさ！

大臣大將の爵位勳功が賣買されたり、學問が切賣りされたり、學位賣買の噂さが耳にされたり、ま

あゝそれが世の指導階級の爲すべき事かとまで思はれる世の中に假令廉恥を貴ぶ軍人社会のことなどは言へ、ありもせぬ噂を立てられたからと言ふ位のことでは自己の純潔明徴のため自決するなど、ちよつと凡人には眞似の出来ない事である。

世の中には随分軽卒な坊ちやんがあつて、人の噂を片耳にはさんで大切な他人の人格を疑念を以て云々する人がある。そんな人に詰寄つて然らば君はその事を何某より何處で聞いたか？ その根據は何か？ と究問に及んだらグーの音も出ぬことであらう。然らばその責任を負うて腹でも切るかと言はれたとて腹は愚か小指一本だつて切り得ぬであらう。

事ほど左様に今の世には無責任な言辭を弄する人がある。實に山田中佐の自決はこの腐敗しきつた今の世にこの上もない痛快な警鐘であつた。



山田中佐の自決

川田五郎



静岡便り

川田正雄

慶應外科に生れて育かれ、可愛い子(?)の旅に出して戴き早いものですもう三度目のお正月をこの静岡で迎へやうとしてゐます。院長いよゝ銀髪多きをみとめます。この銀髪こそ「とても嬉しかつた事」等々を超越した輝かしい尊さとして私はいつもゝ肝にこたへて涙ぐんでる次第です。

志田君、體重の増したと共にいよゝ金廻りもよろしい様で最新最巧のカメラを仕入れ、これを大切にすること又妻子以上の如く愛撫は積つてケースの汚れを光らしてゐます。年中行事の院内寫眞展覽會を牛耳つてゐます。

栗本君も赴任當時の孤影も今は昔、一躍三倍の人口となつてゐます。小生のとこのお産の翌日目出度く第二世を儲け、「キンチマのバ、」の稱號をゼンゲリン街に新造され本年のモダン新語辭典に登載される事になりました。更夜も愛兒の泣聲につと目を覺ます sensitivity にて、このところドロボーを失

業さしてゐる様です。

下つて小生、静岡の土地由來「油が高い」らしく、恥しながら年兒を産んで、いやはや家中賑やかなこつてす。これではやはり、ゴム相場を買ひあはねばやつてゆけ相もないと決心してゐます。



キンケマのパパ



甲 府 よ り

鍋 島 勉

先生の膝下を離れて最早一年に垂々として居ます。所謂開業醫のコツらしきものも臆氣ながら解りかけて来た様な氣がします。病院が他の開業醫連中から全くの孤立無援なので初めの中は吞友達もななく淋しさを啣つて居りましたが、近頃漸く吞仲間も出来色々と思告してくれる人もあり、病院の立場も分りかけて来ましたので何うやら方針も立ちかけました。唯他醫からの紹介がないので醫者から敬遠されたと云つた形の豫後の有がたくない様なのが自身で廻つて來ます。今迄十ヶ月間に手術した主なるものは胃瘤三ツ、直腸瘤二ツ、小腸瘤一ツ、ブラーゼンモレ。腹膜炎と間違へた卵巢囊腫の捻轉等ですが幸にも未だ一人もステらないで退院だけはして居ります。紹介のない關係でアツペは僅かに六例ですがその中三例は「ペリトニチス」です。目下膽石で膽囊切除をやつたのが居りますが、不覺にも「レーベルチルローゼ」を合併して居りましたので腹水が無くて「タルマの手術」をやつて見ましたが今日四日目ですが之は絶望だと思つて居ります。惡轉歸は之が最初だらうと思つて居ります。勿論經驗は浅いし一寸手をつけかねる様なのも院長がすつかり説得してくれて豫後も悪いのを承知さしてあるので、何でも思切つて出来るので飛んだ怪我の功名をする事もありますからその點非常に

感謝して居ります。

汽車はわづかに三時了。

一晚泊り位で……

清遊でも

濁遊でも



御趣味はなして……エラ（ワ）

當地も近來縣が「觀光山梨」に非常に力瘤を入れて居りますので、杖を引く人も多く又事實一度は觀て置いても好い様な所が多々ありますから、是非皆様方の御來遊を御待ちして居ります。汽車も僅かに三時間しかかゝらなくなりましてから一晚泊り位で御出で下されば清遊でも濁遊でも御趣味に應じる用意はありますから。
長々と駄文を弄しましたが、茂木先生初め諸先生方の御健康と十五周年を迎へて刀林の益々隆盛ならん事を祈つて筆を擱きます。
尙家族は夫婦と五歳の長女と今年二月生れの長男の四人ですが相變らず頑健です。





西伊豆土肥便り

中 村 廣 人

昭和七年西伊豆土肥温泉に新設の慶應堂病院へ赴任して、早や三年の月日は流れました未だ當地の事情を御存じない方も多しと思ひ、田村君からの御依頼で拙いながら土肥紹介の筆をとる事に致します。

伊豆は熱海伊東の相模灣に面して東海岸、下田石廊岬の太平洋に突出せる南豆、土肥松崎の駿河灣に接した西海岸、三島修善寺を経て、天城山に至る中豆と四大別されて居ます。

土肥(とい)は西海岸の中央に位し、西方に駿河灣を距て、清水、久能の山、氣が澄んだ時には三保の松原、遠く南アルプスの白皚々たる連山を望み、東南北には屏立せる山で囲まれた、人口約七千の一僻村です。西海岸唯一の温泉地で、徳川時代から採掘して居る有名な土肥金山の所在地です。氣候は溫暖にして冬季霜を見る事稀にして、雪は減多に降らぬ暖かさです。夏は海水浴で暑さも割合に凌ぎ易く、春秋は全く言葉通りの常春の地にして、龍舌蘭、仙人掌、蘇鐵が繁茂して南國情緒を漂はせて居ます。産物は何と云つても土肥金山の金銀、殊に昨今は素晴らしく含有量の多い鑽石が出で、

島木赤彦

土肥の海

こぎ出で見れば

白雪を

天にかけたり

ふこの言は

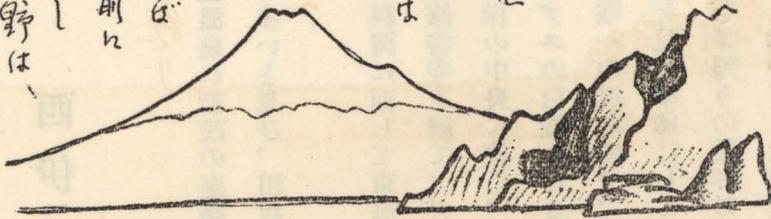
海の上

極くくけ見れば

わがし船は

押しとて来るらし

富士の裾野は



村の山寄りには新しく三ヶ所の金山が採掘を開始して、ゴールドラッシュ時代を現出して居ます。蜜柑、ネーブル、椎茸の外、枇杷も名産の一つです。漁師も多く魚類は勿論貝類、海苔、天草等澤山採れます。

勤務の餘暇を見ては元氣な患者を引連れて、海釣りに又は河に鮎釣りに出掛けて、夕の食卓を賑やはせる事もあります。伊豆の中でも西海岸が一番未開の土地で交通の發達も大變後れて居ます。病院開設の年、漸く修善寺から山傳ひにドライブウエーが竣工し、土肥を経て西海岸に出で、靈峰富士の明麗な姿を眺め、迂餘曲折する海岸に聳立する奇岩怪石を望み、松崎に至り、これより再び山に入り、下田に通ずる伊豆循環道路が開拓されて、やつと遊覽地として浮び上り、交通も便利になりました。以前は沼津からの海路が唯一の交通機關で、西の烈風が吹けば波濤高く數日航海も止み、新聞も郵便も配達されず、離れ小島に流され

若山牧水

伊豆の國

土肥の藩を

批犯は後り

つらり舟の

出で競ふ

頃よ

山崎の

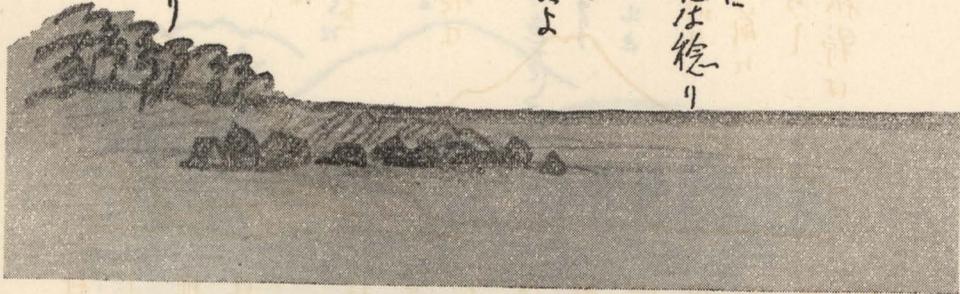
櫓の木かげり

芝道に

出で会かし

海女は

藻の匂せり



た様な淋しさを託たねばなりませんでした。處が現在は陸路拓けて一日八往復のバスが走り、之に對抗し汽船もスピードアップして沼津より一時間半で一日四回運航して居て隔世の感があります。東京よりの旅程僅かに四時間半となりました。

斯く邊僻な人口の尠い土地に如何して病院が出来たかと思議に思はれるかも知れませんが、慶應堂病院の設立経過を少し述べて見ます。當地方には開業醫少く漸く村醫が數人居るのみで、學識も淺く經驗も薄く面倒な患者は直ぐに沼津へ曳船で運搬され、即時入院加療と云ふ工合で、村民は莫大な費用を要したものです。爲に沼津の病院では「いゝ鴨來れり」と許りに大いにポツた相です。沼津は温暖の地で一方氣候に恵まれても居ませうが、他方斯く西海岸の患者を吸集し得る位置にある爲め醫師のオアシスの如く見られ、そ

興謝野晶子

すなほなる

ころろの如く

湯のまじりに

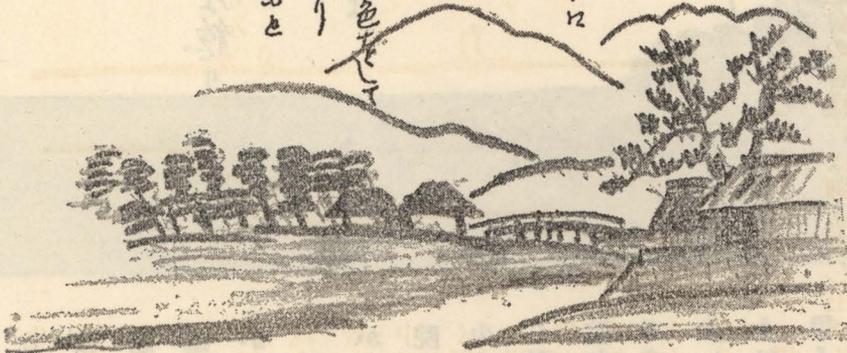
土肥の小川の

海に入るかな

昔風や湯川蓬の色をして

土肥を行くなり

金山の山と



の数も無限に増加し、現在醫師一人當人口五百七十一人で日本第二と云はれて居る様に醫師の洪水を來して居ます。従つて醫療費の大部分が沼津に持去られ、村民の財産が相當多額流出する事になり、これに附隨して時間的損失の大なるを惟ひ、西海岸大衆の健康福利の増進、衛生思想の向上を計らんと土地の有力者が病院設立の希望を持ち、内科の西野教授と相談し、病院を建てるなら一層総合的のものとし慶應をバックとして東京方面よりの豫後靜養患者を送り、轉地療養地たらしめたらいゝだらうとの賛成を得て、初めてこの病院が誕生した譯です其後前塾長林先生を初め諸教授諸先輩の御熱誠なる御後援を得て今日ベット三十も殆んど塞がつて、漸次好成绩を収める様になつて參りました。内科小兒科院長土屋均先生（第一回

西條八十

土肥の浜辺の春ふかみ

なまぐさの浮み紅椿

夕さう来れば音もなく

白帆と共は流水さう

けり

カ

失望する事も度々です。こんな工合で伊豆のエロ風景は東海岸の殷盛な土地に何遍も遠征して詳しく探検して居られる同窓會の皆様には御話申し上げる程の材料も御座いません。

生)産婦人科雨宮白先生(第四回生)外科方面小生が擔當して居ます。内科には助手として内科醫局より一年交替で今井君(第十二回)が来て院長を助けて居ます。入院患者は主に東京方面よりの轉地療養患者で、村民は約二割位です。外來は外科方面が多く殊に金山坑夫の外傷が一番多くなつて居ます。土肥温泉エロ風景も書いて呉れとの事でしたが、當地は未だ發展の途中で熱海、伊東、下田方面に比較して遊覽客の數も少く所謂街の天使も約四十名、藝妓が十名位、如何に其の道の猛者が馬力をかけて活躍しても成算立たず、立替り入替りですぐに住み替へをやります。渡り鳥の様です。月に二回檢査をやりますので面白いフアールがありますと何かの機會に醫局全部で押しかけ「淺い川」でも踊らせ様と楽しみにして行けば最早や姿も見えず

秦野便り 中野宗夫

早慶戦に勝つた秋、實に愉快です。

茂木先生を始め醫局皆々様には愈々御健祥の御事慶祝至極に存じ上げます。

本年四月醫局のお世話で神奈川縣中郡秦野町秦野診療所に就任致しましてより半年が過ぎ去りました。以御蔭至極頑健に罷在り勤務致して居りますから御安心下さい。

當診療所は秦野町外五ヶ村組合立で昭和八年二月十一日に開院内科、外科、耳鼻咽喉科の三科に分れ、本年五月には耳鼻科へ伊藤太兵衛氏、同七月には内科へ京五郎氏院長として來任せられ目下は猶開院當時よりの内科醫一名留任されて居りますが、慶應からの三人協力して向後の進展へと努力致して居ります。

小田急沿線大秦野驛下車約五丁、新宿から一時間半、小田原へは三十分の處です。人口は秦野町だけでは一萬二千、五ヶ村を合せて約六萬、名産は煙草、落花生、名所としては近くに大山、丹澤山あり。丹澤山には當今は山窩も居ないやうでハイキングには好適。又大正十二年の大地震の際一夜で出來たといふ震生湖といふ周圍一里餘の湖あり、附近の丘地と合せて風光實に明美なる所もあります。

醫局よりは勿論小田原の戸田先生並びに草野先生よりも多大の御支持御鞭撻を賜つて居ります事を深謝致して居ります。厚く御禮を申し上げます。

我等のプライド 平和と團結を誇る外科醫局の益々御發展の程祈り上げます。

北鐵病院だより

佐藤憲 一

昭和十年十月一日から出勤して居ります。病院は慶應の本館及び東西校舎を合せた位の敷地でニレ林の中に各病棟がスラリ／＼と建つて居ります。外科病棟が一番新しく設備も整つて居ります。前院長が外科部長だつたお蔭ですね。大分お金をかけてありますが滅菌水を作るにも消毒器も電熱を用ひるので時間がかゝつて困ります。

器械、器具類が總て一まはり大きくて使用に不便です。手術室は三方ガラスで無影燈はツアイス製です。日本人の機械屋が驚いて居りました。この病院へ西部線滿洲里、東部線綏芬河の分院から手に負へぬ患者を送つて來ます。

今の外科部長は副院長で滿人、南滿醫學堂出身の方で日、滿、露、獨、英の各國語の出来る人です。月水金が副院長、火木土が私の診察です。自分が診た患者と日本人の患者は私の受持、今は日本人五名、ロシア人四名、滿人九名居ります。私の診察の時にはロシア語通譯と日本語通譯と居るのですが日本語通譯は滿人のブレです。日本人以外のブレを使ふのに言葉が分つても分らなくても日本語でやつて判るまで首を振つて金髪連をまごつかせる事もあります。露人のブレは特診があつても重症があ

つても四時の時間が来ればさつさと歸つてしまひます。一寸と變つて居ますよ。

町に出て一寸何所かに入つてもロシヤ美人が居て、親切にサービスして呉れます。そして少しは日本語が出来ます。お出になりたい方はドシ〜お遊びに御出下さい。ロシヤ料理を御馳走致します。



草 醫 瑣 談

大 會 根 生

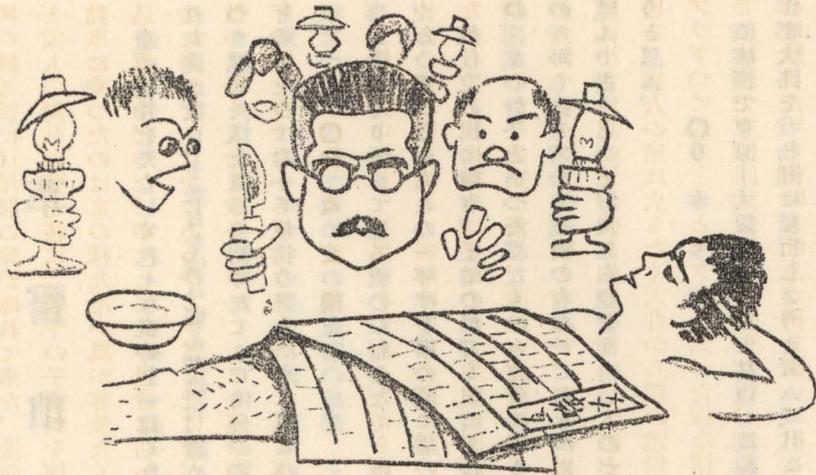
遽に親爺を失くして色々な重荷を一緒くたに背負はされた僕は數日、十數日を惱み悩んだ揚句、諦めと決心をつき混ぜた様な氣持を胸にたゝんで田舎の家に行李の紐を解いたのは約一年半前の野山に漸く若草の萌え始める頃だつた、生れて始めての開業醫の感想—そんな悠長な事をゆつくり考へて居る程の餘裕もなく、唯つらいものだと思ひながらこの一年半を夢の様に過して了つた。

俄仕立の田舎醫者、土地の風習も氣質も皆目判らず所謂開業の骨子といつた様なものも充分のみこんで居ないのだから到る所珍談續出の有様でこれを所に觸れ、時に望んで書きとめて置たなら相當面白いものが出来るだらうと思ふ。

オリキシヤ

旅客機で東京—大阪間を一日で往復し流線型タクシーが都大路を我物顔に横行しようと思ふ現代に人力車は餘りにも交通機關のスピードアップを無視した時代錯誤的

の存在である。横濱驛頭に外人の好奇心を満足せしむる以外には殆んど必要を認められないに拘らず、未だに醫者だけは—特に地方の醫者は俾の長所を是認して可成澤山使つて居る。其の理由の第一は經濟の問題である。自家用自動車を持つものは別として假にタクシーを頼んだとすれば一町先の患家へ行くにしても五十錢の自動車賃をとられるけれど俾ならば殆んど半分の經費で事が足る。又當地の様な僻地では自動車の横づけになる様な家ばかりはない、途中から車をすてゝ重い鞆をブラ下げて歩かなければならぬ事が屢々ある、殊に兩上りの泥道に磨き立の靴をとられる様な危険も俾ふから一層こんな事なら俾の方がいと云ふ事になつて結局此の頃では夜間急病遠距離の往診以外には大抵スローモーションの俾を利用する事にして居る、最初の中こそ俾に乗つて町中を歩く時一種の焦躁と氣耻しさを感じましたけれど最近ではすつかり板について「お醫者さん」が通ると振返られても



少しも霽易しなくなつた、恐らくこうした月日が重るに従つて田舎
 醫者として築き上げられて行くのであらう。

○開腹手術

無影照明燈の下で縦横にメスを振ふ時外科醫は他の何人にも味ひ
 得られない一種の爽快さと興奮とを感じるものである、またそれで
 こそ初めて外科醫の手腕を充分に發揮し得られるのであるけれど時
 と場合によつては、随分不便な場所です手術を餘儀なくさせられる事
 がある。肌寒い秋風に桐の病葉が寂しく散つて行く或日だつた、粗
 菜の煙とランプの油煙とに天井も曇も眞黒に煤けた、とある百姓の
 一間、二十位の男が煎餅蒲團にくるまつて微かな呻聲を立て、居る
 病氣は蟲様突起炎から來た穿孔性腹膜炎、勿論寸時の逡巡を許さな
 い、と云つて里餘の道を自動車に乗せて運ぶには餘りにも重態であ
 る、「これは到底助からないから」と振捨て、歸るには親達の歎き
 も思ひ遣られて餘りにも不憐である。ランプを四つばかり借り集め
 四角巾代りに新聞紙を敷いて開腹手術を始めたのは、それから三十
 分ほど過ぎてからだつた。手の消毒などは殆どやらないと同様であ
 る。親兄弟隣人達が驚異の目を見張る中に手術は徐に進められる。
 全く文字通り徐ろにである。何故ならばランプの光では、いかに眼
 か達者でも縫合針の孔さえ思ふ様には見えないからである。漸く手

術の終る頃には洋服の膝が痺れて來た、洗面器一杯の膿と家人の驚歎の聲を後に、若干の手術料を懐にして、自動車に乗つたのは氷の様な冷い風が容赦なく背筋に流れ込む眞夜中だつた。幸にして此の患者は助かつて居る、金に糸目をつけずにあらゆる手當を受けながら果敢なく散つて行く人命も數多い中にこゝにも運命の神は此の青年の頭を撫でながら皮肉な笑を笑つて居る事であらう。

○物々交換

夕飯を途中にして妻揚子をくわえながら患家に急ぐ。外套の襟に顎を埋めて霜解けの田舎道に轍の覆るを怖れながら走る程に馳るほどにやがて麥畑に圍れた茅葺屋根のさゝやかな農家に着く、薄暗い爐邊に烟る火を圍みながら何やらモソ／＼と囁き合ふ五、六人の男女、女の膝には小さい男の兒が體を蝦のやうにして寒そうに眠つて居る、病人の室は火もなく天井から裸の電燈が幻の様にブラ下つて居る……とマアかう云つた様な情景はこれまでに往診先で何回見受けるか分らない、こんな場合「これは駄目だ」と何時も吐息が胸を衝いて出る、患者が駄目なのではない、往診料が駄目なのである、當地では遠

い農家などへ往診した場合、大抵現金で謝禮を受けて來る、習慣になつて居る、度重なると負擔が重くなつて一度には拂ひ切れないからだ、所が甚しいのになると、その一回の往診料さえ思ふに任せぬ家が少くない、晨に霜を踏み夕に星を戴いて土と汗とにまみれながら働き尙且こうした生活苦にあえぐ家がどれ程あるだらう、然し流石に純朴な百姓である、醫者の藥代を踏倒す様な事は滅多にしない、茲に彼等が豊富なる智囊を絞つて考え出した窮餘の一策が所謂物々交換の妙手である、一家の窮乏を訴えられた上、頭へピンと來る美酒の饗應に預り剩さへいとも見事なる芋、大根の土産を自動車に満載されては常に仁術を強要されつゝある醫師の妄りに往診料を請求するに忍びんやである、自動車は自辨リンゲル注射、カンフル注射と騒いだ揚句が芋、大根と來るのだから夥しく割の悪い物々交換ではある、かうなると「人間は勘定の動物なり」と洒落など云つて居られる場合でない、晩酌の快い陶酔から既に醒めて土だらけの野菜を土産にして歸る夜道に木枯は寒く開業醫の果敢なさが滲々と感ぜられる。



くだくだ誌

夢迷居士

都を距る三百五十里、國境の手前九十里、今日は十一月の六日、「刀林、々々」と矢繼早の御申越も「冬來、々々」と聞えて居たが、さて考へてみると其締切も數日に迫つた。第十號だからと念を押されては例年の通り黙殺する譯にも行かない。といつて別にとりとめて書く事がある様な無い様な。

今朝から粉雪がちらほらと舞ひ出した。此處では最早、ストーブがぬく／＼と燃え續けて居る。戸外の零下X度とは餘りにもかけ離れた部屋の暖かさである。そして其中にラデオが南の聲を靜かに響かせて呉れて居る。九時半の時報にももう間が無い。これから夜中迄、これが田

舎醫者の自分に與へられた開放された時間なのだ。手術患者も皆眠つてゐる。家の中も靜かになつた、戸外も風が止み靜かだ、時折支那蕎麥のチヤルメラが遠く聞えて来るばかりだ。毎日々々、祭日もなく、日曜もなく、朝から晩まで自分の時間をちつとも持たずに頭と體を使ひ續けてゐる人種、之が醫者と云ふ存在なのだ。患者が來る、診察する、治療する、醫者對患者、完全に「一對」の状態なのである。如何な籤でも此際には物質を離れて全精神を打ち込んだ神聖な時を過す。之程緊張した商賣が世の中の何處に在るか。或患者（高等教育を受けた人間なのだ）が治療後に言つた。「あの時の頓服は確かに二



十銭の價値があつたが、その次の注射には錢を捨てた様なものだ。」と價値のあつたのはアスピリンであり、注射といふのはスタ、フィロヤトレンであつたのだ。即座に熱が降つたのと然らざるのとの相違なのだ。又或患者は言つた、「外科醫者位蟲のいゝ奴はない、他人を痛い思ひさせた上に金を取る」と。今の世の中は之なのである。醫者の精神方面を更に考へては呉れぬのだ。總てを物質に換算して、より以上の一步をも踏み出そうとはしないのだ。斯んな事なら醫者商賣も藥屋と機械屋の手先となつ

たブローカーに過ぎないのである。諸君馬鹿らしくはないですか？

然し世間には完全に醫者商賣に適した人が居る。自分の診て居た患者が治れ

ば本當に自分の力が治し、又自分であつたればこそ治したのだと考へて居る。反對に患者が死ぬば、今迄の事を根掘り葉掘り追求して、何時何日俺の言ふことを聞かずに、或はそれ以外に勝手な事をやつたから死んだのだなど思家先で佛を前にして家人縁者をきめつけて來るのである。此町にそんなのが一人居る。某大學を出て小兒科の醫局に二三ヶ月暮して、教室の「處方集」をいとも小さな手帳に寫して來たのが總てであるが、小兒科の専門は自分丈だと偉張つてゐる。「此町で本當に専門をやつて居るのは先生と私丈ですね。あれは耳鼻科のくせに小兒科も診てゐるし、あれは内科のくせに小兒科も診てゐる」と俺の前でよく言ふ。併しですぞ諸君！彼の小兒科たるや十五歳以上よいゝ迄が過半数、其上時には婦人科もコソくと診るし、淋病も注射と「ウワ煎」とでやるのだから俺の専門もくさるのだ。淋巴腺炎のブクブクした奴を廻して來て、あとから電話で「最前お願ひしたのは丁度切り頃だつたでせう」だと。當方へ送るまでの十餘日間毎日太陽燈と投藥を續けて居つたのだから敵はぬ。名刺を持つた患者が來た、「シヤンケルの手當御願



申候。但當方にてアーセミンは注射致し置候」身を喰つて骨をしやぶらされた體。兎に角斯んな手合は自分より偉い者は無いと考へとる。といつて少し羽振りのよい者の前に出れば幫間であり、同僚は陥いれ、下には暴君であるといふ複雑さを有つてゐる。斯んな圖々しさを持つた人間が一番今の醫者には適して居るのだ。誰かが言つた「マニイでなくちや偉い醫者になれない」と。教室の諸君！マニイになり給へ。俺は何んぼ努めてもマニイにはなれない。元來好んでなつた醫者でもないから一時も早く轉向し度いと思ふ。兎に角醫者のことを書いて居る

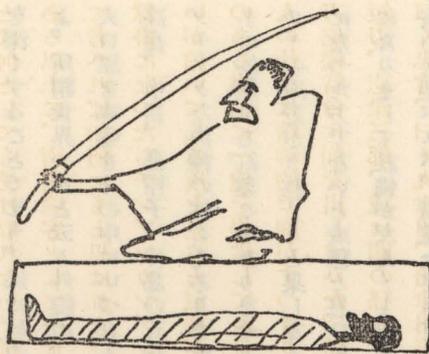
のも退宿だから筆先も轉向しよう。

八月の中旬に木邊派の木邊孝慈男爵が來られた。當地の寺で病氣になられたので少し許りお世話をしたら「弘誓」と書いて下さつた。又鳥谷幡山畫伯の繪いて送つてくれた觀音像に「聞其名獲無量福」と讚をして下さつた。俺には書は判らぬ。が何う見ても「うまい」と言ふ感はしない。唯眞面目だ。それでよいのだ。先夜某家の書畫を見に行つて來た。中に奥村晴湖の書があつた。實に元氣のよい又氣持のよいものだつた。女の書とは何としても受け取れない。併し南畫の女流一人者である以上に、南畫論客として一世を壓した女史の書として考へれば如何にも思はれた。書は六ヶ敷しい篆書や隸書になつたらチンプンカンブンである。書もわからないうが繪いてゐる所を見ると氣持がいい。此夏から院展派のある畫伯に一室を提供してお世話してゐるが眞面目な人の仕事は精神的で胸がすつきりする。明治節の午後、刀劍鑑賞會に顔を出してみた。備前光忠を筆頭に貞宗の短刀、志津三郎、或は關の孫六、曰く彦左衛門尉祐定、曰く忠吉、曰く丸津田、角津田等々々。光忠と稱するは

二尺四寸何分、よい刀だが鈍出来で帽子が少し延びてゐる。貞宗ときたら是は何と地肌物の附焼刃、然し志津、孫六、祐定は上々出来、忠吉は四代やら何代やら、津田の一本は無難、一本は大和と見たが或は越前かも知れぬ。備前景光の軍刀造は眉唾物だ。諸君誰が何と言つても外科の「ディフェレンチアルディアグノーゼ」よりも刀の診断は厄介ですぞ。考へても見給へ、一寸名の知れた刀工は千を算へるのだから。日本刀の切れ味はいゝです。相州冬廣の短刀の折れと研ぎたての外科刀とを手術の時に使つて見たが、日本刀のはあの「メス」特有のザラ／＼といふ感がさつぱりしないで、油でもひいた様に「ストラツ」と切れる。矢張精神を打ち込んだものにはそれ丈の魂が宿つてゐるのではなからうか。

たど／＼とそしてくど／＼と牛の唾涎の様に書き續けて來たが、最早午前二時を過ぎて仕舞つた。小人はこれ位の事にも興奮したのかさつぱり睡魔が近付かぬ。斯んな時には刀でも「ちづくり」と視て氣を沈めてから眠ることにしてしよう。

元來木乃伊は刀林には絶対に書くまいと考へてゐた。併し再三の勧誘を受けてつい決心も鈍つてしまつた。書



き初めてしまつた以上は最後迄書き徹せう。

諸君！ 醫局の若い人方！ 諸君が今後木乃伊採りに出掛けたら木乃伊にならない様にして呉れ給へ、とは言へ、木乃伊も採らず土産も持たずには歸る様ならし

な、さも止めて呉れ給へ。苦い經驗を経た木乃伊は叫ぶ。ケチな魂を持つた醫者の世間は闊であるのだ。闊を形成した所には年に一度や二度、教授も來る、總長も來る。併し諸君よ！ 吾人は左様な事に依頼する心があつてはならない。吾人には獨立自尊の意氣がある。夫に依つて獲得し給へ、木乃伊を！ 土産を！ 何れをも得られぬ場合にこそ、木乃伊は叫ぶ、「木乃伊になり給へ」と。そして力の限り、生命の最後まで木乃伊を探し、土産を造り給へ。諸君決して忘れてはならぬ、吾人は大慶應醫學の爲には個々の捨石である事を!!!



熊本の秋 竹下 貫一

御無沙汰致しました。本年の六月男の子が生れたので息子が三人になりました、貧乏人の條件が段々と揃つて来てこのところおやち苦笑の有様です。

熊本の秋はいゝですよ、すつきり晴れ上つた青空にはそれこそ雲一つありませんね、何となくどんよりとした東京の空とは比較になりません、そうした天氣が毎日々々續くのですから……。野には颯爽たるハイカーの群こそゐないのですが葉がすつかり落ちて、眞紅に熟した實ばかりになつた柿の木やそれこそクリ／＼と實の入つた栗の木など、田舎に育つた私共にはどんなにか秋の味ひ

を深くすることでせう。殊に秋の阿蘇は素晴らしいですよ。所謂世界一だと云ふ外輪山、颯々三十餘里の絶壁が火口原を取巻きその中にいづれも千四五百米の根子岳、高岳、中岳、烏帽子、杵島の五岳が聳えてゐます。エキゾチックな白樺の林こそありませんが、伊香保、碓氷のあの絢爛たる紅葉こそありませんが、オミナヘシ、カルカヤの原野がうね／＼と果しなく波打つてゐる様は御覽になつた方でないと思ひになりません。國立公園になりまして設備がだん／＼出來て來て山上まで五十人乗の大型バスが、綺麗なバスガールを乗せて通つて居ま



す。

それだけ山の空気が段々文化的になり、昔の半熟卵を注文されてウデ卵とナマ卵を半分々持つて来た娘は見あたりません。仕事が暇なもので釣にでも出掛け様と思つて居ます。よく漁れますよ、二三日前、友達が鮎に名高い球摩川へ鯉釣に出掛け一尾一貫目以上のものを五本あげて持つて来ました。そのお蔭で朝晝晩鯉料理を喰はされて腹痛を起した入院患者もあります。兎に角大ものが漁れますね、茂木先生鯉釣にいらつしやいませんか、御案内いたします。ではさようなら、皆様御氣嫌よう。

往 診 綺 譚

甲 府 住 人

その一 外傷性副睪丸炎

患者の現病歴や已往歴は診断の上に如何に重要であるか、又それが親兄弟萬座の中では如何なる役割を演ずるか昨夜経験したばかりの生々しい一例。

昨夜八時頃電話にて往診の依頼あり、母親の聲にて息子が材木と一緒に山から轉げ落ちて内出血ありトテも痛がつて今にも死にさうに苦しんで居るから直ぐ来て下さい……と。早速出掛けて見ると患者は廿四五歳位の若い男、顔面苦悶状を呈し背を曲げ丸くなつてウン／＼うなつて居る、現病歴を聞くと縣廳の土木課に勤めて居て今日午後二時半頃人夫と一緒に材木運搬中轉んで睪丸を打ち、暫時氣絶す？とトラツクに乗せられて三時半頃帰宅、早速某醫の來診を乞ひ手當してもらつたが痛み去らず、苦しむので再び他醫を頼み診察を受けたが何うも頼りないので三度目に小生を呼べりと、診察するに脈搏呼吸



その他全身症状に重症らしき所なく、體溫卅九度二分、腹部は軽度に緊張す。畢丸は前醫に依り濕布しあり。診るに右の副畢丸が約鶏卵大に腫脹し、畢丸は殆ど常に激痛を訴ふ。皮膚その他に擦過傷並びに打撲症らしきものを一つも認め得ない、何う見直して見ても淋毒性副畢丸炎としか見えない、が尿道口を検べても膿はない、小便はと聞くと今少し前出たばかりだと云ふ。そこで母親の話を綜合して見るとトラツクで重症の儘運ばれて倒れたので驚いて二人の兄……二人共學校の先生で授業中にもかゝわらず電話で呼び歸へして三人で色々聞いて見ると材木云々の事……。そこでやつと、ハ、ハ、ハ……と氣がついた仕末だが、心配さうに額を集めて居る三人を、一時に室から出てもらふ事も出來ず、さりとて淋病の已往を確かめたり、智慧をしぼつた擧句が、腰枕にする蒲團と、氷嚢、氷枕、越中禪と、一時に注文して見た、豫想違はず、三人共室を出た際に患者にズバリ

「オイ淋病は何時から病んでる？」

畢丸炎氏スツカリ面喰つて目をパチクリやつて居たが、

「患つた事はなし」

「今の中本當の事を云つておいた方が、萬事都合が好いぞ」

「實は學生の頃患つて未だ時に膿が出ます……。何しろ兄貴達が堅くつて……」

「よし、萬事引受けた、入院だ」

注射その他一通り處置を済して歸宅、今朝出勤して見ると淋病氏朗らかな顔をして一足先きに入院して居た。

依つて現病歴を信用すると、「急性外傷性副畢丸炎」？

その二 自殺未遂？

山都の眞夏は暑い、晝間の汗を流して軽く一杯のんでさて寝ようとした夜十時過ぎ、病院より電話「鹽酸を呑んで自殺をはかつた患者がありますから胃洗滌の用意をしてありますから直ぐに……」との事、浴衣一枚で飛んで行つて見ると看護婦二人待ちかねて居る、家は長屋の豚の住んで居さうな室、若い妻君が一人泣き崩れて居る、新婚間もないらしく、それでも新しい鏡臺、タンスがおいてある、他に誰も居ない、泣いて居るのが患者らしいが何を聞いても返事をしない、壁一つ隣のオカミさんを



呼んで聞くと、亭主が病院へ行つて來ると飛んで出たまゝ歸へらないとの事、サツパリ要領を得ない、室中見廻はして見ると茶碗が破れて居るし、鹽酸か硝酸かの入つて居たらしい空罎が轉つて居る、兎も角も泣いて居る若い妻君が自殺未遂者らしい、無理に起して診て見る、何處にも異常が見出せない、口を割つて見ても酸類を呑んだ様な形跡がない、何は兎もあれ胃洗滌だけしようと思つても唯「何でもないので歸つて下さい」とのみ、何としても口を開かない、暫く拱手傍觀して見たが何等の異常も起らない、多分飲んでは居ないらしい、如何とも爲方がないから「本當の事を云はないと今に苦しくなつて來てからでは間に合はないが、兎に角こゝに頓服を一服おいておくからもし鹽酸だか硝酸だか呑んだんなら直ぐ飲む様に」と云ひおいて重曹一服おいて隣のオカミさんにもし頓服を呑む様だつたらすぐ病院へ知らしてくれ様頼んで辭した、街角迄來ると若い男が突然、

「先生家内は何うでせう、硝酸を飲んでたでせうか、大丈夫でせうか？」

少し酒氣を帯びては居るがたゞならぬ顔色をして居る。

「君が主人か、何うしたんだ？」

「實は一寸夫婦喧嘩しまして、その果て家内が硝酸を飲んで自殺すると云つて口へ持つて行きましたからすぐ奪ひ取りましたが」

「それでは呑んだか呑まないのか、はつきりしないんだね」

「さうです、でも顔へかゝつたら何うなります、先生家内の顔は何ともなかつたでせうか？」

「一體壘の中に硝酸だか鹽酸だか入つて居たのか？」

「少し未だ入つて居た様にも思ひますが」

話して居るに馬鹿々々しくなつたから

「兎に角頓服を一包おいて來たから直ぐ歸つて注意して見たまへ、もしその藥を飲む様なら本當に硝酸だか鹽酸だかを飲んで居るのだし、飲まない様なら大丈夫だ顔は大丈夫何ともない早く歸つて仲直りし給へ」。

その後音沙汰なく月末に勘定書を持つて行つても拂ひも

しない、之が本當に犬も食はない話。



晩 秋

高橋福三郎

「蛙の子は蛙の子だ、土百姓の子は土百姓の子だ」過古に伯父から叱られた言葉がふつと強く頭の一角に思ひ浮べられた。遠い昔の思ひ出のやうである。秋の日が一杯に少し黒ずんだ樹々の葉を照らし、わくら葉が二三枚カサ／＼と落ちた。凡ては平和な静寂な晩秋の午後である。私の前には二葉の寫眞が廣げられてゐる。頬がこけ、骨が出つ張り、眼光がドロロンとし全體が細々と、まるで死期の迫つたやうに生氣のないのが右の一枚である。

豊かに張つて頬、落ちついた如何にも潑刺と輝いた眼光、肩にも胸にも圓味を帯びて生氣の満ち／＼してゐるのが左の方である。これは三年程前と最近に撮した私の寫眞である。思へば十三貫足らずの私が最近では十七貫を突破してゐる。特に下つ腹は妊婦のやうに出つ張つてゐる。所謂スマートさに缺けてゐるが現在の私は實に健康そのものである。

僅か三年の間によくもこんなに變つたものである。親

戚や友人は聲を揃へて「肥つたねえ、まるで變つたよ」と言ふ。朝夕を共に送つてゐる妻でさへも「全く變りました」と讃歎してくれる。

希望の多い醫局生活を私はどんなにみぢめに送つたとか、恩師、先輩からも完全に見放され、後輩からは唯一の嘲笑の的になつてゐた。私の醫局生活位、不しだらな、不眞面目な、不節制なものは絶えてあるまい。「身から出た錆だ」「痔いた罪だ」とは思ひながらも、それをどうすることも出来ず五年餘りの無意味の生活を送つたものだ。何度絶望を思ひ、死を考へたことであらう。同輩でも後輩ですらもう立派な地位を占め、社會的にも大活躍をしてゐるものも随分たくさんある。これを思ふ時胸がしめつけられるやうでもあり、自分の不甲斐なさがしみ／＼情なくもなる。

社會的にまだ一度も華かな順調な徑路は踏んだ事は無い、併しこんな人生もあるのだ、こんな生き方もあつて

いゝのだ、今更何と思ひ何を羨ましがらる必要があるか、この思ひは決して自暴自棄からの言葉ではない、自分自身の心からの叫びである。人生は誰も彼も一樣の生活をしなければならぬものではない、又世間的に恵まれた生活即ち経済的に恵まれ、世間的地位、名譽を得た事のみが人生の眞の幸福とは思はれぬ。眞の幸福とは先づ自身自身が健康な事である、一家が平和な事である。子供が健康で出来のよい事である。その次に經濟問題が来るものだと思ふ、田舎で食ふや食はずの生活をし、黙々として農事に勤む人が全部不幸といへるであらうか、かう考へる時、結局人は自分に與へられた境遇に不平なく、不満なく、一步でも半歩でもこれを向上させるべく全身、全靈を打ち込む人が幸福なのではなからうか、孔子は四十而不惑と言つた。私もそろ／＼四十の聲を聞くやうになる。併し眞に人生といふものに少しでも目覺めつゝある現在四十なんか鼻垂れ小僧だと思ふ、人生眞のスタートは五十からだと言確信する。

世には五十で早老に入る人もあれば九十近くで大臣を勤められる人もある。私は世に遅れた現在を決して後悔

してはゐない。人生は今からだと思ふ。私には最近人としての悟りがある、人としての喜びがある。大地を悠々と踏みしめて濶歩するだけの固い信念がある。

私には唯今素晴らしい健康がある。これから何年生きられるか分らぬが大地をしっかりと踏みしめて人生の幸福を握るべく邁進したいと思ふ。これが結局恩師に報ゆる最大の道ではなからうか。

終り



嬉
怒
哀
樂

小澤武雄

當直子がボツネンと醫局に残されて、いつそのこと何か特診でもあればと思ふ様な淋しい夜サウ云つた様な事が教室外の生活でも同じある夜の話、ギネの先生不在少し見覚え習ひ立ての生兵法、一度ギネの腕だめしもしてみたくてたまらぬ矢先へ電話「お産の往診」と來た時トテモ嬉シカッタ。それと許り古シボのガタ車飛ばして田舎路一散、患家へ着くとケゲンな顔つき「あなた産科やれますか……でもこの際仕方ないから診て下さい。」トテモ腹ガタツテ、何を外科の醫者で不足なら歸るよと思つたが、この夜更け、この寒村、この救急時、頼りになるはこの俺様ひとりぢやないかとうるさい老若男女の中

を通つて妊婦を診ると昨夜來の苦しみ、胎兒は片腕はみ出て何と完全横位？ はどかりながらこの俺様には相當かねる、心音がなくなる、妊婦は苦しむ、周圍が騒ぐ、さて、鼻違ひの手出しをするものではないわいと手のやり場なくホト、困つた時はトテモ悲シカッタが、漸く思案の末外科式産科の一策浮び、胎兒の上膊をたどつて鎖骨をさぐり、コツヘル二本の間に腋の下からハサミを以て鎖骨骨折を試みるに俄然内廻轉して胎兒娩出（こんな法があるのかなのか未だに知らぬ）一安心ウルサ型の周圍の面々にやつと面目をほどこして、歸りの自動車は一路天城山上月高く意氣洋洋としてトテモ樂シク歸つたこともあつたつけ。

（以上想出の記）

談
談
談

O
Z
W

(一)腸を風呂敷に入れて歩く女

夜の拾時頃外傷の患者と聞いて行くにお腹の大きい女が居る、苦しみ様は全く陣痛に似てゐるので一應婦人科へと思つたが困つた事に鮮人で言葉が通じない、臨月の様なお腹をドス黒い風呂敷に包んでゐるから診ると驚いた。左下腹部に恰度腸管が二本やつと通る程の鋭利な刺



創からホースの様に膨満した腸管がうねつて出て腹壁の上にとグロを巻いてゐる。刃物で刺されたらしく途中で

顔出した腸管がだん／＼はみ出て押へ切れず風呂敷でお腹を包んで病院までたどりついたにはその勇や驚嘆に値するものがある。はみ出た部分は全く無傷、腹腔内部は數ヶ所の腸間膜血管止血と腸管縫合を必要とした。経過も驚くべき程良好、二十日餘でサツサと又歩いて退院した。

(二)大腿骨折三日目で歩いた男

隧道工事の外傷は大腿骨折が比較的多い。情性で驀進して来るトロを前から押へ様として下敷になつた大の男があつた。大腿骨折で治るまでにはトテモ日敷を要する旨をジュン／＼と説明した。入院と決まつてレントゲン撮影やると股關節後方脱臼である全麻で、整復を試みると直ぐに歩き出した。骨折長講一席の手前氣まり悪いことおびたどしい(もつともこの男脊椎もやられて今でもブラ／＼してゐる)。

(三)ハンカチをお腹に置き忘れた話

豆腐屋が動けないから来て呉れと云ふので急いで往く
にお臀を盛に指さして苦しんでゐる、診ると實に見事な



直腸脱である。片掌ではトテモ覆ひきれない、何の用意
もなし仕方なくポケットからハンカケをとり出し、あげ

の油も使ひかね、近所からポマードらしき一びんとりよ
せて、還納すると具合よく収まつてホツトしてから氣が
ついたハンカチを直腸が飲んでしまつたことに（凡そ脱
肛の還納は油ガーゼごと中へ押し込むに限る）

（四）カリエスで難産を免る

いつも重くて心配して居たお産が今度許りは軽くすん
だと思つたら生れた小兒はこの通りですと診せられた。
小兒は兎唇、手術で豫期以上に綺麗になつて治つた頃今
度は母親が足の具合が悪くなる。左大腿上部に鶏卵大の
寒性膿瘍がある。レントゲン寫眞でみると恥骨カリエス、
相當ひどい、「お産と恥骨カリエス」の關係は面白いと思
つた。そしてこの度輕産にすんだ所以は恥骨侵襲甚だし
くそれで骨盤腔擴大された爲めとはマサカ。

*

*

*

*

*

*

日立鑛山より

演名元中



鑛山に赴任して以來丸二ヶ年になりました。第一印象はすっかり忘れて、今頭に浮ぶのは平凡な山の生活だけです。その中から二つ三つ拾ひ上げて刀林の頁をけがさして戴きます。

○たんばん

坑内の水を鑛夫間では、たんばんと言ひます。坑外に流れ出て特別の装置の所を、鐵屑の間を流されると銅が沈着しますが、その分量は時價一ヶ月四千圓位だそうです。たんばんは酸度が強くよくたんばんがしみる、かぶれる等と言はれます。たんばんかぶれは急性皮膚炎状ですがたんばんによるものか否か不明です。面白いことは坑内の外傷には化膿がその汚染の割合に少ないことです。たんばんのペーハーと化膿と

の間にか因果關係があるかの様です。

○重曹錠

坑内には所々に温度が三十度、水蒸氣が過飽和な所があります。そこで働く人々には不用意ですと熱中症の症状を起します。即ち手足、特に指がつかたり苦しくなつて來て顔は赤く手足は冷たくなつたりしますが、それ等の豫防には水を飲む、鹽をなめる等をやつてゐます。然し重曹錠を飲んで水を飲むことが最も好評です。重曹錠は重曹をアスピリン錠様に賦形したものです。

○牽引装置

骨折の加療には前田式の接合器や、レーンの副木等使用されてゐますが時々化膿して困ります私は赴任以來前田先生の牽引装置で感謝された前例を持ちました。エコーミーよりも無菌製作に心配な所では特に好都合だと考へて居ります。

○禁酒村

日立町の中で本山は目下禁酒村です。本年は滿五ヶ年で従業員の禁酒貯金は十萬圓に達しました。禁酒によるナンセンスは時々聞きますが、こゝには書きにくいです。丸二年間に喧嘩は二三例で飲酒に據る外傷はありません。

○七光り

去る八月には醫局の先生にお願ひして坑夫のペニスクレトプスを鏡検して戴きました。お蔭様でアムプタチオンの経過は佳良で目下はX線をかけながら元氣よく働いてゐます。九月に茂木先生が見えた時「あの先生に診て貰つたのか」と云ふ間に對して「左様だ」と答へたら特別に有り難がられました。こうしたことは神様も御許し下さるでせう。茂木先生七光りの一つです。

○壓死と水泡と

去る九月には風水害で三十名の壓死者を出しました。死者の大部分には皮下溢血と同時に水泡がありました。水泡は大小種々で鳩卵大より小豆大位まで、場所は皮下溢血と一致し、又全々異状なき皮膚にも、前は數十も群居して又一つ二つツエルストロイトに存しました。水泡の特に著明であつた妊娠九ヶ月の一例では土地の習慣とかで開腹しましたが腹腔内ゼローザには溢血はありませんでしたが水泡は見ませんでした。又頭蓋骨折の不明なものでも殆ど一様に耳、鼻、口よりの出血があり、同時に眼球血膜下溢血が著明でした。それは殆ど全結膜に亘つて腫脹して存しました。水泡は殆ど全部で見受けられ小兒の數名と七十餘の老婆にだけみませんでした。以上

秋晴れが続いてめつきり朝夕はひえひえした。二三日
續いて小菊を患者から貰ふたのも此頃で秋の深いのが俄
に身にこたえた。

岡山に来てもう半年、一通りは言葉にも慣れて、先々
病人との應對にも事缺なくなつた。と思ふ頃は、なにげ
なく口にする私の岡山訛を看護婦が、をかしいと笑ふ！
自分でもひよつと氣付いて獨り笑をする様にさえなつて
居た。

そう云へば此の間上京した折、がらんとした神嘗祭の
醫局に山口が獨り居つて、ひよつこり顔を出した私と二
言三言換した後で、大分岡山辯になつたぞ、と云つた。

そうかなあと自分でも思つた。

信州と東京より知らない私は初めて此處へ来る時、言
葉で困りはしないかと思つて居つたが、來たては新しい
醫者だと云ふので、患者も固くなり看護婦も氣を付けて
呉れたので、案外岡山の言葉は覺りが良いと嬉んだもの

だつたが段々慣れて來ると、患者も氣易く話すし、看護



日一てエギヤあ

婦も油断するので間誤付く事も多くなつた。

新見と云ふ汽車で二時間許りかゝる中國山脈の中の村から来る十八、九歳の娘さんがあつた。處置もすぐすまふとした時、突然に

先生！ ヒーテ、エギヤアでいいかのう、

と來た。聲も低くかつた。聞き返えそうとも思つた。それよりひどい事を云ふ女だと癪に障る方が早かつた。

何もひどい事なんてしませんよとやり返した。

娘は匆々として歸つて行つた。

後で其れが隔日通院で良いかと云ふ意だと聞かされてそう云ふ言葉もあるのかなあ、と氣の毒に思つた。

X X X

豫診をとるにも處變ればなんとかやらで、痛みますか

と問ふて、さて

ぼつこ、にがりますぞ、な！

と聞いたら、此りや容易ならんぞ、大便は、熱は、はてアツペかな。

はしつて、はしつて、おえんぢや！

と云ふ返答なら、うん、さむ氣はするかね、よし、フルンケルかな

と六感はとぶと云ふもんです。



(通)

(信)

(欄)

成松清敏

會長はじめ諸兄益々御盛大何より結構に存じます、開局以來早十五年にもなりましたか、それもその筈です、當會社へ入社してから早十二年八ヶ月、當時無鐵の小生も此の頃歳に白いものが十本程混じて來ましたものネ。社會に出て十五年と云へばまあ「一昔半」で大抵の人は社會的に中堅の地位に在るものです、それなのに小生相變らず資本家の一使用人に過ぎず、一般醫術上の腕や頭は日増しに退步する一方、たゞ外傷に對して丈は度胸が出來たと云つた位で誠に心細いものです。

家族は通信の度毎に増加する一方で先便以來又一男が生れましたので、これで都合小供は七人になりました。その點では恐らく會員中の白眉ではないでせうか、これからおやぢも並大抵ではありませんすま

イテ ハツハツ……。

大庭國紀

毎々御手紙をいたゞきまして御返事も差上げませんで失禮いたしました、別に決して忙しいと云ふ理ではありません、筆不精で、やつと一―二書きました。

一、病氣（九年十二月）

二、娘が嫁に行く（一月）

三、四十ウで否五十ウでカタて困つて居ます。

四、一月に嫁に行つた娘が十月に男子

出産、先づ初孫は醫局で第一？

初孫税制定は……

高桑武夫

先達つては度々御便り下さいまして誠に有り難う存じました、刀林も號を重ねる毎に著しい發展を見るのも御編輯諸君の御熱心なる御努力と感謝の外はありません、早いもので開局拾五年とのこと成程小生の頭も白い譯だと今更乍ら痛感してゐます、それに就いて面白い事には、親父を老先生、小生を若先生と云ふてゐま

す）先日或る老母が診察に來まして曰く

「あのー、若先生に診て戴きたかつたのですが……」看護婦が「只今の先生が若先生です」、「ウヘツ……」といふ様な譯で……小生もすつかり田舎醫者になりすまして十二年になりました、四年程前から謠曲の囃子を初めました、四年程見では呻つたり叩いたりして、仲々の天狗です、何卒刀林の益々御發展あらんことを祈つてゐます、皆様によろしく。

柴沼薫

開局以來十有五年外には吾が「慶應外科」の名既に天下に普く内には刀林齡正に十歳同窓の誼愈々濃やかなりて誠に同慶の至りに耐えません。

小生も來水以來最早五年世間からは五、一五事件や愛郷塾の所在地故に昭和異變の策源地みたいと思はれて居る水戸の地も住んで見れば風物至つて穩やかで人情惇朴寧ろ愚直に近いと思はれる位です、商人などの客に對する無愛嬌さは恐らく日本一かと思ふ位でこの氣持さへのみこ

めば水戸は割と住みよい處です、以前派手にやつた反動で一時不況に陥つた吾が常磐病院も近頃やつと堅實性をとりもどし世間からも期待される様になつて來ました。私共の醫局にも合財袋と稱する醫局の日誌みたいなのがあつてその時々、の珍談や漫畫が満載されて居りますが、公開禁止で遺憾乍ら刀林に轉載出來ません、然し同窓諸兄にだけは特にそつとお眼にかけますから御來水の節は是非御立寄願ひます。

戸田四郎平

拜啓 茂木先生始め皆様御壯健の事と推察して居ります。醫局に御無沙汰勝となり何とも申譯ありません。別に多忙の事ではありません。四十過ぎては、とても癒しかつたことなどありません。悲しみもなく、楽しみもなく、毎日暮して居ります。

阿部貞治

刀林を發刊以來回を重ねる事十回に及び會員も年々増加し益々發展途にあるこ

とは衷心御同慶に耐えませんが。刀林を手にする毎に懐きを新にして、在局當時を追憶して居ります、近況と云つても格別申上げる程の、變つた事も面白い事もありません、全く平凡な沈香も焚かず屁もひらず、と云つたその日／＼の仕事に追はれて暮す、ランドアルツトの生活です、家族は夫婦に小供四人（十二、九、六、三歳）と他に看護婦女中等、計十三人です、今秋で開業六週年になるが、どうやら赤字を見ずに食つて行く程度です、當地は工業都市として近年驚異的躍進振を示し、生産額も年一億圓を突破すると云はれてます、昨今の所謂軍需景氣に躍つて活氣づいてみますが、吾々の商賣には殆どインフレの均需もありません、患者の三分の一以上は健保です、開業醫の多事多難な事は何所も同じで局面打開に業權擁護に狂奔して居る様ですが、やがて開業醫の受難時代が現出し、深刻なる危機に直面するのではないかと思はれます近頃はめつきり酒量も減じ、宿醉まで知る様になり昔日の元氣も出ません、従つ

て珍談逸話の材料もなし、スポーツも旅行も見たい行きたいと思ふのみで出られず、是も開業醫の悲哀です、刀林會員諸賢の御健闘を祈ります。

中村武重

開局十五年刀林十號の御發刊を御喜び申上げ候、皆様の御健闘を遙かに祝福申上げ候、常は御無沙汰勝にて誠に申譯無之候、御蔭様にて頑健にすごし居り候スキーの季節ともなれば、當地は霧ヶ峰への足だまりとしても好適かと存ぜられ候、是非御立ちより下され度候様御立ち申上げ候

茂木先生始め、各先生方、醫局諸兄の御健康を御祈り申上候

山本順

拜復 いつも御無沙汰仕り申譯無之候、御教室益々御隆盛の儀奉賀上候、小生も小樽在住五年三ヶ月、其の間を夢の如くブラ／＼と遊び過し候、どうして今少し勉強しなかつたと悔いても追つかず、今後も矢張同様だらうと心細い次第に候、



勉強より

遊びごと

時々はこう考へてもやつぱり勉強よりは遊び事の方が面白く候、家族は愚妻及二女三男、其に小生を併せて七人、毎日賑やかな事に候、一同健康にて暮せるは有難き事に候 敬具

關 市 衛

御蔭様にて小生初め妻三男一女、元氣です、開業はうるさいもので、四六時中只アクセクして暮らして居ます、年を取ると若き日の様な感激はありません、嬉しいことも悲しい事も腹の立つ事も楽しい事も凡て不感性になります。

今 井 金 治

拜啓 秋冷の候先生を始め醫局の皆々様には御清榮の事と存じ候、さて例年の通

り近く刀林御發行の由、寄稿家諸氏の御盡力と編輯諸兄の御努力により、逐年發展致し何よりと存じ候、醫局を離れ地方に巢食ふ小生にとつては、刀林は醫局の動勢を知る爲に、又醫局外に在る諸氏の近況を知る爲に、その色々の意味で誠に懐しきものに候、發刊の日一日も早からんことを待ち居り候

小生今年五月當地に開業致し候、當地は人口約三萬、北に赤城を負ひ、東北遙に男體山を望み、西北より西にかけ三國峠榛名、淺間、妙義の諸山を近く又遠く屏風の如くにめぐらし、南東は關東平野に向つて展げ居り候、東武電車淺草驛より約二時間半、御承知の通りの機業地に候も、目下業態不振加ふるに同業の洪水にて、開業醫もカケ出しは仲々骨折れ申し候、しかし何とか努力致し、諸君に當地名産伊勢崎銘仙の一反宛も御贈り出来る日の早からん事を望み居る次第に候呵々目下小生の外助手一名、看護婦六名、自

動車はなく犬も飼はず猫も居らず候 右近況御報知まで 敬具

牛 久 昇 治

刀林が年々立派に成ることは誠に喜びに堪えません、楽しみにして待つて居ります、同窓會には何時も御無沙汰ばかり致して居りまして申譯ありません、小生はお蔭様で元氣で働いて居ります。

茂木先生始め會員各位の御健康を遙かに祈つて居ります。

大 會 根 幾 次 郎

今まで他人事のやうに思つて居た蟲様突起炎を病んで、柴沼兄の手術を受けた、床について居る間、神山兄の應援で非常に助つた、術後四日目に、少しチビリ〜のお相伴をしたら、その晩ひどく腹に痛まれた、今ではすっかり元の體に立直つて働いて居る、金と體に餘猶のない點だけは昔も今も變らない。

豊 田 秀 穂

今年八月過勞のため、遂に就床十日餘に

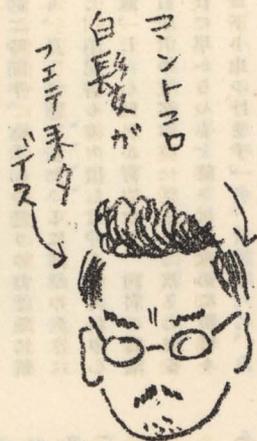
及び醫局に大變御心配をかけ、茂木、木村、町田諸先生の御配慮により山口、木本兩君の御助手を賜り、その後全く健康になり、元氣になりました、開業し始めて慣れぬものですから、たゞサーピスよく、自分の體のことも考へずに、立働くものですから、失禮しました、此の頃は助手を置いてのんびりやつて居ります、餘り細く働かぬ事にしました、長いこと都會生活をしたので、田舎に歸つて夜など退屈です、野球やラグビーはラヂオでも聞けるのですが、美術展覽會の見られぬのが残念です、テレビヂオンでも出来ればよいと思つて居ます。

このごろは東京のことも云はずなりて
吾等故里になじみゆくらし

神野 澄清

茂木教授を始め諸先生の御壯健に慶應外科の爲に益々御奮闘並に刀林の健全なる發育に大慶此事に存候、村夫子となつて將に六年全くの田舎者に相成候、ゲジヒトは常に刑事に職を交へよとの忠告あり

剩へ「切る」と来る先錄々消光在罷候、往年刀林より賜はりし放妻院も長男小學五年、次六歳長女二歳、第三研究室だよりを拜見しては氣分になる事も有之候



フロントコロハ相変
ラズノメルニス

兩親も健在で子供達三人も元氣でをります、そして私も元氣で相變らず酒と魚釣の道に落ちてをります。

吉崎 純

茂木先生御來遊被下久方振りて御温顔に接し此の上もなく嬉しかつたです、もう少し御伴して心行くまでお話を承りたかつたのですが先生も御急ぎの御様子に見受けましたし、私も開業醫の暇なして大變残念に存じました。

反産業組合病院設立の運動で本年の大半を過しました、そして更に此の運動に邁進を續けてをります。

高須 三四一

御無沙汰ばかり致して居ります、醫局の皆様益々御健勝の事と御喜び申上ます、私も草深いみちのくにやつて来て早や七年、御蔭様で病氣もせず無事に元氣に勤務してゐます、家族も皆壯健、第二世も田舎の悪太郎共に交つてすく／＼と伸びて行つてゐます御安心下さい、何分數年來引續き天災に見舞はれ不況にあへぐ岩手の事とて大して面白い事もありませんが、今年にはエチオピア景氣か何か知りま

早慶の野史

吉野史朗

吉野史朗

晩は折よく

来訪中

塾生

と



せんが周囲の鐵山地帯にはボツ／＼活氣が出て来た様です、病院は入院患者平均三四十名、外來一日百名内外、その内外科は約入院三分の一、外來四分の一程度です、餘りに多忙でもなし暇でもなしと言ふ所でせうか。
末筆ながら茂木先生、木村先生始め諸先生の御健康を祈上げます。

四條龍作

めつきり寒く成つて参りました、いつも御無沙汰に打ち過ぎまして申譯ありません、茂木先生始め皆様御氣嫌麗しき御事と拜察致します、小生開業以來八年になりますが至極平々凡々に過ぎました、近頃はやれ組合病院だのやれ國民保健だのと町醫者たるもの非常時々代です、當八王子南多摩郡醫師會は御承知の通り多摩相互病院勤務醫師に對し醫權擁護の建前から訴訟を提起して滿五年其の正否を争ひましたが今回大審院で勝訴の判決を得て最後の勝利を得ました、尙當醫師會に於ける慶應の勢力は斷然頭角を表して居ります、耳鼻科の井上省三君内小兒科の柳内敏信君、産婦人科の小池一君、小兒科の宮崎容君、内科の藤瀬直孝君の五名が盛に活躍して居るのは愉快に堪へません、終りに皆様の御健闘をお祈り申し上げます。

吉野史朗

拜復 時下秋冷の候醫局諸先生益々御精勝の段奉賀候、小生至つて元氣にて消光致居候間、御安心下され度く、開業以來最早三年に相成申候、一度上京皆々様の御温容に接し度く存じ居候共、貧乏暇なしで其れも出來申さず、失禮を重ね居り候、茂木先生を初め諸先生の御健康を祈り併せて刀林の發展を祝し申し候 敬具

中村次郎

忘れもしない職員食堂送別會席上で「大阪は慶應醫學部未開拓の地なれば將來立身して關西探題たらん」など、一杯氣嫌で虹の様なメートルを擧げて來ましたが大語壯語は致すまじきもの、開業以來四ヶ月目、現在では未だ大阪驛の玄關番位に過ぎない身(小院は驛の附近)省みて冷汗三斗を催し恐縮の次第であります、然し僕の夢に一步でも近づく可く、大いに奮闘して居ります。
身體の方は至つて丈夫、家内と女兒二人の四人暮し、平和な家庭であることだけ

がせめての取得せう。
近況御知らせまで

鎗田 榮

小生近年肥り過ぎて起居動作意の如くならず閉口致し居り候、別に申上ぐべき近況無之候

或人の説によると……醫術が家傳でも何でもなくなりたる今日、大體どん栗の背比べの集りなる故『教授でも開業すれば只の人』にて開業術とは要するに人をばかす術……の由、醫業難の今日宣傳とインチキが紙一枚の違ひと考へられる今日或は一眞理かも知れず候
『刀林』を見ると凡てなごやかに候が曾て在局せし二人の博士(その中一人は講師)の名前の見えざるは淋しき氣が致し候

松井 八郎

拜啓 慶應外科整形外醫局及同窓會の益々御隆昌を御祝申上げます、私も今夏はいづれへか轉任と覺悟して居りましたが殘されて既に第四年になります、當龍山では衛生部員中最古參になりました、相

變らず毎日三十名前後の患者を相手に暮して居ります、今年は患者は少いのですが之れでもアツベが月、五六名はあります、一々怪腕を揮つて居ります、他に別に變つたのはありません、慶應出の軍醫も二十師團内に三名あります、大邱に松尾軍醫(外科) 溫陽に道源軍醫(内科) 御存知の方もありません、龍山と大邱でアツベを切つては溫陽に送つて遊ばしてもらつて居ります、また異動の時が來ます、殘されたゞけに十二月、三月と八月氣になります、城大の中村先生には時々御目にかゝります、先日も京城三四會のピクニックに御一緒でした、相變らず御元氣です、家庭は妻、小供、男一、女二、皆達者に暮して居ります。
上海出征中同窓樋口君の御來訪を受け共に廢城の如き北四川路を散歩した時はとても嬉しく樂しかつたです、又龍山でスケートで足を打つた時ば何ともなかつたがその後十日間はとても痛かつたです。ではさよなら、諸君の御健康と御發展を祈ります。

吉岡 勝衛

前略 毎日同じ場所に通ひながら醫局には大變御無沙汰して申譯ありません研究室通ひの平々凡々の生活には取立て、申上げることもありませんが、最近只一つとても嬉しかつた事があります、それは小生の居る解剖教室が三四會野球リーグ戦に於て、濟生會を一蹴したこと、何分小生入室以來始めての勝利、否解剖教室空前の大勝利ですからその歡喜は御想像願ひます。

加藤 銀治郎

皆様に御目にかゝつてから既に一年を経過して、其の間何等の上にも仕事の上にも變化がない、しかし何事かなしとげてやらうと云ふ意氣だけは固持して居ります。

だん／＼醫局の人も滿洲にふえて心強い先年滿洲外科集談會と云ふ滿州外科學會の前身の様なものが出来たことは御報告しておきましたが、その外これと云つてとりたてゝ面白い話ありません。

森下貫一

拜啓 秋冷の候益々御清祥の段奉賀候、
檜の紅葉に秋深き此の頃當市にても先輩
梅村先生の御引揚により慶應外科の威信
も地に落ち不肖小生悄然としてわづかに
孤城を守る形に候、入院十人、外來、健
保も入れて百人内外の患者に大手術は日
赤院長佐藤先生の御盡力を仰ぎ大過なく
暮し居り候、小生四十六、家内も四十五
長男もすでに十五歳と相成り候、東都に
輝く慶應外科の益々發展されん事を祈り
つゝ尙御一同様の御健祥の程祈り上げ候

早々

富田勝郎

拜啓 平素は御無沙汰に打過申譯無之候
醫局諸先生には愈々御健勝の段奉賀候、
陳者刀林發行につき再度御手敷を煩し恐
縮の至に存じ候、愈々醫局も本年拾五周
年を迎へ益々御隆盛の段御同慶の至りに
存じ候、小生御蔭様にて相變らず元氣に
勤め居り候、何か投稿致せとの御命に候
へども思ひつきたる事も候はずまゝ御無

沙汰の御詫にて御許下され度候、末筆な
がら諸先生の御健康祈り上げ候、見事な
る刀林御惠與御待上げ申し候

辻岡元

お葉書有難く拜仕候、茂木先生始め皆々
様益々御壯健にて醫局御隆盛の由大賀の
至りに御座候御存じの如く開業して居る
者の悲哀とも申し候か嬉しいことも腹の
立つ事も悲しい事も楽しい事もなく自己
を或る程度まで超越して慶應醫科の名を
恥しめざる様努力致し居るのみに御座候
強いて申し上げるならば一日の疲れたる
身體を湯に入り晩酌をやるのが一番楽し
くもあり嬉しくもあるので吾々の境遇に
あるものに之が悲しみとも申すのみに御
座候、近況は申し上げる事もなく毎年同
じにて候

吉原に御清遊の時は是非御立寄りを願ふ
のが一番早分りかと考へられ候
向寒の折皆々様の御自愛御奮闘の程御祈
り致し居り候
右略儀乍ら御返事申上候

草々

相見三郎

昨夏健康を損ひ任地遼陽より歸りまして
以來静養致して居りましたが昨今は全く
健康恢復致しました、先生始め醫局各位
の御同情を厚く御禮申上ます、毎日百姓
生活を續けて居ります、全く呑氣な明暮
で皆様の御精進を思ふと忸かしい次第で
すが美しい自然につままれて鋤鋤三昧に
なつてゐるのも何となく捨て難い境地で
す。

神山地眞氣

拜復 醫局へは最近すっかり御無沙汰し
て居りますが諸先生始め醫局の諸兄愈々
御健勝の段慶賀の至に存じます。
小生今春少々身體を傷め四ヶ月ばかり休
みましたが幸ひ最近はぼつ／＼勤務にも
従事出来る様になりましたのでこれから
又醫局へも出来るだけ顔を出させて頂く
積りです、菲才の身御注文には副ひ得ま
んがほんの近況迄御報告責をふさぎたい
と存じます。諸兄の御健康を祈ります。

島田信勝

濟生會芝病院赴任以來日も浅く何となく落付きのない生活をして居ます、然し醫局に居た當時と同様茂木先生、鎌田先生の御指導を受け専心勉學する積りです、弱き下層階級の人々に施術し、少くとも濟生の道と與え得るならば醫は仁術の古辭に照すは一入生活の崇高さを感じる次第です、只管教室の發展を熱望して止みません。

照井侃

拜復 今年も早や刀林編輯の時期となりました事を伺ひ、只々歳月の運行の速なるを覺え轉た人事の疎きを歎くのみであります、私當地に赴任致しまして未だ日淺く見聞等も少く特に御報告申上ぐる様な事もありませんが締切期日には日もあることでありますれば其迄には何か所感様ものを御報告致し度いと存じて居ります、醫局各位様へ、宜敷御願申し上げます。 早々

板橋剛

向寒の折茂木先生始め醫局皆様には益々御清榮の事と相察致します、本年度は同窓日下田君を新設の耳鼻科に静岡の日赤より御赴任を願ひ、山崎先生と三人で愉快に働いて居ります、又静岡日赤の先輩の方々から色々御助力を得まして何より心強い次第です、微力ながら今年は去年より來年は今年より發展させる希望をいだいて協力して居ります、乍末筆外科教室の彌榮を祈つて居ります。

古山實

四月より十月まで七ヶ月の小樽生活を送りましたが、小樽の本當の味は愈々これからです、雪が毎日降り積かなくちやどうも気分が出ません。現在の所全く相變らずです。

釜江省司

久しく失禮致して居りました、皆様には御壯健の事と存じます



小樽の冬の味

小生は相變らず元氣です、やつと落着いて來ました、初めは父が内科でしたので内科の患者は覺悟したが暑い夏を汗で過しまして九月頃からアツペ、ペリプロ、ヘルニヤと云つた工合に外科らしい患者が來る様になりました、アツペは皆ドリゲンデオベばかりでした、田舎では未だフリユウはなか／＼やらせません、幸に皆全治退院しました、目下の所外來二十人、入院四名です、ベットは十ですが

田舎では

フリニウは

やらせません



まだ満員には出會致しません。最後に茂木先生始め醫局諸先生の御健康を御祈りすると共に在局時色々とお指導演下さいました事を厚く感謝致します。草々

高橋 眞雄

御無音に打過ぎ候、皆様には御變りは無候や當地は只今雨季にてスコール頗々と襲來致し風木の花ざかりに御座候、盛夏の折皆々緑の御健康を蔭ながら御祈り

申し上げ候

七月二十五日

佐藤 憲一

小生東京出發の際には御多忙中然も夜分にもかゝはらず皆様御送り下さいまして眞に有難うございました、又在局中は色々とお指導演頂き心から御禮申し上げます大連では牛久氏始め満鐵の大野、小川、河野、加藤、田中、倉内、松永、永野氏の諸先輩に歡迎會をして頂き激勵やら御注意を受け有難く思ひました、大連を見物する暇もなく夜行で奉天に翌朝着、總局に參り中川氏にお會ひし村瀬、島崎、高淵の諸氏にもお目にかゝる光榮を得ました、こゝも亦汽車で翌日午後三時半ハルビンに着きました、驛には伊藤公遺難の地點に厚いガラスをはめて中に年月日が記してあり、又ニコライの像も祭つてあつて、それにお參りすると旅人の身の安全を守つて下さるとか大勢の人々がお祈りを捧げて居ります、ハルビンの街は滿洲の何所より遙に美しく、街路樹が多くそ

こをスツキリしたロシヤ人が歩いて居るなど實にいゝなあと思ひます、街中には電車が通つて居りますがその釣革たるや高くて私などやつと指先がとどく位です氣候は今のところたいした事はありませんがこれからは内地で想像もつかぬ程との由です。

末筆ながら小生學校の名譽を辱める事のない様、懸命にやりますから御安心下さい、皆様御身體を大切に、さよなら。

渡 隼

傷癒えて退院ゆく患者を見るにつけ

願ふは一つ行末の幸

時にはこんな氣持になり愉快に勤務致し居り候

諸先生諸先輩の御健康を切に祈り居り候

茂木先生謝恩觀劇會

編輯員

恒例同窓會主催、茂木先生謝恩觀劇會は
昭和十年一月十二日木挽町歌舞伎座に於て
催されたり。

當日は茂木先生御夫妻、御令嬢の御出席
を仰ぎ、木村、前田兩先生御夫妻を始めと
し、吾等同窓會員九十餘名、打揃つて喜ば
しく劇を觀賞せり。

序幕は壽會我對面、一番目二條城の清正、
所作事は高坏、中幕の三日太平記に、二番

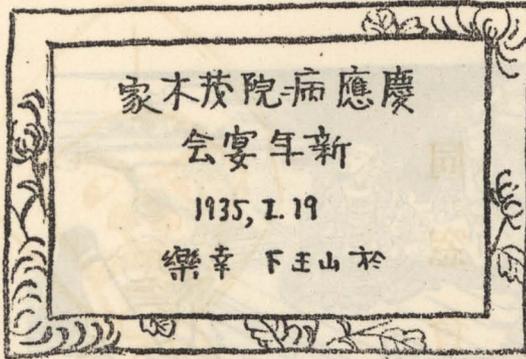




目が三人吉三巴白浪、途中幕間を利用して階上の食堂
に會食す、美酒に酔ひ、歌右衛門、菊五郎、幸四郎、
吉右衛門、羽左衛門等名優の演技に酔ひ、又此の日の
喜びに酔ひて、午後十時、榮ある茂木先生御一家の御
健康を祈り、併せて我が同窓會の發展を祝つて解散せ
り。

茂木先生新年宴會

編輯員



一月十九日、今晚は先生の新年宴會だ、夕方から皆な張り切つて幸樂に出かけた。木村、前田兩先生、犬養大先輩を始めとし我々同窓會員、此所に集るもの六十八名、非常な盛會であつた。心置きなく御馳走になり、お酒を頂戴する、席は次第に賑になる、その間をダットソン型女將がチヨロ／＼するの面白い。

やがて餘興が始まる。すんだ者は次の演者を指定する次から次と指定され、全員一人残らず妙技、珍藝をやつたのは愉快であつた。終には「どじようすくひ」の勇者も飛び出し、例によ





つて、「よかちん」のK君も立ち上つた。最後に茂木先生の朗々たる詩吟あり、興は何時果てるとも知られない盛況、此の夜先生も御氣嫌よろしく、何時までも御席においで下さつた事は我々一同特にうれしいのであつた。茂木先生萬歳、外科、整形科
同窓會萬歳

同窓會宴會

編輯員

四月三日、學會の終つた晩、目黒雅伎園に於て開かれた。茂木先生を先頭に同窓會員五十餘名集り、圓卓をかこんで盛な宴會であつた。餘興は各圓卓の競演、その中に單騎出演者も現れ、遂には素人ばなれのした落語家も飛び出すに至つた。一同先生を中心に記念撮影をなし、茂木先生及び同窓會の萬歳を唱えて解散した。

開局十五週年記念祭

百

溪

吾が醫局は若い若いと思つて居たら、既に十五周年を迎へる事になつた。此の間茂木先生は多々益々辯ずる御努力を終始一貫續けられ、吾が醫局は速に隆盛に赴き、又常に和氣霽々たる平和を持續して居る。此の事は斯界に誇り得る事績であると思ふ。最初九人であつた同窓會員は現在百七十人、内六十人が現醫局に止り、外科の入院患者は十五年間に二萬五千人で外來患者は十萬人である。其の他數字に表れざる診療を加へ又茂木先生の名に於て活動さるゝ同窓會員の診療數を加へるならば驚くべき人々が起死回生の喜びに漬つて居る事と思はれる。

更に今後吾々は同様の努力を續け、更に茂木先生の言の如く人格者として社會の上流に位する事を心掛け單に疾病のみならず社會の害毒をも征服する様に成りたいものである。

記念祭は誠に簡單であつて記念撮影と職員食堂に於ける僅かな餘興を加へた粗朴な饗宴に過ぎなかつたが、此處に出た御馳走は全部同窓會員の持寄りである事は我が醫局の傳統を如實に表現するものであつて、特に味ひ深きものであつた。

浦安舟遊記

小平

秋は川風に乗つてやつて来る。

茂木先生御招待の浦安舟遊びは九月十五日午前九時、濱町公園脇の川岸にスタートを切つた。茂木先生、前田先生、町田先生を始めとし鎌田先生並に濟生會外科の人達を入れ同窓會員總勢五十六名、朝波に軽く揺れる和舟の中ではお猪口の方もスタートを切つて居た。大川から放水路、それから江戸川と通ふ運河は山手に住んでゐる僕達にはいつもながら懐しい想を残す。御酒は既に相當にいつてゐるけれど、これから先を期待してゐる諸君はめつたに酔ひはせぬ。十一時舟宿のおぢさん達に迎へられて浦安に着き直に小舟八艘に分乗した。各舟美人を一人づつ大切そうに擁して江戸川尻へ思ひ／＼に漁場に急ぐ。尤物を待つて仲々小舟に移ろうとしない鼻下長連數名親船に寝轉んで動かない。かれこれする間に伴の美人、さつさと他の舟に乗せられてしまふと、一寸フテ、「此の舟には女は要らんぞ」。だが結局一妓を乗せて、之も川

下へと急ぐ。見てると案外、一つの膝に二、三人で枕などして。

葭の入江に纜してやがて「デカイゾ／＼」と竿引き上げるを見れば成程これは一寸に餘る大魚、船頭君の用意して置いた大きなせいごを板子の下からひつぱり出して御丁寧に釣糸喰はせ、そつと水中を泳がせてゐる奴はどうせ釣には自信の無い連中、それをまた得意顔して引き上げる時アツと水中に逃がした顔は、いやはやどうも見



ちや居れん趣がある。茂木先生は此等の間を時々舟を滑らせてニコ／＼見て廻られる。

一釣釣つて親舟に集れば、お皿の上はまだブチユ

く言つて天婦羅が後からくと配られる。心配して居つた曇天も此の頃東から晴れて来て、久し振りに初秋の空気を腹の中まで吸ひ込んだ連中、喰ふは飲むは、赤くなる奴、青くなる奴、舳に立つて小便垂れる奴、御丁寧にその小便と心中する奴、それを何とか文献に残そうと酔つた手先にカメラを振り廻す奴、舟遊びも正に、クライマツクスである。數妓尿意を催せば親切に小舟を自ら操つて葭の葉蔭に上陸させ、「葭が刺すぞ、蟹が挟むぞ」とはやし立てる手合ひは、豈此の道の常習犯に限らんや。

満腹を小舟に移して洲の上吹き來る海風に頬なぶらせてゐると何時とは知らずにトロリと一睡、もう日は落ちてヒヤリ



とする河面を、舟は流しておいた繩を手繰り、手繰り、時々躍り上る銀鱗に歡聲を擧げつゝ舟宿さして上つて行つた。歸りは放水路を東京灣に一旦下り、洲崎の灯を右手に眺めてフルスピード。

宵闇の隅田の口にさしかゝれば、折しも昇る十五夜の、月に風情の清洲橋、上る棧橋潮満ちて、濱町脇にびつたりと船を着けてぞ上りける。

浅利貝とお魚のお土産をどつさり頂いて、茂木先生萬歳三唱、散會したのは正八時。其の後は存じ申さず候。

同窓會報告

井手

○昭和十一年度同窓會役員

木本多喜雄 君

會長 茂木藏之助先生
評議員 犬養六郎君
大庭國紀君
大曾根幾次郎君
上石英造君
竹下貫一君
梅村六郎君
柳村壯一郎君
山本順一郎君
前田和郎君
木村謙二君
町田謙二君
百溪定七郎君
田村信介君
井手行平君
小橋正平君
門橋三勇君
鷺澤敏三君
尾村偉久君
赤倉一郎君

昭和十年度同窓會會計報告

(自昭和九年十一月二十八日至昭和十年十一月十六日)

收入の部

昭和九年度繰入金 二二三五・一四
昭和十年度收入金 六九六・四五

收入合計 二九三一・五九

支出の部

昭和九年度刀林發行代 二八二・四〇

通信費 一四・五六

同窓會補助 一四・九七

集金郵便料金 九・八二

支出合計 三三一・七五

差引残高 二六〇・八四

内訳

安田銀行特別當座預金 一九九五・七九

振替貯金 五一四・六九

醫局内保管 九九・三六

昭和十年度同窓會會計 井手行平 印

幹事

御禮の辭

編輯員

春夏秋冬折々に、各地同窓諸兄からの種々の贈物、之も茂木先生を中心とする我々同窓會員の心持と思つて感謝して居ります、醫局で御馳走になる有様も昔ながらで變りません、日本全國は勿論、海外までも發展して、一致團結、慶應醫學の名のもとに、活躍せらるゝ先輩諸兄の意氣も共に頂戴致して居ります、此の際略儀ながら誌上を以つて、厚く御禮申し上げます。

一、實驗的腸閉塞症に於ける腦髓の病理組織學的研究 (第一報)

(外科)

小

平君

一、淋毒性關節炎に對する關節腔内盈氣療法の治療成績及び其の作用機轉

(整形外科)

島

田君

日本整形外科學會

第十回日本整形外科學會は昭和十年四月二日三日東京帝國大學工學部講堂に於て催さる。前田教授は宿題報告の御多忙にも關はらず會長の重任を果されたり。吾教室よりの出演なし。(會場係、當番慶應、畠中、野崎)

慶應醫學會總會

十一月七日東校舎階段講堂に於て催さる。病理細菌學教室より流行性腦炎に關する報告は夙に學會の注目をひき居たる爲、聽講者超滿員の盛況なりき。

吾教室よりの出演左の如し。

一、脊髓の手術的侵襲に必要なる脊髓横斷面に於ける測計

畠

中君

宿題脊髄外科の報告を終つて

岩 原 寅 猪

昨年四月思ひがけなく宿題脊髄外科を擔當したときはさすがに來たかと思つた。確かに瘦馬に荷が過ぎてゐると自覺した。然し人々から折角の推輓期待である。男一匹やれるだけやらうと私かに決心したそれからの一年は全く緊張の一本であつた。前田先生の御精進、教室の人たちの努力、その間にあつて私は精根の限を傾けた。脊髄といふ字は夢にもつき纏ふ程であつた。ひたむきに猪突した。續くかしらと心配して呉れた人も尠くなかつたことを後で知つて自分のへばつて居たらしいことに微苦笑すると共に人々の温い心に泣いた。然し兎に角續いた、報告の趣向は前田先生の工夫になり、外科の人々に援けられて出來上つた。内容は昭和四年以來の教室の經驗の總和であつた。從來等閑に附せられてゐた領域だけに人々の理解を得難かつた事は否めない。吾々にも最初からそれを或程度まで覺悟してゐた。いくらかでも啓蒙に役立てば足りる、今直にそれ以上の報酬を望む事の無理であることは百も承知の上である。只脊髄外科は發達すべき將來のあるものであり、吾々の報告がそれに寄與する何等かのものを持つてゐることだけは確心してゐる。吾々は今度の報告を以て満足慢心するものではない。これは吾々の第一階梯である。吾々は未だ若い。二段、三段と吾々は徐々に進んで行くであらう。

宿題報告後記

野 崎 寛 三

前田教授及岩原助教御擔當の昭和十年年度日本外科學會及日本整形外科學會の宿題報告「脊髓外科」も吾國刀圭學會の期待に反かず多大の功績を残して好評嘖々裏に終了し得て吾々醫局員喜びの限りであると共に、慶應醫學の存在を燦然たらしめたのは吾々の誇りである。

報告の當日帝大工學部大講堂に聽衆は溢れ滿ち、身動きもならぬ程の大盛況裏に午後三時演説は始められた。

今回の報告は前田教授の新しい試みとして約三時間全般に亘り、種々の圖表及手術所見「スケッチ」等の一七〇餘枚の幻燈及び數卷の手術映畫等を用ひ、此等を朗讀口調を以て示説されたのであつて、日本刀圭界に縁遠かつた「脊髓外科」を紹介するのに、強い理解と印象を與へる事が出來た事を疑はない。

今回の宿題報告の成功は吾教室員を始め、外科教室の方々及び多方面の御援助、御努力の一致團結した賜であつて、此處に其の有様的一端を述べて、後への記録ともし度いと思ふ。

最初吾々の危惧した事は材料の蒐集と云ふ事であつたが前田教授自ら東京市内の各教室、主なる病

院を歴訪され又遠くは書翰を以て患者紹介を御依頼になつた甲斐あつて、東大吳内科、島菌内科、下谷病院、赤羽及横濱濟生會病院、横濱同愛病院警友病院其他から患者を紹介して頂いた次第である。

此等の患者は麻痺症例が多いので事務當局の御好意で規定區域外迄も度々病院寢臺自動車で送迎するを得た次第で、全症例は比較的少なかつたが可成りの苦心を費したのであつた。

手術映畫は外科の齋藤君、小平君の眞摯の御努力の賜であつて、學術映畫として面目躍如たるものであつた。

幻燈は吾教室員並に堀田技師が主として製作に當つたが肝心の圖表等の原稿は外科の今井秀雄君の麗緻な筆になつたもので、手術所見「スケッチ」は小泉君の玄人肌の筆で共に美事な出來榮で、それだけ御苦勞も一通りではなかつたのである。

又藤原先生の筆になる會場の目次箱中に掲げた所の目次報告次第は其鮮健なる墨痕に會場に一段の光彩を添へた。

以上の様な諸子の文字通り血と汗の努力と團結の結果は前述の如き光輝ある業績となつたのであるが、吾々は此の業績を基礎として更に將來への飛躍を期して止まぬものである。

終りに去五月、前田教授御司祭の下に芝の心光院に於て教室員一同は今回の宿題報告に關係のあつた諸靈及び實驗動物の爲めに供養を爲し、以て冥福を祈つた事を記し度い。

外科教室より出でたる文献

髓の所謂「キサントザルコーム」に就て

(グレンツゲビート、第九年第八號)

若林君

(グレンツゲビート、第八年第一二號)

鍋島君

「チスチツエルクス、ツエルローゼ、ホミニス」

蟲様突起内留針の一例

及び其の二例

(グレンツゲビート、第九年第一號)

若林君

(グレンツゲビート、第九年第九號)

井手君

メツケル氏憩室に生じたる消化性潰瘍の一例

肺炎双球菌による比較的稀有なる二、三の外科的

(グレンツゲビート、第九年第三號)

山口君

疾患に就て(二)

火傷後破傷風の一例

(治療及處方、第一八〇號)

百溪君

整形外科より出でたる文献

脊椎カリエスを診療する開業醫家の爲めに

胸椎カリエスに由る麻痺に對して施行せる

(臨床の日本、第三卷第七冊第二一號)

前田教授

肋骨横突起切除術(十一例)の經驗

小兒期に於ける脊椎「カリエス」

(治療及處方、第一八〇號)

同

(兒科診療、第一卷第五號)

同

ミエログラフイー

脊椎カリエス(硬膜外結核腫)による麻痺

(醫學輯覽、第二二〇號)

岩原助教授

臨床講義(臨床の日本、第三卷第五冊

後頭下穿刺法

第十九號

同

(醫學輯覽、第一一四號)

同

ミエログラフィー(脊髓造影法)

(東西醫學特輯號)

同

結核性疾患、結核疑症、非結核性疾患に於けるマンロー氏皮内反應及同反應と赤血球沈降反應との關係に就いて

(日本整形外科學會雜誌第九卷第五號)

井手君

結核性及徵毒性膝關節炎(二例)に於ける

Pneumoarthrogram と病理解剖學的所見

との比較(日・整・外・雜誌第九卷第五號)

島田君

淋毒性關節炎と生殖器淋疾との關係

(東京醫事新誌、第二九三九號)

同

徵毒性關節炎に就て

(内外治療、第一〇年第一〇號)

同

關節腔内盈氣法の診斷及治療的價値(第三回報告)

(日・整・外・雜誌、第一〇卷第一號)

同

淋毒性關節炎に對する關節腔内盈氣療法の

作用機轉に就て(第四回報告)

(日・整・外・雜誌、第一〇卷第二號)

同

妊娠と淋毒性關節炎

(日・整・外・雜誌、第一〇卷第二號)

同

淋毒性關節炎の關節液に於ける細菌學的知見補遺

(日・整・外・雜誌、第一〇卷第二號)

同

砂時計形を呈せる二次性脊髓硬膜外腫瘍に就て

(日・整・外・雜誌、第一〇卷第三號)

伊藤原君

脊髓腫瘍頸椎部「エクヒョンドローゼ」の症例追加

(日・整・外・雜誌、第一〇卷第三號)

野崎君

硬膜内「ミエログラフィー」に於ける沃度油の

影響に就て

(日本外科學會雜誌、第三六回第七號)

大内君

脊椎腫瘍(プラスチックモチーム)の一手術治驗例

(グレンツゲビート第九年第八號)

長坂君

外科集談會 (於神田東京醫師會館)

整形外科集談會

第三三五回、第三三六回、第三三七回、出演なし。

第三三八回、三月二十二日

吾教室の當番にして左記六氏出演、外に尙應援演者六名あり。久方振りに聽講者も堂に溢るゝの盛況なりき。

「メツケル」氏憩室の消化性潰瘍穿孔の一例 山口 君

「クルケンベルヒ」氏腫瘍の一例 門 橋 君

「ノイリノーム」四例 笹 島 君

火傷後に併發せる破傷風の一例 若 林 君

先天性十二指腸狭窄の一例 瀨 尾 君

上唇並鼻を造りて(患者供覽) 木村教授

第三三九回五、月二十四日

脊髓腫瘍を想はせたる胸腰椎畸型性骨炎 大 内 君

第三四〇回、第三四一回、出演なし。

第三四二回

頸髓部硬膜内外に跨る砂時計腫摘出治驗例 菅 君

第三四三回、第三四四回、出演なし。

第七八回、昭和九年十二月十三日(於東京醫師會館)

硬膜外結核腫摘出及頸椎部「エクヒヨンドローム」

手術映畫供覽 前田教授

脊椎「カリエス」に於ける「ミエログラム」の

一特殊型 岩原助教

第七九回、昭和十年二月十四日(於三樂病院)

脊髓腫瘍(ブラスモチーム)の一手術治驗例

第八〇回、五月十二日(於東大) 長 坂 君

砂時計形を呈せる二次性脊髓硬膜外腫瘍 伊 藤 原 君

妊娠と淋毒性關節炎 島 田 君

第八一回、六月十三日(於日本醫大)

外傷性化膿性腦膜炎に於ける腦蜘蛛膜下腔洗滌例

第八二回、十月二十四日(於慈大) 今 井 君

脊髓硬膜外に轉移せる惡性脈絡膜上皮腫手術例

門 橋 君

抄 讀 會 (於病院内講堂)

第一〇一回 昭和十年一月二十九日(火)

電氣傳導度より見たる輸血の一考察(自家業蹟)久崎君
胸部疾患及手術による脊柱側彎……………小泉君

頭蓋外傷による脳脊髄液の變化……………龍野君

電氣メスに就いて……………山口君

拇指剝皮創の成形手術の新法に就いて……………武藤君

第一〇二回 二月十九日(火)

生殖腺と實驗的創傷療法……………山田君

下智齒發生の際の炎症合併症……………渡邊君

新製オリゴダイナミツシユに有効なる繻帶及

縫合材料……………齋藤君

側彎症の手術的治療……………畠中君

開腹術後の肺臓合併症に就いて(十六例觀察)……………酒井君

第一〇三回 五月七日

蟲様突起の「カルチノイド」の稀有なる例……………小林忠君

脊柱側彎症に於ける廻轉變位に就いて……………蓮江君

「タンボン」に腰椎穿刺を併用せる「デンメル」氏

腦創傷療法……………今井秀君

組織營養状態に作用すべき「ノボカイン」注入法

……………伊藤原君

直腸癌二八二例の統計的觀察……………井手君

五十例の穿孔せる胃及十二指腸潰瘍に對する

第一次切除を行ひし成績に就いて……………武藤君

第一〇四回 五月二十一日

下腿潰瘍の療法……………小林不君

半好氣性及嫌氣性菌感染創の過酸化亞鉛の應用

……………尾村君

管狀骨假關節の肋骨鞘狀纏絡療法……………菅君

骨關節瘰疽及髓鞘蜂窩織炎知見補遺

……………大塚君

脊椎骨折の治療に於ける固定期間……………高木君

術後合併症と天候……………瀬尾君

第一〇五回 六月四日(火)

外傷と糖尿の問題に就いて……………小坂君

乳癌手術後に來る浮腫運動及知覺障礙に就いて……………佐藤壽君

……………佐藤壽君

パセドウ氏病の手術成績……………山口君

「レイノー」氏病に對する副甲状腺切除術……………野崎君

泌尿器疾患に於ける痛覺過敏……………橋本君

小兒骨髓炎の療法に就いて……………橋本君

第一〇六回 六月二十日(木)

パシニー變法の遠隔成績……………赤倉君

蟲様突起炎時の腹腔内滲出液の超生體染色に就いて……………大木君

……………大木君

慢性骨髓炎に依り生ぜる骨腔の整形的閉塞法……………小泉君

驅血帯を用ひざる大腿切斷術……………長坂君

急性蟲様突起炎と赤沈速度……………小平君

手術が植物性神經緊張に及ぼす作用……………渡邊治君

第一〇七回 七月二日(火)

狼咽に於ける中間顎突起の處置に就いて……………岩崎君

電氣メスに依る無菌的腸吻合……………佐藤憲君

双生兒に於ける穿孔性胃潰瘍の一例……………渡邊仁君

脊髓腫瘍及腫瘍類似症狀を呈する患者一四一例……………大岡君

……………大岡君

ヒスタミンカタフロレーゼ……………齋藤君

インドフェノール青の酸素反應の方法(癌患者につき)……………田村君

……………田村君

臨時 九月十七日(火)

露西亞萬國生理學會に行きて……………久崎君

第一〇八回 十月八日(火)

スコボラミンオイコダール、エフェトニンの……………今井光君

靜脈内應用……………今井光君

創傷療法に用ひたる「ヴィタミン」の再檢討……………中山君

胃手術後に起る肺合併症問題に關する知見……………門橋君

腹膜炎の血清療法及其成績……………笹島君

第一〇九回 十月二十二日(火)

破傷風血清並破傷風抗原を注射せる人體の抗毒性

免疫の持續期間と價値に就いて……………高橋清君

ガングリオンの姑息的療法手技に就いて……………名倉君

輸血に於ける所謂一般給血者の應用に就いて……………山田勉君

術後腸アトニーに於ける「エヌモデル」應用……………渡邊敬君

單純性膽囊及膵臟壞死の發生機轉……………井手君

第一〇回 十一月五日

手術中行へる超生體染色に基く腹腔排膿管の

問題……………木本君

腹膜癒着に就いて……………尾村君

創傷切除の問題に就いて……………小島君

高位腰髓麻酔……………山口君

アセチルヒヨリンによる關節攣縮の豫防に

就いて……………野崎君

手術不可能と目されたる胃潰瘍の術前肝油療法

……………若林君

第一一回 十一月十九日

疼痛性炎症性機轉に於ける「パンテジン」軟骨療法

……………小林忠君

土工に見る典型的な外傷たる棘状突起骨折……………大木君

止血の目的に使用せる少量血漿輸入に就いて……………鶴澤君

脊椎骨折と脊椎脱臼……………伊藤原君

一〇〇〇例の剖検より見たる蟲様突起の位置

……………小平君

非凝固血による輸血法……………瀬尾君

日本微生物學會(大阪、三月三十一日)

葡萄狀球菌、連鎖狀球菌並に肺炎双球菌の

「ミクロアエロフィル」性發育に就て……………藤原君

餘念なく外科各論の改版、創傷療法の御改版等々矢繼早に御發表になつてゐます、更に英雄閑日月ありと申しますか釣に野球に益々健康維持に心がけておいでになります。吾々醫局員は先生に對して何と言つて感謝してよいかわかりませんが、靜かに省みる時實に汗顔の至です。

B 全くさうでせうとも、私達も先生の御威徳には全く感謝しております、嬉しい時、苦しい時失敗した時、残念な時、何時も先生の御人格を偲んでは力としておりますもの。

A 先生の益々御壯健に渡らせられんことを一同衷心より願つております。
大分玄關も混んで來た様ですからそろそろ御案内致しませう。

外科 受附

A 此の十字路に立ちまして外科受附に向つて左右に手を舉げますと、左手に小兒科、右手に婦人科後に同再來受附のあることは昔と同じですが、受附子を御覽下さい小出サンと言つて大變愛嬌のある方で結婚された矢口さんの代りにこの五月からこられた方です。

B 吳服やでも煙草やでも看板娘が必要な如く殺伐？な外科でも玄關にはお優しい愛嬌のある方をおくことは確にサービスですね。

第二診療室

A 此處は昔と大差なく再來患者を診てゐます。毎週火曜日は茂木先生の御診察、日その診察の早い



ですよ、茂木外科ですよ。

豫 診 室

B いや此の部屋はいやに小さく暗くなりましたね、昔は確か豫診室だったと思ひますが。

A エ、御尤もです、今でも豫診室ですが少し暗いので困つてゐます。検査室を一昨年少し擴げて整理したものですからこんな狭くなつたのです。併し暗い部屋で豫診をとると患者も餘り恥かしながらないで何でも有りの儘を告白しますから却てよろしいのです。

B 心理學的設計になつてゐると言ふわけですな。

ことは患者ばかりでなく皆驚異の眼を以て感嘆してゐます。それに碓子君は相變らず主任として快活に活躍してくれますので皆安心してゐます。

それに最近はこの硝子棚の中に救急箱を用意しておきまして、地震、火災、大交通事故、暗殺等々が起つた場合には時を移さずこれを持ち出して、直ちに適當な場所に救護所を設け得る様準備しております。

B 成る程一分の隙もありませんね、これでこそ慶應外科

第一診察室

A こゝでは新患を取扱ひます、床にはリノリウムを布き最近では文化長椅子?を取り付け更に向ふの窓際にはX線寫眞の透視臺を置き説明に便にしました。

月水金は茂木先生、火木は木村先生、土曜日は町田先生が診察に當られます、菊池君が主任で愛嬌と親切とを以て患者に當つてくれますので患者は大變嬉んでゐます。

B 新患は最近どの位ありますか?

A そうですね、マア平均一日十數人でせうね、それに特診も相當ありますからね。

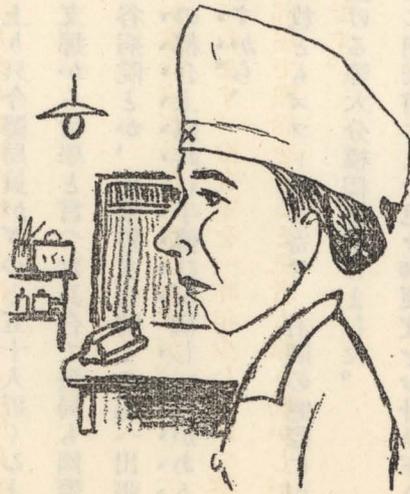
検査室

B 廣くなりましたね、私達の時分にはこんなに整備してありませんでしたがこれでは大抵の臨床的検査は出來ますね。

A 大學病院としては少くもこれ位にはしておきませんかね!

醫局

A こちらが醫局です、お這入りになつてお茶でも、



B ハア有り難う、大分廊下に患者が溢れてゐる様ですがあれば皆外科の患者ですか？大したものですね。

A イイエ／＼あれは違ひます皆女でせう婦人科の患者ですよ。

B エ？

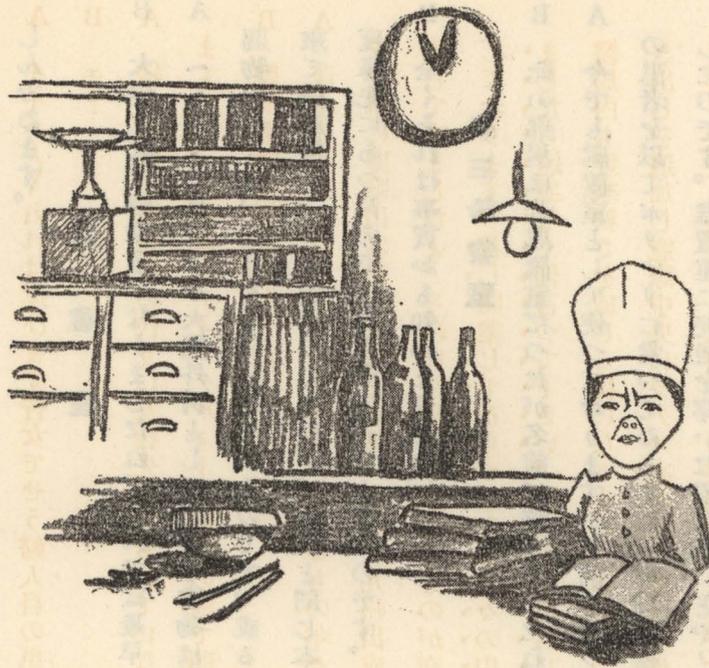
A 婦人科は川添先生の代りに安藤先生がおいでになりましたして理學的療法に力を入れていらつしやいますので、あの通りデアテルミーの部屋の前で順番を待つてゐるのですよ。

B 醫局も随分變りましたね。

A 茂木先生をお慕ひして此の醫局に集まるもの年々多數に上り只今醫局員がざつと五十人近くゐます、單に慶應出ばかりでなく京都、大阪、九州出或は遠く支那から留學と言つた具合で醫局も國際化して來ましたよ。それに醫局員中數名のものが交替で下谷病院とか、横濱警友病院その他へ出張しております、若し開業してゐらつしやる方々の中で何かの都合上臨時に手傳ひが欲しい方がありましたら遠慮なく仰言つて下さい。いつでも應援に行きますから、

醫局内も近來狭さを感じる様になりました本年は黒板を二枚ともズット左に寄せ、右隅の窓際に引き出しを追加し窓際中央にラヂオ臺を設け或は學術板を設ける等大分模様替をしました。

B 年々隆盛に赴くことは何よりお芽出度いことです、それに開業醫にまで色々御便宜をお計ひ下さ



ることは一重に茂木先生の御慈心によること
とでせう感謝します〜。

A それに方々の救護を一手に引き受けてお
ますので、それらの手落ちの無い様にと今
年からは救護係を新設して笹島君にその方
の面倒を見ていたゞいております。尙醫局
長は新進百溪君がこの一月から町田君に代
つてその重任を帯び醫局の平和團結並びに
發展に就いて心を砕いてゐます。

A お茶が沸きました粗茶ですが一杯どうぞ
昔は病棟から看護婦に持つて來て貰つたも
のですが最近では醫局員自ら此處で沸して呑
むことになつておりますから御遠慮なしに
お上り下さい。

B 御親切に有り難う、時に婦長さんはみへませんが相變らず達者ですか？私達の頃は随分元氣もあ

り喧しかつたが今もやはり元氣でせうね!

A エ、森田婦長もお蔭様で元氣でゐます、今はもうすつかり角がとれて來ました皆慈母の如くに懐しんでゐます。

圖書室

B 大變立派な圖書室になりましたね、これでは最早一流の圖書館です。

A へ、へ、これでまあ大體外科として必要な書物は間に合ふかと思ひます。これも百溪君の努力の賜物でせうな、先日も面白い話があるのです、或る殊勝な勉強家がわざわざ帝大に行つて借本して來て得意然とこゝで読んでゐた所が、それと同じ本が丁度鼻先にあつたのでいたく赤面したと言ふのです。

B 全くそれは事實かも知れませぬ。

第三診察室

B 此の部屋は昔處置室だつたが名前が變りましたね。

A 今でも處置室として使つておりますが午前中はフライの患者を以てポリクリに當つてゐますので第三診察室としたのです。處置室に泥靴を穿いた學生連にどや／＼入



られるので少々閉口してゐるのですが何しろ部屋が無いもんですからね。ポリクリには町田、神山、藤原、百溪、土方先生が當り學生をギウ〜といちめてゐます。フライや學生の出入が頻繁ですから主任には松村クンが控へております。

B 愈々病棟になりますな、病棟廊下は廣くて氣持がよいですね。

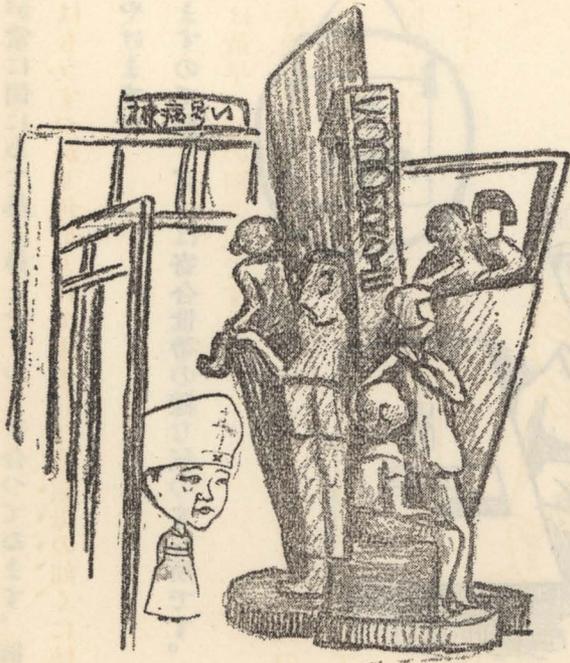
A 左様これからが大廊下でして正面のドーアは別館への通路になつてゐます。

病棟

A い號から御案内致しませう。

B 病棟玄關が昔と少し變つてゐる様ですが？……

A あゝ、昔の病棟事務所を會計の隣に移轉さしてその後を談話室にしました。併し受付は玄關にないと具合が悪いので入口の隅に申し譯的に存在してゐます。卓上電話とスクラップブックとを持つた受付嬢が屈托



してゐます。それを慰める積りか若いボーイが常に側にゐて鼻と鼻とをくつゝけ合つてゐます。御覽なさい今もやつてゐるでせう。

B いくら年をとつてもあゝみせつけられてはやけますね。

A い號は別館が出来てからは各科で使つてゐますので悪く言へば寄合世帯の様な氣のする所です。

主任は相變らず富田クンで忙しい中にもニコ〜として働いてゐます、一等

では荷が勝ち過ぎるし普通二等では少々メンツにかゝるしと言つた階級の患者は此病室が最適かと思ひます。尤も

一等病室が満員の時は勿論こちらに入つて貰ふことになつてゐます。

B この突き當りが特等でしたね。

A そうです昔と同じです。ろ號へ参りませう。



A 別に昔と變りませんが兼重クンの代りに、に
號にゐた日川クンが主任をやつてゐます、仲々
患者に對するウケもよいとか、

B 今でも婦人科と共有ですか。

A そうです、い號もろ號も他科と共有ですから
眞に外科の病室と言ふ氣分が出ませんがこれか
ら御案内するに號ほ號は眞に吾々の病棟と言ふ
感じがしますね。

B 私達も昔はそう言ふ感じがしてゐましたよ。

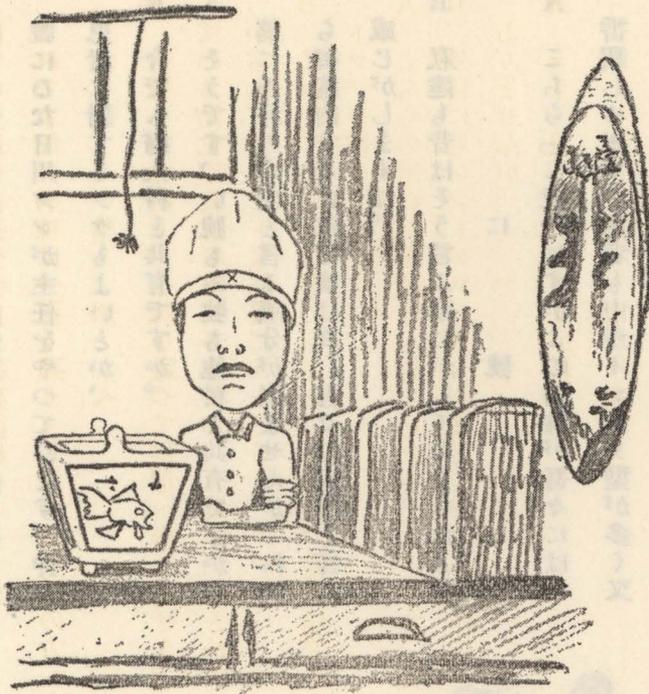
に 號

A こちら「に號」ですがこの病棟が吾々には一
番親しめます。患者も中産インテリ型が多く又

院内關係の人は大ていこゝに入つてくれますから。患者もおつとりしてゐますし病棟全體が小春日
和の様に、ノ、ヒ、リ、してゐます。主任は藤野クンですがこの人は一番よく此の病棟の氣分を現はして
ゐます。手前の半分が外科向ふの半分が整形の病室になつてゐます。

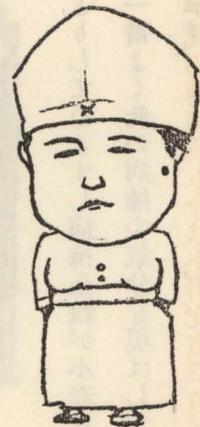


B 前田先生の令名を慕つて來る患者が多いとか聞きました
が整形の患者も相當ゐるでせうね。



A 昔と違つて病室も満員續きですよ。

ほ 號



A 三等病室ですが三等患者の外に健保
患者、フライ患者等を入れます、大衆
的ではありませんが入院料、手術料の問
題或は健保の追加申請等々治療以外の
問題の多いのは恐らく病棟一でせう、
併し主任窪田クンがガツチリしてゐま
すので何等事務の澁滞を來す様なこと
はありません。病棟の總廻診は外科は
月、金の二回、整形は火、木、土の三

回でいづれも部長先生自ら御廻診になります。

これで本館の病棟は一通り廻りましたから整形の方へ参りませう。

整形へ

A ち號へ一寸寄り、と號を通つて整形へ参りませう。この病室が所謂小兒科の最新設備として誇つてゐる消化不良患者室ださうです、人間が三人とか四人とか入れば、もう折角の効メがなくなるとか言ふデリケートな部屋ださうです。

B これですか兼ねて噂の病室と言ふのは、慶應病院も全く福澤先生の御教訓に従つて絶へず社會のトップを切つてゐますね。

A こちらの暗い部屋は婦人科のレントゲン室です、安藤教授の力瘤、理學的療法です。

B 外科にもレントゲンを具へてはどうですか？外科とレントゲンとは離れられない關係にあるではありませんか。

A エー、具へたいんですがね。

標本室

A 一寸こちらへ。

B やに狭い入口ですな—

A こちらが標本室で、しきりの向ふが助教教室になつてゐますが元の講師室も今は小研究室であり

標本室にもなつております、小野さんは十年一日の如くこまめに働いて或は標本を作つたり學生手術實習に手傳つたりしてゐます、更に今春來鈴木クンが小野サンを助けております。

B 仲々立派な研究室になりましたね、私達の時には只雑然と標本を置き散らした汚い部屋だつたですがね、使ひ様でどうにでもなるもんですね。

整形外來

A 金魚鉢がありますね、この金魚は死な、いので有名ださうです。

B 中の方で大きな聲が聞えますね。

A ア、只今前田先生の御診察中です。前田先生は月、

水、金と外來にお出でになり新患、舊患、フライの區別

なく叮嚀に御診察になり同時にポリクリをも併せておやりになります、時々學生に難問を發せられ學生をまごつかせていらつしやいます。火、木は岩原先生、土曜日は

畠中先生と野崎先生が診ます。

B 暫く見學ませう。

第二診察室





A 第二診察室、午前中は再來患者を取り扱ひ午後はギブス、小處置等に用ひ奥の手術場では大手術が行はれます。今春の學會の宿題も此の手術場に負ふ所が多かつたのです。

B 成る程、前田先生の宿題報告は直接聞き得ませんでした。が噂によれば大した人氣であつたさうです。前田先生を始め醫局員の絶へざる努力と熱心さには只々感謝してゐます、お蔭で私達まで肩身の廣い思ひをしてゐますよ。

A マッサージ室、機械室は従前通りですがあの隅に小室を設け研究室にしました。

B 私達は年と共に老ひぼれて行くばかりですが病院は旺んになるばかりですね。

A エーまだやつと十五歳になつたばかりですからねー働くのはこれからですよ。

B なる程。

A 整形標本室ですが現在では整形の研究室兼醫局と言つた感じのする所です。

B 時代が變つて來ましたね、私達の時は呑む方の勉強が忙しかつたもんですがね。

A こちらが外科の手術場、殆ど昔と變りありません。一

ケ年に五百近くのアツベが切り取られる所です。

別館

B 嫌に歩き難い道ですねー、勾配ではあるし滑つてく
轉びさうですよ。

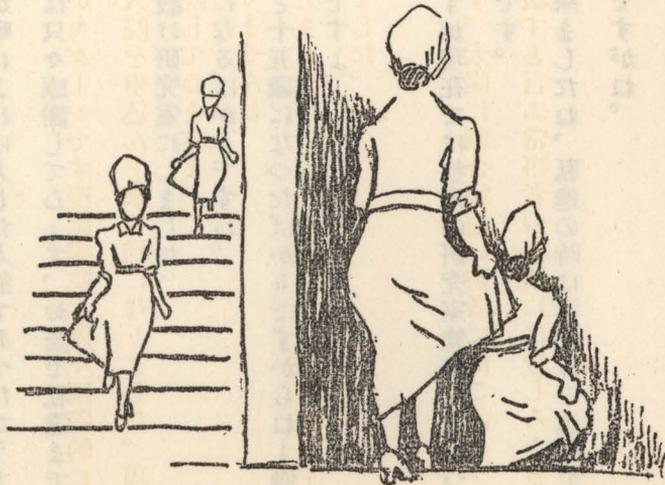
A 全く不愉快な道ですよ、設計者もこれ位ブーアな設計
をしておけば一生名が残るでせう。

患者連もこの道のことを一名幽明道とか言つてゐるさう
ですよ、輸送車で運ばれる時は觀念の臍を決めてゐるさ
うですからね。

B さうかも知れませんが、こゝからうつかり手放しにされ
るとあの底へ往つてお陀佛ですものね。

A 餘り縁起でも無いことは言はないで下さい。こゝは生
命を救ふ病院ですよ。

こゝにエレベーターが二つありまして大きい方は主に患者輸送に小さい方は主に個人用になつてゐま
す。今に大きい方が降りて來ますからそれに乗りませう、さあ降りませう三階に直行しますよ。



B エレベーターがゐませんね。

A 自働的ですからガールはゐませんがそれがために却て便利でもありません。

別館東

A この病室はベットが夫々スクリーンで區別されてゐる所がモダンです慶應病院も段々國際的に
なりまして支那、露西亞は勿論のこと最近は遙々米國から入院を申込んで來る様になりました。現
に關野氏と言ふ米國二世ははるく、ロシアンゼルスから入院してゐますよ。

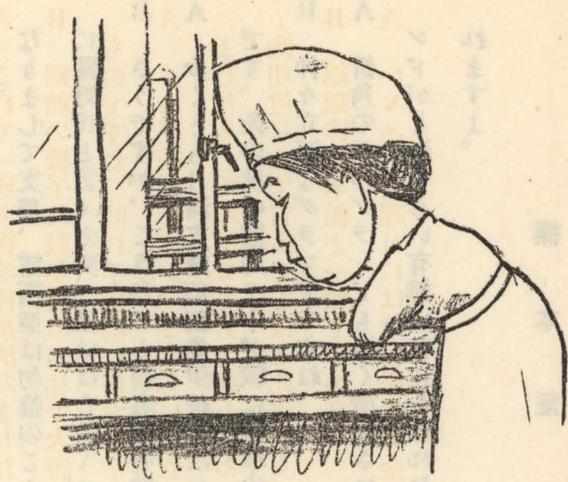
B さうですか、こうなると醫者も各國語に通じなければなりませんね。

A 少くとも日滿支露英獨佛伊位にはね……話は大分脱線しましたがこゝから見えるのがグランド
です、此の秋の醫局リーグ戦には準決勝で婦人科に惜敗しました。

B 仲々立派なグランドですね。

A 折角のこのグランドも近く潰ぶされる運命にあるさうです。太陽に割合縁遠い醫者にはこのグラ
ンドがどれくらい有難い存在か知れないのに、これをぶつ壊すと言ふ當事者の不明にはむしろあき
れますよ。

標本室



A 省線の音が響いて來ますが割合氣持のよい病室です。

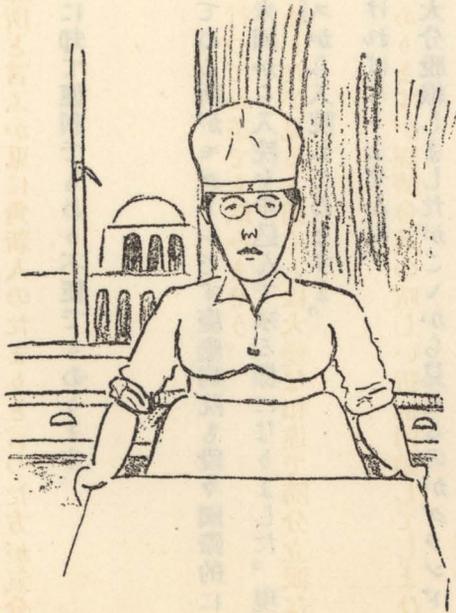
別館 醫局

B 醫局と申しまして本館のそれとは大分趣を

A 本館の標本室をこちらに移し同時に昨年より講師室にしてゐます。この中には相當誇りとすべき標本が澤山あります。

別館 南

B こゝは恐ろしく風通しがよいですね、南はうけてゐるし外苑が手にとる様にみえますし、随分感じがよいですね。



異にしてゐまして、まあ新人の慰安所と言ふか避難所と言ふか兎に角新人のたまりと言つた方が氣分
が出ますね。

A これで一通り御案内が済みました、では四階へ行つてお茶でも飲みませう。

B 別館の様子は數年前の刀林で大體想像してはゐましたが見ると聞くとは大變な相違で随分立派な
ものですね、時に手術場は何處に？

A ア、手術場ですか、こちらにも立派な手術場はありますが經濟會議の喧しい折柄閉鎖してしまひ
ましたそして本館で専ら手術してゐます。

幽明道なんて言ふことばも此邊から出たのでせう。

B 總廻診は本館と一緒ですか？

A いゝエ、月曜日には木村先生で金曜日は茂木先生がおやりになります。

醫局から各地への御手傳

編輯員

相州鎌倉

昭和九年十二月、鎌倉の大庭先生突然の御病氣、醫局より梅村先生早速御手傳にお出掛になりました。其の後梅村先生は大雄山病院に行かれるまで、ずっと鎌倉に居て下さいました。丁度その頃、青森から村上先生が歸つて來られ、梅村先生の後をついで鎌倉に行つて下さいました。大庭先生の御病氣も大變よく、十年九月からは醫局の新人岩崎君が赴任され、先生の御手だすけをして居ります。

山形縣鶴岡市

昭和十年八月、鶴岡で開業なさつた豊田先生、御多忙に過ぎて病を得られました。醫局からは山口君が八月五日出發、御手傳に參上しました。その後九月三日木本君、山口君と交代す可く鶴岡に出掛けました。その後豊田先生も丈夫になられ、木本君も十月五日には歸局致しました。

茨城縣港町

昭和十年九月、港町の大曾根先生、思ひもかけず蟲様突起炎をなされました。醫局からは神山先生、九月十三日に御手傳に出發なされました。手術後の経過も順調で、九月二十三日には神山先生も醫局にお歸りになりました。

新入局員歡迎旅行記

菅 生

月日の立つのは本當に早いものだ。つい此間歡迎旅行をして貰つたと思つてゐたら、もう今度は歡迎旅行の幹事をしなければならなくなつた。何んと言つても困つたのは場所の選定だ。東京近邊の我々のブラインに叶つた所は全部行つてゐる。今迄行かない所をと言ふわけで方面を變へて、古い流行歌の潮來へ使者を立てゝ見た。歸つて來ての報告では全々見込がない。第一ジンがなつてない。第二に旅館がない。ジンと旅館がないことには我々の旅行も出來さうにない。それじや月並だが伊豆の温泉場がよいだらうと、結局伊東に一泊、翌日山越へをして沼津へバスで出るコースになつた。

新入局者十五名を始め醫局員四十餘名で、四月十三日土曜の午後一時東京驛發の網代行で繰り出した。例によつて汽車の中から段々御酒氣が廻つて行く。此頃は飲まなくなつたとよく言はれるが爛漫の一升瓶を二時間餘りで十二、三本開けて了つたのだから相當のものだ。新設の網代驛からバスへ乗る頃は皆んな相當トラになつてゐる。

伊東の町の入口にかゝると、時ならぬ嬌聲と共にジンがバスに入つて來る。入つて來たはよいが、バスにはそれ無駄のない様に坐つてゐるので空席は一つもない。まあそれが結句よいのだが「あなた



の膝貸してね」と来るわけ、AさんBさんの誠に悦に入つたお顔。膝の上に来たのをよい事に、もう何やらの相談を始める人もあるらしい。

宿の大阪屋に着いて湯につかつて何にを考へるともなしにしづくに濡れた天井を見上げ、窓越しには櫻の花が湯氣にぼうと霞んでる、なんて落ち付いて居られない。ジンは來てるし、間もなく宴會が始まるしと言ふわけ。

六時から宴會が始る。幹事の挨拶なんてイイ加減のものだ。こつちも酔つてるし自分が何にを喋べつてるのか見當

もつかない内に向ふでバチ／＼と拍手が來た。それをよい潮に頭を下げて坐つて了つた。

ジンは酒も料理もあまり感心しない。こんな筈ではなかつたがと考へたのも少しの間、酒が廻れば踊り出す。Kさんの子守踊だ。ドテラの尻をまくつて細くて長い足を振り廻して踊り出す。我も我もと踊り出す。いや／＼ほこりの立つこと。この態を奥さんと子供に見せ度いね。其の中に席が亂れ出す。九時頃には幹事の外は誰れも居なくなる。

其の後も誰も知らぬ。



の話まで語つて呉れる。

それをいいことにして海を眺め「お吉」の話聞いてると車が止つた。車は止つても「お吉」の話は續く。車は却々動き出す様子がない。故障が起きて動かぬのだ。故障が起きれば車は動かぬのが當前だと済ましてゐるわけには行かぬ。十二時には静浦保養館でまた宴會をしなければならぬ。いくらいきり立つても車は動かぬ。それじやと代りの車を頼むことにしたら動き出した。

翌朝は皆んな目を赤くして朝食を攝る。朝の給仕のジンが氣に入つたつて、伊東十時出發沼津へ向つた。

宿の亭主から番頭、女中、風呂番に至る迄皆一列になつて、「ありがたうございました」と一せいに頭を下げるのを後にして沼津へ向ふ。

南伊豆の春の朝は本當によい氣持だ。暖かさうな山と、ぼうと水蒸氣の上つてる海、その間を幾重にも折れ曲つて自動車に登つて行く。バスには可愛い車掌嬢が乗つてる。「次ストップ願ひます。オーライ」の青バスの女車掌とは違ふ。名所々々をソブラノで名所案内をやつて呉れる。はては下田の話から唐人お吉



初めの話ではこの伊東沼津間が一時間半と言ふわけだつた。それが故障で三十分近く遅れはしたが三時間近く掛つて了つた。初めは暖い海、霞んだ山といひ氣持になつてゐたが峠を越したら、何にか知らぬが向ふから、やたらにトラクがやつて来る。狭い道だからすれ違ひに暇をとる。

終には三時間も揺られて皆んなへト〜になつて了つた。誠に幹事不行届の段重々お詫び申し上げます。

保養館に着いても湯に入る勇氣もない。皆んな長が〜と坐ぶとんを並べた上に寝ころんでる。昨夕の今日で食欲のないこと夥しい。けれど又ジンが来て酒が出る。沼津のジンは伊東と比らべれば品がいい。晝の酒は又別な味がする。

ジンに三味を持たして獨りうなつてる人もある。暖い春の日を溶びてチビリ〜と杯を傾けてる人もある。

ジンがお座敷をつけて了つても誰れも踊り出す奴はない。

春の日は傾きかけても誰れも立たうとする人がない。

五時過ぎ「若き血」を歌ひ、醫局萬歳を唱へて解散、各自東京へ歸る。

又ある一派はこれから静岡までは一股ぎ、ちよいと日赤諸兄を訪問しようと思ふので、Yさん、Kさんを始めとし、尙飲みたりない連中六、七人は沼津から静岡へ向つた。車中は流石に居眠だ。日赤の醫局に着いて先づ一憩、お茶などをいただく、先きまで元氣だつた整形のTちゃんソフアーに腰かけてぼんやりして居る、ヒョイと見ると物凄、顔がすつかり張れ上つて居る、「己の顔ムクんだらう」と御本人案外平氣、その中に日も暮れる。日赤諸兄の御案内でとある料亭で又々御料理と酒と美人の御馳走、一同又飲み始めたが「よくまあ續くものである。忽ち元氣數倍、先程のムクミなどきれいに取れて馳けまはる。佐藤院長も御出で下さるし、清水からは板橋君も見えられるし、一同すつかり有頂點になつてしまつた。名残はつきないが厚く御禮の辭を殘して夜半の汽車で静岡を立つ。日赤のK先生、美妓數名を伴つて清水驛まで御送り下さる、「もう一杯どうデー」と云ふわけでK先生とYさんKさんは清水驛で下車、料亭に行つて見ると一足先きに板橋君と一緒に歸つた清水の住人Tさん、二人でまだつゝかかつて居たにはまけた。此所で又一騒ぎ、もうちき東が白らむ。

静岡地方震災御見舞の記

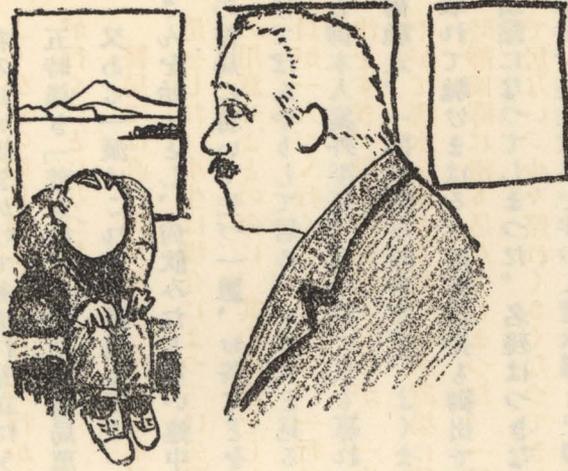
S

生

御盆も間近き七月十一日の夕方、突如静岡地方強震其の被害亦甚大なりと云ふニュースが、ラヂオ

の電波に、號外の鈴の音に、けた、ましく帝都を驚かした。

醫局田村君は郷里清水である。時あたかも醫局新人舊人對抗水泳を三田プールで行ひ、あとは例の如く銀座に流れたが、虫が知らずか皆そろつて歸局した。トタンに此のニュースである、氏は惶惶として其のまゝ東京驛から清水港へと急いだ、醫局からは取敢へず、静岡日赤支部病院と、清水市病院の板橋君へ、見舞電報を發して一夜は明けた、翌十二日朝刊は一せいに、寫真に記事に其の震禍劇甚なる様をまご／＼と記載せり。其の中に静岡日赤看護婦寄宿の石垣崩するゝを見る。丁度金曜日部長廻診が終るや、茂木先生、北島學部長、西野院長の緊急閣議あり。速刻慶應病院



より公式の御見舞として先生が行かれることになり、吾が外科醫局よりも御見舞兼御供として、小生が行くことになった。

醫局では直に御見舞として、玉木屋の佃煮、中村屋の「駄菓子」と、粗品ではあつたが取り敢ず荷造をした。小生は場合によつては先發の田村君と共に、日赤救護班の御手助をすべく、數日泊りこみの用意せよとの命に、其の準備をした。ついで内科、産婦人科、耳鼻科からも夫々御見舞として醫局員が一人づゝ行くことになり、一行は直に急行富士で静岡へ出發、汽車はひた走りに丹那を潜り、沼津をすぎ、段々静岡近くなるが、一向に甚大なる被害の模様もなく、沿線人家も大した異状はない、やがて清水を過ぎる頃、材木置場に積重ねられた木材のすり合つて居るのを見た位で、汽車は午後四時静岡驛に滑り込んでしまつた。一行は降りて見たが町は全くの静岡で、大した變化はなく町も騒いで居ない、少々照れくさくなつてきたが、直に自動車で日赤病院に向ふ、途中お城の土堤が崩れて居るのを一つ見た。病院の玄關に飛びこんだが、ガランとして平常の病院の午後とすこしも異らぬ靜けさ、先づ茂木先生を先頭に専務室に入ると、其處には御舍弟茂木藥局長と、事務長が居られ、吾々の訪問にびつくりされた様だつた。吾々も亦新聞の相當大げさなニュースにあきれたわけだ、しかし慘事の無いことにお互に喜び、階上の院長室に佐藤院長を訪ね、茂木先生は慶應醫學部よりの公式御見舞の言を述べられ、佐藤院長の感謝の辭ありて、後はいろ／＼な話となる、静岡市は相當の強震で搖

謹啓

十一日夕當地方稀有の大震に當りては早速御懇篤なる御見舞電報に接し且又昨日は態々茂木先生瀨尾學兄御來訪御見舞を忝ふし誠に感激の至りに御座候、尙澤山の御見舞品の御贈與に與り御芳情有難奉感謝候、以御蔭、病院始め拙宅等格別の被害無之候間何卒御休神被下度乍略儀不取敢以書中御厚禮申上度如斯御座候也 敬具

昭和十年七月十三日

日本赤十字社静岡支部病院外科一同

今回はわざ／＼遠路御見舞ひ下され尙結構なる御見舞の御品を頂き厚く御禮申上候、お蔭にて病院も何等の被害も無く一同元氣にて救護に従事仕り候、拙宅も幸ひしたる被害もなく他事ながら御放心被下度候、先は不取敢御禮まで如斯御座候 敬具

板橋 剛拜

られたが、幸に大したる損害なく、日赤などはびくともして居ない。醫員諸兄の御宅は棚の物は落ち、壁が破れたりしたそうであつたが、皆負傷もなく無事、しかし一時は大變であつたそうだが、只最近静岡市になつた大谷と云ふ部落と清水港の岩壁が甚しい被害をうけたそうで、市内は全く大したことなくすんだと説明をうけた。次で夫々平常通り院務を濟まされた各科醫長、それから川田君、志田君等、ぞく／＼院長室に參集賑やかに話がはずんだ、栗本君は目下大谷に救護班として出張中昨夜は清水に歸へつた田村君は安心して一寸前に日赤へ寄つてすでに歸京した後だつた。茂木先生は非常に御忙しき體でもあり、震災も此の如くなので安心され、夕方の臨時燕で歸京されることになり、佐藤院長が盛んに折角の來靜なればと引き

とめられたが、残念ながら御暇なく、せめて最も被害の甚しきところを見物されてはと、院長案内で日赤の自動車で出發された。吾々はゆつくり一泊しろと諸君にすゝめられたが、尙清水の板橋君を見舞ひ、又たとへ被害なしとは云へ、何かと取込み中御心配をかけては眞に恐縮である故、終列車で歸京と決めて居たが、つい醫局で駄辯つて居る中に、燕の時間となり、先づ先生を御送りしてからと、日赤の諸兄と共に驛へ行つた、先生は御氣嫌よく院長と歸へられ、清水へは行けぬから宜しく傳言し



て呉れ給へと言はれ、川田君が皆をどうしても一泊させるからよろしくと云へば、先生は笑ひながら「まあゆつくりやりたまへ、ただし反對に救護されない様に」と。全員奉送裡に歸京された。ついで小生は内科の青木君と共に日赤の自動車を拜借清水に走つた、途中も人家に僅少なる被害所々あるのみ、道路などは全く異状なく、坦々たるドライブウエーを清水の病院に着いたが、すでに院長も外科部長板橋君も歸宅の由、さらばと車を轉じて板橋君の私宅を訪ねた、君は子供を抱きながら玄關に現れやはり一寸吾々にびつくりしたやうだつた、剛ちやんは丁度清水港の慘狀を見物に行つて歸へつたところだと云ふ、早速に先生の御傳言と醫局よりの見舞の品を出し、時間が無いからと早々に静岡へとつて返した。自動車は黙つて驛前を通過して止つたのが、粹なお茶屋

求友亭とある。もう日赤の皆様お揃いで、栗本君も歸へつて、浴衣でゆつくりとかまへて居る。此れはと驚くと、今夕は慶應からの御見舞使一行の慰勞會だと云ふわけ、誠に恐縮してしまつた。川田君は「もう茂木先生の許しはあるし、君はどうせ居残つて手傳いをするつもりできたんだらう、ゆつくりしろよ、今夜はおれんとこへ泊れよ」と云つた工合、こつちも好い氣になつて一風呂浴びて宴會となる、もうがつちりと落ちついちやつて遠慮なく御馳走になり、静岡の美人を見、歌は茶切節しと賑やかに宴ははてた、歸へりに小生は又茂木薬局長のお宅へ招かれ、ウイスキーをふんだんに頂戴して葉巻をぶか／＼すつて、川田君のお宅へ行つて其のまゝ夢中になつてねてしまつたのが一時過ぎだつたか、ぐつすりねちまつて翌朝七時目がさめた、御天氣もよい朝飯をいたゞき、川田君と醫員乗合自動車で再び病院へ行つた、折角來たから救護班に行きませうかと云つたら、「もう患者なんかてねエーよ」と云われ止めにして、シユルツエを着せてもらつて外科を始め各科に昨夜の御禮をのべて病院見學をやつた、實に立派で氣持のよい建築だ、設備も近代的で感心した。そして午前中見學をした、丁度午に産婦人科の三宅君が歸へるので、一緒に遊山がへりのやうな氣樂な氣持になつて歸へつてきた。

全く近頃新聞の報導競技が生んだ誇大なニュースのお蔭もあつたが、しかし現地の吾等が同窓諸兄は全く無事に終始せられたることは眞に慶賀にたへぬことであり、かつお蔭で御見舞に行つて静岡の藝者を見て來るなんて悪くない話だつた、刀林十號編輯諸氏の御依頼もあり、當時の模様を禿筆もて駄文を綴り合せて日赤佐藤院長始め諸兄の御歡待下さつたことを深謝する次第である。(了)

警友病院の手術場

土 方 生

警友病院の手術場ではどんな手術がどの位に行はれて居るかを書いて見ようと思ふ。數から言つても又外科醫の興味から言つても、それは決して皆様の前に御披露の出来る程優秀なものではない。然し母校の教室で育てられた者が母校の名に於て就職して居る以上、その任地の様子を時々報告するのは、是れ亦義務の一半であると考へるからである。

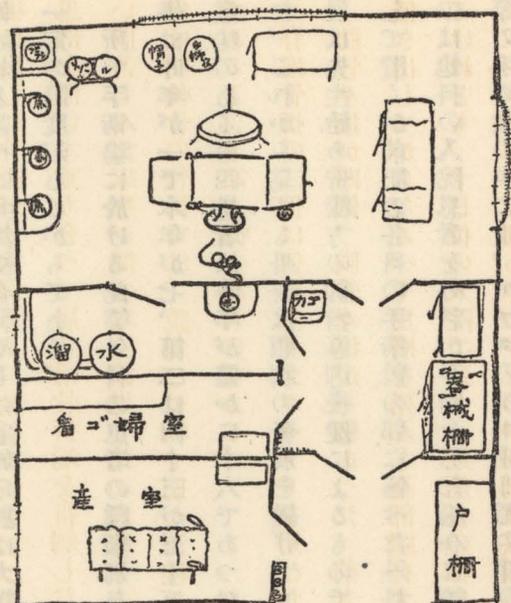
先づ警友病院には手術場が一つしかない。だから此處にはメスを持つ總ての科が出入することになる。他科の手術を見學するにもお互に氣兼ねなくて、その點は甚だ好都合である。手術臺は二臺あるけれども人手が足りないから次々に患者を並べて置いて、どん／＼片付ける様な便利な事は出来ない。前の患者の手術が済んで繃帯をして着物を着せて、輸送車で出して後を整理してそれから次の患者が來ると云ふ順序になる。勿論醫者の手もないのだから、臺が遊んで居たにしても早くから次の患者の準備にとりかゝる事は出来ないわけだ。唯外科の隣りで婦人科が手術をしたりする事は出来る。それだけ此處に働く人達の苦勞は大したものと言ふ事も出来よう。

さて昨年五月十五日に開院して約一週間は此の手術場では何も行はれなかつた。先鞭を著けたのは婦人科で、五月廿一日に人工流産で蓋を開けた。次で翌日には耳鼻科で乳嘴突起炎をやつた。外科は更に一日後れて廿三日に痔瘻を以つて初手術が行はれた。木村先生が親しく執刀されたのである。眼科はずつと後れて六月七日。皮膚科は更に後れて六月十二日に腎摘を以つて最初の血を流したのである。此の點皮膚科は仲々好いスタートを切つたのであつた。

それから段々症例を積んで昨年末迄の約七ヶ月の間に婦人科が六十二回、外科が九十八回、耳鼻科が四十六回、眼科が七回、皮膚科が十二回使用して居る。此の外に婦人科には産室が數十回あつたらうし、耳鼻科も扁桃などは大體外來ですませて居る様である。勿論外科も外來で行はれたものは加算してないのだが、外科が手術場を多く用ひるのは當然の事であつて自慢にはならぬのであるけれども、これを今年になつてから十一月五日迄の分と比較して見ると、先づ耳鼻科が七十回となつて約五二%の増加を示し、婦人科も百四回となつて約六八%の増加を示して居る。我が外科は十一月五日迄に二百二回でその増加率は實に一〇六%に達して居る。つまり外科としては御蔭様で甚だ順調な發展を辿つて居ると言ふ事が出来ると思ふ。勿論七ヶ月間と十ヶ月間の比較だから増加のあるのは當然ではある。そこで今度は見方を變へて患者の種類から觀察して見よう。警友病院の患者は次の四種類に分類されて居る。第一は警察官及び消防員が公務によつて受けた疾病を持つ患者即ち公傷患者で、その醫

療費は縣費で支拂はれる。第二は同じく警察官及び消防員で公傷ならざる疾病を疾む患者で、これは共済組合で支拂ふのだけれども病院に實際支拂はれるのは八割だけである。つまり二割は病院がデイスカウントしてやるのである。第三は第二の家族で、これは又大まけにまけて五割の割引である。次に第四が所謂紹介患者で、これは全額を自辨するのであるから病院の經濟から言へばこれが一番大事なお客で、若し病院が將來發展の餘地ありとすれば此の患者がどん／＼増えなければならぬのである。何故かと言へば共済組合員やその家族の數は大體一定して居るから、それ等の患者の増加にも亦自ら一定の限度があるからである。

所で手術場に於ける此等外科の患者の種類別を昨年と今年の七ヶ月と今年の十ヶ月とを比べて見ると、公傷は昨年が一で本年が七、第二は四十三が五十五となり、第三は三十七が五十三となつて居る。最も意味のある第四患者は昨年が僅かに十六であつたが今年は一躍八十二で斷然他の患者を凌ぐ様になつた。これから見ても外科は順調の發展を遂げつゝあると言ふ事が出来ると思ふ。言ふ迄もなく此の發展は先生始め皆様方の御指導御後援によるものであつて常に感謝に耐えない次第である。尙ほお断りして置くが前記の各科の手術數の部に述べた外科の手術數と、今述べた外科丈の數とに相違のあるのは他科の入院患者を外科が手術をした場合に轉科の手續をとらなかつた者があるからである。又此等の手術數の中には、ギプスの例や或る種の穿刺等も算入してあるのである。



全く想像も附かない事だと思ふ。尤も手術も出来ない様なのが入院して卅分位で死んだのが一例あつた。交代で手傳つて下さつた助手の方々が一人平均十例とすると七十六例中三十例はその方々が手術をしてくれたのである。木村先生にも十例位はして頂いた事であらう。

痔核は昨年の方が多かつた様だ。合計でホワイトヘッドが二十二例、注射や一部切除が六例で、三分の二位は助手の人にやつてもらつた。

そこで開院以來約三百回の手術場使用の中でどんなものが多かつたかと言ふと、先づ蟲様突起炎である。多いと言つても勿論慶應などの足元にも及ばないし、又個人病院でも犬養先生や戸田先生の所にも遙かに及ばないのである。昨年が廿六例、本年が五十例であるが總じて早期手術が甚だ多数で従つて、豫後も亦大變良好である。前記の様に七十六例中タンボンの這入つたのが僅に十四例、而もドグラス窩膿瘍を直腸に抜いたのは唯の二例だけしかない。地方の病院に赴任された方々には

骨折も仲々多い。手術を行ったものに就いて言ふと、膝蓋骨が一例、鎖骨が五例、前膊が二例、上膊が一例、骨盤が一例、顔面骨折が一例、頭蓋陥没を整復したのが二例ある。つい先日には肩胛骨體部横骨折で開離のひどいのを木村先生に縫合して頂いた。尙ほ縫合はしなかつたが手術的に整復した下腿骨折が一例、足關節部の脱臼皮下骨折一例とリスマン氏關節脱臼の一例は何れも整復ギブス縋帯を行つた。此の外に下腿骨折でギブスをやつたのが四例あるし、肋骨々折の手術が四例で合計手術場に出した骨折が廿六例ある。肋骨々折と言ふのはすべて肋軟骨の骨折で數ヶ月も疼痛を訴へる者を患部を開いて重り合つて居る兩骨折端を折觸しない程度に切除してやつたもので、初めの二例では長い間苦しんだ疼痛が間もなく消退したのに味を占めて、後の二例には比較的早期に行つたのである。尙ほ肋軟骨の骨折では、鋭利な刃物で切つた様な骨折部は數ヶ月を経つてもなかく癒合しないものであると言ふ事も知り得たのである。

脊椎骨折の二例は何れもギブスベッドを用ひた。

肋骨々瘍が四例、胸骨々瘍が一例あつた。前者では大きな膿瘍があつても、骨の切除を行ひ充分に掻き出してからなるべく皮膚を殆んど全部縫合する様にして居る。初めの四五日は血性膿が相當に出るけれども、十日位の入院で殆ど一期癒合の様になつてしまふが多い。

ヘルニヤが十五例あつたがその中四例は箆頓して居た。之には別にとり立て、言ふ事もないが、近

頃妙に化膿するのが多いので少なからず腐つて居る。

外傷で骨折以外のものではアキレス腱断裂が二例あつて何れも剣道の試合による所謂公傷である。

その外肝臓破裂、大網膜損傷、小腸破裂が各一例宛あつた。此の小腸の破裂は恰も動脈枝に相當して居たので一部腸切除を行ひタンポンを挿入したのであるが、術後腸麻痺を起しかけたので手術創から腸穿刺を行ひ、更にゴム管を挿入したりしてやつと持ち直つたと思つたら、又癒着によるイレウスを起して再開腹して吻合を行つたりして辛うじて一命を取りとめたのであるが、今度は可成り大きな腹壁ヘルニヤとなつてしまつた。それでも二度も死線を越えて大いに感謝されて居るものと思つて居たのに突然、「人の體を二度も手術してこんな片輪にしてしまつた。このインチキ醫者め」と言つてひどく怒られてしまつた。全くなつちや居ない話なんだけれども醫局でのんびり育つて地方に赴任でもされる人達は此の邊の呼吸をよく呑み込んで置く可きであらう。

アツペ以外の内臓外科と悪性腫瘍とは全くお恥しい程少い。イレウスが九例程あつたがその中二例はS字狀部の捻轉であつた。慶應に永い間入院して居たゴーマンかよ子氏も腹膜結核で手術したけれどもとう／＼駄目だつた。此のイレウスの中の一例は鹽田博士の所謂腸管膜様包囊であつたが之は幸に全快した。一例は腸間膜内皮細胞腫の大きくなつたものである。

癌は後にも先にも四例しかない。乳癌と頸部癌とは共に摘出して治癒した。胃癌は一例は切除不可

能で吻合を行つたが退院後二ヶ月程で死んだと言ふ。他の一例は三年前に手術せられた子宮癌の再發によるイレウスであつたが、これも手術によつて一時好かつたけれども約七ヶ月後に全身轉移で死んでしまつた。

その他の腫瘍では巨大な脂肪腫、乳房腺腫、肩胛骨々軟骨腫等で何れも摘出に成功した。頸椎の悪性腫瘍で麻痺のある患者には家族の希望でラミネクトミーを行つたが、三日目にコロリと死んでしまつたのは残念であつた。

膽囊蓄膿の切開一例、總輸膽管擴張症の吻合一例は何れも治癒した。目下肝臓膿瘍の切開例を治療中である。尙ほ陰囊外科も少い。副睪丸結核の一例と精系靜脈瘤の一例があるばかりである。

その他留彈摘出、バセドウ氏病、膿胸、包莖等とペリプロ、フレグモーン等である。

以上でざつと三百回の手術例を述べた事になる。つまらない事を永々と書きたて、甚だ御迷惑だつたらうと思ふけれども所謂大病院に非る外科の患者の状況を知悉して置くことも又何かのたしになるかも知れないと思ふ。御清讀を感謝します。

下谷雑話

秀坊生



なにしちよる



下谷病院と安直に言ふが正確に東京府醫師會下谷病院と呼ばなくては容易に本院の内容を知り得ない。

本院の患者は必ず一度は開業醫先生の見立てに依て送られて來る。されば必然的に醫者苦しめる型と會計忙しがらせる型とに大別される。入院料十日分前納の用意周到さも効なく、會計係は自動車を驅つて執達吏の繩張り迄犯さねばならぬ。應接室にラデオが三臺あつても好き好んで贅澤に飾つて居るのではない。藥代入院料の變化ヘンゲに過ぎない。

下谷病院の醫者には手遅れの一語は嚴禁されて居る。紹介を辱けなうした開業醫先生の診斷と治療は誠に結構申し分無いもので、不幸鬼籍に入るも責任は悉く下谷病院が甘受する。

笹頓ヘルニアにて送られた陰囊水腫は手術さへすれば問題ないが、此の種の紹介醫の誤診には時折

惱まされる。

曾て下肢蜂窩織炎にて切開を受ける様に言はれて來た患者、どう見ても單純な丹毒である。「ムンテラ」に於ては古今無比の稱ある大内君の説明も何のその、切開をしなくては承知しない。思案に餘つた彼は徐らヤサ注射器を取り穿刺に依りて膿の無いことを示して其の場は納つたが、恨むべき哉入院十日にして丹毒は膿瘍を作り切開を施したのである。入院時あれ程念を押して置いたのに切開もせず放置し、故意に増悪せしめた等と逆螺サカネジを喰はされては主治醫の顔は丸潰れマルツツレ。こんな理由で脈搏の殆ど觸れない様な重症を手術することも珍しくない。

結果は勿論推して知るべし、但し兩隣は格式の高い古寺、日暮里の火葬場も手近。迷はず成佛して行く處迄行くのに面倒が無い。

各科共醫者はよく移動するが病棟は普通り變らぬ相だ。

廊下の隅には日晝でも盛に鼠が騒いで居る。十五夜の晩に臺所の隅で鼠が二匹何しちよると……言ふ穩かならぬ歌を誰かと酔つて唄つた。此處では十五夜の晩に限らない。鼠なればこそ羨しい極りだ。曾て生徒だつた看護婦諸君も今は既に生徒ではない。昔小平君が鼠を生捕つて引つ張り歩いた話や齋藤、門橋、古山諸君の朗かな時代を回顧して思ひ出を聞かされるが仲々艶つばい聲だ。

妻帯醫者の僻見かも知れないが、どうも此處の看護婦も獨身醫者の印象の方が深い様だ。

天然の理か!! 不思議なものだ。

最近隔離病棟に較べて二階は常に満員だと言ふので二階の結核病棟を隔離に移した。引越蕎麥を御馳走になつたが、青く、冷く、細く、長く結核患者の様に生きろの謎でもあるまい。

町田部長の本命に依つて日曜、祭日の當直は必ず外科で擔當する様になつた。

他の科では誰れの當直でも胡麻化しが効くが外科だけは駄目だと言ふ結論に達した相で、外科醫は少し偉い様な氣もする。

窓の外には苔蒸した石燈籠に銀杏が散つて秋の淋しさを誘ふ。こんな時布留君の髪と額とは今にも詩を生みそうだ。石燈籠と庭石とは仲々見事なものだがコンクリート三階建の病院には向かない。此の庭に立つと隣のお寺の庭に出た様な氣がする。武藏野館に入つて再び外へ出たのかと早合點した洋行歸りが壁の塗り方を内外逆だと笑つた話を思ひ出す。

兎に角結構な石燈籠には違ひない。



下谷病院の患者は午後からの入院が多い。手術を終へて歸る頃は日も暮れて腹はペコ〜だ。寛永寺坂下の交叉點角の鰻屋の前を通る瞬間は男は「我慢が第一」と力んで見るが下腹に堪へがない。修養の爲めには鰻の匂ひ迄見逃さぬ心構、既に聖者の域に達したるか。

交叉點を横切るのに先づ立止り、左右を見廻して容易に渡り得ない奥田先生、菅君型あり。上野の森を遠く眺めて何の躊躇もなく颯爽と横切つて行く、そして何の危氣アツナゲもない小島君、大内君型あり。共に何れも正しき「道」の歩み方だ。青物市場の前に新装を凝らしたアバート鷺莊が出来て初めは婦人専門の様に宣傳して居たが現在大岡君が借りて居るので氣を揉むには及ばない。病院の近くで毎夜手術に呼び出されるのは氣の毒千萬。勿論病院には悪事が直ちに露見すること受合ひ。

省線鷺谷の開札口は不都合なことに右側通行だ。左側通行に馴れ切つた近代娘は勇敢に左側を突進して來るので衝突する様なことも無いでは無い。立錐の餘地なき省線電車には思ひ掛けない觸感もある。功德。而して家には戀女房。



與瀨鮎漁の記

瀨田加野放

中央線與瀨鮎漁。

新宿發午前十時廿六分

八月中旬、會費拾圓以内。與瀨より 乗船河を下り河原にて晝食 尙附近には然可所なき故携帶自由、

と云つた様な揭示が出たのは未だ夏休みの始まつて間もない頃の事だつた。此の原案の出所は恐らくM・M・兩君あたりらしい。八月中旬が十七日と決まり、木村先生から獎勵金が出た。

折悪しく十日十一日の大長雨で關西再三の水害の影響で延期となつた。

十七日から行はれた日米水泳大會の國際的の興奮も治まつて、さて何か面白いことでもと、醫局で頭を廻らすと、あつたあつた、廿四日決行と朱書してある。行かぬ内から赤字はどうかと思つたが、會費が五圓と書き直してあつたので安心した。

醫局出發九時半とある、汽車は十時廿分、とすると早い様に思ふが却々そうでない。先づ記入してあるメモバーを左にお目に掛ける。

百溪、横山、瀬尾、武藤、笹島、野崎、齋藤、門橋、菅、佐藤(壽)、名倉、小林(忠)、李(見學中)の諸君に幸樂の女將以上十四名である。

之を見ればわかる様に醫局のスローモーションの大家が大分居る、世話役も却々骨が折れる。

受持患者の繻交に病棟へ馳けつければ同じ思ひの連中すでに、颯爽と交換臺の跡を追つて居る。醫局に入れば林立する一升瓶、紙コップ等々。

皆さん思ひ／＼の扮装、ルムペン様あり、ギャング型あり、紳士風あり、色とりどり。

正門正面で圓タクを新宿迄卅錢に値切り倒して乗つた迄はよかつたが、目の前に白い服の小父さんが居て早速降ろされる。教授方の様には行かなかつた、(昨年の刀林の漫畫を参照して下さい)大に勉強して師に負けぬ程の腕を作る決心です。御安心下さい。

自動車二臺分が先づプラットホームに並ぶ。

小手をかざして見てあれば、居た居た、

遊び人の様なY君そのお隣りに、兩國へ行けば禪かつぎをお供に出来そうな、

S君、振り返れば、羽子板の様なM君、

オットももう少しで見落す所、M君の膝の



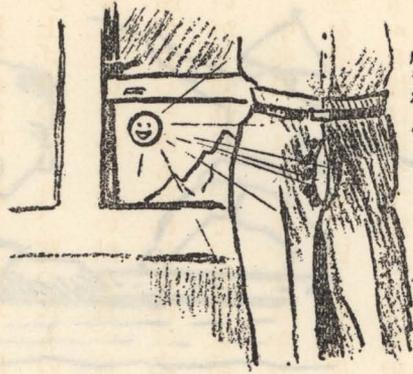
邊をテヨロ／＼歩いて來るは確かに幸樂の女將お樂さん、果物の箱を會費代りに大切そうに抱えて居る。その背後からニタリ／＼と一升瓶を兩脇きに誰にもやらないよ、おいら一人で飲んだよと云ひたげなのが、スロモー協會副會長のS君、と向ふの方から、慾張つて寫眞器を二つ小脇に人波を泳いで來るはカメラ係りS君、合計十三名、十三とはと思ふ時ビー、ゴトンと出發、その時遅く、ドッコイショと乗り込んだのが、K君、これで豫定通り。

車中は例により例の如く、コップ、お酒、つまみもの、果物、など、など、

見なれた中央線とて窓から眺めるものもなく、八王子へ。ブラットホームに降り立つて何やらお買ひ上げ中のはM君、買ったものは何?、「鮎鮎」、吾々はこれから鮎漁に行くのである、取り立ての、もしくはそれに近い鮎を食べに行くのである然るに何故!と喧々囂々、彼M君の悲壯なる釋明に曰く鮎が若し一匹も取れなければ之が總てを代表するものであり、又取れたとしても或は此の鮎より不味いかも知れない、で、自分世話役の一人として責任上、食つて居るのだとの話。

中央線にはトンネルは昔から名物だ、ピーツの氣笛と共暗くなる。名代のK君、やおら立ち上り、窓を閉め様とする、曰く煤煙が入るからね。が併し、彼の窓に手を掛けた時は既に長い／＼小佛トンネルも抜け切つて窓からは爽かな日射が、彼の外れたMボタンを照して居たと云ふ傑作。S君日獨英混線の片たことで、R君の話し相手(と云つても五分の四はお互ひに不通)になつて居る。

はちやん、マシイよ



約一時間の旅、飽きない内に奥瀬に着く、駄洒落は一切ヨセくと封じられる。

船宿の小父さんのお迎え、さて浴衣に着替えると又騒がしい。前の合はぬS君膝の出るS君、標準型と自稱するK君丈が丁度いとニヤ／＼してる。

自動車で河原へ。もう船は流れにブル／＼と振るへて待つて居る。ゴトン、ドスンと船底に當る石の響きに肛門括約筋をビク／＼させながら口には壯快を叫び風光を賞する事約一里餘り、竿のさえで、ピタリと恰好の河原に着く。

早速料理が始まる。八王子の心配を他所に鮎は、ワンスと氷漬けになつて居る。

出るわ／＼天婦羅。天ぶら。てんぶら………出る、食ふ、飲む程に騒しく八釜しくなるのは、自然の成り行き。M君、皿が投げたくなつたと云ふ。幸樂俄然色めいたが、思ひ直して(いくら投げても妾の家のものではないわ)と涼しい顔。此時M君ぬれ鼠で現はれる。一同の呆氣に取られて居るのを尻目に「なに、其處で泳いで居たのさ」と立ち遅れの取りかへしに大童。

「泳ぐもの水に溺る」

次いで、鹽焼き、酢のものとなり、ウルカの石焼なるものに出合つて、皆さんの大間古つき。ガツクと噛んだら石でほんものは、石の衣の、うるかであつた。親の脛を噛りつけた連中も此れには齒が利かぬらしかつた。

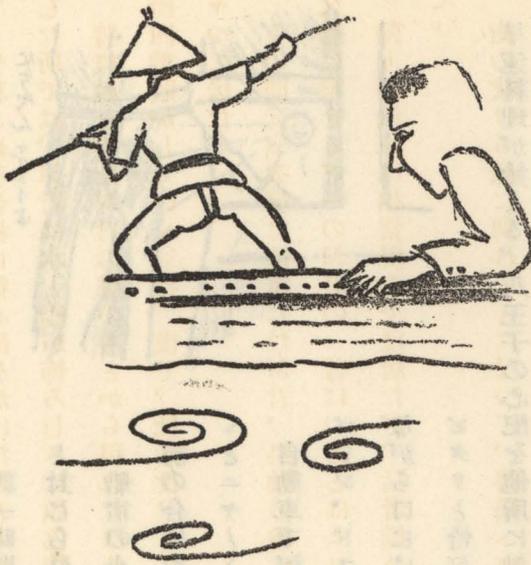
斯の様な席で、常に三人前位の賑かさのM君、今日は、何やら打ち沈んで、ろくろく飲みもせず、食ひもせず、顔の色も唯ならない、何と慰めても浮いて來ないので一同大心痛。

さて最後の魚でんの出た頃は勿體なくも鮎のお顔がうらめしかつた。

一寸下つて、二萬匹も居る筈の養鮎池で五六匹の巨大な、アメモボーを見て河を上ることにする。

兄ちやん三人草鞋がけ、二人で綱引くエンヤラヤ、二人で竿差すドッコイショ、下りは瞬く間だつたのに、その三分の一程を卅分も要して上陸地へたどりつく。

宿にもどつてやれくと一と息入れて居ると、裏二階でドタンパタンと大暴れ、見ればお蠶部屋



で、先程あれ程皆様に御心配をかけたM君大策抱えて、十八番鱒掬ひのお稽古、皆一同の意見の一致した所では、M君は水と船が怖ろしさに顔色勝れなかつたのだらうと云ふ結論。

將棋盤と叫ぶM君の聲のもとから現れたは此の家の兄んちやん、M君少々尻込みしてS君が向ひ連續四番敗かしていゝ氣持。後で、世話役、そんなに糞味噌に敗かすから、勘定書が高くついでるとポヤつて居た。

その間元氣次第に恢復したM君、掛軸の繪について、盛に辯説を振ふ。「ヤイ、あんまり五月蠅いと又船に乗せるぞ」のM君の一言に、あとはヒツソリ鳴りを鎮める。

歸りの汽車は相當混んでは居たが、猛者揃ひとて誰一人立たされる様な不手ぎわはなく、無事新宿へ。

齒の抜ける様に別れ／＼になつて、醫局へ來たのは五六人。その連中も疲れ果て、その上折から猛威を振ふ脳炎に、膽をつぶして、間もなく無事に（二、三無事ではなかつた方々もあつたとやら）引き上げた。

暴言多謝。

仙

戲

朴世堂

棋はいにしへ仙戲と稱せり。然れども少^{ワカ}き輩の好みて著けるは甚だ正業を害す、之を禁じて可なり。ただ無事の老人の消遣によろし。春日初めて長く、茅屋清寂たり、忽ち洞外に碁伴數客杖を曳きて相過ぐるあり。是に於て欣び笑ひ、延き入れて各々飲むこと數盃、局を拂つて碁に對して、丁々として子を落すの聲に間々嘲戲の言を雜ゆ。知らず四皓の樂みなるもの果してかくの如きや否やを。と壯年有爲の人にして貴重の光陰を圍碁に空費する者に覆誦せしむべきの名言である。



北見の旅

敏 さ ん

今夏福澤駒吉氏同道にて、北海道福澤農場に診療に出張せり。旅装もいとスマートに、白のハンチングを斜に戴き、七月廿一日上野驛を出發す、ソフトはケースの底深く秘め、まさかの時の用に備えたり。

途中小樽病院に立ち寄れば、院長はじめ全醫局員及び學生（夏休實習に出張中の）盛大なる歡迎會
なげ云つてやがる。



を受け、恐縮の至なりしも亦樂しかりき。
農場に於ては内科、小兒科、眼科の患者多く三四里を隔てたる部落よりも受診に來たる有様、外科的疾患は肩癬、フレグモーネ、バナリチウム、フルンケル等、一週間約二百人を診療せり。
業務の暇には駒にまたがり農場を視察す。
又農場内の流れにて釣をなす。歸途札幌に立寄りて柳先生にお目にかゝる。八月五日無事歸京。

「パン・ネク」失敗記

布 留 文 夫

去る六月島田君の後を受けて俺は下谷病院へ勤務する事になつた。なんとなく光線の足りない陰気な病院だ。屋上に立つて周囲を見降すとどちらを見てもお寺の墓が光つてゐる。いくら流線型である事を尙ぶのが當世流だからとて患者が醫者の手から坊主の手へ丸で「リレー」式に渡される様で餘りにも皮肉な位置的關係ではあると思つた。

交代組では渡邊君、小島君それから大内君がゐた。

「セル」を捨て、浴衣の時候となつた。渡邊君と今井君と交代した。光陰は流線の如く流れいつしか秋も深くなつて小島君と大内君とが大岡君と菅君と交代した。そうして愈々俺も下谷病院とはサヨナラの十一月とはなつたのである。

近頃は秋晴れの良い天氣が長く續くので氣分爽快でうれしいが病院の方は全く閑散としてゐる、柿がまだ紅いからであらうか。晝下がり日當りの良い三階圖書室で日光浴をしながら「ソツプアー」の上になねそべつてゐると全くなんとも云へない。碧空にアド、バルンは見えないが尻尾を引いた宣傳機が快い爆音をたて、飛んでゐる。左手にお寺の屋根が見える。鳩が澤山群をなしてとまつてゐる。上

野祭のためであらうか時々打ち上げられる花火に鳩は驚いて一時にバツと飛立つ。鳩の塊りが二三度空を旋回して又舞ひ戻る。鳩はなかなか神経質だ。

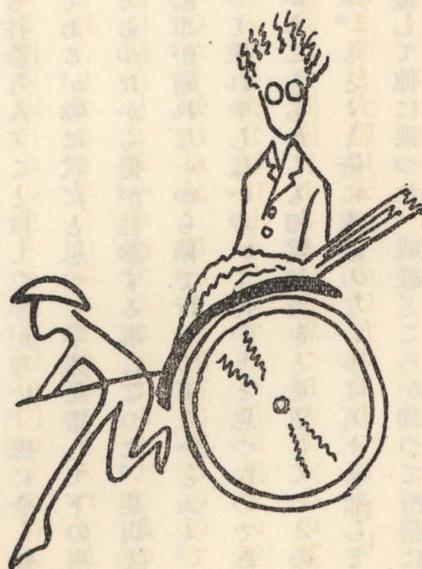
窓外の景色にみとれて（みとれる程の立派な庭もないが）うとり／＼してゐると小林副部長が這入つて來られた。今しがた某耳鼻咽喉科病院から往診を依頼して來たのであつた。なんでも扁桃腺炎で入院中の患者が「イレウス」様の症状を呈して來たので内科醫にも來てもらつてゐるのだが一應外科醫にも立合つて診てもらひ度いと言ふのだ。小林先生は用件があつて出掛けられないから俺に詳細は事務で聞いて行つてくれないかとの事であつた。

俺は學校を卒業してもう六年にもなるがまだ一度も往診なんてことはした事がない。殊に全く知らない醫者と立合ふなんてほんとにどうかと思つたのであるが物は試だと思つて早速受諾して下の事務へ行つた。今小林先生から往診に行つてくれとの事であつたから俺が往診する事になつた。某病院は何處ですかと尋ねると、つい此の近所なんですが自動車を通れないから俥で行つて下さいと云ふ。田舎ならともかく今時分東京で人力車なんておかしくつて乗れやしない歩いて行かうと思つたのである。先方で相當權威ある内科醫に來てもらつてゐるからこちらからも相當な方をと希望してゐるので俥に乗つて威嚴をつけてもらはなくては困まると云ふ。もと／＼俺に威嚴のない事は萬々承知してゐるのでとにかく威嚴を造るためにてれくさいのを我慢して俥に乗つた。威嚴どころか却つて滑稽に見

えるなんて冷かした奴もゐたのだが。やつと俥の
通れる細い道を右に折れ左に曲りする内に和洋折
衷造りの古色蒼然たる病院の玄関前で降ろされた
看護婦が訝し氣な顔付で出て來たので名詞を通じ
ると間もなく額帶鏡をつけた若い醫者が現れて俺
を應接室へ案内した。其の部屋には既に内科醫の
某博士が居られて一場の挨拶が終ると大體の「ア
ナムネーゼ」を話してくれた。

四十二歳の男で肥満して居り酒客である。扁桃腺炎で入院してゐたのだが、二日前突如疼痛を上腹部に訴へて以來發作性に劇痛の襲來があり、排氣排便なく嘔吐頻發し、腹部殊に上腹部は著明に膨滿して居り昨日より黄疸を認めるが熱發せず、又尿量著明に減少してゐる。扁桃腺炎は目下の所は殆ど全治して居り。發病當初には三十八度内外の熱があつた。又生來著患を知らないと云ふが數年來胃腸障碍を訴へてゐる。自分は「ワイル」を疑つてゐるが「イレウス」の症狀が餘りに強いので外科的診察をお願ひしたいと云ふのであつた。

俺は二、三の點につき精細質問した後病室を訪れた。患者は苦悶、呻吟して轉々反側し、胃部を指



し此處が疼いから早くなんとか楽になる様にしてくれと唸つてゐる。一般に黄疸を認めるが殊に眼球結膜に著明である。脈をとると頻數細小ではあるが不整ではなく又口唇「チアノーゼ」も來たしてゐない。腹部を診ると著明に膨滿して居り殊に上腹部は強く膨隆して其處には横行する抵抗を感じるが壓痛劇甚なるため精細なる探索は不可能である。下腹部は反之壓痛は存するが軽度で腹筋も左程緊張せず又抵抗、腫瘤などを觸れない。而して患者は四十二歳の肥滿せる男で酒客であり、排氣排便停止して嘔吐があり且尿量の減少があつて體温の上昇も著明でなく數年來胃腸障礙を訴へてゐると云ふ事は前述某博士の言の通りである。

數ヶ月前から「バン・ネク」の統計を仰せつかつてゐる俺の頭に此の患者を診て何が閃いたかは云はずもがなである。本邦では「バン・ネク」が膽道疾患と結合してゐる場合は極めて少ないとされてゐるが外國では「バン・ネク」と膽道疾患とは常に結合して考へられてゐるのであつて、此の場合に於ける様な著明な黄疸を伴ふものは本邦には少ないかも知れぬが、ないとは斷言出來ないのであつて、此の比較的著明な黄疸は俺にも「ワイル」氏病其の他を充分疑はしめたのであつたが患者の年齢性、體質及局所々見から之は「バン・ネク」であると確診して間違ひあるまいと思つたので立合の某博士に俺は微笑を含みながら急性脾臟壞疽だらうと思ひますと大膽に云つてのけたのであつた。眞に「バン・ネク」は本邦に於ては稀有な疾患ではあるが。

そこで外科的に治療するより他に方法がないと云ふ事になつて俺は一切を引受けて再び俵の人となつた。「オーバー」を羽織るのも忘れてもつともそれ程寒むくもなかつたが。

患者は間もなく下谷病院に收容された。今井君が受持つて小林先生が執刀で手術が行はれた。脂肪壊死斑と血性腹水との出現が期待されて。正中線で開腹した結果は、血性腹水はおろか内臓は一般に乾燥して居り何處を探しても脂肪壊死斑の姿なんか見當らない。脾臓及膽道系統は全く異状がない。唯腸管麻痺があつて殊に横行結腸が強く膨満してゐた。之を「バルバチオン」の際抵抗として觸れたらしい。又漿液膜、大網膜等に少數の點狀出血を認めた。なんのことはない「ワイル」の末期であると云ふ事がわかつた。殊に「アヌリー」のあるものは其の豫後「ガンツ」「シユレヒト」とされてゐる。穿刺により腸の内容を排除した後腹壁は「タンボン」と共に閉ぢられたのであつたが俺は實に冷汗淋漓たらざるを得ないのであつた。患者は間もなく他界したのは云ふまでもない。

なんでも一事に夢中になつてゐると全てが其の様に見えて來るのは強ち俺のみの通弊でもなからうが此の時ばかりは全く這入る可き穴を探さんばかりであつた。

秋日早や西に落ちて「ネオンサイン」輝く夜とはなつた。さて出掛けんかな慶應へか。

鶴岡の斷片

山 口 生

「鶴岡の豊田先生が病氣だ、應援に行つて來い。」と云ふ茂木先生の御命令に、獨身者の身輕るさはもちろんその翌朝トランク片手に上野驛に驅けつけた。

清水トンネル迄は今迄も時々通つたことのある道だがそれから先は唯もう物珍しく、窓からの景色に徒らに目を疲らせる。清水トンネル附近の「アウト」式とか云ふ變つた汽車のコースに驚いてゐる間に、やがて裏日本の海岸に出る。表日本には見られぬ佻しさが、過ぎ行く村々、町々に見られて旅愁をそゝるものがある。

今迄は海と山に押しつけられた狭い所を通つてゐた汽車が、薄暮の中を海岸線を離れて廣い稻田の青海原の中へは入つて行くと鶴岡は近かつた。

豊田先生のお宅へ着いて御病氣が案外輕かつたのを知つて安心もし、氣強くもなつて次の日からお手傳ひをした。

鶴岡は人口六萬と聞いたが昔の儘の城下町で、交通不便のせいもあるのか、他國から來た者を「よ

そもん」と云つて別扱ひにすると云つた風な排他的な気分のある町だ。従つて所謂「よそもん」ばかりがやつてゐる市立の莊内病院よりは、親譲りの豊田醫院に人氣があらうと云ふことにもなる。

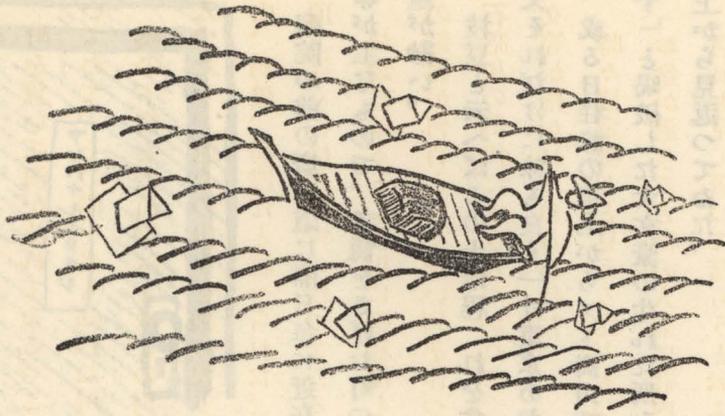
町を貫いて河が流れてゐる。これが内川だ、水底には水藻が長く生ひ茂つて流れのまに／＼ゆらめいてゐて、その間を名も知れぬ川魚がヒラリ／＼と鱗を光らしてゐた。

僕の下宿と豊田醫院とはこの川一つを隔てゝゐる。朝夕の往き歸りに橋の上に佇んで、川の流に見入つたり、遠くの山々を眺めたりすることがある。川上の方に見える峰々が、名のみは聞いてゐた月山、羽黒、湯殿だと教へられた。又川下の方には莊内富士と云はれる鳥海山が廣い裾野をひいて居る。頂上近くには萬年雪の残つてゐるのが見られた。

お盆になるとこの川に燈籠流しが行はれる。高さ一尺五寸か二尺に足らぬ大きさの揃つた三角錐形の燈籠が何百となく長い列を作つて流される。その間をエレクトロラを積んだ舟が囃して行くのも流石昭和の御代だとうなづかれる。燈籠は街の店々の廣告に使はれてゐる。思ひ／＼に色んな繪、廣告文等が描かれてゐるわけだ。

時々協定破りと見える途方もない大きい奴が列とは別に流れて來るのもおかしい。

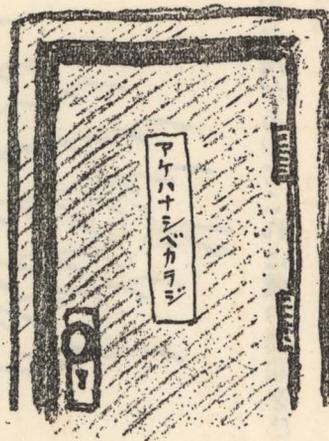
お盆が過ぎると街の人氣は莊内神社の祭禮に集る。その日には近在からのお祭見物の人で、ついでに病氣も見て貰つて歸らうと云ふのがあつて病院も忙しかつた。



似た所があつてこれは僕の興味をひいた。

祭禮の中心は莊内神社から出發して、街々をねつて歩く昔の儘の供揃ひの大名行列にある。僕の故郷の攝津住吉神社の祭禮にもやはり大名行列があつて子供の時にはよく友達を誘つて見に行つた。大阪のお祭りにはつきもの、竹獨樂の唸り聲が今でも耳に残つてゐる。それから住吉神社には自慢の「暴れ神輿」と云はれて近郊に聞えた神輿があつて、それがワツシヨ〜エライヤツチャ〜と通る時は子供心に恐しく、人込みの後から小さくなつて見たものだった。それから住吉踊り、神田植と懐しい思ひ出の數々が、鶴岡の街角に立つて大名行列を見てゐる自分の頭に湧き出て、堪まらなく望郷の念に襲はれた。

鶴岡に來て第一番に困つたのはやはり言葉だ。患者の云ふのを解つた様な顔をして聞いては居るが、解らぬ事が多い。時々看護婦の顔を見て助けを求め。しかし面白い事には關西辯に昔この土地は京都方面と直接舟で交通した爲だと教へられ



病院の張紙に「開けはなすべからず」と書いてあつて、これにわざ／＼片假名で「アケハナシベカラジ」とふつてあるのもおかしかつた。

酒の産地で知られてゐるこの土地は又美人の産地に違ひない。古くから他國者を入れなかつた爲か顔だちに一つの型があつて、皆なか／＼品が良い。しかし玉に瑕と云はうかか言葉が悪い。

病院の前の廣い道に隔日毎に近在の百姓が車を曳いて來て夜店を出す。メロン、西瓜、茄子、枝豆等が主なもので、手籠をさげた町の主婦達が、店々を覗いて歩いてゐる。そう云へばこの町には八百屋が尠い。

枝豆と云へばこの土地程これを食べ所も少いだらう。三度の飯に、おやつにと茹でた枝豆を食べふ。又それだけに味も良く一寸東京あたりでは味へない風味がある。

或る日往診の車上からフト高山樗牛の生家を見出した。これがあの「須く人生を超越せざるべからず」と喝破した大文豪の生れた所を思へば、古びた家も荒れた庭もたゞなく見えて、いつまでも車の上から見返つてゐた。

一ヶ月の診察で案外多かつたのはヘルニア、次に痔だつた。アツペが一つも來なかつたのは残念であつた。しかし手術に割理解解を持つて居て、切るのを嫌はないのは何よりも仕事がやりよかつた。九月には入るともう秋風が立つて、日暮に莊内神社へ向つて飛ぶ群雀の數もふえ、教會の鐘も澄みわたつて聞える。遠くの間々もその輪廓をくつきりと現して來る。

歸京の日驛に立つた時、來た時は青海原であつた稻田が、もうすつかりと黄金の波をうたせてゐた。この様子では今年は豊年であらう。たつた一ヶ月の滞在ではあつたがさて立ち去るとなると又去り難い感傷も起つて來て、プラットホームに立つたまゝ、ちつとこの黄金の波が薄暮の中で段々と色を變へてゆくのを飽かず眺め入つた。

醫 局 長 交 替

舊醫局長 町田謙二君

新醫局長 百溪定七郎君

本年一月町田醫局長辭任せられ百溪君新たに就任せられました。町田君には多年同窓會並醫局の爲に御多忙の身にも關らず色々御盡力下されました事を衷心より感謝致します。後任に新進氣鋭の百溪君を迎へました事は欣快の至りで御座居ます。何卒今後同窓會並醫局の爲に御努力下さるやう希望してやみません。

食 研 鬼 ケ 島

矮 長 蒼 蓬 瘦 白 肥 長 童 蛸 多
 軀 軀 面 髮 軀 面 滿 顎 心 頭 毛
 珍 沸 默 耽 咆 浸 好 溺 絕 精 鯨
 器 々 々 沈 哮 酒 遊 論 倫 勵 飲

扼 注 絞 採 倒 採 斷 喰 兎 作 二
 兔 入 血 肝 兔 漿 肢 脂 腹 傷 頭
 削 驗 驗 驗 驗 凝 拔 驗 造 驗 鼠
 耳 腹 脂 脂 血 集 神 肝 瘵 兔 大
 鬼 鬼 鬼 鬼 鬼 鬼 鬼 鬼 鬼 鬼 魔
 王 (パラビオーゼ)

S H K S T B S M M H T

 S S W T M H S F T W K

F
 .
 T
 .
 M

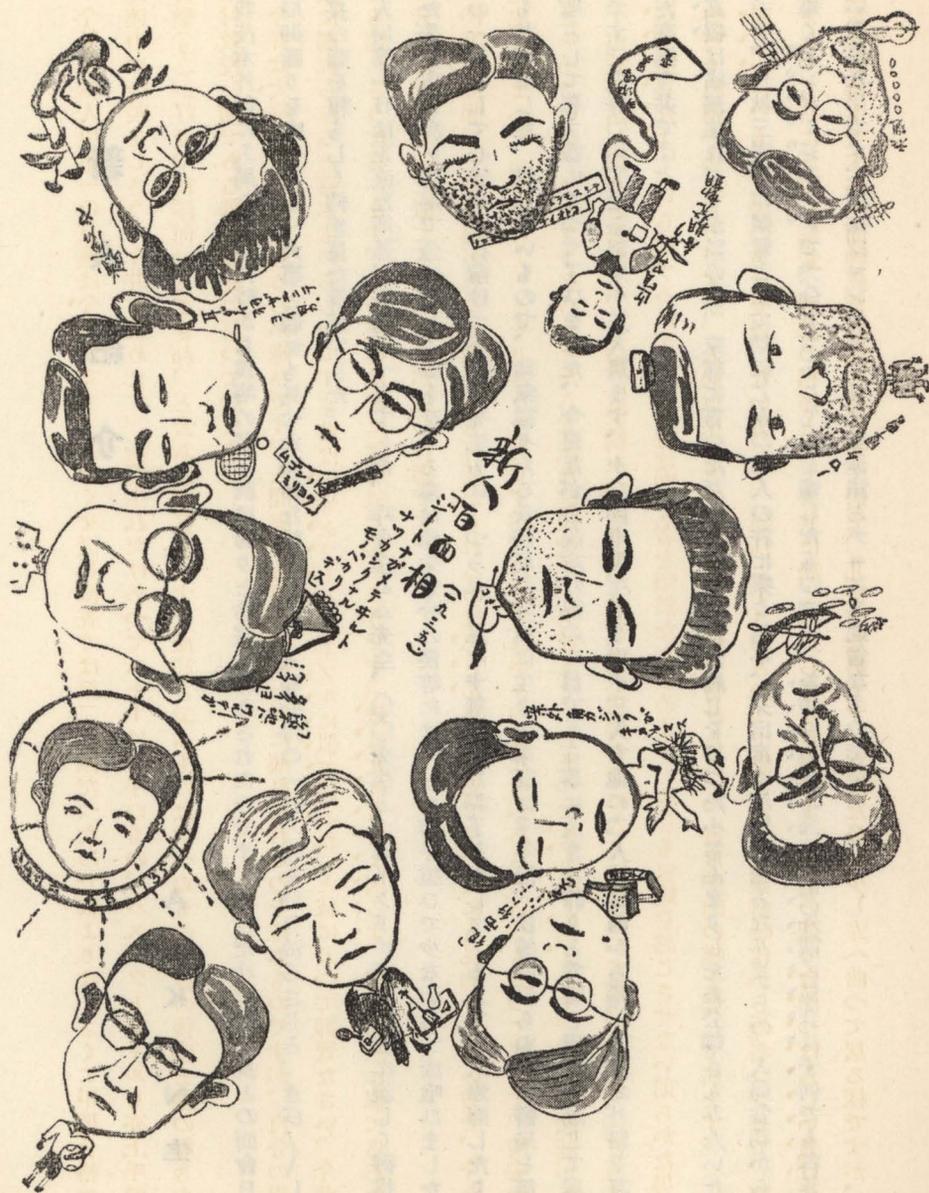
新人紹介

A・K・N 生

我茂木外科に入局を志した時から僕等の若い胸は誇りと希望に満たされたのです、それだけに醫局長との面會日には入局御斷りを喰つたら一大事と親にも見せぬ神妙な顔をして、入局心得の一言一句を聞き洩らさじと、きびくした醫局長の顔を頼もしく仰ぎ見た僕達でした。

入局第一日は正直な所甚だ窮屈な一日でした、昨今迄△△先生、○○先生と、ポリクリに或は講義に親しく御指導願つた先生方と狭い醫局で急に親しく膝を交へる事は學生氣分の僕等には、一寸勝手違ひで少なからず面喰ひました、醫局の一員として心安すく打解けて下さる先生方に、つられて思はず無遠慮な調子を出して、あとで一人赤面したりしたのも其頃でした、併し早いもので、和氣藪々たる我醫局の空氣に生きる事既に半年餘、僕等は知らぬ間に醫局を第二の故郷として暮す様になつて了ひました、今更ながら茂木外科の一員である事に大きな誇りと希望と責任を感じて居る僕等です。僕等の仲間は全部で十五人居ます、十三回卒業生は丁度十三人で他の二人は關西から遙々我茂木外科を慕つて來た高橋今井です。

高橋は横濱生れですが詩の都、京都に育つただけあつて優雅な感じを持つた小ちんまりしたお公卿さんみたいな美男子です。今秋三國一の婿君として幼馴染みの佳人の許に乗り込み、芽出度く河田清士となりました。入局當初から燦然と輝くエンゲージリングで大分あちらこちらを悩ましたものです。お坊つちやん然とした外觀に似合はず、何でも御承知らしい圓滿な男です、趣味はマンドリンで日本泳法とテニスも達者なものです。



今年の新人中第一の巨漢は今井光です。其のくせ徴兵検査では第二種だったので彼よりは小さくて甲種合格になつた連中は皆羨ましうに今井を眺めます。新潟生れだけあつてスキーはお手のもの、バスケットボールも亦上手です。音楽(?)が好きで和洋何でもござれ、と云ふ達者振りです。血筋と云ふものは争へぬもので彼の後姿と繪の好きな事が木村教授の甥である事を如實に語つて居ます。

今井は大喰ひだと云はれるのが嫌ひです、人間誰しも自分の痛い所に觸れられるのを嫌ふものですが、自分の得意な點に觸れられると喜ぶものらしいです。「君は一寸クラークゲイブルに似て居るね」と彼に云つて御覽なさい、今井はとても嬉しうに喜びます、其の笑ひは實に無邪氣で嬉しうです。「俺は女にもてゝ困るよ、田屋力三に似てるわね」つて云はれたが本當に似てるかい」之が彼の口癖です。

僕等の仲間が一番愛嬌があつて誰からも可愛がられるのは忠さん事小林忠です。實に人見知りしない方で、今に部長先生を捕まへて「おい君」とやりさうな男ですが、自分では中々内氣な所があるといつても云つて居ます。埼玉の産で柄こそ小さいが、ラケットを持たせたら立派な庭球選手、男前もぐつと上つて丈も高く見えます。麻雀、圍碁がお得意ですが彼の話し振りと來たら、又實に愛嬌たつぷりで、前夜の武勇傳を微に入り細に渡つて描寫した後、「どうも俺は内氣で駄目だよ」と自ら嘆ずるに至つては毎度聞く者を啞然たらしめます。少しも氣嫌を感じさせない朗らかな男です。野球も自信があるさうですが、入局以來スコア書き専門を仰せ付けられて、毎度脾肉の嘆を發して居ます。

同じ小林でも不二夫の方は愛嬌のない方です。通稱ふーさんと云つて忠さんとは豫科時代からの名コンビで、庭球選手としても共に活躍し麻雀、圍碁の相棒としても共に缺くべからざる存在です。福島で會津つばらしい負けず嫌ひな氣性の持主ですが一面神經質な點も持合せて居て、几帳面な男です。立派な鼻が少し左へ曲つて居る様ですが、中々

の美男子です、醫局の野球では三壘手として堅實な守備を見せて居ます、ぶつきら棒な口の利き方のくせに案外親切らしいです。

見るからに角の無いのは通稱あつちやん事名倉厚です。彼は素直な温順なしいお坊つちやんと云つた感じですが、學生時代には角力の選手として鳴らしたものです、丈こそ餘り高くありませんが、禪一本になれば均整のとれた立派な體格の所有者です。勿論文句なしの甲種合格です。角力は技でとる方で得意は足取り、其の昔笠置山在學中の早慶戦に彼と一勝一敗の成績を残したと云ふのが御自慢です。

犬の好きな男で犬の事となると夢中らしいです。麻雀、圍碁、將棋何れも人後に落ちぬ方で、又冬になれば、面倒臭がりながらもスキーを擔いで出掛けます。お江戸の生れだけあつて傳法な口の利き方をしますが、凄味の利かぬ所が値打です。毎度目を細くして「あツいけねえ、すまねえ」なんて愛嬌たつぷりです。呑むと角力甚句が十八番です。

名倉とは正反對に人の云ふ事を素直に承知しないのは岩崎です。柄こそ小さいが負けず嫌ひな男で中々の見識家です。千葉の産で、徴兵検査の日には身長測定だけで木戸御免になつた御仁ですが、會つて御覽なさい、どうして横幅の方は人並以上にがっちりしたもので、而も健康色に燦く顔付は一平さんと云ふ親父に貰つた名前と共に印象的です。相當に皮肉家で、又實行力旺盛な男です。學生時代には山岳趣味とスキーに凝つた様ですが今では専ら呑むのが趣味だとは人の噂さです。醫局には僅かに半年で九月から録倉の大庭病院へ勤めて居ます。

渡邊昇も在局僅かに半年で九月から海軍の短期軍醫に行つて居ます。學生時代にはお嬢さんといふ仇名を戴いて居ましたが、外科入局歓迎旅行以來忽ち脱兎と化して、今ではしやつきりとした立派な海軍中尉さまです。時々スマートな

軍服姿を醫局に現はして、僕等を羨ましがらせて居ます。よく細かい事に氣の付く丹念な男で會計係りなどには持つて来いです。其の代り一度怒らしたら始末に終へぬ方で中々強氣なお嬢さんです。

庭球と野球が上手で、麻雀も亦大好きらしいです。呑むと博愛主義の傾向を示しますが、其の實、眠り上戸らしいです。不言實行を文字通りやつて居るのが仁ちゃん事渡邊仁七郎です。新湯生れで言葉に大した訛りがある譯でもありませんが、凡そ物事を云ふ事が大嫌ひな男です。好きな事はトリケン、スポーツ、讀書、検査、嫌ひな事は電話、豫診取り、ムンテラと云つた工合です。

運動はスキー、柔道、蹴球、野球、庭球、水泳、何でも宜しいと云ふ萬能振りで人間口を利くだけのエネルギーを他に使つたらこんなにも成るものかと云ふ見本を示して居ます。酒をたしなむ事又相當なもので、忘れても、ベルコツプフで行かうなどと云つたら後悔する相手です。名倉と同じく甲種合格の逸材ですが、好漢惜しむらくは軍事教練を受けて居なかつたので、只の兵隊さんで苦勞するのではないかと、呑氣な御當人よりも廻りで氣を揉んで居ます。

江戸つ子で元氣の良いのが中山一郎です、いつも元氣が餘り過ぎて脾肉の嘆を發して居る彼を見ると、レ、ス前の競馬馬を想出します。運動が飯より好きな方で蹴球、野球、スキー、水泳等、達者なもので仁ちゃんと何れ劣らぬ萬能選手です。呑むと「酋長の娘」が十八番で「色は黒いが南洋じや美人」と踊るあたり中々實感を出します。

「生れつき白いんだが、運動ばかりして居るんで、生地の出る暇がないんだよ」とは彼の申し分ですが大して氣にもして居ない様子、只外で飛び廻つて居さへすれば氣嫌の良い男です。中々義理固い几帳面な一面を持つて居ます。

同じく江戸つ子で名前も同じ一郎に赤倉が居ます。彼は卒業と同時に美しいフィアンセとホームインして喜びの二重奏をやり、當時仲間を羨ましがらせた男です。入局當時から早く歸りたがる彼は相當な愛妻家らしいです。矢張り運動が何よりも好きな方で、而も得意なものはボート、水泳、スキー、スケート、と凡そ水に縁の深い男です、其の代りグ

ラウンドに引張り出したら陸に上つた河童宜しくのだらしなさです。怒りつばい點もありさうですが、さつぱりして居ます。學生時代の仇名「とんがり」は彼の坊主頭を知つて居る悪友が命名したものです。今でも落付いて側面から觀察すれば成程と思はせられます、呑むと名の如く眞赤になつて直き眠つて了ふ罪のない男です。私に金があつたなら、ワイズミューラーの「ターザン」の向ふを張つた和製「ターザン」を赤倉主演つてんで作り度いと思ふ程彼は立派な身體です。

今年の新人中で一番苦勞人らしい感じを與へるのは埼玉産の大木猪四郎です、あながち、おつむりの方で先輩を凌ぐ勢ひであるためばかりではありません。萬事ねつちりとして粘りがありますが、而も中々のお人好しで、年中笑つて居るか、さもない時は吃驚りした様な目をむいて居ます。先天的に朗らかな男で至つて如才ありません。目下、某將軍令嬢に見込まれて嬉しい眞最中との事、うっかり居るといつの間にか得意の粘りあるお惚氣を聞かされますから、其の點注意人物です。赤倉の惚氣は「グートアルテイヒ」と云はれて居ますが、大木のは「マリグネス」だと云ふ評判で筆者も好漢の爲に惜しむものです。

彼の特長ある大聲は先日病棟でラデオと間違へられた位で、中々イットがあります、仇名を熊さんと申しますが、本人にお會ひの方には今更申上げるまでもありません。

心持ち首をかしげて、一寸皮肉な微笑を浮かべながら、いつもそろり／＼と歩いて來るのが小坂慶一です。知る人ぞ知るヴィオリニストで學生時代から専ら音楽に精進しただけあつて、歩き方までデンバリストに似て來たとの噂です。

ヴィオリンの方も嘸かし相當なものだらうと思ひますが門外漢には中々聞かせて呉れません。温順しい小柄な外観に似合はず大膽でがつちりして居ます、「だつて仕様がないやないか、構やしないよ」と云ふのが口癖で中々達觀して居ますが、一面、先果其責と云ふ食堂の格言を實行して居る男です。

埼玉産の蓮江は一番恐い様な顔をして居ますが、破顔一笑忽ち相恰を崩す所中々の好人物です。面談強要お断りを喰ひさうな物凄、い髭に似げなく物靜かな存在で、又一度笑つたら最後妙齡の美人の如き恥しさうな笑ひです。

今秋相思の人と嬉しくもホームインした幸運児ですが、残念にも新婚早々入營の光榮に浴して、綺麗な奥さんを嘆かせて居る誠に罪な男です。趣味豊富な男で劍道は初段、自動車は天晴れ乙種運轉手、其他スキー、スケート、麻雀、庭球何れも相當なものです。一名猪八戒と申しまして附合へば附合ふ程味の出ると云ふ男です。

聖人然としてお経でも讀みさうなのは木本多喜雄です、新人中一番温順しくて柄も小さいですが廣島に生れて牛肉ばかり喰つて育つたせいか内容は相當にがつちりして居て、いざとなると牛肉育ちの眞價を發揮する男です、血液型もO型です。何となく坊さんらしい感じを持つた男で、西行法師の様な旅を趣味とし、近代的スポーツとしては庭球をやります。酒も煙草もやらず君子然とした所が缺點と云ひたい様な男です。

僕等の仲間が一番若いのはお江戸生れの尾村偉久です、而も心憎い迄に落ち着いて居て、寧ろ爺臭くもある彼は早生れの上に小學校五年から中學に入り、中學四年から大學豫科に跳び込んだと云ふスピード時代の産物です、唯彼の年齢を聞いただけでは如何して斯くも若い醫學士様が出来るかと思ふ人が多いのです。

船乗りの悴だけあつて一見頼もしげな海國男子の風貌の具はつた飾り氣のない人間です、手術場で白い尻尾を長々と垂らして婦長に缺ちよん切られたりして、時に無邪氣なお愛嬌をやります。此頃やつと年頃になつたと見えて、其の方の話だと誰よりも一番本氣になつて傾聴するのも彼です。而も趣味は俳句、川柳、登山と云ふ澁さです。

以上長々と要領の悪い紹介を致しましたが、さてもう一度見渡して見るまでもなく、十五人何れ劣らぬ凡人揃ひです併し現代は凡人の努力する世の中ですから、僕等も凡人として出来るだけ進みたいと思つて居ります、今後御遠慮なく御叱咤下さつて宜しく御指導下さらん事を此の機會にもう一度お願い致します。(終り)

御目出度今昔

可哀さうなネコちゃん

舊當誌

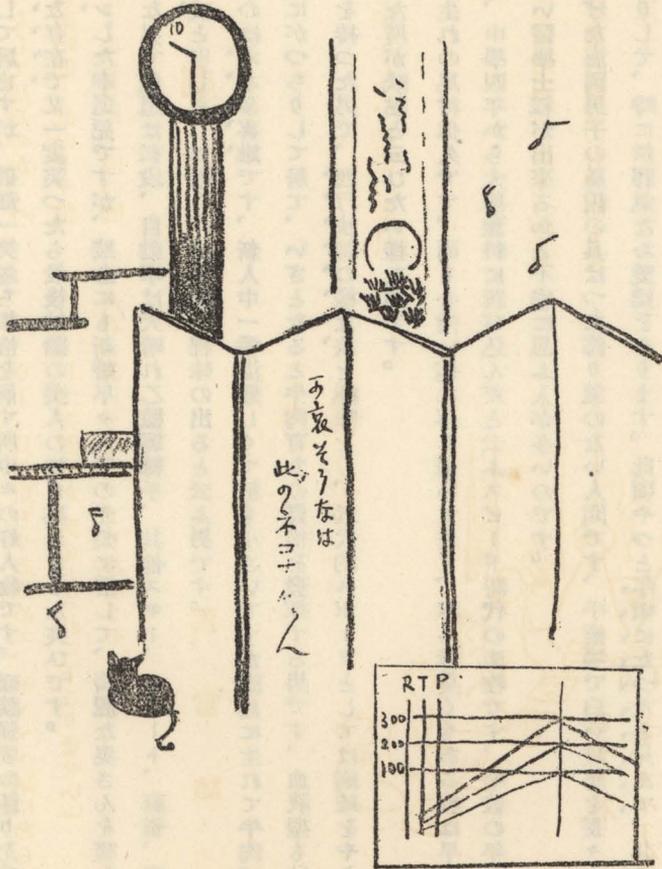
大正十二年三月一日

阿部貞治先生

山路てい子嬢

立會人實は眞の月下氷人の話
 によれば、花婿さんは羞しくて
 下ばかり向いて居たそうだ、サ
 モあらん、母の體內を出て此の
 方、女性に始めて近き給ひし君
 のことなれば、評曰、大に然り！

可哀そうなのは此のネコちゃん
 でござい、切角したつて居た主
 人公もこれでは………此んな所
 見せつけられてはア、ドウシ
 ヨウ。



ネコ「もうチウく、ネヅ公いたづらをして居るのか、ハ
 テオカシイな、未だ丑満には數時間、此のドラ猫
 が殿居するとは露知らず、所もあらうに上段の間

新 婚 劇

時 大正十二年十一月吉

帝都大震後間もなき頃にして、結婚の翌日、

夕食後

場 所 土佐の國高知在

登場人物 花婿 村田謙三。帝都震災に遭遇し、度々の餘震

に一度も不覺を取らぬ豪の者、而も女

に優しき新醫學士

花嫁 英子、土佐一の美人。

其他兩親兄弟下女下男大勢

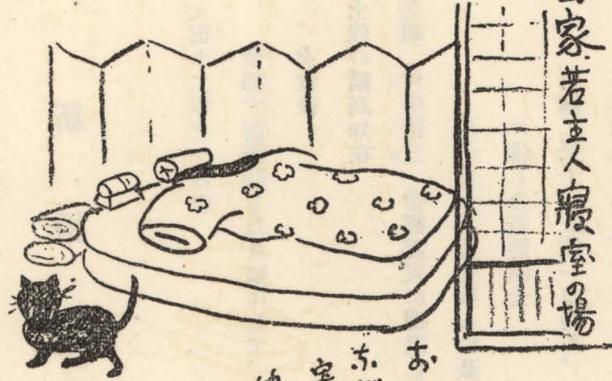
ウー、只の鼠ぢやあるめエ、ヤ、ハ、鼠にあらす
 して吾君様か、御免なされて下さりませい」
 吾君「苦しうない、下りおろうぞ」

舊 當 誌

草 幕
 式 場 の 場



村田家若主人寢室の場



お、寒い
 赤どと
 穿り袴小
 仲り
 よさ

三幕

土佐の大震

村田家座敷の場



お、寒い
 赤どと
 穿り袴小
 仲り
 よさ
 出せ
 皆子外
 大急
 此は目よな
 和北あまたの
 倒し居れ
 安心できり
 死
 ゴ
 毛
 ケン三
 丸う丸け
 うる
 分
 旅行は行
 よ
 菜子
 和七一箱に
 底の泣く声
 ききたり

三暮り 奈良の場

母子、修学旅行の果て時とは全く気分が違ふ。

謙三、ソリヤー、ソリヤ

英子、アア、鹿も三毛揃って来たワマ。

謙三、そんな事が気に付く様になつたか

今夜はユラリ

鹿の音で耳鳴るか

英子、ソレか、ワ、でも独りで鹿

声を出さずの泣き声

早く東京にお家を見つ

けて下ボナ

謙三、ヨマ、ヨマ





口
合
戦

沈
介

H「MONチャン」

K「オウ」

H「何をボヤ／＼して居るんだい、シツカリしろよ、

男の子供産ませろよ」

K「何ニヨウ云つてんだ。シマツタと思つてるんだろ」

H君靴を下げていそ

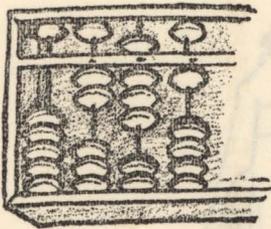
／＼室を出る。

K「オイ、チヨツ

と算盤を貸せ

よ」

小の「先生、およし



なさいよ」

K「何を感違ひして居るんだ、己は此の計算をするん

だよ」

パチ／＼／＼、

K「彼奴何時、家を持つたつ

けな、ア丁度二百八十一日

目だ、エライ無駄のない奴

だなア」

小の「ソレ、ヤツパリそうぢや

ないですか、御自分のも序

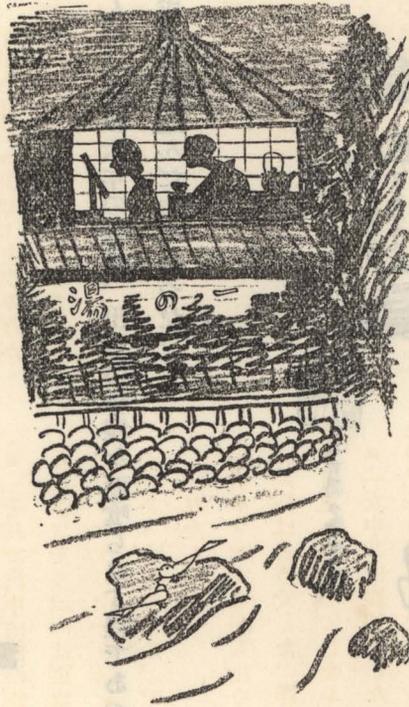
いでに算えて御覽なさい。」

茂木先生、おつしやられるには

「兩方喜んで居た〜」メデタシ〜

鶺鴒飛溪流其聲哀々

鴛鴦浴温泉其聲喃々



花むこは 出臍でなくて 安心し

花むこは 時計ばかりを 出しては見

喫茶閑談

志 蘭

本館別館の廻診もすんで、秋晴のある朝、悪童連四階の喫茶室の片角に陣取、平常の様にコーヒーを喫みながら、勝手な熱を吹いて居る所へ、運悪くやつて來たのが新婚後初登城のK君だからたまらない。

イ「イヨウト君、ぢやなかつたK君お目出度う」

ロ「まあかけテー」

ハ「どうですかその後は」

K君逃げる暇もなくつかまつちやつた。

K「その折は色々と有難うございました」

イ、ロ、ハ「イヤ、どう致しまして」

イ「旅行は何處へ行つたですか」

K「湯河原から箱根です」

ロ「感想はどんなもんですか」

K「……」ニコ／＼して居る。

ハ「ツカレたでせう」

K「ツカレました」

イ「ツカレるもんだよ、ひる寝はしたですか」といやに

察する様な口ぶりをするのも居るんだから扱ひにくい。

ロ「それで汽車は例の新婚列車ですか」

K「あツそう云へば東京を立つ時木村先生にお目にかゝりました」と話をそらさうとする。

ハ「あゝそうですか、では同じ汽車で先生も西へ行かれたんだな」

K君ホツトする間もなく

イ「宿はどうでした、洋室でしたか、日本間でしたか」とすぐ立ちもどつてしまふ。

ロ「女中共は親切でしたか、氣を利かせますか」

矢つぎ早の質問に少しシンドロになつて

K「女中は遠くの方から聲をかけます、此方から返事をするまでは何度でも呼びますね」

大分女中に何度も聲をかせせたらしい。

ハ「第一型は此方に行く、第二型は向ふが来る、K君はどちらでしたか、お嫁さんは恥しがりましたか」

K「イエそんなでもありません、前から知つて居まし

たから」

とK君少々尻尾を出しかける、そこをすかします、

イ「ぢや移行型だね、両方から何時とはなしにと云ふ

……」

ロ「で床は一つでしたか」

K「イエニ二つです」

ハ「はなれて居たですか」

K「ツイて居ましたから一つの様でした」

イ「かけるものは一緒ですか」

K「別々ですけれども両方がたがひちがひになつて居
て……」

ロ「足もやつぱり……」

K「エエ」

ハ「それでゲリンゲンしましたか」

K「エエ……イエ」

悪童連完全に尻尾はつかまえたがデアー

K「あゝ今日S先生も見えて居ますよ、會ひましたか」

「いや未だ會はない」

此の時=来る。

=「Sは先つき一寸と来たけれどももう日吉に行つた
らう」

イ「早いね、今日つかまえると面白いんだが」

ロ「彼奴今度日吉に行く途中に家をもつたんだよ」



ハ「フラウの家もその

近所だよ」

=「ドウリで此の間う

ちからいそ〜と

日吉に出かけると

思つたよ、しかも

出がけにいづてま

いります〜つて

ことわつて行きやあがつて」

イ「でもS、あれでフラウは大事にするぞ」

ロ「それにしても今日来るとは割合に早いね」

ハ「無理してら、出がけに僕一寸と行つて来るよつて
なことでやつて来たのだらう」

=「そうだ〜、僕一寸と行つて来るよ、大丈夫だか

ら心配しないで待つてお居で、××時までには歸

つて来るからね、いいかい、わかつたかい」

イ「うまい〜Sの顔が見える様だぞ」

ロ「だけど今日會はなかつたのは残念だな會へたらギ

ユウ〜しごいて刀林に書いてやるんだけれど」

喫茶店の可愛い、女の子がやつて来て

女の子「先生、病室からお電話です」

ハ「あゝそうか、すぐ行くと云つて置いて呉れ」

一同立ち上つて思ひ〜の方に散つて行く。

披露餘談

惡童子

時 昭和十年十一月吉日

場所 麴町寶亭本店

燦然と輝く美しきシャンデリアの光を浴びて花嫁H君花嫁N子さん型の如く兩家の兩親に附添はれて立ち並ぶ。

折しもしよほ降る小雨を衝いて醫局の惡童共三々五々H君の招きに應じて現はれ来る、一同黙々として其の前に頭を下げて控の間へ通つたが元を質せば同じ惡童仲間のH君、依心傳心恥かしげにも亦嬉しげなり。

間もなく山海の珍珠山と運ばれ、惡童共の注意を完全に奪つたが、さて満腹して控の間に戻るや否やH君早速捕へられた。兎に角、今迄遠慮したり御馳走で胡麻化されて居たりした惡童連にすらりと取圍まれたのだから流石のH君既に完全に顔負けだ。

イ「H君お芽出度う、少し瘠せた様ですわね」

ロ「まあゆつくりお掛けなさい。時にどうですか其の

後」

ハ「國での結婚式の工合はどうでした」

H君「はあ……え……」と腰落付かず、

イ「奇麗な奥さんですね」

ニ「おい紹介しろ〜」

此の間肝心の花嫁御寮は遙か彼方のソファの一隅に慎ましやかに掛け、同じ一隅にI助教授謹嚴なる面持ちにて陣取る、H君矢繼早の質問にグロツキーとなりながらも時々ソファの方を氣にしてもち〜と腰益々落付かず。

ロ「新婚旅行に行つたですか」

イ「もう相當に疲れとるでせう」

H君「え……いえ」

ニ「おい奥さんを紹介しろよ」

ホ「個人紹介でなくちや意味ないですよ」

H君「えゝ紹介しても……」と未だ惜しさうにソファの方をちらりと氣にする、其間に素速くも抜馳けの一勇士がソファより花嫁を誘導して來たから、H君慌てゝ立

ち上り、迷惑さうに並んで一人一人紹介して廻る、かうなると悪童連反つててれて少し固くなつたり、羨しがつたりして自縄自縛の體だ稍しばらくして悪童共我に返つて見れば、問題のソファには一助教授の姿既になく、美

何が彼をトンがらしたか

彼はどんなにか卒業の日を待つたであらうか、學成り一步を社會に踏み出す日、誰しも待ちこがれる日であるが、彼にはもう一つの大きな理由があつた、それは彼女との結婚である、卒業して社會人となると同時に彼は又新郎となつたのである、天にも昇る心地して、手に手を取つて楽しい蜜月旅行に出かけた、夢の様な日は餘りに早く過ぎてしまつた、すでに一個の社會人である彼、何時までも春の夢にしたつて居る事は出来なかつた、彼が

多

霧



しき花嫁N子さんの右にはH君が先刻腰もち付かせた時とは別人の如き落付きを以て嬉しげに腰落付かせて居た、芽出度し〜。

病院に出勤しなければならぬ日が来てしまつたのである、思ひ切つて旅からもどつて出勤して見ると、シマツた出勤の日は未だ二三日先でよかつたのだ、又旅行に行くこともならず、かけがえのない日を無駄してしまつたです。その時の彼のムクレ方、すつかり氣を悪くしてトンガつたです。それ以來彼はとう〜トンガリとなつちやつたです。



り便局醫

身數ヶ所斬られて来る。ダラシのないこと。

十二月廿六日(水) 鍋島先生送別野球試合、投手鍋島軍の勝利、鍋島君送別、土方君祝賀、渡邊敬君歡迎會別館地下室食堂に於て、二次會は雲仙閣。

十二月廿七日(木) 歳末氣分濃厚となる。山本順先生(小椋)富田勝先生(伊勢)より御歳暮頂戴。

十二月卅一日(月) 泣いても笑つても大晦日である。併し病院は朗かて明元旦の飾付に大童、四百七十八人目のアツベ木村先生によりて切りとらる。——幕——

一月一日(火) 謹賀新年、我等がメスの恵みをうけし病めるもの、安らかに癒ぬ乙亥の朝。

午前十一時美しく飾られたる大手術場に一同參集、茂木先生の加年を祝福し同時に醫局の新年を祝し發展を誓ふ。吉例福引に移り和氣霽々裡に福を當てる。

茂木先生宅を初め諸先生宅に千鳥足ぞろ／＼と年賀にゆく。
一月八日(火) 町田醫局長の後任として百溪君醫局長となる。

一月十二日(土) 茂木先生謝恩觀劇會を歌舞伎座に於て開く
參會者多數、詳細別項記事。

一月十四日(火) 支那留學生姚君盲腸炎にて入院。

一月十九日(土) 茂木先生御招待新年宴會於赤坂幸樂。別項記事參照。

一月二十一日(月) 茂木先生より御馳走の麥とろ、婦長の料理にて美味しく頂戴する。

十二月一日(土) 竹内、山田兩君入替、祖國の護り愈々固し。祝入替祈健康。

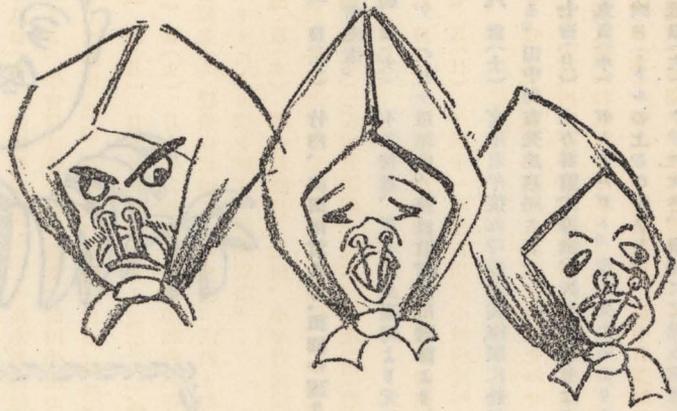
十二月四日(火) 本冬初雪、茂木先生臺灣より元氣にて御歸京、バナ、のお土産澤山。渡邊敬君旭川聯隊より無事除隊歸局。

十二月八日(土) 宮尾君午後九時滿洲國撫順に赴任さる、健康を祈る。田中周吉先生來局さる。

十二月十七日(月) 土方君論文通過、祝賀有志會は幸樂で。

十二月十九日(水) ポーナスデー。茂木先生宅より山島一番頂戴す一同メートのの上ること。

十二月廿五日(火) クリスマス、銀座にて塾生喧嘩に負けて全



一月二十二日(火) 濱名元中先生御結婚、祝電芽出度きや二人元より中よし子、アツペの手術して入院中の桃君無事退院さる。

一月二十六日(土) 町田前醫局長感謝會於幸樂。
一月二十七日(日) 土方君御結婚。

幾久し今日の舟出の静かなる

一月二十九日(火) 抄讀會。

二月三日(日) 大寒の名残りか積雪七纏。

二月四日(月) 節分、福は内鬼は外。

二月九日(土) 慶應稻荷大明神祭參拜者多數。

二月十一日(月) 建國祭。

二月十九日(火) 抄讀會後茶話會あり、百溪新醫局長司會の下に諸種協議の結果醫局規要の改正をみる。

二月二十日(水) 重症多く、遂に病院中のリンゲル氏液及びロツク氏液を使ひ果す。新記録。

二月二十一日(木) 小兒科學會地方部會に前田和三郎先生御講演さる。富田勝郎先生御來局。

二月二十三日(土) 横山君講師昇格、百溪君醫局長執任祝賀、並に葛原君送別會於職員食堂。相見三郎先生(撫順)御來訪。

三月三日(日) 雛節句、各病棟競つて雛飾り、雛祭り人形見る目でつまみ食ひ。

三月十日(日) 陸軍記念日三十周年に當り國を擧げて祝慶

三月十三日(水) 高橋眞雄君、波隼君送別會於職員食堂。

三月十四日(木) 久崎君長女出産。

三月十六日(金) 高橋眞雄君南洋「サイパン」に向け赴任さる、祈健康。

三月二十日(水) 外科野球初め。

三月二十一日(木) 彼岸の中日と言ふに大雪が降る。

三月二十二日(金) 外科集談會(當番本教室)、演者、山口、門

橋、笹島、若林、瀬尾君並に木村先生。重森君より珍味榮螺を澤山頂戴す。

三月二十五日(月) 入江たか子チフスで入院但し隔離へ。

三月二十六日(火) 釜江君嚴父の訃報に接す、謹んで哀悼の意を表す。

三月二十八日(木) 滿鐵醫院(四平街)の高木君内地留學生として歸局さる。學會豫演會於階段講堂、前田先生の宿題報告を始めとして藤原、島田、小平及び桑野君出演、聽講者多數盛大。

四月一日(月) 日本外科學會初まる(於東大)、桑野君講演。

四月二日(火) 日本外科整形外科宿題報告、「脊髄外科」前田、岩原先生。聽衆堂に溢るゝの盛況、活動と幻燈と名調子とのトリオにより堂を賑す、詳細別項。

四月三日(水) 學會最終日、島田、小平君講演す。目黒雅叙園に於て外科及び整形外科同窓會開催(詳細別項)。

四月四日(木) 古山君送別、高木、渡邊(治)君歸局歡迎會職員食堂に於て。

四月六日(土) 滿洲國皇帝訪日、日滿親善彌深し。

四月七日(日) 午前十一時發古山君小樽病院へ赴任、見送り多數。

四月十日(水) 新入局員十五名元氣な顔をみせる、京都出の高橋君、大阪出の今井君、夕刻新入局員より澤山の御馳走あり、新人舊人和氣霽々たり。

四月十一日(木) 釜江、中野君送別、島中君講師昇格祝賀會を職員食堂にて開く、二次會幸樂。

四月十二日(金) 釜江君午後九時東京驛發歸郷亡父の後を繼がる、御成功を祈る。

四月十三日(土) 新入局員歡迎旅行、午後二時伊東方面に向け出發、別項記事。

賀陽宮殿下御來院、畏れ多くも痔核に「マグネシン」を御注射申し上げ。

四月十五日(月) 伊藤君發熱別館南一階に入院す。

四月十七日(水) 門橋君郷里廣島にて結婚祝電發送、ミツナンヂヤイナミレバミルホドヨカヨメゴ、意味がよくおわかりになりますか？

四月十八日(木) 新入局員及び渡邊(治)、高木、井上(太)君、茂木先生御宅へ招待され、盛大なる御晩餐に預り一同感激す。

四月二十日(土) 六大學奉期リーグ戦始まる。

四月二十六日(金) 恒例新人對舊人醫局野球試合、スコア二十四對九、何れの勝なりや記録なし。

四月二十九日(月) 天長節。

五月三日(金) 前田先生御令息誠文君一周忌、動物供養祭別館對本館對抗野球戦一對八別館の勝。





五月七日(火) 重盛君送別、布留、大岡君歸局歓迎會を職員食堂にて開催。木村先生御微恙(顔面神經麻痺)御恢復を祈る。抄讀會。

五月九日(木) 山田晟先生御逝去の報に接す、謹而表哀悼之意。

五月十日(金) 大相撲夏場所初まる、例年通り救護出張。重盛君岡山鐵道診療所へ赴任、萩尾君増田病院より北海道俱

知安病院に轉赴任。

五月二十一日(火) 抄讀會。

五月二十四日(金) 外科集談會、大内君出演、對婦人科醫局野球試合十五對十四輕勝。

六月四日(火) 抄讀會。

六月七日(金) 開局十五周年記念日、參會者八十餘名、病棟玄關にて記念撮影後職員食堂にて一同會食。

茂木會長より「醫者殊に吾々は只流行ることだけを目的にしてはいかぬ、斯界のあらゆる方面に於ける偉人となる様心掛くべき云々」なる御訓辭あり。誠に慈母の子に誨ふるが如き此の愛情、以て肝に銘すべし。次いで前田、木村、犬養諸先生の祝辭ありて歡談盡くるなし。餘興としてセメンダル壺一行の万才あり。詳細別項。

尙ほ同窓會諸君より多數の御寄附を受けたり、謹んで感謝の意を表す。牛久、富田(勝)、成内君より祝電を受く。

六月八、九日 早慶戦いづれも敗退。

六月十一日(火) 山田迪君アツベにて横濱警友病院に入院。

六月十二日(水) 故北里先生四年祭、募參者多し。

整形外科集談會於日本醫大、今井秀君出演。

六月十三日(木) 醫局庭球リーグ戦初まる。

六月十八日(火) 暑熱甚し。

六月二十日(木) 抄讀會。

六月二十二日(土) 中山君アツベにてに號下に入院、三田、四谷、日吉教授野球リーグ戦、吾が醫局より投手島中君、中堅

手百溪君出場大勝す、因に百溪君大本壘打を奪飛ばす。

六月二十六日(水) 今井秀雄君御令息長逝せらる、謹而表哀悼之意。

七月一日(月) 當直日誌更新、戸田先生御來訪、お土産を頂く。

七月二日(火) 抄讀會後歡迎旅行フィルム發表。

七月三日(水) テニス試合準決勝戦對東校舎三對一大勝す

七月五日(金) 對内科庭球決勝戦三對二にて惜敗す、選手慰勞會於幸樂。

七月九日(火) 富士山救護開始岩崎一平君第一陣を承はり颯爽として出發す、健闘を祈る。

七月十日(水) 久崎君萬國生理學會出席につき壯行會を開く

七月十一日(木) 新人對舊人の水泳大會網町プールに於て開く、新人大勝。

午後九時静岡地方大地震の報(ラヂオ)あり、取敢へず静岡日赤及び清水板橋先生に見舞電報を發す、田村君愴惶として郷里清水市に歸らる。

七月十二日(金) 茂木先生瀨尾君同伴静岡地方へ震災見舞にお出でになる。震災地よりは田村君無事歸京、板橋先生よりも無事との返電あり一同安心す。(別項記事)

七月十四日(日) 新に救急箱を整備し天災地變に備ふることす。

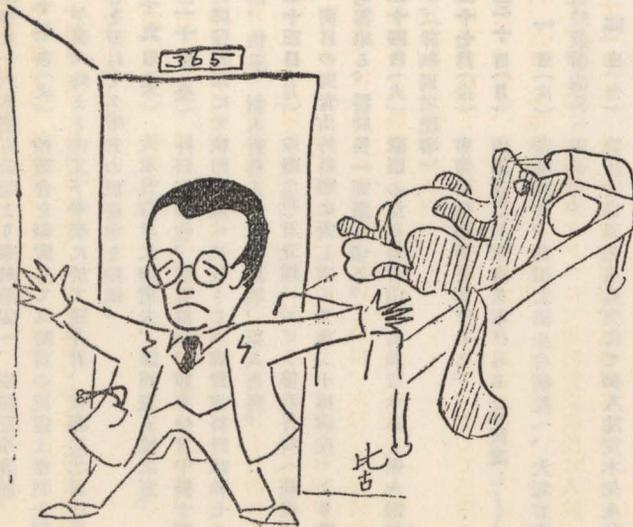
七月十五日(月) 若林君御祖母の訃電に接す。謹而表哀悼之意。

七月十六日(火) 對耳鼻科野球試合十A對三樂勝。

七月十七日(水) 大雷雨來、富士降雪。

七月十九日(木) 對小兒科野球七對二輕勝。

七月二十日(金) 盲腸炎摘出術を受けたる既往を有する女當外科にて更に蟲突切除術を受く、外科醫たるもの豫診を過信しては失敗しますぞ。



七月二十三日(日) 鈴置看護婦監督告別式於寄宿舎。

八月一日(木) 渡邊(敬)君第一回豫備召集兵として一ヶ月間歩一聯隊に入營。今井金治先生より粹花澤山頂戴。

八月三日(土) 支那河北省醫學院教授德國醫學博士李通權氏を始め王九徳、張庭瑞の三氏約三週間の豫定を以て外科、整形外科見學。

八月五日(月) 山口君鶴岡豊田醫院へ出張。

八月六日(火) 病氣入院中の長坂君退院す。

八月八日(木) 廣瀬先生より粹花澤山頂戴。

八月十七日(土) 本日より三日間日米對抗水泳大會初まる。

八月二十四日(土) 醫局有志の銷夏鮎狩り大會、別項記事。

八月三十日(金) 兼ねて見學中の李、王、張氏見學終る。

九月一日(日) 震災記念日、黙禱握飯、渡邊(敬)君一ヶ月の豫備召集を終へ元氣にて歸局す。兼ねて流行中の夏季膈炎

益々猖獗を極め吾が外科へも一名特診として来る。但し小兒科廻し。

九月二日(月) 渡邊(昇)君海軍二年現役軍醫として入營、健康を祈る。

九月三日(火) 木本君交替として鶴岡市豊田醫院へ手傳ひに出發。

九月五日(木) 山口君豊田醫院より歸局、蘇國に於ける萬國生理學會に出席中の久崎君歸局。

九月九日(月) 岩崎君鎌倉町大庭病院へ赴任さる。

九月十五日(日) 茂木先生御招待浦安舟遊び、茂木先生を初

め總勢五十六名濱町公園より乗船浦安へ、別項記事参照。

九月十七日(火) 抄讀會を割愛して久崎君の渡露土産話を聴く、午後六時より山王下幸樂に於て照井君、佐藤(憲)君の送別會を兼ねて久崎君の歓迎會を開催。

九月十九日(木) 大木君御尊父御逝去、謹而表哀悼之意。

九月二十日(金) 外科集談會、菅君出演、照井侃君午後十時上野驛發列車にて秋田病院へ赴任さる。尙對齒科野球戦七A

對四、快勝、新人對舊人水泳二回戦、新人再勝。

九月二十三日(月) 佐藤(憲)君北鐵ハルビン醫院外科へ赴任さる。明日の對青山外科戦に對し古山先生(小椋病院)より激勵電報来る。醫局員一同張り切る。

九月二十四日(火) 豪雨の爲め對青山外科戦は水泳と室内遊戯のみ。(詳細別項記事)

九月二十七日(金) 布留君御嫡男を擧げらる。

九月三十日(月) 山田(迪)君次女を擧げらる。芽出度し。

十月一日(火) 國勢調査、島田君濟生會病院へ、大塚君康樂病院放射線科へ御赴任。

十月四日(金) 助教授岩原先生蟲突にて御入院茂木先生執刀手術、御恢復を祈る。

十月五日(土) 醫局野球リーグ準決勝、外科對婦人科は四A對三にて惜敗す。詳細別項。

午後六時職員食堂に於て島田、大塚、岩崎、渡邊(昇)君の送別會開催。木本君豊田醫院より歸局。

十月八日(火) 抄讀會。

十月十一日(金) 岩原先生全治御退院、田中周吉先生御來局、お土産澤山。

十月十九日(土) 三四會水上大運動會。對内科決勝戦に於て堂々二艇身の差を以て大勝す、因にメムバー左の如し。

光村島倉岡藤原
井藤

マネジャー 神山

今田笹赤大齋伊
舵、整五、四、三、二、舳、

十月二十一日(月) 島田先生論文通過す、

寶亭に於て有志祝賀會開催。

十月二十二日(火) 抄讀會。

十月二十四日(木) 整形外科集談會、門橋君出演。

十月二十九日(火) ドロンゲーム、豪雨、

引き分けの後をうけて早慶野球決勝の日、

三A對一にて快勝、茂木先生を初め醫局

員多勢勝利の乾杯、萬歳三唱、興奮々々、

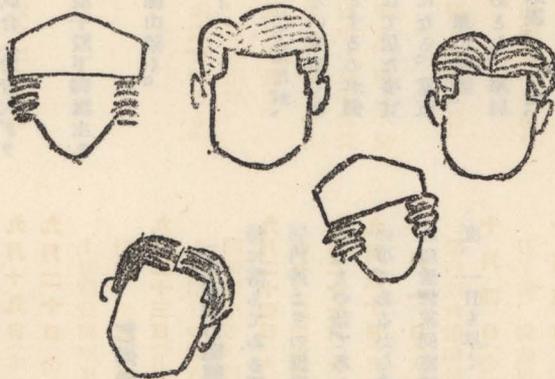
銀座の亂舞狂喜、早慶肉彈戰、負傷者多數。

十月三十日(水) 第八回明治神宮體育大會始まる、醫局より救護員出張。

十一月一日(金) 熱田神宮遷座祭。

十一月三日(日) 蓮江信行君郷里埼玉縣にて御結婚、新婦新

井富子嬢、芽出度し。



祝電、(1) あらむ(新井)どにうつる緑の葉末(蓮江)にも

のび行く(信行)家のとみ(富子)榮ゆるをみる

(2) 新井より蓮江にそぐ若水に

花も實がなり富も信び行く

十一月七日(水) 第十六回慶應醫學會總

會(於東校會講堂)、今夏流行の腦炎の研

究發表で賑ふ。畠中君出演。

十一月八日(木) 土方君嫡男を擧げら

る。

十一月九日(金) 高橋清士君結婚、新婦

河田百子嬢。

賀詞

清き河田に(谷)高橋かけて

ともに古士(越)ませ百までも

十一月十五日(金) 笹島君澤木三江嬢と結

婚。

賀詞

笹島に龜もみえたり澤の木に。

鶴も立ち舞ふ祝へ孫會孫

十一月十六日(土) 三四會運動會、A組リ

茂木先生、木村先生よりビール、お壽司等

レ一年連勝す。の御褒美あり。

十一月十七日(日) 畠中君二女を擧げらる。

十一月十九日(火) 抄讀會後新郎河田(舊姓高橋)君より壽司

の御馳走あり。

十一月二十四日(日) 小平君目の下三尺、目方一貫五百の大鯉を持ち込む。勢ひよし。

十一月二十五日(月) 昨日の大鯉を料理して賞味す。

十一月二十七日(水) 小石川帝大分院と野球試合(於帝大グラウンド)七對七引き分け。

十一月二十八日(木) 午前七時五十七分第二皇子殿下御誕生あらせらる、謹んで奉祝す。

十一月三十日(土) 板橋先生御來局お土産澤山戴く。

醫局便りを編纂するに當り、随分努力はして見たが、出来上りはかなり粗漏である事は、申譯ない次第である、當直日誌の抜萃を以つて、醫局便りとするのが例であるが、當直日誌、或はよろず控に漏れて居た事實ありとせば、此をしらべる手段がない事になる。當直日誌は醫局の歴史となるものであるから、單に特診、病棟の記事に止めず、其の日の吉凶を始めとし、來局者、珍客は漏れなく、出來事、美談、失敗談、その他、軽い意味の話に至るまで、楽しく面白く、遠慮なく、記載されん事を切に希望する。

乞御後援「銀紙報國敏さん號」

「銀紙飛行機敏さん號」獻納に一途まい進の神山敏雄氏は路傍に落ちてゐる煙草の空箱さへもあけて見度い程の熱心に醫局内外よりの後援者陸續として現はれ、日々の獻銀紙は相當に上るとの話であるが、何分にも薄きこと紙の如き銀ならぬ錫紙の事であるから未だ飛行機の尾翼の一端にも覺東ぬ模様である此際愛煙家同窓諸賢と言はず誰方様にても是非々々御後援相成度、一日も早く「報國敏さん號」の翔空を見度いものである。

ら勝てるだらうと云ふ考へでした。併し當日迄に廿人が揃つて泳ぐ機會もありませんでしたし、又醫局の實力として十三秒二乃至十五秒が四、五人、十六秒乃至十八秒が七、八人、十八秒から廿四秒迄が七、八人と云ふ程度でしたから果して平均タイムが十八秒で喰ひ止められるかと云ふ事が相當に問題でした。唯机上の計算で引繼ぎが上手に行つたとして各自のベストレコードの平均が辛うじて十八秒になつた事が心頼みでした。併し要するに此の場合我々は相手の實力に關しては全然未知で無關心であり、唯々味方の全能力を發揮する事に努めたのです。

競技は帝大の新設プールで行はれる事となりました。我々河童仲間には寒さにもめげず武者振るひして張り切りました。戦前我主將瀬尾さんが發表された味方のメンバー及びオーダーは左の如くです。

- 忠内 橋 藤 光 村 教授 島 留 不 原 倉 山 原 中 仁 村 藤 倉 尾
 林 井 教 田 林 邊
- 小 大 高 武 今 尾 前 田 笹 布 小 藤 名 中 岩 昌 渡 田 齋 赤 瀬
- ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳

メンバーが當日になつて一人缺けた爲め前田先生が飛び入りで御奮闘して下さいました。つた事は誠に有難く思ひました。



號砲一發鮮かなスタートが切れ、兩軍應援團の激勵の言葉が水煙りと共にプールの岸から天井に跳ね返へる中に早くも味方は一米半のリードです。併し猛者揃ひの相手方は早くも味方に追ひ付いて一人毎にちり／＼抜いて來ました。併し相手としても廿人となれば弱點は生ずる筈、其の時に確實に取返へせるものと希望を捨てませんでした。此の豫算は美事に裏切られました。相手方は大した弱點を示さず皆達者な泳ぎ振りで味方の泳者二人を残してゴールインしてしまひました。敵の實力を知らなかつたとは云へ餘りに慘めな敗北でした。味方のタイムは六分零秒五でした。残念ながら敵し難い相手の實力でした。併し味方の平均タイム十八秒零は敗れたりとはいへ各人の頑張りに依つて獲られたことは微笑ましい一大收穫でした。

尙當日番外として日本泳法競泳とメドレーリレーとを行ひました。日本泳法は我醫局の大内さんが美事に勝つて相手方に報ひました。メドレーリレーは背泳赤倉、胸泳齋藤、自由型瀬尾のメンバーで頑張りましたが僅かに二米の差で惜敗しました。

良き競争相手を持つ事は幸です。青山外科は確かに強いと云ふ事を知つて我々の闘志は今や益々旺盛です。

青山外科の健在を祈ると共に來るべき年を期待して止みません。

二、麻雀 戦

忠 公

凡そ麻雀の人員を集める程難しい事はない。誰もが自稱名人で天狗連ばかり多いからである。然し今日は五卓にて雌雄を決しようと云ふのであるから腕に心得のあるものは皆出なければならなかつた。我が軍は百溪主將に配するに笹島副主將を以てし堂々の陣を引いた。

1 (百溪
笹島

2 (大塚
山口

3 (齋藤
小林忠

4 (大内
菅

5 (今井
小林不

先陣を受給はつたのは齋藤、小林忠組で、青山外科からは坊ちやんと云ふ人が出て来て先陣の功を競つた。我軍の調子は實によく、ホーラーするものは我が二人のみであつた。敵軍寂として聲なしか。この頃より第二陣第三陣第四陣の猛烈なる戦は開始さる。主將組は少しもあせらず他の卓の半莊を過ぎる頃より戦端を交ゆ。先陣の齋藤、小林忠組は第一戦に勝つて戦機を祝つたが、其の頃大塚、山口組は大激戦中であつた。今井、小林不組はいさゝか敗色がたゞよひ、大内菅組は猛攻撃を開始してゐた。百溪、笹島組は勝敗我れ關せずと云つた具合でゲニーセンしてゐる。第二陣の大塚、山口組は敵の最後の猛襲にあひ遂に敗る。これで一勝一敗となる。こゝに於て後陣頑弱れとはげました甲斐あつてか第三陣大内、菅組は辛くも勝つ。第四陣今井、小林不組は何時もの調子出す敗れてしまつた。これで二勝二敗優勝の鍵は後陣の手に握られる事となつた。茂木軍頑張れ!! 我主將組は夏休の練習の効

あつてか二千點近くの得點にて少しもあぶなげなく大勝す。戦は終つた。遂に三對二の大接戦にて優勝のウイスキーは我が軍の獲得する事となつた。

三、競 演 會

T S U N E

外では何年振りかの嵐が大地も碎けよと荒れまわつてゐたが、内はうつてかわつた和やかさであつた。

幹車、デコちゃん、

浮酒と(一)



つた後は演藝競技となる。

敵の大將と見えし「旦那さん」やをらメモなんぞを取り出、し一面六臂に働けば、勇名天下に聞えたる「デコチャン」もその尾について荒れ廻る。何ぞ恐れん我軍も次から次へと腕に覚えの強者をば

水上競技では實力の差如何ともし難く遂に惜敗したが、オープンゲームの麻雀では見事に我軍の勝利となつて、先づ最後の勝負は夜の部に移された形となつた。とにかく御馳走のビールは良し我軍の面々のまわり工會の悪るからう筈がない。

宴會は隣席の者を紹介すると云ふ一風變つた紹介から始められた。愉快なスツバ抜き等もあつて一廻り終

送り出し、面とくれば胴と打ち、丁々發止數十合、兩軍互に疲れ果て、勝負はまづ五分と五分と見えにける。

と云つた様子がその夜の結果で、雨の中を萬歳の聲と共に解散となる。

まだ飲み足りぬ奴、チャチャンと音を聞かぬと物足りぬ奴等が、集るとはなしに正門前に集つて「神樂坂五十錢」と云ふ事になる。

例によつて例の如し。水泳選手を中心に美妓數名にとりまかれ、久し振りの大運動會を開催して、外の嵐を忘れた。

いづれその後が開かれたと思はれる第三次會分會の有様は筆者知るよしもなし。



四年連勝醫局對抗繼走

顎 兵 衛

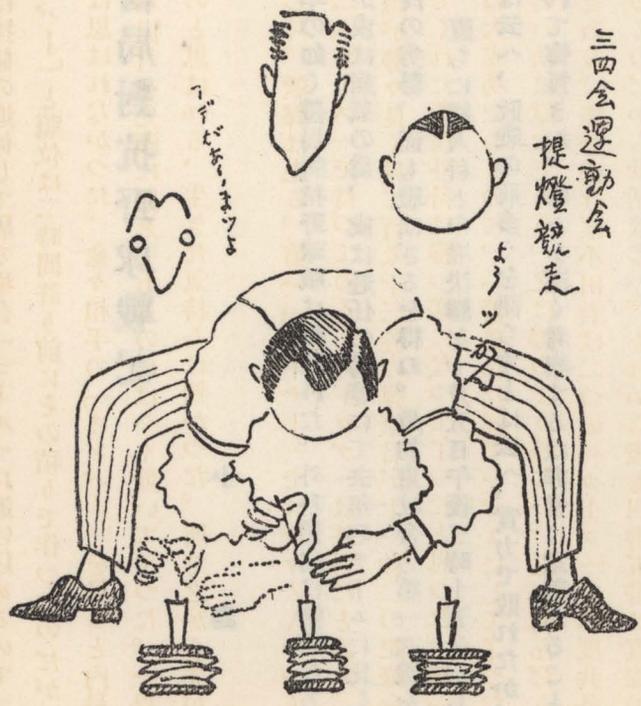
今年は全く御難の年で一番骨を折つた「テニス」は負けるし、野球はまさかと思つたら、運命の神に見離されたのか試合前に選手の缺員を生じたりして惜敗した。残るは「リレー」一つ之もどう考へても選手を比較すると内科には五十米離され相だ。昨年とつた「カップ」を出して返却の用意をするのも物憂き極みである。今年で裏の運動場が愈々閉塞されるので運動會は例年の神宮を止めて此處で開くと言ふ。前日三階から運動場を重い氣持ちで見下すと白い線を引いて準備に忙しい。目測して見ると前後の直線が四十米宛、「カーブ」が兩方で五十米と覺しく大體百三十米の楕圓で恐ろしく小さな「トラック」だ。一人一周の豫定だらうが、之では事件が起る。併しそれは外科の爲に或は幸運な悪戯をして呉れるかもしれない。不精無精醫局の黒板に「メンバー」を書いて見ると十八人ある、之は居るなどと思つたが僅かな期待しか湧いて來ない。愈々當日になるとそれでも選手になつた人は喜んで早くから運動場に集つて來た。死に戦さに出る武士と同じ様だと思つた。試合前轉ばない事と「バトン」を落さない事、それから第一曲線に滑べる所がある事と「カーブ」に入る前に力を抜かぬと外へ飛び

出すからと云つておいた。此の小運動場では技倆の迫伸して居る場合「ゴール」に逃げ込めるので、「トップ」を取る事が最も大切である、「メンバー」と順位は二時間許り前にその積りで作つたのだが、正直な處今度の場合は餘り利き目があるとは思はれなかつた。愈々相手の「メンバー」を見ると内科も御同様の策戦らしく、然も第一等の走者小田君を先頭に据ゑてあるのには全く驚いて了つた。一擧に十米を離し其の儘「リード」を續けるものと思はれる、生きた氣持ちは無かつた。所で之から先が運動場の大悪戯になる。

第一「コース」を引いた藤原君は飛び出した。歡聲は上る。第一「コーナー」でゴチャ／＼やつて居る。見ちや居られないので目を閉つて第二「コース」で待つてゐると「トップ」は外科だと云ふ。オヤ之は又大變な事になつたと思つた。大體が勢々良く見て百米十三秒の藤原君が十一秒二の記録を持つ小田君を五米離して「バトン」を渡してくれた時は外科は勝つ様になつて了つたと思つた。第一走者が「リード」して來るさへ思ひもよらぬ大成功であるのに、一番恐れた選手をゴミにして了つたのだから一撃にして勝因を作つたので藤原君の功は偉大である、之は勝つより外ない。之で轉んだりして負けては運動場の神様に申譯ない次第である。後で聞けば小田君は二つの「カーブ」で二度共外へ挑ねたらしい、自分の力で自分が負けてゐるのだから世話はない。それから後も四番五番は直線で詰められ危く抜かれ相になると曲線に助けられて逃げ込んで居た。そして忠實に「カーブ」に沿つて走るので遅く見えて早く且安全であつた。其の間あせつた内科は五番が第四「コーナー」で六番が後直線の終りで轉んだので差は大きくなり、八番九番が力走して此の距離を大いに縮めたが、最後の走

者の際は猶五米の差があつた。之を抜き返すには運動場が餘りに小さ過ぎる。此處に連勝の榮冠は文字通り外科に轉がり込んで了つた。外科は淡い期待を置いた「リード」策戦が藤原君の奮闘に依り實現するや全員只管安全第一に走つたに過ぎない、其の間内科は勝手にあせつて勝手に轉んで居る。一言にして言へばうつかり將棋のハメ手に掛つた人が汗水たらして負けるのに似てゐる。小運動場は内科にとつて魔の運動場であり、外科にとつては幸運の小さき悪戯者である。「カップ」と「ビール」の賞品を受取る時三階の應援團が窓からハミ出して拍手したのを忘れる事が出来ない。其の夜歡談と深酒に秋の夜を更かした事は御察しの通りである。

十一月十六日
 外科 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原
 百齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋
 内科 小安 小安 小安 小安 小安 小安 小安 小安 小安 小安
 野田 野田 野田 野田 野田 野田 野田 野田 野田 野田
 賀田 賀田 賀田 賀田 賀田 賀田 賀田 賀田 賀田 賀田
 三佐 三佐 三佐 三佐 三佐 三佐 三佐 三佐 三佐 三佐
 南原 南原 南原 南原 南原 南原 南原 南原 南原 南原
 林邊 林邊 林邊 林邊 林邊 林邊 林邊 林邊 林邊 林邊
 渡邊 渡邊 渡邊 渡邊 渡邊 渡邊 渡邊 渡邊 渡邊 渡邊





醫局對抗野球戦記

小 島

例年の如く醫局對抗野球戦は行はれた。外科醫局は優秀なる選手が或は病氣の爲、或は赴任の爲等にて去年のチームに比して格段の劣勢、而も戦はざるを得ぬ。最初東校舎と第一次戦を行ふことになつて居たが東校舎棄權のため、直ちに婦人科との准決勝を十月五日午後三時十五分から病院グラウンドで行ふた。勝負は時の運とは云へ、敗戦の將多くを語らずとは云へ、實力で敗れたか、精神的に敗れたか、時の運で敗れたか、敗れて悔無きか、等々を深く考察するは非常に意義あることと思はれる。次に大體の經過を述べれば、

〔一回〕外、齋藤左中間安打、中山三飛、小島三匍、畠中捕邪飛。

婦、美馬遊飛、宇美三振、宗像遊飛。

〔二回〕外、渡邊(仁)四球、門橋の一匍で二壘に封殺、次打者小林(不)三遊間を抜く安打、次での敵失に門橋三壘、小林二壘の絶好のチャンスとなる時、伊藤(原)中飛に二死となる

も山口の三壘越絶好の安打に最初の一點を擧ぐ。齋藤四球に出たが中山左直に惜しくも終る。

婦、佐賀四球、小畑の投匍に二壘に封殺、正木打者の時小畑二盗、正木の一、二壘間安打に一擧本壘に猪突する時右翼よりの好送球をカットしたる投手小島、本壘に暴投して同點となる。次打者鈴木、麻生共に三振。

〔三回〕

外、小島遊匍一失に生き畠中の投匍に二進するも渡邊(仁)三振、門橋の一匍に無爲。
婦、高田遊飛、美馬、宇美共に三振。

〔四回〕

外、小林(不)遊飛、伊藤(原)、山口共に三振。
婦、宗像投飛、佐賀四球、小畑遊飛後佐賀二盗に刺さる。

〔五回〕

外、齋藤三振、中山三飛、小島四球に出るも畠中三匍。
婦、正木二度目の安打を二壘上に放ち、鈴木三振後、麻生の左翼安打に走者一、二壘、次で高田の投匍で二、三壘、美馬の四球で満壘、宇美の三匍失で球が一壘後方に轉々せる間に二者生還、宗像投匍に止むも、婦人科二點をアヘッドして意義凄じ。

〔六回〕

外、渡邊(仁)四球、門橋投匍、小林(不)の投匍で渡邊二壘に封殺、小平(伊藤(原)に代つて右翼)中飛。

婦、佐賀内野安打、小畑二飛、正木、鈴木共に三振。

〔七回〕

外、山口三振後齋藤四球、中山の投匍、二壘失に走者一、二壘、小島の投匍失に満壘、畠中

三振、渡邊(仁)打者の時投手牽制失に球外野に轉々する間に二走者強引の生還同點、小島二盜、渡邊遊飛。

婦、麻生三振、高田遊飛、美馬四

球を撰び、宇美一、二壘間を抜いて安打と思はれたが右翼手の美技に無爲。

〔八回〕外、門橋四球後二盜、小林(不)の

投匄の時返壘悪く二死小平遊越安打後二盜するも山口三振

婦、宗像三振、佐賀三匄、小畑三振。

〔九回〕外、齋藤三匄失後二盜、中山中飛失に走者一、二壘、無死、小島の左直に齋藤二壘に併殺、

婦、正木四球、鈴木の三匄に二壘封殺成らず、走者一、二壘、麻生三飛、高田一匄に二死と

なるも美馬に代る打者、山森の遊軟匄は一壘低投となり、球が一壘手のグロープ中に浮いてゐる間に間一髪セーフ。その間正木脱兎の如く本壘に殺到して貴重の一點を擧げて結局四A對三の大接戦裡に婦人科に凱歌擧る。時に五時十五分、試合開始後正に二時間である。

| 外 科 (先攻) | 打 順 | 婦 人 科 |
|---------------------|------|-------|
| 8 齋 藤 | I | 美 馬 5 |
| 6 中 山 | II | 宇 美 8 |
| 1 小 島 | III | 宗 像 3 |
| 2 畠 中 | III | 佐 賀 6 |
| 7 渡邊(仁) | V | 小 畑 1 |
| 3 門 橋 | VI | 正 木 7 |
| 5 小林(不) | VII | 鈴 木 5 |
| 9 {伊藤(原) 小平(六回)} | VIII | 麻 生 2 |
| 4 山 口 | IX | 高 田 6 |
| 34 | 打數 | 32 |
| 4 | 安打 | 4 |
| 6 | 四死球 | 5 |
| 5 | 三振 | 11 |



外科庭球の戦蹟を顧みて

小林 忠

希望を抱いて入局して来た新入局員の歓迎旅行が終れば、話題にのるのは醫局對抗庭球戦だ。今年
の外科庭球チームは前年の闘將古山、萩尾、釜江、中野の四君を醫局より送り出し、伊藤君病氣不出
場にて莫大なる打撃を受けた。然しながら残留選手島田、若林、大塚、佐藤、今井の五君に配するに
老將森先輩の御苦勞を願ひ、宿將久崎、長坂の兩君の奮起をうながし、新人小林不、小林忠、渡邊昇
の三君を加へてメンバーを編成したあたり、島田主將の苦勞の程が察せられる。

今年こそは勝ちたい。勝たねばならぬ。今年勝たなかつたら何年後に此のチャンスが来るか。全く
我々選手一同の決心たるや悲壯の極みである。

バット咲いた櫻花がバット散れば草木の若芽はすく／＼と伸びる。白いユニホームに白いバンツ、陽光を一杯にあびて走り廻る十一人の若人、「君達の血と汗によつて是非勝つて下れ」と醫局の誰もが應援してゐると思へば我々の練習に一段と力が入る。午後になると殆んど毎日コートに出た。春の日は相當に暑い。汗だくなつてコートを引揚げる頃は日はとつぷりと暮れてゐる。別館の風呂で汗を落し、醫局に歸つて其の日の批評をする。組合はせを相談する。作戦を練る。これが一日の日課である。顔色のこげると共に腕にも自信が付いて来る。

對東校舎準決勝

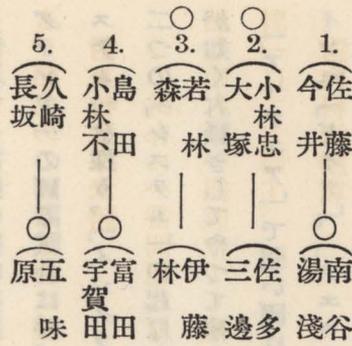
この試合に一番問題になるのは鳴打が何番目に出るかと云ふ事である。色々考へて見たが解らない。然し鳴打に一组敗けても他の全部が勝つ自信はある。結局鳴打には一敗したが他の三組連勝して三A對一にて大勝す。

對内科決勝戦

東校舎を何なく敗つた勢ひにて内科との決勝戦に望む事となつた。七月五日愈々内科との優勝争ひの日である。内科に對する作戦は實に難しかつた。内科にはがつちりと強い組が三組ある。他の二組とてもそう馬鹿にしたものではない。弱い方の二組は外科のどの組が當つても勝たなくてはならない。強い三組の中の何れか一组を残る三組で敗らうと云ふのが外科の作戦の根本である。然しいくら考へ

てもオーダーは決定しない。仕方ない、我々は敵を避けては駄目だ。真正面にぶつかつて行かう。それで敗れたら仕方ない、決心は落着くべき處に落着いた。メンバーの交換終つて開けて見れば組合せは次の如し。

外科 内科



第一戦。双方大將組の顔合はせである。佐藤今井兩君奮戦これ勉めたが惜しくも敗る。

第二戦。敵は我にのまれた如く小林大塚組難なく勝つ。

第三戦。双方老將組の取組である。若林、伊藤兩君同型のテニスにて良く粘り見事な試合であつた。森君時々良く決めて勝つ。これで二勝一敗にて戦ひは我に利あるかの如く見ゆ。

第四戦。島田、小林兩君實に良く當つたが敵軍富田の當り實に素晴しく奮闘の甲斐なく敗る。

第五戦。以上にて二勝二敗の同率にて、これが優勝のキーポイントである。久崎、長坂兩君の涙ぐましい奮闘は敵の宿將五味、原組を苦戦せしめ、一球一球手に汗を握らしめた。だが戦我に利あらずして惜敗す。

二對三勝利の神は我々に味方しなかつた、優勝は遂に内科に奪はれた。敗軍の將何をか語らんやである。我々は來年に向つて練習しませう。それには外科全體のレベルを向上させて充實したチームを作らうではありませんか。

蹴球

長坂

世界で一番強い國は英國の「プロフェシヨナル」である。その中でも「スコットランド」と「イングランド」の國際試合は呼びもの中の最たるものなり。「スコットランド」は主に「ショートパス・システム」を採り、「イングランド」は一般に「ロングパス・システム」を採つてゐる。今日蹴球の主な二つの「システム」の起原をなしてゐる。この試合を見んとして集る觀衆が恰も早慶野球戦に於けるが如く大騒ぎしてやつて來る。

「アマチュア」で強い國は「南米ウルガイ」、「アルゼンチン」、歐洲では「イタリー」、英國、「スペイン」、「ドイツ」、「チエコスロバキヤ」、「オースタリー」等であり略々實力が平均して特に飛び抜けて強い國はない。國際蹴球聯盟(FIFA)の主權する第一回世界選手權大會に於ては南米ウルグワイが選手權を獲得し、昨年の第二回世界選手權大會に於ては「イタリー」が優勝してゐる。此の優勝者「イタリー」も昨年十一月「ロンドン」に於て行はれた對英國の國際試合に於て三對二で破れてゐる。それ故來る「ベルリン」のオリンピック蹴球に於ては、今より各國間の大接戦が豫想される。我

が日本は初めて「オリンピック」に選手を送る事になつてゐる。今や日本は東洋の日本より世界の日本に乗り出る第一歩を踏み出さんとしてゐる。

日本に蹴球が輸入されてより約六十年を經過してゐる。極東大會に於て支那及び「フィリッピン」に如何にしても勝てなかつた日本が、昭和二年の上海に於ける極東大會で初めて比島を破り、次の東京の大會では比島を破り、支那と三對三の引分けを探り、支那と共に極東第一位を獲得した。それ故前述せる如く今や東洋の日本より世界へと踏み出さんが爲に蹴球家並に關係者は實に張り切つてゐる。

慶應病院の蹴球に就て少し語らう。

慶應病院「チーム」は昭和九年第三回實業團蹴球大會に於て覇權を握り、幸先よきスタートを切つた。昨年の大會には不幸にも優勝「チーム」千代田生命に破れたけれども惜敗にして、古山、大塚、小林等の闘將の缺場にてやむを得ざる状態であつた。本年度は伊藤、長坂は出ずとも新人中山、渡邊、佐藤等を迎へ、あふれ出る闘志を以て必ずや優勝せんことを期待してやまない。

小 臺 遠 漕

多

霧

櫻も散つて春も大分たけた或日曜日の事、小臺遠漕をやる事にした。前夜少々酩酊したので寝すごして大いそぎでかけ着けて、どうやら置いてきばりを免かれた。行つて見るともう端艇フナに皆のつて居る。前田先生を始めとし、笹島、大岡、赤倉の面々、オールを握つて、それに齋藤が舵を引いて居た。それに小生飛び込んだ理である、薄曇の空で水はいゝ。端艇は四人漕ぎで軽くて安定だ、漕手は皆昔し取つた杵柄連である、端艇は心地よくなめらかな水面を遡つて行く、すぐに白髭橋を過ぎる、此の橋は以前は木造りで渡錢を取つたものである。右岸にこんもりした森が見えるのは、八百松で、昔小生共練習の途中一憩してよく水もらひに行つたものである。きれいな姉妹が居たんだが、その先に鐘紡の工場があつて一支流が分れて居る、これが綾瀬川だ、それから川は大きく曲つて片岸にはずつと葭が續く、此の邊を大根洗と云つてその先はもう千住となる。前田先生仲々御元氣、交代しようかと思つたら「やつと調子が出たな、コレからだ」とおつしやる、千住大橋をくぐる、此の橋も昔は木造で橋桁も多く、その上川に對して妙に斜にかゝつて居て艇の難所の一つであつた。千住の上所謂

調子が出たな

コ、いからうた



アマゾンと云ふ所があつて汀から澤山の木が生えて居たものだが、今はその影もなく、一帯に工場地となつて居る。アマゾンから川はS字状に曲つてその先は小臺まで真直に流れて居る。前田先生とう／＼小臺までガンバつちやつたには驚いた。

小臺では川端屋と云ふ宿に上つた。

此處にも昔可愛い娘さんが居たのだが今ではもう何所かでお母さんだらう。

前田先生からの御馳走で晝飯はお鉢の底までさらつてしまつた。食後休憩、丁度のその日小臺で何校かの水上運動會があつて色々なレースをやつて居た、前田先生御覽になつて「アレとレースしてもカツな」

歸りには前田先生に船を引いていたといた、艇庫についた時には一同相當に、しかし心地よくつかれて居た、淺草雷門で先生にお別れして、有志は軽く乾盃して解散。

總軍司令 敏之丞



三四會船試合記

多霧

隅田川に来て見れば春の試合の勝に奢る内科クルーは手ぐすね引きて再度我をなめんとす。

岸に立ち出て潮の加減を案ずるに第二コース有利なり。神に念じ抽籤すれば、あな有難や第二コース、南無弓矢八幡大菩薩、未だ我を見捨て給はず、逸る心を推鎮め、競漕艇にぞ乗り移りけり。

出發點に漕ぎ寄せ見れば、敵もさるものひつかくもの、後鉢巻かいぐしく、手に手にオール握りしめ、決死の形相物凄し、味方は如何にとかえり見れば、面蒼ざめ目は釣り上り、唇キツと咬みしめて、必勝の氣魂眉宇に現れたり。合圖の烽火に我一掻き出すれば敵も一掻き、抜きつ抜かれつ何れが勝と白浪の、しぶきを舉げてぞ争ひける、さる程に我が力や優りけん、一漕ぎごとに抜き出でて、三

艇身の水を割り、決勝線にぞ入りにけり。あゝ勝敗は時の運、武士は勝敗を論せずとか、我好敵手内科クルーよ、共に漕がん命の限り、戦終り日は暮れて、兩軍思ひ／＼に祝盃を、擧る段取りとなりにけり。味方の面々を見渡せば、餘奮未だ去りやらず、一削ぎ力を削がざれば、納りかぬる勢なり。早くもそれと見て取りし、總軍司令神山敏之丞は、一同を引き連れ淺草なる、キリンビヤホールに立ち寄りて、一削ぎ力を削ぎにけり、力削がれし面々は、つい心地よく浮れ出し、總軍司令敏之丞を押し立て／＼夜の街を、何處ともなく消えうせにけり。

因みに當日出場の面々は

| | |
|------|--------|
| 總軍司令 | 神山敏之丞 |
| 軸手 | 伊藤原藏 |
| 二番手 | 齋藤修次郎 |
| 三番手 | 大岡保兵衛 |
| 四番手 | 赤倉一之進 |
| 五番手 | 笹島彦左衛門 |
| 整調 | 田村信兵衛 |
| 舵手 | 今井光之助 |

シー克蘭クハイト

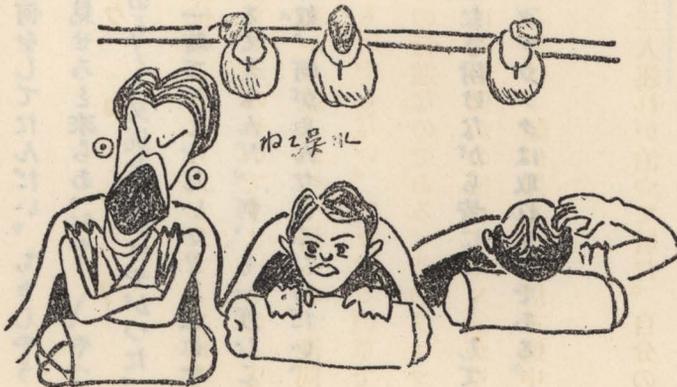
ク
ロ
ツ
ツ

スキーに行つて居ると妙に氣が立つて来る。但し日歸りか、二三泊位のことなら大したことはない。或る温厚篤學の基礎醫學の先生のお話では「君、そりやシユタウウソクのせいですよ」とのことだが、もう顔の火照りも治つて、そろそろ黒光りにかゝつて来る位、都から遠去かつて居ると、淺間らしい様にいらくして来る。朝起きてにこくして居る奴なんか一人も居やしない。黙々たる煙草であり、黙々たる朝食である。而して黙々と新雪の上の影法師を踏んでの行進なのである。背のリユツクサクが暖く感じ出す頃になつて、やつと機嫌がよくなつて来る。ほんの僅かの疲れにやゝ氣がゆるむのである。そんな風な妙な氣づまりな朝がよくあるものだといふことは、顔が黒光つて居る連中には時々經驗される。

或る夜のことである。雪に埋つたさる温泉宿。少し黒く光りかけた三人連れが泊つて居た。自分の好き勝手に狭苦しい温い小部屋に潜り込んで居たのだが、正月も松の内は過ぎ、客も減つて來たし、大きな部屋も静かだらうとて今夜は一同堂々と第一等の部屋に引越して來た。床の間あり、欄間あり、

而して立派な襖付きである。今迄薄汚いスキー生活ばかりの手合なので妙に落着かず「矢張り穴倉の方が気分が出るせ」てな中に晝の疲れもあり、何れもそろ／＼しかつた十一時頃、何やら隣室のさゞめきが耳に入つて来る。中に交るは妙齡の聲である。所謂妙齡といふ語の當て候まる人聲である。スキー宿も進んで来て若い娘さんも樂に泊れる様になつて来たものゝ此の宿では未だ珍しかつた。とろ／＼は何所かへ飛んでピンと立つた耳は、聽て四五人の兩性取り交へた遊戯の情景を心眼に映さしめる。――

ゼスチュアをやつてるのか、チエツ、やつてやがらあ、だがなつてねエな、男がちと抑へられ氣味か、參つて居るんだよ、此の男は。甘ちゃんか、も一人居るぞ、氣障だな。盛に全制動の講釋なんかしてらあ、慟巧ぶつてるねエ。靜かな男が居たぞ、兄貴かこれあ、落着いて、よろしい。所でお嬢さんはシャンかな、二人だね、友達か言葉が變だぞ、きりつとしてない、は、あ大阪方面か、うちだなんて一寸乙な言葉だな、悪くねエな。甘ちゃんの奴今ゼスチュアで苦



勞の眞最中だな、下手糞らしいせ、此奴餘り遊びにや興がなさう、娘と話しがしたい丈か、やな奴だ。伶俐さうがべら／＼言つたぞ、うるさい。少し過ぎるぞ、晝間何をしてたんだい。ちきしやうつ、どうも娘の聲は氣にかゝるといふもんだ。取り卷きの奴等の面あ見せろと來らあ、おやく、やつとお暇か、有難い。寝て呉れ／＼、明日といふ日に差支へるからな。あら／＼又尻を落着けやがつた。何だ座談會か、此の野郎しつこいな。甘公、伶俐野郎撲るぞ、まだ十一時でつしやないか？ 呆れた奴だ。一體娘も悪いぞ、どうもべちやくちやした言葉は神經にこたえるてえもんだ。何、も一度むこの直滑降、てえつとやりたいな、てえつとたあ何だい。一間イフケどん野郎奴、何があんた言ふたらだ、べらばうめ、女の子、聲を出すな、寝られないぞ——

黒光りの一人が怒鳴つた。「好い加減に寝て呉れ、馬鹿者共」

次の朝は三人の黒光りは互に和やかな挨拶を交した。ワックスをはたき附けながら皆にこ／＼して居た。學者先生の言、眞なりとすれば正に昨夜から今朝にかけてシユタウウンクは取れた譯である。

富士救護座談會

K、
A、
記



「どうも飲まんことには話しが出んなあ」

「まあ我慢して呉れ時は非常時だ」

「幹事なんとか挨拶をやれよ」

「しるこ位の御馳走はあつてもいゝな」

「アインボールの話の主人公まだ見えん様だな

あ」

「まあ來てからゆつくり伺ふとしよう、併しそん

な話刀林に載せて大丈夫か」

「大丈夫さ、今迄にもあつた様だ確か何號かに載つていたのを讀んだことがあるよ」

これから始まらうとする例年の富士救護座談會の会場風景、会場と云つても本年はぐつとおまけにして別館屋上、まぶしい程の秋の太陽の御馳走だけで皆んな我慢して貰ふ。

集るもの救護に出かけた小林兩人、尾村、渡邊仁
中山、高橋、今井、木本の面々の外大木、蓮江、
名倉、赤倉計十三名、先發の岩崎、渡邊昇兩君は
それ／＼御赴任で見えないのは残念。

A「これで大體集つた様だなあ惜しいことに先發
のお二人が見えんまあ話のたつぶりなのから
始めて呉れ」

A「K君どうも面白いことが一番多かつた様だな
あ」

K「面白いことなかなかつたぞ」

救護日誌をめぐりながらK君暫く沈黙

K「公爵の娘たあなんだい」

K「あれか何んでもないよ、七人組でね。一人の
方が書生に連れられて救護所へ來たんだ、上
にも悪いのが居るから薬を呉れと云ふんだ」

O「それもメツチエンか」

K「うん、それでね、病人を見ないことには遣れん

と云つて救護所へ連れて來させたが、まるで
飛び廻つて病人の様じやないんだ。それで薬
はやれんと云つたが無理に頼むんで特にアン
ナカ一包をおごつたよ」

N「公爵のお蔭で一包貰つた譯か」

K「違ふよ、公爵の娘たあ後で分つた人だい」

I「さうだらう始めから分つてたら逃しつこなか
らうからなあ」

K「シャンじやなかつたよ」

N「どうだか」

K「N君はどうだつたい」

N「俺の時は大したことは無かつたよ。お金ちや
んの後をおつけて行つた譯でもないが廿六
日の火祭を見に行つたよ。二ツのでつかい神
輿を一度に投出すには驚いたね」

T「お金ちやんに會つたらう」

N「いやそれやあO君だよ」

K「さうかO」

一同の視線はO君の上へ

O「あれあ向ふから呼掛けたんだよ」

T「本當かいこいつはお安くないね」

方々で顔見合せて暫し笑聲

N「N先生はどうしたかと尋ねたら知らんと云つてたぞ」

N「俺は知らん譯さ」

O「寄れと云はれたが歸つたよ。山中の連中と一

緒だつたのでね」

蓋しO君は山中から火祭に態々御出張に及んだ譯

I「惜しかつたね山中の連中を怨んだらう」

話題はガンツO君へ。こゝで問題のK君遅れて入場

K「いや遅れて相濟まん」

K「罰金にアインボールの話詳しく白状して貰ふ

か」

K「あいつには俺も弱つたなあ。夕方の六時頃四人連れが上つて来てね、女給ではないらしかつたがね、兎に角二十三三と思はれたね」

O「四人組た

あ二人づ

ゝか」

K「いや女は

一人でね

三對一と

云ふ譯さ

ベットも

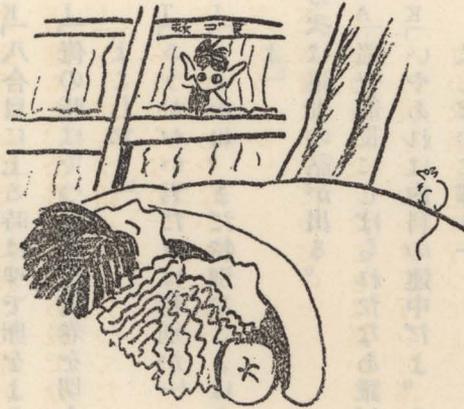
満員だつ

たので誰

か二人一緒に寝ることになつたんだ、が俺の向ひのベットにアインボールが這入りこんだ

譯さ」

I「何か話してたかい」



K「何か話すが支那語みたいでさつぱり分らん」

I「分らんから愈々慌てたか」

K「慌てた譯でもないが。どうも寢就かれん。結局ベットをのそく退散して例の圍爐裏の傍へ這出した」

I「それからどうした」

談は愈々酣にして陽光益々まぶしく外苑の圓いドウムの上では烏がばつと散つては又集る。

K「和光のおやじどうしたかと尋ねるが、まさか本當も言へず茶を飲みすぎて眠れんと誤間かした」

I「どうもつらいね。處で本當は地震でもあつたか」

こゝでK君雄辯に一件の話を相當突込んで述べるが、神聖なる刀林紙上を恐れ以下オミット、悪からずお許を乞ふ。話題は轉じて、

K「和光の連中皆んな變つてるね」

K「さう／＼濱の博覽會で三萬兩損したとか、少し徳さんも大きいね」

N「いや五萬兩だよ」

I「だが和光は親切だよ」

K「八合目に上る時はゆで卵をよこしたらう」

I「俺の時はでつかい海苔巻を切らずにそのまゝよこしたよ」

T「さうかおい君だけは特別か」

I「さうかね、まだ特別なことはあるが後にするよ」

お次は巡査の話が出る。

A「巡査部長にしぼられたなあ誰だい」

K「いやあれは内科の連中だよ。そいつをW君が又しぼつた譯さ」

I「雨の降る夜に八合目まで上らせたと云ふね」

A「そいつはひどいね」

K「それで外科がしぼつたのさ」

O「俺の時は署長が来てね、えらく奉つて呉れて悪くなかつたね。お蔭で八合目の三晩は毎夜酒さ、ホテルからは思ふものを何んでも運ばさせるしね」

K「それでやはり五十銭か」

O「勿論金五十銭也さ」

K「處でホテルの番頭の浪曲聴いたかい」

K「俺も聴かされたよ。例の局長の仲人でね何んでも末廣亭菊水とか、えらいこと云つてたぞそいつが吉田署へ八合目から電話で放送さ」
A「その放送のお流れを拜聴したと云ふんだらう」

こゝで例年のお金ちやんの話が出る。

K「お金ちやんはお嫁に行つて歸つたんだと云ふね」

A「それを聞いたらさうじゃないと大いに辯明努めてゐたよ」

A「あれの云ふことは分らんよ。俺には日本橋の三越に手傳ひに行つてたんだと云つたぞ」
I「何んと云つてもお金ちやんとドライブした奴はなからう」

「誰がドライブしたんだ」

どこからともなしこの質問が出て一同一寸眞顔になる。

I「誰でもないこの俺さまさ」

A「しんがりでうまくやつてるね」

I「富士五湖をお金ちやんと一緒にドライブしたものが後にも先きにもあるかね」

併しどうもドライブたるや大きな自動車で他のお客とも一緒らしい。

いつの座談會にもつきものゝお金ちやん。本年も又健在併しかく申す彼氏も救護日誌の一頁に

お金ちやん美しき醜

お茂ちやん粗野なる美

と記しておる。

話は益々はずんで大部脱線してきた。

幹事「デハ此處いらで」

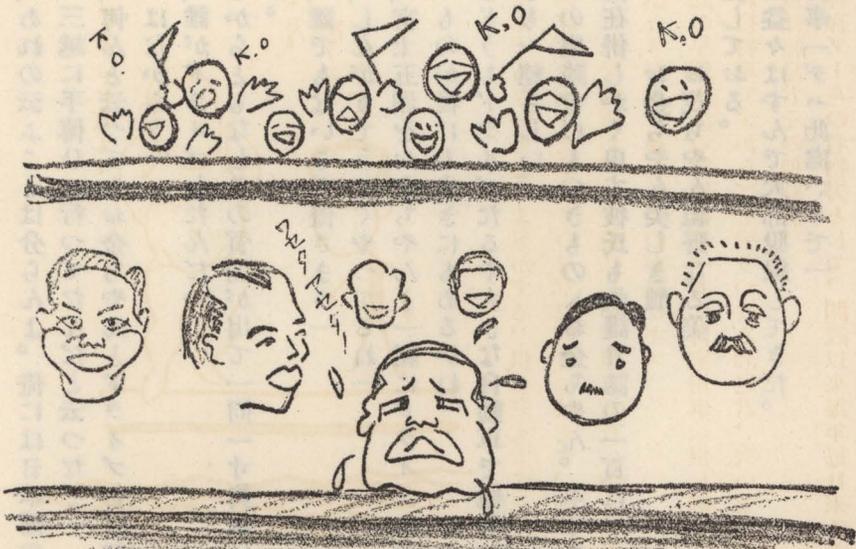
救護一種一談

野球早慶戦秘話

悶狂生

時、乙亥、神無月早慶決戦の日。

かの神宮大スタジアムは劃然早稲田、慶應の二色もて折半せられ、興奮は將に其の極に達し虎風を呼び龍雨を呼ばんず勢。其の間に左せず右せず黙々と試合の進行を凝視せるかに見ゆる灰色の存在。そは救護班にぞおぼしき。食ふや食はれるやの此の一戦！ 観者手に汗せざるなし。慶よくリード、救護氏をして「珍らしく樂な試合よ」と喜ばしめぬ。さるを七回に至りて俄然早のチャンス、慶のピンチ、又もや塾の打ちやりにやと青息吐息の苦しき觀戦生きたる心地なし。其の時突然神聖なる救護席より拍手もて狂喜せる徒あり、一同怪しみ「君は一體いづれの御負ぞ」と問ふに返なし。愈々慶の勝利を告ぐるサイレンの鳴り響くや件の男やを立ち上り、ハンカチを取り出だし「汗ダー」（早稲田）と言ひつゝ何處ともなく消へ失せるにぞ憎らし。



ブルで拾った話

比古

○「サア行こう」

△「ウーン、ムニヤ〜」

○「起ろ〜七時になるぞ」

△「ウワーツアア、小生些か眠むたいぞ」

○「別館の出口で待つてるぞ」

と云ふわけで、辛じて連れ出して、省線の上の橋を渡り切る途端に、サイレンが朝の爽かな澄み切った大氣を透して外苑の森に、繪畫館の圓頭に、さては別館の窓ガラスに衝き當る。

ブル一般の入口にはもう既に早朝の割引を利用すべく廿人程待つて居る。此方は平氣で事務所から。と、入口に見慣れた自轉車、これは瀬尾君の自家用だ、ヤア來てる〜と云ふわけで、早速裸になる。

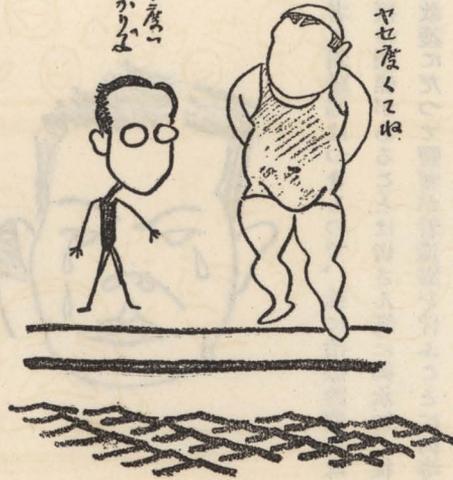
未だ一般はグズ〜してる、此の間にとザンブリ入る、鏡の様な大ブルに自分丈の波を立て、行く時、遊佐、高石、牧野糞を喰へと云ふ氣になる。實際俺も萬更捨て

医者ヤセ度くてね

米屋

肥り度っ

はかりよ



たもんでもないぞと云ふ氣がする、但し氣丈ですぞ。

仰げは今掲げたばかりの日章旗朝日に映えて、神々しい。これで朝飯がグント美味しい。但し前夜の消毒用の鹽素ガスが少々鼻をつくのが珠にキズ。

此の早朝水泳の常連は第一番は自家用車（但し御安心あれ自轉車ですから）を乗りつける瀬尾君、次いで赤倉君或は笹島君その他數君。

神宮ブルの名物男として、開設以來毎年毎日來ると

云ふ、お米屋さんとお醫者様の話が、寫眞入りで新聞に出て居た。お米屋は太りたいため、お醫者様は瘦せたいためとある。

醫局にも瘦せたい親方瀬尾君、太りたい旗頭武藤君が居る共に精勤賞の出る御連中。

神宮競技救護哀話

MONCHAN

三年に一度の明治神宮大會も今年はその第八回を迎へ明治節を中心に前後七日間に亘り明朗なスポーツ繪巻が展開されたのである。其の間にあつて全種目（尤もスキ、スケート等は除く）の救護を一手に引き受けた者は誰あらず實に吾が慶應の外科醫局であつた。

日本青年館の救護當直を始め大小八個の救護箱を整備して、東奔西走、多忙の中にもよくその任を全ふし得たのは一つに救護子の献身的努力の賜である。その明朗なるべきスポーツの而も多忙な救護の裏にもやはり悲しい人生の鼓動は脈搏つてゐたのである。



元來醫者に看護婦はつきもので、殊に治療診療には離れ難い密接の關係があることは皆さん既に御承知、従つていくら救護にだつて醫者が看護婦を伴ふことに何等不思議はなく、堂々と午前八時から某小學校に於ける卓球

救護に出掛けたのである。餘りの多忙さに救護氏は看護婦をそのままそこに置いて（別に悪意があつたわけではない）他の競技場へと走つてしまつた。

扱て試合は白熱に白熱を加へ、いつしか夜の幕は落ちたけれども試合は盡きる所がなかつた。看護婦とても選手に劣らぬ喰ひ盛りの年配だから夕食頃ともなれば自然ひもじくなるのは理の當然。寄宿の同僚は既に湯上りの清々しい氣持で夕餉を濟まし、趣味の刺繡に耽つてゐるであらうことを思ふとゐてもたつてもゐられない。それなのに今朝自動車で送つてくれた先生の姿は影も形もない、訴へるに人なく歸るに歸れず空腹と共に氣は愈々減入るばかり、よく／＼思案に餘つた末、終に醫局に電話して今朝程の先生を呼び出し、怨むでもなく、憎むでもなく、泣くでもなく、怒るでもなき氣持を訴ふ。先生はじめは「まだゐたのかッ」とのしかゝる様に言つたものゝ、よく／＼ことの始終を聞くに及んで涙さへ浮べ「すみません／＼」とおろ／＼聲にて電話口に謝つたとは全く涙なしには聞けぬ話である。

軍 教

菅

軍教救護は東京を遠くはなれるし、全然女氣はないし、泊る所はバラツク建ての廠舎だし、相手は愛嬌も可愛げもない小生意氣な豫科生と來てるし、教官はもう一ヶ月近くも連続で四日に一日歸るかと思ふと翌日はもう出て來ると云ふので、メーシと殺氣立つてる。それに毎日の演習にはくつゝいて廻る。日はかん／＼照るし、暑くて汗はかくし、いやはや樂ぢやないこと夥しい。

けれど毎日病院で蒼い顔ばかり見て居る者には、紫色の富士山を目の前に見、澄み切つた空の色と空氣を呼吸する時は、軍教救護も亦捨て難き哉と思ふ。



拳闘救護は物騒な

千里

何時か學生の對校仕合の時だ、學生選手は全くたわいもない、罎丸にグローブが一寸と觸つたらしい、打たれた方は罎丸をおさへて飛び上つた、ひどく痛さうだ。

審判が俺に見て呉れと云ふ、俺はこんな場合にどうすればよいか何も拳闘の規則を知らぬ。けれど診て呉れと云ひ俺が醫者であつて見れば診ない理には行かぬ。

リングに上つて觀衆の前で罎丸をベタステンする。幾らベタステンして見ても大して異常ない。異常のないものは異常なしと答へるより外仕方ない。

仕合が終つて選手控室の前を通つたら

「さつきの醫者は何處の奴だ」

「のしちやおうぜ」

葉山水泳部救護

阿津の字

救護の御大笹島さんより佐藤憲一君の代りに葉山に救護に行つてくれと頼まれた。葉山は幼少の頃よりのなつ



清遊ですよ

エヘヘヘ

かしい土地であり、怪我人も重症なのは應急手當のみにて歸京させて宜しいとのこと僅かばかりの藥品を持參して七月二十日出發した。

今年は炊事係りが萬來舎なので若主人（通稱ドンチャン）居り學生からの親しみを有して居るので恥し相に小

生を先生と呼んだ。水泳部の幹部連中中西、平松、金澤、内海兄弟等は小生の學生時代から體育會の仕事と共にして居た關係上何かと好都合であつた。

救護の方は思ひ掛けなく前田先生が御子息さんを連れて來部せられて居り、内心初めての單獨救護の不安さも親舟に乗つた氣がした。それに第九回卒業生の福島氏、同地に小兒科を開業されて居り、笹島さんと同窓にて笹島さんの名刺を持參致し、今年も御厄介になるやも知れず、困つた時は御願ひにぐる由申出でましたる所直ちに快諾下され之れに又氣を良くした。

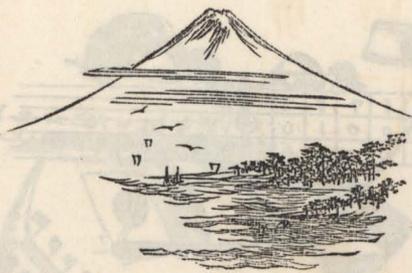
扱て部員の方に案内せられ例の暑くるしい二階の戸棚を拜借致し藥品を一應ならべて見た。

部員の人々は午前、午後、毎日二回幹部の連中について海岸に出掛ける、歸つてくると皆元氣な面白い連中ばかりにて救護の方は日やけ Erythema Solare 一天張りである。それもチンクエールを出して置けば各自が銘々に付けてくれる。

救護の筈の自分は海岸に水泳部のヨット、カヌー等に乘つて清遊を満喫した。

夜は夜で散歩に圍碁に實に救護は第二の問題で、保養が第一の様な氣がした。

二十五日岩崎一平氏が遙る／＼千葉縣富津の海岸より小生と交替に來てくれた。佐藤部長先生にお別れをつけてなつかしい楽しい葉山を後にして、又蒸し暑い東京に歸つて來て病院通勤が初まつた。



球場の影

ひかる

午前四時

午前五時

午前七時

午前九時

午前十一時

十二時

午後一時

午後二時

午後三時

午後四時

午後五時

午後六時

凡べての影が消えて個々の影が来る

蔷薇色、黒い土と緑りの芝布の色分け

夜露がセンターボールの頂きで消える

人影が濃くなる、又片雲の影

應援歌、センターボールの影が縮む

影なし

飛行機の影、球の影

サイレン、鳩の影

スベリこんだ選手、メイーンスタンドの影が

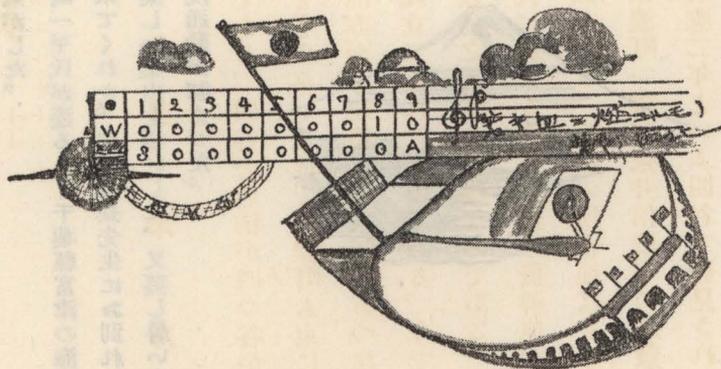
のびて来る

紙くすの中で涙、涙

濃い影が消えて灰紫色のカーテン

凡べてが影、大きな腹をひろげて球場の宵寝

が初まる終り



外苑はもと青山練兵場で明治二十二年日比谷練兵場を廢して公園となし、其代りに青山に持つて來たものであつた。私が小學生の頃は丁度今の代々木練兵場の様な感じのする所で、スミスの飛行なども此所で行はれたものである。ずつと昔の藤原時代には此地は奥州道の一部で吾妻堤、霞ヶ丘、霞ヶ關等の名が傳つてゐる。其時分には下町方面は沼澤が多くて通行困難のため干駄ヶ谷から落合、雜司ヶ谷、瀧野川を経て淺草に出たといふ。

新宿御苑は昔は内藤氏の屋敷内であつた。内藤修理亮が天正年中に徳川家康から此邊一帯の土地を與へられたもので其際の逸話を語る大榎、駿馬塚等が地誌に出てゐる。内藤家では元祿十一年に屋敷の一部を割いて内藤新宿を開驛し、甲州街道の中繼驛として重要な所となつた。今日の新宿の名も亦是に由來するものである。宿場には付き物の娼家が出来たが享保三年に岡本綺堂の戯曲にある様な事件のため内藤新宿の娼家は一時廢止となつたが其後五十餘年を経た明和に、年貢及冥加金を納めること、甲州街道の宿場高井戸が江戸から遠すぎるのでその中間驛の必要を理由として、内藤新宿の復活を見るに至つた。爾後急速に新宿の娼家が發達し江戸文學に於ても特殊の地位を占むる様になり就中鈴木主人で知られてゐる。「花のお江戸のその町々にさても名高き噂さがござる。ところ四谷の新宿邊に軒を並べて女郎屋が御座る、紺の暖簾に桔梗の紋は音に聞えし橋本屋とて、數多女郎衆が皆玉揃ひ中に全盛白絲様は年は十九で當世姿立てば芍藥座れば牡丹、我も〜と名指しで上る。別てお客の

あるその中にところ青山百人町に鈴木主人といふ侍は女房持にて子供が二人、二人子供のあるその中で今日も明日もと女郎買ばかり見るに見かねて女房が意見「これはヤンレ口説の替女唄であるが白絲主人の事件には史的確證がない。青山百人町の鈴木百度の墓や成覺寺の過去帳の俗名絲も人違ひである。成覺寺の白絲塚は嘉永五年に白絲主人の芝居が當つたので白絲に紛した坂東しうかが建てた供養塔である。此種の供養塔は屢々本物の墓と混同されてゐて八百屋お七、四谷怪談のお岩、權八小紫比翼塚等皆その例である。江戸時代の法令によれば情死者、刑死者の墓を建てることは禁じられてゐた。右の成覺寺は一名投込寺と云はれ、新宿の遊女の屍を此處に合理したので今も子供合理碑が残つてゐる。

數多い新宿遊所文學たる洒落本の中で甲驛夜の錦は年取つた妓が若い妓に廓の手練手管を教へるといふ形式で書かれたものだが媚を賣るための技巧があはれである。

「四谷で初めて逢ふたとき」の新内此糸蘭蝶や御家人の生活苦を深刻に描寫した四谷怪談、大宗寺の閻魔様、正受院のしようつか婆、津の守情話等四谷の話は豊富にある。

植物學者が一木一草皆悉く友であるやうに歴史や地誌に興味を持つてゐると數十年數百年の昔の事も人も知己の様に思はれて通りを歩くにも興趣は盡きない。病院の屋上から見渡して思付くまゝを記してみた。

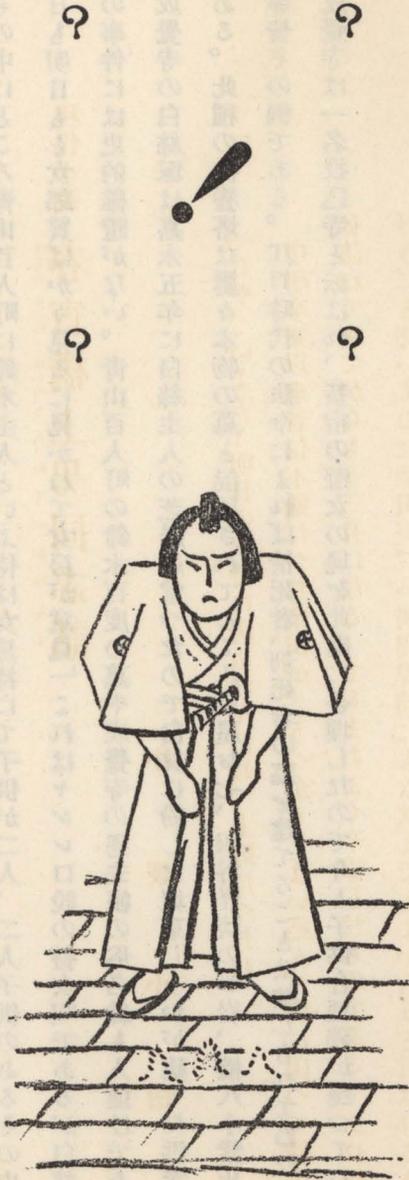
古事記 歸

參

禿

筆

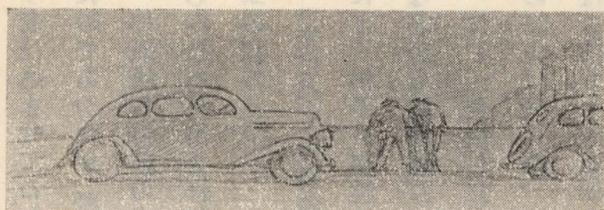
若侍あり、時折某所にて氣保養をなす、あくる朝心も軽く身も軽く直に登城致しけるに、たま〜
役向きの宴會あり、義理はいなみ難く、その夜も酒汲み交はす内に、落ち行く先は某所にてこそあり
けり、若侍、心中少なからずためらひしも、覺悟を決めて「只今！……でござる」と敷居を股ぎける。



現代小説

はるのよひに はしのうえにてのおはなし
春宵橋上男同志話

小 便 小 僧



「ぢや、いよ／＼明日の十時に決めたんだね、上野だったね。」

中學卒業以來音信不通だった柴田が、うつかりしよい込んだ病に困つて静夫を訪ねて來てからもう三月になる。でもまあよく辛棒したものである。あれ程好きだと聞いてゐた柴田が、一週間程前にもう飲んでよからうと言はれるまで、殆ど一滴もやらなかつたと云ふのには静夫も感心してゐたのであつた。がそれより驚いたことには、突然話がはこんだといふので明日にも郷里に歸つて結婚して來るといふ事なのである。

全快祝の一杯と、お目出度の一杯と、それに暫くのお別れの一杯とが重つて、良い加減にほてつた顔を、三原橋の手摺に仲良く並べて無心に語り合つてゐる二人の後を、芝居のはねがごつたかへすように流れて行つた。

柴田が初めて病院を訪ねて來た時には、人に言はれぬ病の悩みが顔をすつか

り老ひ込ませてゐたので静夫も一寸誰であつたかと思ひ出せなかつたのであつたが、段々とよくなるにつけ、めつきり若々しくなつて、一杯氣嫌に持前の大聲を張り上げてゐる彼の横顔に、昔の友の姿がしみじみ見出された。それにしても今宵の彼の景氣のよさは何と云ふのだろう。

「先だつての君の忠告どほり、當分の間は袋を用ひることに決心したよ。相手が初婚である限り絶対にわかりつこないといふのは確かな筋からの情報だ」

たとへ全快したらしいとはいへ一抹の危険感を覺えたので主治醫の静夫は先日來、彼に忠告してゐたのであつたが、例の取形事件のほとぼりも醒め切らぬ頃だし、そう決心をしたと聞いて又何となくひやくした。けれど弦は既に引きしぼられてゐる。今となつて彼を再び此の朗かさから逐ひやるのは酷だ。

深謀遠慮を以て自任してゐる静夫は、事のあと仕末にまで氣をめぐらして訊ねたものである。



「使ひ古しの袋は翌朝排泄物と一緒に雪隠に捨てるのか。」

問はれた柴田の返事はさすが當事者の真劍さがあつた。

「そいつがいけねえ。俺の兄貴が先年田舎に歸つて居た時の事さ。近くの百姓が柴田の家の尿をまいたら、こんねなものが菜ッ葉にぶら下つたでねえか……」ツて言ふわけで水でゆすいで村中見せてまわつたそうだ。」

「そいつあ困つたらうな。」

「だから俺は考へたね。使ひ古しはみんなためといて、東京へ歸る汽車の窓から捨てちまおうツて。」

静夫は笑ひ疲れて脇腹が痛くなつた。涙まで出て來て、銀座のネオンがあちらの方に露玉の様にきら／＼した。

樂
し
か
り
き

案
山
子

二人で晴れた、

江戸川邊で

さけつゝ持參の

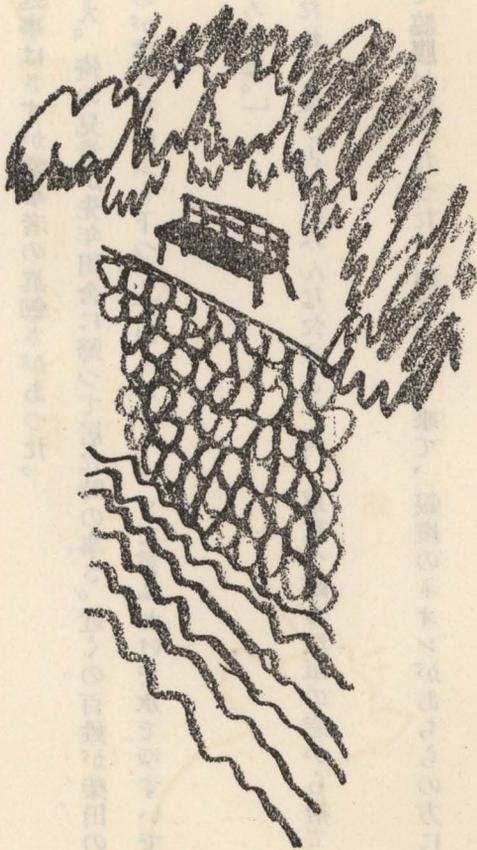
開いた時の

春の日に

風と日を

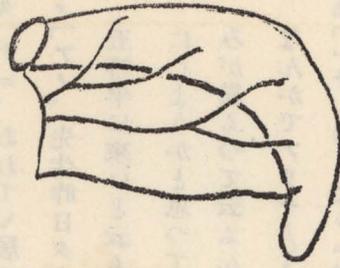
サンドウキツチ

樂しさよ。



新落語 盲腸炎の猫

(禁無断上演放送)



百
酒
家
定
五
郎



オカミ「アラまあ先生丁度いゝ所で御目にかゝりましたワ」。

先生「何だねオカミサン下駄と草履を片チンバにはいて、ひどくアワテ、居るね」。

オ「先生大變なんですよ、今ウチのが又病氣なんで、先生の御宅へお伺ひする所なんです、大急ぎで来て下さいな」。

先「オヤ〜又やつたんだね、よくまあそんなに夫婦喧嘩が出来るね、此の間は頭を血だらけにして来てやつと治つたばかりではないか」。

オ「いいえ、今度はお腹がいたいんで唸つて居るんですよ、先生、靴は妻が持ちますから、マア重いコ

ト、ハイハイ御免下さい急ぐんですよ。

先「君の亭主も災難だね、夫婦喧嘩をすれば負傷^{ケガ}をするし、腹痛は起すし、何所にねて居るね、居ない様だが」。

オ「アラマア、先生そこにねて居るじやありませんかター坊が」。

先「何だ今度は親爺さんでなくてター坊の病氣か、どれどれ一體どうしたんだ」。

オ「あの先生どうか落付いて下さい」。

先「ナニ、あわてゝ居るのはあんただよ」。

オ「アノ、先生昨日ター坊は親類におよばれに行つたんでせう、五時半に來いと云ふのに四時から出かけましてね、着物は何

にしようかと思つて隣のオカミサンに相談したんでせう、そしたら近頃の若いもんは昔と違つて好みが異ふつて云ふんでせう、ソレア昔の若いものは縮緬の兵古帯などを横に締めてつゝかけ草履かなんかでアリヤ〜」。

先「一寸と待ちなさい變な聲を出さないで下さい、つまり親類で御馳走になつたんだね」。



オ「エ、そうなんですのヨ、ナンでも鯛の刺身に栗のきんとん、向ふ付がエ、トター坊何だつけね」。
先「コレコレ、いゝ加減にしなさい」。

オ「エ、いゝ加減にしておけばよかつたんですが、御飯を六杯食べて、モウ一杯をお代りしようと思つたら、食べたものがもどつて來ました」。

先「汚いね、イヤ随分食つたものだ、それからお腹が痛くなつたのかね」。

オ「イエね、今日は青年團の集りでせう、朝からブツ通しに代々木の原つばなんですよ、妾が今日はおよしと云ふのにきかないもんですから、スツカリ親の罰が當つたんですよ、三時頃眞蒼になつて友達に擔がれて歸つて來た時は私は驚いちやつて、何しろ此の子が生れたのは私がお嫁に來てからでせう」。

先「ソリヤ當り前だ」。

オ「マア、ませつかへさないで下さい、何しろたつた一人しかいない倅ですから三度々々御飯を食べさせて親父があゝの通り極道ものですから、毎晩親父には妾が意見をして、此の十八年間妾はオチオチ寢たことが御座居ません、それなのに……」。

先「オイ、泣くのは未だ早いよ、だけれど先つき一人つ子だと云つたが娘さんが居る様だね」。

オ「アラマア、先生目が早いですね、これだから若い女は先生のそばへ置けない」。

先「オイ、失禮なことを云ひなさんな」。

オ「アレはですね、先生隣のキー坊ですよ、子供の頃からウチの倅と仲がよくて、今度倅がかつがれて歸つて來たら、キー坊が裸足で飛出して來て、マアター坊どうしたの、アタイ悲しいワ、て云ふんでせう。ター坊が、心配エするねエ腹が痛てエ、と云つてニツコリしましたが、先生アレが此頃云ふラブシーンと云ふものでせうね、エへ……」。

先「ワア、もう澤山だ、どれ病人を早く診よう……」。

先「ドレ、腹が張つて居るなア、何……何處を壓しても痛い、熱はと……卅九度あるな、便通はない……、オカミサン之は急性腹膜炎だね、所謂盲腸炎から來たものだね」。

オ「アラマア、先生どういたしましたせう、でもそんなに奮製ではない積りなんです、勢々今朝から……」。

オ「イヤ俺の云ふのは急に來たと云ふのだ、手術をせんとイカンね」。

先「そうですか、矢張切るわけで」。

オ「あ、どうりで此間横丁の源齋さんに見てもらつたら、此の子は男ぶりに申し分はないが劍難の相があるつて云はれましたが、今思へば……」。

先「コレ、手術ですよ、刀では切りません、メスで切るんだから」。

先「餘計な事を云ひなさんな、ソラこゝに眞黒になつた盲腸がおよいで居る、學問上で云へば蟲様突起
だな、普通はこんなになる前に癒着が起るから、中々腹中膿になることはない、工合の悪いのに無
理をして動いたりしたから腹の中に早く膿がまわつて、此んなに盲腸がブカン／＼膿の中を泳いで

居る、その代り切取るのは容易しい、ソラもうとれたよ、大きなもの
だなあ、人の三倍もある」。

オ「あら先生隣の店のバナ、位しかありませんよ」。

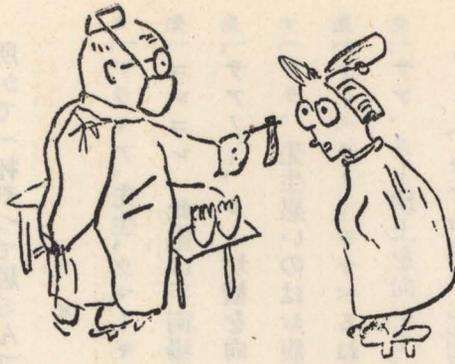
先「ソんな悪口を云ふものでない」。

オ「もう先生之で治るんですか、いよ／＼亭の字歸つて來たら……」。

先「コレコレ、ミエを切るのは早い、未だ／＼之から膿を拭きとつて傷を
縫つて今夜輸血の一回もやれば、年が若いから大概大丈夫だらう、ヤ
レ／＼やつと濟んだ、ドレ盲腸の中を開いて見よう、オヤオヤオヤ……
…確かに……ウム、無いぞ」。

オ「アラ、先生盲腸つて歩くんですか」。

先「馬鹿なことをお言ひでない、ハテ之はお怪しい、確かに此の膿盆に入れた筈だが、アラ、何時此所
へ這入つたのだ、大きな野良猫が居るぞ……。之は怪しからん、口の圍りが血だらけだ、サテハ、



食つたと云ふものだな」。

オ「マア、先生太い猫ですね、猫に交番と云ふからお巡りさんに引き渡しても何もならないし、コン畜生」。

先「イヤ、コレはトンダ災難にあつたものだ、もうこうなれば諦める外はない。何しろ猫が肴を食ふのは當り前だからなア」。

オ「アラ、先生どうして盲腸が着なんですか」。

先「ナニ、今ウミの中で泳いでゐた許りだ」。



青

空

文

鎮

一、朝も早よから

あのアドバルーン

一人ぼつちで

氣のない姿

何をすねてか氣にかゝる

二、呑氣そうだよ

あのアドバルーン

秋の日向に

居眠りコクリ

今日も麗らかな空の色

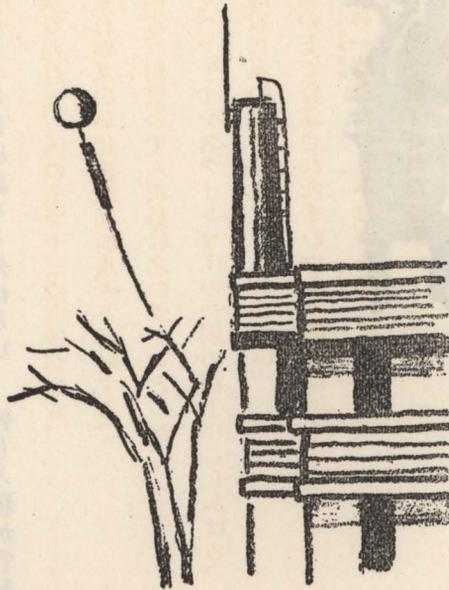
三、何が悲しうて

あのアドバルーン

心しみく

ひよ鳥鳴けば

空の青さが氣にかゝる



夜の手術室

紫

夢

ジーと唸る蒸気消毒器、

カラカラの足音、戸の開閉の音がこれをかきみだす、



水うたれた、床の上で十三の電燈が光る、

それが又白い化粧煉瓦に水々と反射する、

消毒、用意のすんだ私は之のガランとした、

オペラチオンステインマーの一隅の椅子にこしかける、

静寂シヅカに私の思念を亂だすものはない、

胸の上で合掌された手の中より祈りは湧く、

その一時ヒトトキをたのしみながら私は祈りに入る、

邪念慾念魅了ヒトトキされたる影が去つて、

破邪の心に清冽なたましひがとがれる、

動きの前にすでに準備は出来た、體も心も

私は十三の脚光をあびて立ちあがる、

今!! 特診午前一時



實話身體検査異聞

山田庸夫

◇第一話

月例身體検査には決つてM検査をやる。何しろ一日五六百名から見るので赤い透明な昇汞水が忽ちに
して黄白色、臭氣紛々たる汚水となり、一人見ても又此の昇汞水で消毒する……終る頃ともなれば手
がふやけて浸み込んだスメグマの臭ひがどうして仲々取れ、ばこそ。

◇第二話

矢張りM検査の話、大きい、小さい、被つたの、被らないの、傘の大きな奴、フレヌルムの所々
に小指頭大のシユライムテスト？…のある奴、等々種々雑多なMMオンパレード……と見る一際
大きな奴、垂直位と水平位の間中に在り、少しくビク／＼してゐる、此奴少し興奮しとるかな？…と
思ひつゝも手にとつて包皮をむいて續いて尿道をしごこうとすると忽ち起る落花狼籍、兵も慌はて、
先きを掴む、隅へ行つて完了させ、リノリウム上に散つた白い奴をガーゼを與へて拭はせる……
いやはや飛んだ騒ぎだつたよ！斯んな經驗をした奴は軍醫多しと雖、一寸あるまい……

◇第 三 話

もう一つ、順番を待つて數十人全裸で並んで居る、身體を覆ふものと云つては一葉の健康簿のみ、勢ひ、之を局部へ持つて行く……と威勢の良い看護長より聲あり、「此野郎共！健康簿を金玉に當てるぢやないぞ、汚くて仕様が無い」。

經驗談 植物 雜考

A 理 學 博 士

凡べて植物には害虫ありて厄をなす、殊に果實に於て甚し。是を逃るゝに一般に果實に於ては紙袋を用ふる事はよく知られたる所にして應用最も廣し。然れども、紙袋を以て防禦し得ざる場合尠ならず、例へば松茸に於ては必ず「ゴム」製の袋を用ひざるべからず。



健康簿を金玉へ

當てるぢやないぞ





隨筆 往來雜感

文 鎮

大東京を十幾哩も離れると、丘や樹の色も自然さが増して来る。空の青さも、空氣の香ひも朗かである。初めの間こそ都會の塵を逃れて一步郊外に歩み込むと、ホットする様な吞氣さと爽快さが蘇るのであるが、併し毎日毎晩長時間この電車で揺られてゐると、そんな事はどうでも良いと云ふ氣になつて来る。途中の驛なんか止まらないで一分でも早く家に着けば良いと思ふ様になる、ヤケに煙草を吹かし度くなる、一杯飲んでる時など専ら居眠りである。然し田舎道を走つてゐることゝて乗客の混雜も相當あつて、仲々居眠りなど思ひもよらぬ事が多い。お隣の人と肩がギツシリ喰附く、腿と腿とがピツタリ熱ばつたくなる。ひどい時にはK町から池袋まで立ち通しの事もある。横の人の息と自分の呼吸とを交換する程満員のこともある。此處に於てか特別の愉快さと、嬉しさと朗らかさが生れて来る。快感は必ずしも、ゆつたりした周圍の中に許りある譯ではない。窮屈さが極度に達する

と、不愉快を通り越して矢張り愉快さが生れると云ふ眞理を發見した。長時間電車に揺られる事夫自體が既に愉快で無いに極つてゐるが。さりとて何百日何年と不愉快だくとクヨクヨ思つてゐては瘦せて仕舞ふ。長い間には其の退屈な氣持の中に微笑を需めんとするのは人間の自然である。

冬を通り越して、人々の着物が一枚々々と剥がれて行くと、何時の間にかセルの春着となる。フツクラしたマドモアゼルの肉體の曲線美を最もほゞ笑ましく朗らかに見せるものは何と云つても春のセル着である。沿道の櫻の花がチラホラ咲き初めると、田舎の景氣の良い悪いに關はらず、お上りさんが増して来る。赤や黄色の手拭を首に巻きつけてゐるおばあさんもゐるし、櫻や菊の徽章を胸の邊りにつけてゐる若い娘さん達もゐる、武藏の森や林、麥や大根の葉が若緑に燃えてゐる力強さと、夫等若人達の純心と健康とを思ひ合はせると何とも知れず快さを感じる、ほんとに幸福さうだと思ふ。春も半ば過ぎて時折は肌に汗ばむ頃になると、沿道の野菜畑のコヤシの臭ひが窓から流れ込む。夏のムシ暑い時は尙更か



なはぬ。然し夕方の涼風を窓一杯に受けて走る痛快さは何とも云へぬ。雨でも降つて窓を閉めて仕舞ふ時は閉口だ。僕等は、大抵朝早くか晩の電車だから夏はまだ良いが、冬になつて來るとスチームが通り始める。朦々と立ち込む紫烟と人いきれで甚だ面白くない。窓を開けると人が迷惑だし、又皆困つてゐるからと思つて開けようとすれば大抵一人や二人風引きの人がゐて無暗に咳を初める。こんな時は風引きの癖に電車なんか乗るなど云ひ度くなる。都會の人はセツカチである、停留所に着いた時にはもう降りる人が降車口にタカツテゐる。そこに行くと田舎の人は吞氣だ、車掌さんが幾度も「大きな聲で「何處で御座います、お降りの方は御座いませんか」と振れ歩くのに、いつまでも濟ましてゐる。いよ／＼車が動き出す頃になつて「車掌さん一寸降して下さい！」など／＼やつてゐる。こんなのは一日に二人や三人は必ずある、もしゆつくり落ちてゐるのは次の驛まで運ばれて行く。

初めの間はよく満員で立ち通したこともあるが、近頃は年のセイか疲れるので矢張り座席を探してなるべく腰かける事にした。狭い所に自分で割込む時はヤレ／＼と思ふが、自分の様に無理に押しつける様にして割込まれると癪に碍はる。四十五六の年配でS町の銀行の支店長とか云ふ太つた人と毎朝顔を合はせるが、この人の割込みは實に堂に入つたもので、一寸でも餘裕のある座り方をしてゐると必ず割込まれる。右手を出して「チョッ／＼ト」と振り乍らもう腰掛けてゐる。文句も言へない事柄だし、未だ誰れも小言を言はない。又どんな満員の時でも彼氏が腰掛けてゐないのを見た事が無い。



電車通勤の常連の間では割込み上手として有名である、あの位
圖々しくなくちやいかんと思ふ事もある。

長い間には自然に乗客の顔振れも定つて来る。行き歸りの時
間でも大體一定して来る。此の時間に乗れば何驛から例のお妾
さんが乗るとか、何驛からは顔の丸つこい女事務員が乗ると云
つた具合である。同じK町から乗る東京市の囑托醫をしてゐる
岡田さんと云ふのがゐる。頭の毛の薄い小柄な人で、いつも發
車間に息せつきつて走つて来る、この人の話好きは大變であ
る。柄は小さいが痾高い聲だから電車の隅々までも響く、お相

手をしてゐると人がデロ／＼見る。醫學の事は勿論、經濟のことから墓場の石塔のことまで實に詳細
である。それでゐて一面女の乗客に關しては實に徹に入り細に亘つて觀察してゐる。何々驛から朝何
時に乗る十八位の女學生は池袋で省線に乗り換えて上野まで行く、多分音樂學校らしい、歸りは大抵
何時の電車だ。どうもフィアンセがあるらしい等と云ふ事まで實によく知つてゐる、見ない様な顔し
て、あれで仲々氣を使つてゐるんだなと思ふと可笑しくなる。今日は高價の電車に乗つたとか、今日
の電車は安かつた等と笑ひ乍ら僕の顔を見るから、何の意味かと思つたら若い御婦人客の多少による

ものらしい。自分も彼氏の感化を受けて何時とはなくそう云つた氣持に染つてゐるらしい、彼氏に教はる處は斯る點で尠くない。今度の驛からはあの女が乗る筈だと心待ちに待つこともよくある、期待通り乗つて來るとホットする。これが一人でも當ると退屈な氣持が大分軟げられる。此方でそう云ふ氣持でゐると彼方でも多少解るものらしい。勿論名前住所を知つてゐる譯じやないし、勤め先等聞く筈もないが只目と目が合へば確かに感應する様な表情をする、女の方では今日の電車は安かつた等とはよもや思ふまいが、兎に角よく會ふ顔に出喰はせると朗らかである。ウヌボレの強い男には相手が愁波を送る様にも思へるだらう。

頭のツル／＼に禿げた五十位のお爺さんが乗る、禿げてゐる癖に電車の中では帽子を叮嚀に網棚の上に置く。宮内省とかに勤めてゐる人らしい、無口な人で話してゐる事は滅多にない。いつも古ぼけた本を讀んでゐる、横目で覗いて見ると横文字の本である、今日は英語かと思ふと次の日には獨逸語、佛蘭西語である。時には何やら解らぬ事がある、例の岡田さんに聞いたら、どうも伊太利語らしいとの事、仲々篤學者であることは解る。どうせ電車の中で讀む位だから或は吾々と同じ様に西洋の講談俱樂部に類する物じやないかと思つてゐる。眞偽の程は分らぬ。感心な事にお爺さん仲々子煩悩と見えて、歸へりには缺かさず果物やお菓子の包をブラ下げて御座る。これも半分位は奥さんに頼まれたお客用の菓子じやないかとニランデゐるのだが、それだつたら子煩悩であると同時にサイノロジーで

もある譯だ。書物を右腋にはさんで、背を丸く屈めて、お土産の包のヒモをブラ／＼下げて歩く格好には正に十七世紀の風格がある。

同じ電車に乗る若いレディスが四五人ある、何れも何處の誰かは知らない。昨年の夏だつたか其の中の一人が乗り合はせた。良く會ふ顔だし、又僕の横に座つたから「此方へいらつしやい、風がよく這入りますから」と親切に言つたら、變な顔して只シカメ面を見せた丈で折角の好意も臺なしだつた。それ以來何時會つても僕は知らん顔をしてゐる、元々笑つた様なシカメな顔だから、案外「有難う御座ゐます」位云つて笑つた積りかも知れないが僕は頑として再び言葉をかけない。もう何年間も一緒になるが、今だに彼女と顔を合はせるとまじい氣がする。

も一人目白あたりの女學校に通つてゐる人がある、あんまりシヤンではないが小柄でおとなしい、利巧さうな女である、ツンと澄ましてゐる處は古風な英國の女王の格好である、然し其の時が一番美しく見える、時間も大抵定つてK町の次の驛から乗る。座る場所も大體決つてゐる。初めの内は再三僕の横に座るから悪い氣はしなかつたが後で考へて見ると、彼女のいつも腰掛ける邊へ僕が偶然腰かけてゐたに過ぎなかつた。と云ふの



は、或日いつもと異つた方の端に座つて、横に彼女が掛けられる位空けてゐたけれ共、僕の顔を一寸見た限り、矢張りいつもの彼女の座席に行つて仕舞つたので、ハハーと思つた。

それ以來僕は矢張り今迄での邊りにゐて彼女を待つ事にした。混雜しない時は彼女は僕の横に五六寸隔てゝ座る。然し次の驛になると人が新たに乘つて來るので、ドウセ間隔をつめねばならぬ。そんな時彼女が僕の方へ寄つて來れば萬事うまい事なんだが、彼女は滅多に僕の方には寄つて來ないで反對の方に引退がる。結局二人の間には空席が出來て、そこに面白くもない野郎がドカと腰を据える事になる、俄然面白くなくなる、折角安くなりかけた電車賃が再び暴騰すると云ふ譯である。そうかと思ふと池袋で省線に乗り換える時はいつも僕にくつついて來る。もう何年も同じ事を繰返してゐるが未だに口をきいた事もない。目白で彼女が下車する時も一度も振り返つた事もない、只眞正面を向いて歩いて行く。僕はどうも彼女のための用心棒にされてゐるらしい。所が偶然此の間病院の廊下を二人の女學生と一緒に歩いて來るのに出會つた。僕が此の病院にゐる事が意外だつたらしい。丁度早慶戦の前日だつたので切符が欲しくて來たらしい。こんな事もあらうかと實は餘分の切符を用意して置いたのだが、ウツカリ口をきいて變な顔されると又これから幾年か會ふ度に氣まづい思ひをするのが不愉快だから不本意ながらだまつて行き過ぎた。

と
て
も

想ふあの娘の
心を知れば
浮きたつ様な
ソラあの氣持
過ぎて居たつけ
お家の門も
寝られなかつたぞ
でも嬉しかった



案
山
子

葉山の十日間

藤 ち ゃ ん

▼ 葉山まで

東京驛を電氣機關車のボーと云ふ眠い様なだるい様な音と共に出發して、汗を二三回拭いてゐる間に電車はとまる。逗子驛である。夏の逗子海岸は東京の歡樂郷に、例へて見ると淺草だ、眞夏の灼熱の陽光照り返る熱砂、そこへ有象無象かワツシヨ〜と押しかけてゐる。黒い水着、赤い水着、濱バラソル、浮き輪、人、人、人、砂も見えない、岸邊もない。潮時の風呂場、而も男女混浴だ、實に大變な騒ぎではある。

此の逗子を横目に睨んで一寸三十分、松の間に隠見する岸打つ波をながめつゝ、バスを飛ばすと葉山に着く。僅か逗子より三十分、然るに此處は何と好ましく静かな天地だらう。彼を淺草の雜沓に例へれば此は外苑の芝生に比すべきか、殊に葉山へ着くとK O ボーイは故郷へ着いた様な氣がする。地久庵で下車し左折二丁すると三色旗が潮風をふくんではた〜と翻つてゐる。此の旗を仰ぎ見ると我等K O マンはニッコリする三色旗の下で、海の王者慶應、葉山の王者三色旗と叫びたくなる。東京驛

から約二時間慶應開拓の地、葉山慶應水泳部合宿所に我等は到着したのである。

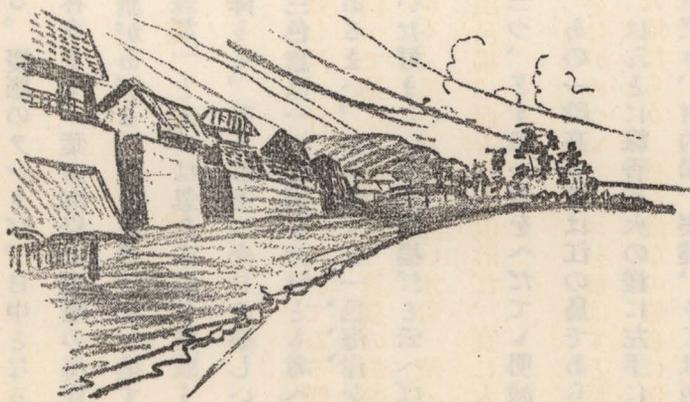
▼ 合 宿

合宿所は葉山町の北面にあたる、三色旗翻る三階建のイギリス風の建物である。ベットは約百五十許り、食堂、應接室、娛樂室、炊事場等至れり盡せりである。此等の點先輩の努力の賜と感謝の言葉もない、此の合宿で白ん坊から黒ん坊に染めあげられる。而も規律と衛生と先輩の保護指導の下に。其の生活が愉快でない事はあり得ない。

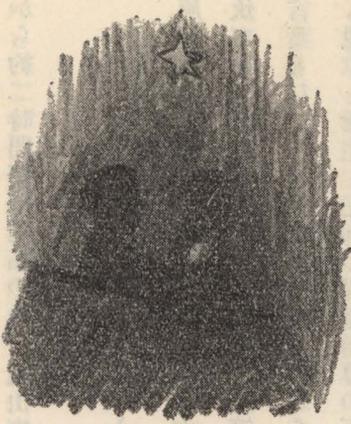
▼ 海 岸

銀砂子を播いた様な濱邊、青い空、入道雲、左手に見える松の緑は、森戸神社であらう。行手をさへぎる森戸岬を今日も太平洋の怒濤が噛んで白い飛沫をあげてゐる。此の森戸岬の巨腕に抱かれた静かな入江が葉山堀の内海岸だ。

沖に飛込臺が三つ四つ、ブイが五つ六つ、蟠居してゐる最も大きくがつしりしたのが慶應の櫓だ。之と呼應してゐるかの様に岸



には約二坪程のテントが張つてある。鮮やかに三色に染められてゐる。慶應のテントだ。日中となる
と恰も取巻くかの様に大小の海岸パラソルが此のテントのまわりに林立する。葉山海岸は慶應の海岸
だ。總て慶應ボーイの仕草が標準となる。午前十時頃飛込臺に三色旗があがる。濱は俄然活氣を呈す
る。十二時晝食時には旗が巻かれる「慶應の旗が巻かれたお晝だお晝だ」と人々は忽ち空腹を痛感す
る。日西に傾き斜陽が紫色に森戸岬を染める頃になると、三色旗が降りる、我も彼も「今日の楽しい
海水浴を終つたのだ、夕食でも腹一杯食べようか」となる。従つて三色旗は一つの標準時計とも考へ
られる、指揮棒とも見える。暑い盛り海水浴場は特筆する必要もあるまい。只お隣りに、一色海岸を
控へてゐるためか、又は慶應の典雅さがしみこんだためか、落ちついた好ましい海水浴場だと云へば
よからう。



夜の海岸に立たば漁火二つ三つ、どす黒い海をへだて、明滅
する。火の列は逗子か鎌倉か、あの一段高き處は江の島であら
う。花火があがるのが見える、ほんとに線香花火の様に左手に
は海水浴客を慰める娛樂場、玉突き、射的場、樂焼、さては西
瓜たゝきの催し物、黒山の様な人の群だ。星屑の下小暗き蔭に
點在せる椅子に何を語るか楽しいげに語る男女、ピチャ〜とさ

よく如く岸打つ波の音も乙女のおさしやきに似て心持よい。

▼ 記 念 祭

合宿閉鎖の数日前記念祭が行はれる。此の記念祭は一夏楽しく生活した葉山への愛惜と、葉山町民への感謝と、お互ひのお別れの言葉の代りにもなる。従つて會は無禮講で一夜を楽しく愉快に、腹をかへて「ワハツハツハ」で明すのである。

型通りの挨拶と御馳走がすむと餘興が始まる、花道も舞臺も食卓と椅子で作られる。觀衆は町の男女だ。夕方五時頃から詰めかけて素晴らしい景氣を見せる、七時頃には會場にあふれる騒ぎ、窓と云ふ窓も顔の鈴なりだ。

KOボーイはなかく凝り性だ。一週間も前から稽古する。従つて玄人裸足の出来ぼえだ。下題も多い、藝人も多い、劍舞、流行小唄から寸劇、掛合萬才から茶番、遂にはグランドレビューにまで進展する。劍舞で「本能寺溝の深さ幾尺ぞ」と相當ごつい所をやつた後は、南洋美人のフラ／＼ダンスで柔く人の眼を眩惑する。實に千變萬化だ。中にも面白かつたのは雑誌「キング」に出てゐた「別荘番とお嬢さん」の實演であつた。殊に女形は大出来で女性の仕草の甘さは眞に迫り驚き入ると共に、此は相當金がかゝつてゐるわいと睨んだのは此方の僻目か。

▼ 又 來 年 來 年

「又來ん來年」閉鎖二三日前黑板に大きく書かれてある。誰の書か、誰の感傷か、一夏を楽しく過して來た葉山への別れ言葉か、合宿所へか、又親しき彼氏へ寄する訣別の辭か。若人の赤き血潮の一滴が書かせた此の語。「又來ん來年」合宿同人の共通せる此の思ひ、愛惜の辭として之に如くものはなくKOボーイの合宿所への愛着の一端もほの見えて嬉しい。

▼ 糞



あなたは左ねじりの大糞が、波のまにまに／＼ばかり／＼浮きつ沈みつ、眞夏の太陽を溶びて流れるのを見た事がありますか。僕は一體糞程愉快な存在はないと思ひますよ。口から入つて胃、小腸、大腸と種々お役目を果して悠然と肛門から排泄される。まあ例へて見ればおふくろの腹から出て荒い世間の波風にもまれ／＼て、世の充分のお役にも立つて、酸いも甘いも噛みわけて、今は隠居し世を捨てた聖者の俤がありますね。殊に芳香なぞ放つ左ねじりの大糞と來たら愛すべき物の極致でせうな。處が此の愛すべき聖人ぶつた大糞が所もあらうに一色海岸をばかり／＼とやつてゐたと覺し召せ。見張りの警官瞳を凝らして見れば先程より波間に隠見する怪しの物、それと云ふ次第で呼子でも吹きかねまじき面持にて、サーベル片手に波打ちぎはへと走り下つた。何事ぞ

と走り集まつたサーベルの面々、忽ち數隻用意をとゝのへ、ポツポ船を先頭にえんや〜と漕ぎ寄せて、近よりまいり何物かと掬ひまいらせ、よく〜見れば、何の事左ねじりの聖人君子「何んぢや」人騒がせにも程がある、あはれや君子も蹴飛ばされ、捨てられんとせし處、後より乗り付けし警部殿流石は人の上に立つべき人とて、救ひまひらせ鄭重に扱かひ、之を屯所に安置し、一里四方掃海し、同類ありやなしや確かむべしと嚴命が下つたと云ふ様な大變な事にまで發展した次第。君、聖人君子も時と場合では大變な事になるものですな。時も折用意おさ〜怠りなく消毒に消毒を重ね、蠅の飛び立つ隙もなき此の消毒完全の地帯に、人もあらうに皮肉にも間近の警官殿が、チフスカ赤痢かの疑ひ。スワ一大事と安置したる君子を引き出し、一片の破片も貴げに指し行く先は警視廳細菌検査部、お鬚のはえたお醫者殿がしかつめらしくやれ遠藤培養基、やれ檢鏡、やれ動物實驗のと、不眠不休の検査々々、其の結果が何とまあ、病毒なしとの判定に、やれ〜と胸をなで下しはせしもの、遠近人の申すには「ほんにまあ糞いまく〜しい糞もあつたもんだ」と申しましたとき。ね君、之がまあ土用波にも浚はれず拾ひ残されし話の屑、嘘ウソの様な糞クソの話さ。

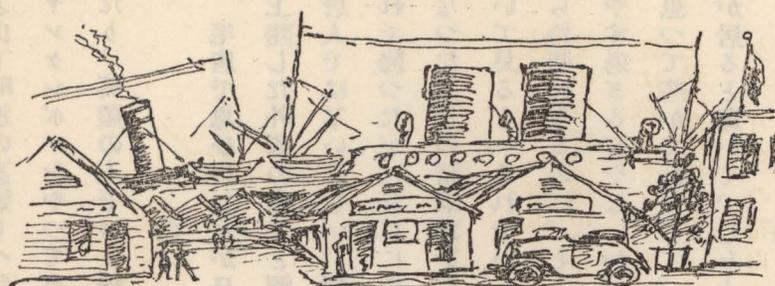
つながり蜻蛉



甘井太郎

朝は露に浴みして
澄める青空飛んでゆく
晝は赤きケイトウの
ま晝の夢路に入らうとは
夕べ月見の花白く
末は葉末で死なうとも

草間を飛びてはるくと
愉快ならめやつながり蜻蛉
葉をば褥にうちふして
たのしからめやつながり蜻蛉
妙なる香りに酔ひしれて
嬉しからめやつながり蜻蛉



横濱談議

殿

様

横濱はエキゾチックな街だ。横濱の街を卅分も歩いて居たら東京とは餘程勝手が違ふのに氣が付く事だろう。毛唐には其處が氣に入ららしい。バスの中で毛唐同志の會話を聞いた事がある。一人は永年日本に滯留して居るらしい。對手の一人は三日前に横濱に上陸したのだといふ。「我々には横濱の方がよつほど好いよ。東京はとても古くさくていけない。それに比べると横濱は最新スタイルだ。」と説明して居た。但し小生の英語の理解力は頗る自信が無いのだから或は逆なのかも知れない。日本人迄が毛唐くさくなつて居る。青年男女が殊に甚しい。東京の所謂、モゴ、モゴ、とも違ふ。時にはそれがいやらしい感じのする事さへある。

横濱は何と云つても日本の國際港都だ。毛唐の多いのは當り前だが、日本人が毛唐化して、毛唐人が日本化して居る。だから毛唐もひどいになると東京や其他の避暑地あたりでお目にかゝる様な妙に取りすましものとは違ふ。混血兒あいのこは勿論だが子供なんかは全く日本式だ。ちよつ

と山下町邊の裏通りへ行つて見給へ。毛唐の子が下駄を穿いて日本人の惡たれ小僧と一處になつてヂヤンケンボンをやつて鬼ごつこをしたり、一錢の飴玉をしやぶりながら忠臣藏の紙芝居に見入つて居たり、莫塵の上でベイ獨樂の合戦をしたりして居る。

毛唐で恩ひ出したが日本の醫療費は彼等から見るとペラ棒に廉いらしい。先日も外國船がついて、上陸した外國の水夫と酒の上の行き違ひから頭を割られた毛唐が來た。見た所横濱でも決して上等な唐人ではないらしい。創を三針縫合し、特診料や何やかやで合計拾圓の支拂を要求した。その日はそれで歸つたが三日目にやつて來たから今度は沃丁を塗つて五拾錢の票を與へた。するとくちや／＼になつた先日の請求票を取り出して何かブツ／＼言つて居る。まけて呉れと言ふのかなと思つてよく聞いて見ると「これでいゝのか？」と言ふ。「それは先日の分で初診料や、手術料(處置料)が一處だから拾圓になるのだ。その代り今日からは五拾錢だ。」と言つてやつたら「いや、これだけで好いのか？ やす過ぎるぢやないか。」と言つて不思議みたいな顔付をして居る。無い様で持つて居やがるんだなと思つて些かてれたです。だから水夫は本國で盲腸になつても、海を渡つて横濱に來て手術を受ける奴が居ると聞いて、しみ／＼日本の世間はまだ／＼住み好いのだなと感じた事であつた。

腹痛を起してニューグランドに泊つて居た毛唐が外來に來た事がある。これは又日本で手術をするのはいやだから薬だけを呉れ、そして養生法を教へてくれと言ふ。尤もニューグランドなんかに永逗留する位だから日本でやすく手術をしようなどと言ふサモしい考は無いらしい。こちらだつて毛唐に入院されたんじや困るから早速御意の儘にと言つて歸したんだが、お腹を診た時には驚いた。勿論平生などとは違つて體も大きいには相違ないが、兩側の鼠蹊部に七寸位の斜走する癩痕が左右別々にある。ヘルニアの手術癩痕だ。片方宛、一度に手術を受けたのかと尋ねたら、「同時にやつた」と答へた。日本の術者だつたら日本人の患者よりは大きくならうが、それでも恥骨結合の上部に横走三寸の創を作れば濟む事であつたらうと思はれる。諸君！七寸以上の創中（癩痕よりは遙に大きかつたに違ひない。）に毛むじやらの手を挿し込んで、全身麻酔の下に華々しく行はれたであらうヘルニア手術の壯觀を想像して下さい。「あゝ日本の外科は巧緻なものだなア」と再思三嘆する者。豈我れ一人のみならんやです。

○
横濱に來て一年半、港の風物にも稍々あいた。併し外國の軍艦は矢張り見度いすな、東郷元帥の國葬日には日、英、米、佛、伊、民、六ヶ國の艦が這入つた。病院の屋上から見渡した所、英國の艦は今年のは灰色だつたが昨年のは一番白い様だ。殆んど白と言つても好い位、米、佛は餘程白みがか

つた灰色、伊太利と支那とは日本のより僅に明るい位の色調だつたと思ふ。米國の艦は三四年前迄の寫眞では火見やぐらの様なマストであつたのに横濱に來たのは英も米も佛も皆日本式の司令塔だ。何でも日本が先鞭をつけてから世界中あれになつた相だが矢張り「本木に勝る末木なし」とかで日本のが一番いかめしくて頼もしい様に思つた。今年末に米艦を見て來た人の話に一萬噸の巡洋艦だが水雷發射管といふものは一基もないと云ふ。日本は威海營の攻撃以來水雷を重視して居る様だが米國あたりでは矢張大砲でドカン／＼やる方が好きらしい。民國のは日本の新式巡洋艦と全く同一の形で少し小型の様であつた。よく聞いたら日本の播磨造船所製、つまり和製なんだから日本と同一なのは當然であらう。

大砲の煙の色が又銘々違ふんだから面白いぢやありませんか。東郷元帥の國葬の時に見ただけだけでもフランスの大砲の煙は白い。イギリスのは丁度葉卷の煙の様な所謂紫煙で仲々氣取つて居るし、亞米利加のは白い癍に妙に煙が少なくてちよつと見ると火薬を儉約して居る様に見えたがまさか。其處へ行くと日本のは煙も澤山出るし少し黄色味を帯びて一寸すごいと云ふ感じがした。面白い事だと思つた。

可愛らしいのはフランスの水兵さんだ。丸い大黒頭布の様な帽子のてつぺんに毛絲の赤い玉が乗つかつて居る。アメリカのは皆様御存知のコックの帽子の様な白い奴。冬でも白いらしい。イギリスと

イタリーとは日本のと大差ない。一般にアメリカが一番大きく、イタリーは小さい。大部分が日本人位で、顔の色も黒いのが多い様だ。服装が異なる様に酒の飲みつ振りも違つて居る。所謂南町の獨逸ビールを飲ませる所で偶然三國水兵の飲み態を見た事があつた。アメリカはそこら中の客に愛嬌を振りまきながら、女給を笑はせたり、おどけた風をしてバーテンに話し込んだりして如何にも賑やかだ。イギリスは自分達同志だけ一つのテーブルを圍んで、しんねりむツツりとして居る。たまに物を註文する時もニコリともしないで何か低聲に話し合つて居る。フランスのはへゞれけに酔つばらつて帽子も何もかなぐり捨て、管をまいて居た。一人の奴はテーブルにうつ伏したまゝ、グロツキーになつて居たつて。何時も此の通りではないのだらうけれどもアメリカのひょうきんで賑やかなのは事實らしい。民國のはどうかつて？、さあ、南京料理を食べて老酒でも飲んで居るんでしょ。所謂本牧に自動車で乗り付けるのもアメリカとイタリーが一番おさかんの様だ。フランスや民國は温順しいです。



横濱の街は旗の多い所だ。商館と言はず、官廳と言はず必ず夫々の國旗と章旗とが掲げられて居る。ちよつと屋上から眺められるものゝみを舉げてみても、縣廳の日の丸を始めとしてニューヨーク、ナシヨナル、シチー銀行にはアメリカの星條旗、ライジングサン石油會社にはイギリスのユニオンジャックと例の貝殻を黄色く染め出した赤い旗、先日エチオピアの利殖を得たとか、放棄したとかで注目を牽いたスタンダードブキアムには米國旗が、ノールド、ドイツチエル、ロイドには例の赤地に黒の鉤十字ハッケンクロイツのナチス旗と碇に鍵を交叉したロイドレジスター、オブ、シッピングの旗が出て居る。ホテルニューグランドにも、アバート互樂莊にも、勿論我が警友病院にも、それ〴〵の旗が揚つて居る。フランスの三色旗、民國の青天白日旗、或は月と星、等旗も全く色々である。しかも之等が唯漫然と翻つて居るのではなく甚だ規格的であり、儀禮的である。例へば縣廳の日章旗は午前八時に揚り、夕頃四時には降される。國葬日の當日は勿論の事、某國の元首が崩せられたと判れば一齊に半旗が掲げられる。此の邊にも國際都市の面目が躍如たるわけである。日本人が海外で日の丸を見て故國を想ひ意氣を鼓舞されると同様に横濱に居る毛唐は夫々母國の旗の下に仕事をするのを樂しみにして居るのであらう。

漫談
飲酒漫語

杉野一葉



秋寂びて何となく肌寒く、酒の香そゞろ戀しき候とはなりぬ、松飾り屠蘇氣分の祝酒、さては更くる夜に雪のけはいを感じつゝ、妓が懷紙もて包みし銚子火鉢のうもれ火にかざしつゝ置炬燵の杯酌、又春爛漫の花見酒、いつか青葉の初鰹、暑さしのぎの涼み舟、水面をなでるそよ風に持つ盃や月の影などゝ、眞にそれゝ風情、うまみのあふるゝあれど、晩秋親しき友としみゝ汲み交はす酒盃は又えもいはれず、ましてや久しく會ふ機もなき、お互の話のうまのひたゝと合ふあたり、つい知らざるに深酒も夜霧と共に更け行くなど樂しき限りにこそと思ふなり。

酒好きの酒を味ふ又種々なり、一日の勞苦終りし晩餐の一本立の徳利より、よし肴はまづしくとも伏せたる茶碗の底に盃をのせ、ちびゝとやる一杯あり、或は酒屋の前、櫛の角よりきゆうと舌鼓打つあり、又かたはらの火鉢に土瓶かけ、緒口にてぐびりゝとやらざれば仕事のはかの行かすなどは、好き越して膏盲に入りしと云ふ可し。

又酒をたしなむ者、その折々の氣分を好むことうれし。例へば夏の夕べ水打ちすませ、青籬の蔭、湯上りの冷奴の一盞、又冬の夜の熱つ燗に湯豆腐と行くあたり、まことに樂しき趣きなりと云ふ可しされど明暗花柳に絃歌さんざめかざれば、酒の味なしと云ふが如きは、少々うれし過ぎし遊蕩氣分こそあれ。げに酒は憂ひを拂ふ玉箒とか、高樓酒を呼んで快哉をさげび、淺酌低唱思ひ／＼の趣向、亦心にくからずや。然れども酒は涙か溜息かの感傷に至りてはいやなり。

總じて酒はたほなる語あり、美しき妓の酒間にはべるはよきものなり。而したゞ溫順しきがよきとて、だまりたるまゝ空きたる盃につぎくるゝは樂しからず、さればとて賑かなるよしと、只いたづらに喋々とおべんちやら浮き／＼したるは猥りがましくも淺間しき感あり。

所謂語りて程のよさ、女らしき品もてすゝめ呉るゝは樂しくも嬉しきものなり、又素人娘の手を取りて酌強いて喜ぶは悪き趣味なり、又妓共の態度、生意氣なりけしからず、とてむくるゝ人あれど、そは反つて自に高振り驕り人侮るの態あるに氣付かざる事多し、家業人の彼等とて時には五分の魂あればなり、又徒に主客轉倒せる様も男として恥らしき事なり。

凡そ酒飲めば酔ふ、酔はうれしきものなれど、十人十種無くて七癖とも云ふ如く、酔態亦さまざまなり。即ち酔ば忽ち眠りこける眞に結構なる上戸、又酔ひば無上に樂しく朗かなるあり、これ又誠によし、酔ふては枕す美人の膝、覺めては握る天下の權、などに至りては、いさゝか誇大妄想あつかひ

にくきはじめにて、あちらこちらの梯酒も度重りては又相手迷惑の至りなり。次でブツ／＼の屁理窟上戸や泣上戸むくれ上戸に喧嘩上戸等々に至りては酒飲まざるに如かざるなり。平常無口なるに酒飲めば忽ち賑に唱ひ踊るなどうれしきものなれど、酔にまかせて日頃の鬱憤此の時ぞとばかりにむくれくだ／＼と管を巻き立て、さては盃盤狼籍を極むるなど面白き藝には非ず、まして酔ひたる風によそほひて勝手に振舞ひ、風向の悪きを知れば狸を極め込み、覺めては酒のなせる業とうそぶくなど、男の子として卑劣の極ぞ、これ酒をたしなむ者の最も擯斥する所なり、されば古くより酒は飲んで亂れず、又云ふ酒飲むはよし飲まる可からず。

蓋し昔より酒は萬人の慶弔に必ず伴ふもの、慶びは飲んで更に楽しく、悲みは飲んで忘れ拂ふ可し決して亂る可きにあらず、愚痴る可きものにあらず。それ酒は百薬の長と云ふなれど、若しその飲用人よろしきを得ざれば、そは只狂水と化するのみ。

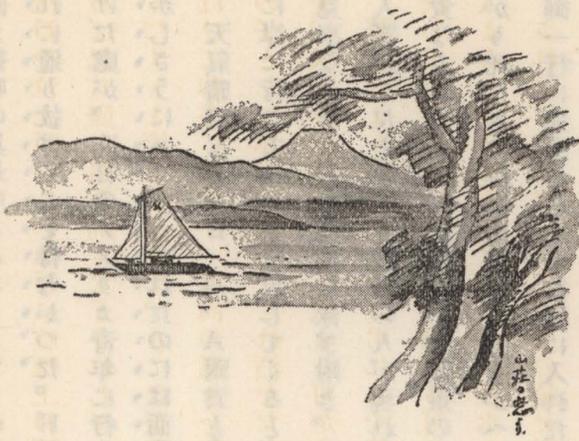
さればこそ酒飲むは先づ己の量を忘る可からず、又人に強ひる可からず、強ひられて飲む酒又不味し、酒飲みて愉快なるは我人共に楽しきも、酔ふて狂亂するは人迷惑にして眞に醜きものぞ、又酒飲むこと決して誇る可き事に非ず、如何程口に白鷹を味ひ、白雪を飲み、褒紋、天下の白鹿を論ずるとも、飲用の心がまへ缺けたるは、酒店の梁に下がる招牌程の價もなきものなり。

山中山莊の印象

たけぼう

オヨツト

山中湖は東日紙上の徳富蘇峰翁の名文に詳細なる如く、富士に連なり、道志山脈を巡らし風光絶佳である。此處にヨットを馳驅するのは實に壯快である。山莊には五米の湖上第一のヨットがある。最初は全くの新米で、暇なるが儘に體育會の幹事諸君に同乗させて貰ふが、突風を喰つて波を浴びる度毎に膽を冷す。その中に上達して自分で操縦する様になつた。或る夕方である。H君と二人で、群がるオワンボートや、十二呎級のヨット連を追ひ抜いて湖心を快走してゐる中に、一隻のスマートな青色のヨットを見附けた。よし一つ挑戦してやれと近附いて見ると、何とアメリカ人らしい若い一組が、帆の蔭に並んで、まさに



熱き接吻の眞最中とある。こちらの方が顔負けしてあはてたが、如何せん、風の關係で敵艇にすれすれに通じ抜けざるを得なかつた。H君湖水に唾をはくこと兩三回、翌日山中ホテルに飯を食ひに出掛けた處が、昨日のアメリカ青年に行き遭つた。突然「今日は」と怪しげなる日本語で挨拶されて、懐かしさうにニコ／＼されたのには面喰つた。どうも吾々東洋人とはピンツが違ふらしい。

天氣晴朗なる一日、H、A兩君と乗り出す。いゝ加減走り廻つて後、H君が急に岸に行つてハルンを出してくるとばかり、人無きを幸フルチンで飛び込んだ。

見事なクロールで湖岸に泳ぎ付き、景氣よく立ち上つた刹那である。藪の小路に人影がしたと思ふと數人の人が現れ出でた。惧れ多くも五湖に避暑遊ばされる高貴なるお方と、御姫様方の御散策の一行である。あはを喰つたH君、ざぶりとばかり死にも狂ひの潜水で泳ぎかへつたが、時既に遅し、H君の全裸の肉體美を御一行に完膚なきまで御覽に入れたのであつた。充ちあふれんとするハルンを我慢して泳ぎ還つたので、さすがのH君も唇を眞青にしてハア／＼いつてゐる。そ

の一日、H君のしよげ方といつたら、はたの見る目も氣の毒とも笑止とも、腹を抱へて大笑ひであつた。おまけに翌日、御案内の駐在巡査に行き遇つて「泳ぐにはものをつげにやいかん」と文句を言はれたといつて又噴慨を再發させてゐた。



湖水は四方を山に圍まれてゐるので、吹き込む風向が仲々一定しない。その爲にいざ歸らうと思つても思ふ様に目的地に着かない。ことに午前中に乗り出していざ晝飯といふ時逆風でも吹き出すとホト／＼困つてしまふ。その中に山莊の飯の鐘が鳴り出す。腹がすくので益々慌てるが駄目である。山莊で氣が附いたと見えて、からかひ半分鐘を鳴らす。遂に二時頃まで遙か山莊の方をにらみつゝ、空腹の勞働を余儀なくされるのである。

○ 魚 泥 棒

湖上には毎夜湖畔の漁人が「なわ」を仕掛けておく。遊びに倦きてくるとこれをねらひ出す、月光の夜、丑滿時を見計つて三人ばかりでカヌーを漕ぎ出す。懷中電灯の光を頼りに、晝間見付けて置いた目標に漕ぎよせる。丁度敵前夜間攻撃の氣持である。音のせぬ様にそろ／＼と引きあげると、七八寸もある鮒や、三歳もの鯰が躍りあがる。嬉しさに聲でもあげれば大變である。岸の家に感付かれて仕舞ふ。月光に躍る銀鱗を握りしめて天を仰げば、靈峰富士の威容が黒々とせまつてゐる。五合目あたりの山舎であらう。螢の様な灯が一つ二つ、チラ／＼とまた／＼く。時々三國峠の彼方で遠雷がいなづまする。活動で見た國定忠治の、赤城の山を見棄て、長嘆する好ましき感じを連想したのであつた。

○ お 祭 り

八月中旬には湖上祭があり、二十六日には吉田の火祭りがある。今年は雨の爲に湖上祭は寂しいものであつたが火祭りは仲々盛典であつた。吉田の市街に二間もある薪塔を、軒並に打ち立て、夜になると一齊に火をはなつのである。炎々と燃え上る裸火の美しさは、吾が塾の名物、カンテラ行列の壯觀を御存知の方には容易に連想されることである。お宮には盛装をこらした青年男女が群をなし、年に一度の歡樂の夜を待つて興奮の息をはずませてゐる。余もラグビーの連中と見物に行つた。しかし裏の森に見物にゆくのは遠慮した。ねり歩いての歸途三人連れの若い婦人に遇ふ。その一人はびつこをひいてゐた。ラグビーの連中は顔見知りと見えて何かと話してゐる様子である。その中に悪い足に話が及ぶと、挫いたのだと辯解してゐた。その途端に余と顔を見合せた。何と以前トリツベルダレンクで入院してゐた確か二十四、五歳になる婦人であつた。その時の彼女のバツの悪さは實に氣の毒であつた。若い女の所謂穴があれば入りたいたいといふ風情を始めてつくづく味ふ事が出來た。あまり氣の毒なので余は素早く姿を消してあげたが、その晩は氣の毒で寝ざめがとても悪かつたのである。

寸劇特診

憲坊

昭和十年十一月三日、

滿洲北鐵病院外科外來、

登場人物、

醫學士 日本人 日本語のみを解す、
 患者 ロシヤ人 ロシヤ語のみを解す、
 看護婦 日本人 日、滿語に通ず、
 事務員 滿洲人 滿、露語に通ず、

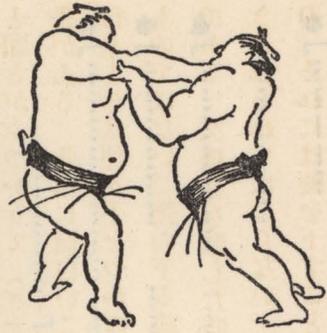
醫「ドウしましたか、何時から、どんな工合で

看「……………」

醫「一言きくのに數倍の時間が立たぬと返事が
 來ない、時には何を尋ねたか忘れてしまふに
 アかなわん」

看「……………」
 事「……………」
 患「……………」
 事「……………」





體驗談 相撲 愚感

名 倉 厚

「押さば押せ引かば押せ」と云ふ相撲道の金言がある。之の言葉は一見妙な風に聞こえるが實に簡單にして要を云ひ表はして居る。相撲の強弱を論ずるには必ず「良く押す」「良く動く」の二言にて云ひ表はせるものである。直徑十五尺（三、四年前迄は十三尺であつた）の土俵内に於て短時間の内に勝敗を決する上に於て押すに越した手段はないので、良く動いて良い腰をして居ても押す力がなければ絶體に勝つことは出来ない。それには足の出し方、手の出し方、腰の出し方、肩の出し方等微妙なる技倆が必要である。之の點練習を要する所以であつて勿論全力を押に用ふる方法である。先づ土俵内の事に就いて云へばセメントの如く堅く僅かの砂の上で定めし痛いであらうと思ふが、全く變なもので其の心配は少しもなく、却つて砂の多い柔かい土俵は怪我も多く、側から見て居ても實にあぶないものである。之の點所々に態々セメントを用ひて堅めた土俵を多く見受ける。

締込は多く天幕に用ふる布地を使用して居るが概ね三圍り位である。四股を踏むのも妙なものであるが之が馬鹿に出来ないもので、腰の下りる様になることが驚く程である。誰に教はるともなく四股を踏む時に鳴る様になる。

仕切りの仕方も色々あるが、先づ第一に腰をぐつと落して腰を定めて軽く前に手を置く程度で手に入力を入れては立てるものではない。扱て立ち合ひであるが非常に難かしいものである、勝敗の大部分を決するのは主に立ち合ひである、之の呼吸が云ふに云はれぬ萬斛の味がある。顎及首に力を入れて相手の胸に額を附ける程度にぶつかるのであるが、相方が之の姿勢を取るときは頭と頭とが衝突すること火を見るより明かである。之の時頭を決して上げてはならないのであつて飽迄で頭であたらなくてはならない。然し之の際頭と頭とが方向をやゝ誤りすれ異ふことがある、之の時耳と耳とが及び耳と頭とがぶつかりて *Ochaematom* を發生する。之の立合の際腰を下し足が出て向かぬとはたかれる恐がある。此處に面白いことは掌を下に向けて進むときは直ぐ前に手をつきやすく、掌を上に向けて行くときは仲々手をつかぬものである。さて之の突きあつた時相手の腰が下つて終へば仲々押せるものではない。腰の下る前に押したならば軽くもつて行けるものである、之の點立合ひの重要な點である。又機先を制した時は自分の角力に相手を引き入れることが出来るが、相手の角力に自分が引き入れられてはならない。又之の際特記することは脇をかたくすること下手下手にと行かねばならぬ。それには腰を下すことが必要である。相手の締込を握ることは考へものであつて前禪をあさく取

ることが必要である。何んとなれば締込をつかむと相手からもつかまれて五分五分であるからである。之の點前禪を取れば相手の下に入れて押し易いからである。

相手の腕を殺すと云ふことは一番大切なことであるが、此處に於て足と腰と頭が必要である。腕を殺せば體も殺せて自由に取扱かへるからである。締込を掴んだならば何時でも相手の體を自分の體に引附けて居なくてはならない、それは相手の所業を豫防すると同時に自分の所業のねらひ所である。足と手とは同側を出す可きでそうしないとひねられる恐がある。猶其の他差した腕をかへして(Supination)置くことは絶體に必要で差したまゝでは腕の用をなさず、又振られた時骨折をまねくこと明白である。

其の他廻しの切り方と云ふことがある。相手が禪を握つて居るのを離させる方法で、此の際自分の體位をくささずに行ふ方法で、之れは云はゞ高等戰術に入るが、實に必要なことで面白味のある所である。土俵際の要領等も實に多々あるが其の一例として打棄りを防ぐ爲めに相手の體に引ついで相手の腰をかゝへ肛門を開く姿勢を取る等ある。

相撲は相手の土俵(自他と二分して)で取る様に心懸け早戦早決を要する。要するに氣合と技倆とは七分三分の力を有する競技である。

猶柔道と相撲とを同様に語る人々を良く見受けるが、似て居る點もあらうが柔道は引く力が主であつて相撲は押す力が主でなくてはならない。

角力に就いて何か書けと云はれ、思ひ出すまゝに自分の體驗せる所を思ひ出して愚説を披瀝する。

駄句

時雨して 無電のポール 見ずなりぬ、

鳩飛ぶや 錦木の紅 今日殊に、

初霜や 勤めへ急ぐ 驛のむれ、

朝もやの 晴るれば近かき 鷺の宮、

鯉跳ねて 秋深みたる 静寂かな、

山装ふ 狭間深かくも 旗日哉。

文

鎮



編輯餘談

お色けは兎角御婦人に多い様だ

不 知 人

微力も省す、厚顔しくも雑誌をお引受け致しまして、……でもやります以上は何とか面白いものを作りたいと、色々とせびつて、皆様から澤山に原稿を頂き、さて編輯にかゝつて見ますと、どうも同じ様な原稿が澤山にございます。

先づ始めには、

○天高く晴れた秋の日、スタンドに腰を下ろし、女學生のバスケットボールを見ながら。

小作一「女の子つて、張切つて試合するね、少しリードされると泣きながらやるね、」

小作二「そうだ、一生懸命らしいね、氣一本なんだね、」

地 主「ナニ、泣きながら……一生懸命……一本やるつて……ウフ、ハ、ハ、」

救護看護嬢「クス〜」

小作一、二「ダァ——」

次には、

○今年は神宮競技で外苑は賑はつた。救護に行つた新人歸つて来て、どうも女の子は競技をしな
がら泣くよ、と感心すれば、新婚の○○君すかさず

「そうさ、女はやりながら泣くものさ」

そして又

○神宮救護に行きし×君、

「女つて負けても勝つても泣くね」

最近フラウをもらひたての△君、

「ウン……………最中だつて泣くよ」、

終りに

○女子籠球選手味方の苦戦に聲をからして「シツカリ〜、シツカリ入れてね」、
見物中の×君「へエ……………!!」

と云つた様に、話の種は何でも彼でも女、女で癪にさわつちやう位です。運動でもやつぱり女でな
くちや、皆様のお目に止まらないんだらうか、俺だつて運動をやらせりや大したもんなんだが、よし

此度のレースには女の眞似をしてやらう。とう／＼レースの日がやつて來ました。その日私は整調をやつて、川下からスタートして一生懸命ウン／＼漕ぎました、言問あたりから大分いゝ工合になつて來た、これならたしかだ、艇庫の前で完全に抜いちやつたです。もう後は白髭だ、白髭橋を越せばすぐゴールだ、ラクな氣持になつて橋を越して、ヒョツと見ると上には應援團の方々が一杯、赤や白の旗を振つて、「整調シツカリいけ、／＼」此所でこれだけ抜いで居れば大丈夫、今日こそ一つモテてやらうと大聲で

「もういゝワヨ」とその途端コツクスの奴目をむいて「ア。ト。三。十。本、シツカリいけ」。

注意事項 新聞は毎朝よく見ておくこと

關西の出張にかこつけて、計劃的に一日早く歸京し來れる惡友に、誘はれて某所に遊びたる男、夜更けてさて歸ろうかと腰を上げたる所、外は先頃の何十年來の土砂降りに、誘はるればもと／＼嫌ひの筈はなく二人してそのまゝ地獄に落ちにけり。明くる日その男、家に歸りて、昨晩は友達の家にて、あの雨のこと故、歸ろうにも歸られず一晚泊めて貰つたとて難なく鬼門を通過せるが、さて一方の惡友は吾家の玄關に立ちて、いとも景氣よく、「たつた今、燕で歸つて來たよ」と言ひもあへず、立ち現はれたる山の神、「昨日の豪雨にて東海道は不通なりと新聞に見たるが、さすがに燕だけは通つたものと見えるね」。

紀行文 思ひ出草

久 助

僕のテーブルの上のメモに刀林締切十一月十日と記してある。實はずつと以前に編輯の方から御依頼を受けて一應々諾の意味の返事を差出したのでメモに記載したと見える。而るに今日は締切をとつくに過ぎた某日である。編輯者方の御苦勞を思ふと大變申譯けない事であつて、筆者とても毎日々々心にかけてはゐたのであつたが雑事に取紛れ、つひ心にもなく延々となつてしまつた事を茲にお詫び申上げる次第である。斯う書いて來ると記事に如何にも何か目星でも附いてゐて、たゞ時間がない様に聞えるが唯御引受けしたのみであつて、いざペンを取つて見ると動きが悪くていやに抵抗があると云ふ始末で、甚だ無責任な御引受けを致したと實に後悔してゐる。しかし筆者も男(?)である。一つ敏度の良いアンブリフアイヤーでも造つて、そろ／＼ザイテンを動かすとしよう。實は「ロシア」漫談でも良いから書けとの御注文を受けては居たが、もう此の事に就ては種のないのに數ヶ所でお話をした事であり、亦數冊の雜誌にも書かされた事として種切れと言ふ有様であるので此點は一つ御寛容を御願ひして、其代り此の旅行中に於て得た二三の思ひ出草を述べさせて載いてメモの記事を取り消さ

せて載く事とする。

○ワンスモアブリーズ戦法

外國語に堪能である事は誠に望ましい事である。それは單に話が出来ると言ふ以外に今日の様に外國文献に廣く眼を通す必要に迫られてゐる時代には熟々痛感させられる事である。しかし仲々時間と努力を要する事であつて、一國語にすら通するに至難である。その上相當にタレントが關係して來る。英國エデンバラ大學のマーチャー教授の如きは二十何ヶ國かの語學に通じてゐて、しかも仲々夫々に相當の深みがあるとの話である。現に萬國生理學會の閉會式辭に此の教授が六ヶ國の言葉を使ひ分けて挨拶を、しかも各國人の前で堂々とされた程であるが、斯うした人は例外に屬するとしても少なく共一ヶ國語位には何とかして通じ度いものである。處で今度向ふへ行くに就



て筆者は英語の會話を毎日一時間、時には二時間づゝ二十四日間に亙つてさる英國人について學んだ。これで一つ話をしてやらうと臆面もなく考へた迄はよかつたが、さて實際に外人に會つて見ると言ふ

と、舌筋が強直して一つも話が出来ない。相當に氣の強い方ではあるがさつぱり口が開かない。やつと文句が考へ附いた頃には話が半分先の方へ進んでゐて、結局何の役にも立たないと言ふ有様であつた。それでも長い旅行中には片言混りの話が一つ二つも言へるだけの度胸が着いた。モスコーへ着いた時出迎への先生等も大抵は英語であつたので先づ／＼安心した。處が會話の途中に相手方から「ワンスモアー、ブリーズ」とやられた事があつたが此の時にはドキツとした物である。相手が英米人であればいざ知らずロシア人ぢやないか、生意氣だと思つて見たがどうもこちらの方が「ファー、イースト」である。確かに下手である事をドキツとした瞬間に氣付いたので改めてゆつくりと言ひ直した處、どうにか通じたらしく再び繰り返さなかつたので安心した事であつた。其後英米人でない外國人と話す場合餘り相手の方が上手でない場合は勿論、上手であつても先づこちらから「ワンスモアー、ブリーズ」とやつて見た處これが相當に役立つて相手の氣を呑み込むことの一策であるを感じ、時折用ひたのであつたが、これを又むやみと使ふと地金が出る事になるのであつて臨機應變に使ひ分ければ確かに役立つ一策である事を體驗したのである。

○モスコーの思ひ出

今も尙印象深く残つてゐる物にレーニンの墓地がある。皮肉にも之がクレムリン宮殿の眞ん前にあつて、堂々たる大理石の殿堂の中に全く生きるが如く永遠の眠りに就てゐる彼の顔貌は今も尙眼前に

あり／＼と思ひ出されるのである。年に一度しか拜觀が出来ない處を學會といふので特に公開されたので確か八月十七日であつたと思ふが、そぼ降る雨の中を友人とホテルからテックツて出かけたのであつた。會員の人等が大部來たことゝ見えて列が作られて待つてゐる。入口と出口には劍ツケ鐵砲の番兵がゐかめしく衝立つてゐる。恐る／＼中へ這入ると入口が一つの大きな大理石の室になつてゐる。そこを通ると第二室があつて此處が一段と低い約十疊位のやはり大理石の室である。その真中が一寸高くなつてゐてそこに主人公レーニンのライヘが軍服すがたでまるで生きるが如く横たはつてゐるのである。このライヘは四角のガラス箱の中に納まつてゐて適當に照らされてゐる電燈の光で相當良く拜觀が出来る様になつてゐる。此の棺の四隣には門と同じ番兵が衝立つてゐて仲々警戒嚴重である。之等の人々の他に背廣の紳士が正面に立つてゐた。此の男どこかで見受けた顔だと思ひつゝ此の棺を巡つて靜々と歩いてゐる中に學會の情報部長であると、以前モスコのボックスで紹介された事に氣付ゐた。そして何故彼が此處に衝立つてゐるのかといふ意味迄も判つきりと思ひ浮んで來て一層レーニンの印象が深められた譯けである。此の先生は名前もスバルスチンと言つて、モスコ國立榮養研究所の所長さんなのである。筆者はこの先生と八月三日の夜ホテル、ユーロップ（レニングラード市）の一室に於て深更まで飲んだことがある。と言ふと不思議の様でもあるが、實は加藤先生が學會代表の五人の一員として撰ばれた事、及びモスコ市中央放送局に向つて日本語で挨拶を述べて貰ひ



度いと言ふ事を報道に來られた先生であつたので話に花が咲いて深更まで盃を重ねたわけである。その時此の先生の胸に輝く二つの勳章の事が話題となつた。その一つは彼氏の言ふ處に依ればエポルユーシヨンで貰つたのであるとのこと、他の一つがレーニンの屍骸を腐らない様に作り上げた功によつて賜はつたのだと自慢らしく取りはづして我々一同見せて貰つたのであつたが、若し此のライヘが腐る事でもあつたら「私の首」にと言つて手で首を切り落すデエスチャーをして見せた其の先生なのである。筆者は彼スバルステン先生の爲にいつ迄もライヘが腐らない様に祈る者の一人である。

○ハルビンのトビツク

僕等二人だけは先生一行に一日先んじて、歸途もチタからハルビン、新京へと取つたのであつた。別に他意あつたわけではない。知らぬ天地への憧れと、新京での講演、それからレニングラードに居た時再三、さる日本の先生から歸りは一度ハルビンを見給へ、あそこを見ないで歸るのは嘘だよと仲々意味ありげな句調で言はれたので、稍々好奇心も手傳つて別コースを撰んだのであつた。新京や満州里の情緒も捨て難いものがあるが、紙面が相當にかさばつて來た

のでハルビンの一トビツクに就いて記載しやう。一泊の豫定で先づ宿を取つたのが露人經營のさるホテルであつた。何にしても土地不案内な所へ來たのでこんな時にはボーイに尋ねるに限るとあつてホテルに一先づ落着くとベルを押して彼氏の來訪を求めた。僕等は東京の或る學校に勤めてゐる者だかと先づ彼氏への挑戦の言葉を與へて置いてから、さてどこか面白い處へ案内して呉れないかと機をはずさず尋ねた處、彼氏へーと手を頭にやり乍ら、もう相當の年輩の爺さんらしく「東京と言ひますと思ひ出しましたが大部以前の事、東京の慶應と言ふ大學の加藤先生とか言はれたが、澤山の墓を持つて來られて若い御弟子さん四、五人も居ましたが、ホテルへ御泊りになりましたが、お若い方からどこかへ御案内しろと言はれまして」と言はれてひやりとした。世の中は廣い様で狭いものである。

戀 心

戀する心のそれだらうか、
こんな好きになつたもの
好き好き好き大好きと言つたとて
黙つてゐても好きなのは
戀する心のそれだらうか、

十 二 月

落葉なく
寒けき空に裸木の
かほそき枝はふるひつゝ
三つ星の淋しくかゝりてあれば
我も亦
ほの白き路歩むとおぼしめせ、



ひ
か
る

新作落語 天の原

文 鎮

瓢六「秋はいゝですなあ」

禿平「何を今更云ふてんね、四季の中で秋がよいのは昔から極つてんねがな」

瓢六「ホホー、そうかいな、一體何年位前からそう極つたんや」

禿平「何年位前つて、あんたそれは解りやせんがな、すうと大昔からやがな」

瓢六「大そう偉らそうに云ふてんねやが、あんた割合に物知りやおまへんな」

禿平「ホンならあんた知つてんか」

瓢六「知らないでどないする、現代の教育を受けた者が、あんたそんな事知らんや云ひよつたら、人さんに笑はれまつせ、よく聞いときなはれ、これはな皇紀一千二百三十四年阿部の鎌足と云ふ偉い人が」

禿平「阿部鎌足やありやへんがな、仲麿やがな」

瓢六「そやそや、阿部仲麿云ふ人が天子様のお使でやな、支那の國に行かはつたんや、今と異つて乗るものはあんまり上等なのがなかつた、それで往き復りの日數だつて、大變や、まる五年かゝつたんや」

禿平「ホホー、えらいもんやな」

瓢六「阿部仲麿見たいな偉い人やに依つて、支那の國で一所懸命勉強しなはつた、けれどなやつぱり仲麿さんかて人間や、長い事向ふの國に居ると、故里が戀しくなる、そこで仲麿と云ふ人が歌を詠んだ」

禿平「ホホー歌？ どんな歌や」

瓢六「良うおぼえときなはれ、それはな―天の原振さけ見れば春日なる三笠の山に出し月かも―」

つてんや」

禿平「成る程、豪氣なもんやな、それからどないした」

瓢六「それからすつかり仲麿さんホームシックにかゝりはつてな、歸りの舟がもう日本の國へ着くと云ふ間際に、海の中へ飛び込んで、心中してしまはつたんや」

禿平「心中？ 誰とや？」

瓢六「誰とつて、あんた、海の中へ飛び込みや心中やがな」

禿平「ほんなら此の夏鎌倉の海岸で、仰山若い女の人が海の中へ飛び込んでゐたが、あれ皆心中か、勿體ない事するもんやな」

瓢六「あんた何云ふてんやな、あれは海水浴やがな、混つかえしてはいかんがな」

禿平「そんなら早く云はんかいな」

瓢六「運のよい人は仕方のないもんやて、仲麿はん

は途中サメにも咬まれずにな、鯛の浦まで流れてきやはつたんや」

禿平「それは又よく流れたもんやな、目出度いことや、それで生きてなはつたのか」

瓢六「幸な事にな、丁度通りかゝつた漁師に助けられなはつたんや」

禿平「フーン、運のいゝ人もあるもんやな、俺も一度だけそんな偉い人を助け度いもんやな、それで御褒美たんと貰つたやろなあ！」

瓢六「情ないこと云はんといてや、あんたすぐ御褒美やとか何とか云ふんでいかん、第一出世せんがな」

禿平「あんまり大きな口きかんといてや、此の間淺草の活動の歸りに、あんた何んて云ふた、」

瓢六「わて何か云ひましたか」

禿平「何か云ひましたかとは恐れ入つたね、どうも、活動は見たけれどお腹がすいて來た、何ぞお

ちてはないかな、と云ふたトタンに、足で踏んだのが大きな財布、あたりの人が見てやへんかと、そうと拾つて、誰にも云ふなよ、随分膨らんで居るから少く見積つても、百とは下るまいよ、警察へ届けても一割貰つて十圓、二割貰つて二十圓、そうしたらおまへさんの好きなもの何でも腹一杯おごつてやる、なんて大きな事云つて、警察へ行つて開いて見たら、古新聞が這入つてゐた、おまけに警察じや、俺まで一緒に怒られる、あの時なんて云つた？、あゝ今日も御褒美を取り逃がした」

瓢六「よくつべこべと古い事を覚えてんねやな、そんなつまらん事ばかり氣にするよつてに、一寸も偉ふならんねがな」、

秃平「それもそうやな、それで仲麿さんどないになりましたんや」

瓢六「漁師の看病がよかつたやで日増によくなる、もう此の頃ではその邊の海岸でも、歩ける様になる、處が仲麿さんの様な偉い人によつて、その邊の漁師の娘さん達が、こつそりモーションをかける」

秃平「あんた見かけによらん達者やな、英語もいけるんやな」、

瓢六「いけると云ふ程でもありませんがね、少し位はね」、

秃平「いつ習つたんや」

瓢六「何時つて、私やこれでも若い頃には、異人さんと交際がありましたん」

秃平「洋行でもしなはつたかね」

瓢六「洋行とまでは行きまへんがね、一寸と神戸の方で」

秃平「ホホー、神戸で、で一體何商賣してはつた、」
瓢六「何に、俵の方でさあ」

禿平「ハハア、車、自動車屋さんですな」

瓢六「いや、その人の方をね、」

禿平「何ーんだ、俵引きか、早よう云はんかいな、
わて又豪商かと思つたに、あほらし！ 所で

そのモー

シヨンが

どないな

りまして

ん」

瓢六「けれどや

な、相手

は大そう

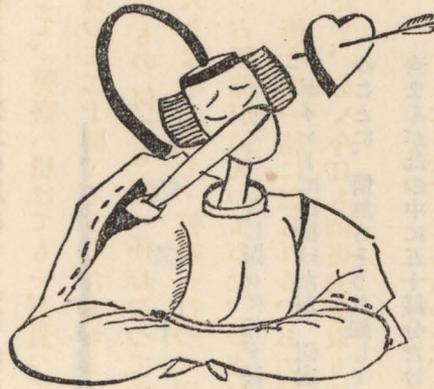
な方や、

漁師風情

の娘てんや齒が立たへん、その一人がとう

く戀ひ焦れて心中する仕末」

禿平「例の海にドブンとやる方やて」



瓢六「いや、今度は松の枝にブラ下つたんです」

禿平「松の木とは驚いたね、」

瓢六「そこで仲麿さんがいつまでも此の土地に、居
なはつたんじや、此の後又誰に間違ひがある
かも分らん云ふて、トウく都へお送り申す
ことにしたんや、仲麿さんを助けた漁師が附
いてな、都に行くと天子様始め、大慶び、早
速酒盛が始まる」

禿平「腹がグーく鳴つて來よつた」

瓢六「いやしいな、この人は、食物の話をするとなす
ぐにあれだ」

禿平「瓢六さんかて、昨日からカケウドンばかり食
べてやはるがな、」

瓢六「餘計な事云はんといて、見なはれお客さん方
が笑つてはるやないか」

禿平「ほんまに」

瓢六「なにがほんまやな、處で宴たけなわとなる頃、

仲麿さん徐に申上げまするは、仲麿彼の地に
参りまして、親身の様に身のまはりの事など
して下されましたる者一人、連れ戻りまして
御座りまする、——と言上に及ぶと、天子様い

たく御満足にて——してその者も早う此所に呼
ぶがよからう……だがそれは、男子か、女子か——
そこで仲麿さんが——ハハア、漁師に御座ります
る」。

秘話 スー プ

一ルンペン久し振りに五十錢玉一つ手にしたので張り切つてキン
グポイントに出掛けたが、何處へ行つてもギザ一つでは駄目よ、と
のことに、情無さそうな顔して居たが、やをら辨當箱の蓋を開けて
濟まんが此の中に五十錢分だけ小便をして呉れ、と云ふ。それでど
うするの、と問はれてルンペン君、「仕用がないからスープでがまん
しとこ!!!」

長屋情話 口惜しいワ

數日仕事で家をあけた熊さん、相當に張り切つて吾が家に戻り來りしが、日頃自慢のかみさん、さすがに察しよければ、あいにく今日から〇〇が始つたところ、お氣の毒ですがこれで適當に善處して來ると、長火鉢の引出しより五圓札一枚を出して渡しぬ。一寸照れた熊さん、それではと出掛けて横丁を曲りしとたんに出會ひたるは仲間の八ツさんの女房、「おや熊さん、珍しいわね、何處へ？」と問はれれば、些か恥しき思して、それでも一部始終打ちあけたところ、いたく同情せる八公の女房、そんな無駄遣ひをせずとも丁度うちの亭主が留守だから……とてそれで間に合せしまひたるが、さすがに氣のよき男なれば最前の五圓札を進呈して八さんの留守宅を辭しぬ。餘り歸りの早きに不思議がりて訊ねたる熊さんのかみさん、包みかくさず言つてしまひし熊さんの話を聞き終りて、口惜しさうに「お前さんの留守中にあたしや八ツさんにた^〇だで……」

秋 三 題

治 生

秋なれば

○

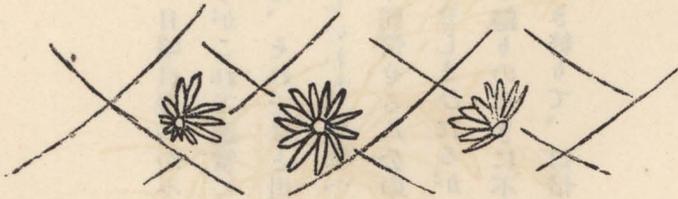
草に混つた名も無い菊が
そつと小さな花を持つ

草の間に

そつと小さく咲いてはゐるが
花の色香は目にさえる

○

別館に 通う路の邊
もみぢ葉は 常盤木の間に
赤々と 色づきにけり





四年ぶり

都に住みて

たわよなる

稲田の秋を

秘かにも

憶ふ心に

別館へ

往き來に見たる

もみぢ葉は

常盤木の間に

色づきて

秋をさゝやく

○

燃えた紅葉の 葉色もあせて

濡れて冷い

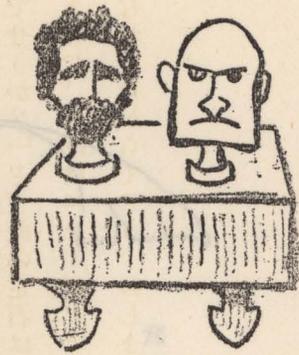
濡れて冷い 雨が降る

歌を唱はぬ こぼろぎ一つ

怯ちて可哀や

怯ちて可哀や 部屋の隅





童話 伊エ戦争と吳清源

關 東 求 子

凡そ世の中で皆さんの血を湧かし肉を躍らすものに、戦争譚程いゝものはありません。それで今日は「伊エ戦争と吳清源さん」と言ふ面白いお話を致しませう。

御承知の通り只今は伊太利とエチオピアとは大變仲違をしてゐて、今にも戦争をオツ始めそうな危機に直面してをります。ですから世界中到る所で伊エ問題は噂に上つてゐます。こゝでも其の例に洩れず、伊エ若し戦はば……とか、伊太利の化學兵器よくエチオピアを屈するか！とか、エチオピアのゲリラ戦よくアドワの勝利を保持するか！等の問題で議論は議論を生み、互に興奮して聲も自然高調しいつ果てるとも分りませんでした。偶々碁で有名な吳清源さんが通りかゝり餘り騒々しいので一體何事であらうかとそつと耳を澄まして暫く聞いてゐました所、どうやら伊・エ戦争のことらしいので大變興味を持ち、中に入つて事の始終を聞きました。すると、若し伊太利とエチオピアとが戦争を始

めるとすれば果していづれが先に手を出すかと議論の中心であることが分りました。これを聞いた吳さんは大變馬鹿々々しい論だと思つたのでせう、呵々大笑して即座に「それはエチオピアが先に手を出すに定まつてゐますよ」と一言残して立ち去りました。一同アツケに取られてボカンとしてゐましたが、暫くしてその中の一人がボンと膝を打ち「成る程そうだねエ」と言ひました。と言ふのは伊太利は白人だから白、エチオピアは黒人だから黒、つまり白と黒との戦だから黒が先に手を出すにきまつてると言ふのだそうです。翌日吳清源さんが昨夜の首尾はどうであつたか知らと案じながら通りかゝりますと、急いで窓から呼び止められ「昨夜は大變有り難う御座いました。お蔭で皆がやつと合點しました。」と大變丁寧にお禮を言はれましたので少々テレでゐますと次にこんな質問を受けました。「エチオピアでは昔から赤ん坊が決して生れないと言ふことを聞きましたが、一體それはどう云ふわけせうか？」と。此の定石はずれの質問には流石の吳さんも參つて、兜を脱ぎ遂に馳け出してしまひました。それはエチオピアでは生れる子は皆んな黒ん坊ばかりで、赤ん坊ではないと言ふことを知らなかつたからでせう。おしまひ。



幕末異聞

互

角

禿

筆

夕暗せまる京の街をヒタ／＼と歩いて来る二人の武士、

武「いかゞで御座るかな」

武「チヨト 参らふでは御座らぬか」

門前々々の常夜燈にはもう燈明が入つて居る。

×

×

×

東山三十六峰も靜かに眠る頃……

妓「夜もいたく更けましたが、御二方様共おも

どりで御座りますか」

武二「イヤ 雜魚寢と致さうか……」

武三「ソチャ どうぢやの……」

妓「ハイ 結構で御座ります、では……」

× × ×

鳴の流れも音絶えて……夜は深々と更け渡る、

武二「モジモジ〜! ……」

妓「?」

武三「モソモソ〜……………」

妓「? ? ? !」

妓すばやく立ち出でて

「妓「あゝ、モシ御二方様、相打ちに御座ります
る」



少年物語 酒吞童子 of 悲しみ

庸 兵

だろ

俺は

強いんだもの



俺はとても涙脆い、だから感激して泣いた事は數へ切れないが悲しかった事、それにとてもが付いては猶更無い。然しあゝそうだ大分古い話になるが未だ幼りし時、今を去んぬる二十餘年前幼稚園に行つた時代のことである。俺は園兒切つての豪傑だつた、だからでもあるまいが大江山の酒吞童子にされ、俺より弱い奴に大勢の前で組み敷かれねはならなかつた。大勢の觀客が手を叩いて居る。頼光は得意氣な顔付で俺を押へて居る。拍手の中に幕は下りやうとする、大勢の客は俺の方が強いのを認めて呉れぬ。あゝ辛い、悲しい

……此の時だ、一番悲しかったのは……でも泣かなかつた、ちつと友の得意げな顔を眺めて苦笑ひをした……だつて俺は強いんだもの……

歸國は何時

景 凌 編

光陰矢の如く時節流るゝが如く、私が此の教室の末席を汚す様になつてからもう丸二年になりました。先日小平、門橋、田村の諸先生から今年の「刀林」に寄稿せよとのお話を受けたので又一年を日本で暮したとの感を深う致しました。「君は何時歸國するのか」ねと屢々先輩、友人諸賢から尋ねられます。故郷は忘れ難う御座居ますが、併し私は何時と明言することが出来ません。實際私自身で只今の處見當が付かないのですから。どうか何故此の見當がつかないかを一通り御聞き下さい。

私が茂木先生始め先輩諸先生から受けました、又受けつゝある御高恩は實に筆紙に盡し得る所ではなく、殊に茂木先生が私の學資に就き御配慮、御盡力下さいました御恩愛は深く、心肝に銘じ、私は如何にしても此の御恩に報ひなければならぬと思ひます。

扱て私の御報恩の途は何處にあるのでせうか。

茂木先生御令名は御著書を通じ敵國刀圭界に周知されて居り、今年の暑中休暇には河北省醫科大學教授、北平米國病院醫員、山東省醫學專門學校教授等敵國諸新進醫師が相前後して長期間醫局を見學

し、木村、前田 町田、岩原、百溪諸先生の御手術を拜見し、其の優秀なる御醫術に感激致しました。殊に茂木先生が三分三十秒間の短時間を以て敏捷適確に盲腸の摘出を完ふせられしを見學するや、彼等は皆殆ど驚倒せんばかりに敬服し、異口同音に未だ嘗て歐米諸國に於てもその例を見ない奇蹟に近い神技であると感激致して居りました。彼等が歸國早々此の驚くべき茂木醫術を四方に宣傳すること
は疑なく、又諸君は歸國に際して整形の前田先生の器械及び岩原先生の後頭下穿刺針を皆購つて歸りましたから、慶應醫科大學の名は彌が上にも敵國に高まり行く事で御座居ませう。

扱て私は此の慶應醫科の名譽の爲に何を爲さねばならぬでせうか？ これを思ひ、かれを思ひ只だ懸命猛勉強に依り一日も早く諸先生の高大なる御厚恩に報ひ得らるゝだけの醫術に達し歸國の曉、私の醫術は少くとも敵國に於ける慶大の名譽を傷けざるものとなり、又茂木先生始め諸先生の仁術を以て兄弟も啻ならぬ兩國々民感情融和の基礎を築き、延べて東亞の平和を確立し、人類生存競争の慘劇を救済せん事を期するものであります。

醫術の山は登れば登る程高くなりゆくばかりで、光陰は矢の如く飛び去り行きます。私の焦慮は茂木先生及び諸先生の濫い御芳情により常に太陽に照らされた雪の如く溶けながら、汲々營々、自らが自らを鞭撻致して居ります。



先生からお土産

姚 瑟 若

秋將に去り冬來らんとする時にあたりまして何が所在してゐた事でせう。

私が日本を踏んで先づ私の目を驚かしたものは山水の美、都會の美觀、更に深く感じたものは人の情、殊に茂木先生の御親切なる御指導で御座居ます。

不肖の私が日本に参りまして斯く醫學の一部でも深く知り得たのは全く先生を始め、諸先生からの間斷なき衷心の御指導の賜で御座居ます。

私が此の懐しい先生の許を離れ、日本を去つて本國（民國）に歸國致します時のお土産は此の學問にこそすものはないと考へて居ります。慈愛深い御指導の上に更に思ひ出深いものとなるのは、私が今年正月中盲腸炎に罹りました時、先生御自身の手で手術して頂いた事であります。而も盲腸の手術は先生御得意のものです。私は今まで幾度となく人からお土産を頂きましたが、其れは月日と共に氷のうすれ行くが如く消去するものでありました。

手近に思ひ出す様な材料がありませんので……思ひ出す事少く、遂には私の頭から消え去つてしまふのであります。永い月日に忘れてしまふ事は止むを得ない事であります。此れに反して先生から御指導されたる學問と先生のなされたる盲腸の手術は私の身が滅びますまで決して消え去るものではありません。幾度となく思ひ出すに従て此のお土産は更に新たによみがへつて來る事でありませう。私が本國に歸りましても先生からの手術の切痕を見ては慈愛深い先生の事、其他色々の事が頭に次ぎ次ぎに思ひ出されて行く事と思ひます。

此の上ないお土産を頂きまして喜に堪えません。最後に先生を始め醫局諸先生方の御健康を祈り申して筆を擱きます。

頌茂木先生施行盲腸手術新詩（中華民國）一首（平仄と韻なし）

龍目神手術術中
四分十秒記錄新

若問誰家好聖手？
慶大茂木老先生！

姚十九郎草



時の流れ

多
香
子

君と吾 白き息はきつゝ

月の照せる白き道を歩ゆめり

行手の森より黒き影をつたへて

おどろの鐘の音 黒き木影にとしみゆく

またしても悲しげなる蟲の音

白き道と黒き木影をぬうて流る

吾につれなの君にてありしか
君につれなの吾にてありしか
その夜は眞の心もて歩ゆめるに

星と月と鐘の音

白と黒と蟲の音

あゝ秋 その夜は吾等眞の心にてありし

雨 滴

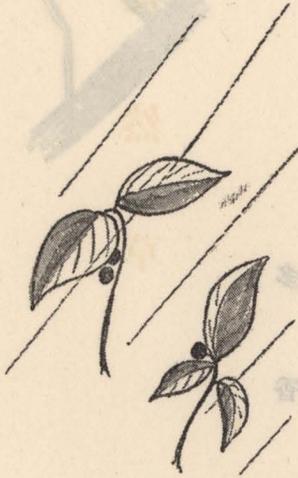
ポツリ〜 雨滴れ

その初めの音に君を

その終りの音に私を

しのでは泣いてゐる

雨降りの宵



多 香 子



病院文學
徒然草

T S U N E

たはごと

ばやばやと暮してゐる間に又刀林の時節になつた。全く一年の経つのが早い。去年の今頃はT君と盛んに飲んで歩いて月末に蒼くなつたものだ。T君と云へばあまり便りがないが南洋で何をしてゐるのやら。相變らず飲んでゐると云ふ噂は聞いたが、さぞやドンドン節を歌つてゐることであらう。

ネクタイ

僕には妙な癖があつてどうしてもネクタイを買ふ氣にならない。金に困つてゐるわけでもない證據にはシャツの方は時々買ふことで解る。毎年冬中しめてゐるネクタイは三年程前F君のしてゐるのを褒めて貰つたものだ。其の後味をしめてちよい／＼人のネクタイを褒めるがもう誰も呉れない。

草履

手術場の控室で看護婦がフェルトの草履を脱いで置く。どれ
もこれも同じ様な草履なので、間違はれては大變と一足づゝキ
チンと揃へてそれ／＼覚えの場所に置いてある。中にも買ひた
ての新しいのが隅の方に立てかけてあるのはおかしい。

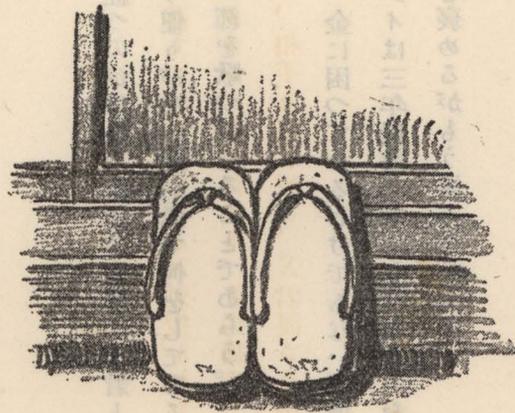
ア ツ ベ

これはアツベだ。早く切りませうと切つて見ると大したこと
がない。カタル性蟲様突起炎と云ふ奴だ。内科ではこれを外科
的蟲様突起炎と稱して輕蔑する。下劑もかけました、灌腸もし
ました。確かに蟲様突起炎ですと送つて来る。切つて見ると噴
水の如く膿が出て来る。

これを内科的蟲様突起炎と稱して我々は恐れる。そして前者は一週間で癒るが、後者は往々にして
死ぬ。以て内科醫如何となす。

親 友

他人に家へ飯でも食ひにいらつしやいと云ふ。又友達とは屢々一緒に飯を食ひに行く。その間に段
々と親しくなる。考へて見ると失禮な話で、犬を餌で馴らす様なものだ。しかしこれはそうでない。



食ふこと。糞をすること。やること等、本能的な事は羞恥心から決して人の前ではしないことになつてゐる。だから一緒に飯を食ひに行くこと云ふことは、こんな恥しいことを一緒に見せあつてする程お前と俺は親しいのだと云ふことになる。だからもつと親しくなるには一緒に女郎買ひに行けば良い。尙親しくなりたければ、一緒に糞でもひれば良い。

感 違 ひ

甘 井 太 郎

醫局對抗リレーに優勝し、祝勝會終りて餘力ある連中、さる所に落ちつけり、中なるX君疲かれたりとして、相手をのせけるに、レースの疲勞か、ワーデンムスケルのクラブを來たせり。その痛さ、途中にてよされもせず、顔をしかめ、足をのぼし、腕をつゝばれば、相手も亦よがる、X君涙さえ出て、折角のセツナも、そうくゝにてすませたりと。

同窓會々員名簿

昭和十年十一月末日 入局順

○印ハ在局者、
(總員一六一名)

四谷區東信濃町二八
(電四谷、四五六八)
 四谷區三光町五四
(電四谷、六二一六)
 福岡縣嘉穂郡桂川村
(平山鐵業所醫院)
 札幌市北四條西十五丁目一
(北大柳外科)
 神奈川縣鎌倉材木座
 中野區沼袋南二丁目一六〇
 大森區田園調布三丁目△
(大雄山病院)(電田園調布七七五)
 麻布區斧町八〇(電青山六五二五)
 新潟縣柏崎本町六丁目
 水戸市鷹匠町六九一
 神奈川縣小田原萬年町四丁目五七三
(仁天堂病院)
 神奈川縣都築郡田奈村長津田一四四
 川崎市貝塚一二(電川崎、三四五〇)
 深川區西平井町九三
 茨城縣結城町一四一六
 蒲田區新宿町三六九

茂木藏之助
 犬養六郎
 成松清敏
 柳壯一
 大庭國紀
 中村復一郎
 梅村六郎
 木村博
 高桑武夫
 柴沼薰
 戸田四郎平
 森信彦
 阿部貞治
 片柳常作
 稻葉俊雄
 大槻正路

芝區白金三光町二六九
(電高輪、六六八〇)
 桐生市西久保方町二丁目七八六
 中野區住吉町二七
 長野縣 富士見高原療養所
 大森區田園調布四丁目七一
(芝、濟生會)
 小樽市(小樽病院)
 京都市東山區山科竹鼻
 杉並區和泉町三四一
 群馬縣伊勢崎町住吉町
 深川區木場三丁目八
 宮城縣牡鹿郡石卷町新田町三九
 栃木縣栃木町萬町二丁目
 杉並區阿佐ヶ谷四丁目九〇
(電萩窪、二〇八九)
 大連市風町九〇(聖愛病院)
 靜岡市鷹匠町三八(靜岡日赤病院)
 滿洲國吉林省拉賓線新站拉
 法醫戊病院

町田謙二
 赤松常信
 高木宗吉
 中村武重
 鎌田竹次郎
 山本順
 本郷光美
 關市衛
 今井金治
 新田龜三
 上石英造
 澤江六太郎
 篠原靜夫
 牛久昇治
 佐藤太平
 林利治

茨城縣港町 (大會根病院)
 杉並區東田町二丁目一六四
 樺太、真岡南濱町
 澁谷區代々木深田一六六七
 樺太、大泊榮町中通二八(三橋病院)
 福井縣遠敷郡小濱町住吉八三
 山形縣鶴岡市馬場町甲二番地
 澁谷區代官山町同潤會アパート
 大分縣北海郡小佐井村
 富山縣高岡市旅籠町
 熊本市大江町本一二三
 岩手縣和賀郡黑澤尻町(和賀病院)
 品川區五反田三丁目七〇(病理)
 八王子市八日町三一
 北海道十勝國帶廣市西一條八丁目一五
 福島縣石城郡四倉町
 目黒區駒場町七九八(電青山五二八)
 (神奈川濟生會病院)
 横濱市中區尾上町三丁目三六

大會根幾次郎
 神山敏雄
 中村勝之助
 近藤宗彦
 三橋弘
 濱野碩太郎
 豐田秀穂
 渡邊治生
 神野澄晴
 吉崎純
 竹下貫一
 高巢三四一
 駒井忠雄
 四條龍作
 小内昇
 木村守江
 原廣治
 佐藤維秀

杉並區清水町二一〇
 (電荻窪、三三五四)
 靜岡市大岩宮下町一七七
 (靜岡日赤病院)
 山口縣天津郡人丸
 西宮市河西町二九
 四谷區右京町二二(理學科)
 足利市伊勢町
 赤坂區青山南町三丁目四九
 四谷區須賀町四二(電燈病院)
 朝鮮京城府漢江通二丁目一
 (衛戍病院官舎六號)
 中野區本町通四丁目二六(病理)
 淺草區七軒町四(東京痔病院)
 赤坂區青山北町三丁目六七
 麻布區新網町一丁目五五(生理)
 愛知縣温美郡二川町
 杉並區成宗一丁目一〇一(醫化學)
 甲府市愛宕町二〇一(渡邊病院)
 麻布區本村町三五(電高輪、九二五)
 世田ヶ谷區世田ヶ谷二丁目一四三九

○ 横山虎雄
 川田正雄
 吉野史郎
 中村次郎
 桑野鐵四郎
 鎗田榮
 岩原寅猪
 森文雄
 松井八郎
 河内野弘德
 高橋福三郎
 藤原道純
 古川明
 松橋一
 君塚正
 鍋島勉
 前田和三郎
 村上晋

前橋市北曲輪町

杉並區高圓寺四丁目六一六(寄生蟲)

江戸川區小岩町二丁目二五五(解剖)

澁谷區櫻ヶ丘町九六(值賀方)(衛生)

ブラヂル、リオ、デ、ヂャネイロ

横濱市本牧町二丁目三三(警友病院)

世田ヶ谷區代田二丁目六八二

澁谷區千駄ヶ谷四丁目六二二

横濱市(眞金町病院)

杉並區荻窪二丁目六五(生理)

北海道釧路市浦見町五丁目二二

大連市星ヶ浦黒石礁六七

静岡市春日町一二六三ノ五

静岡縣濱松市(森下病院)

埼玉縣川越市小仙波一、一一一

世田ヶ谷區代田一丁目六五二ノ五

浅草區藏前三丁目一〇ノ一八

三重縣一志郡小野江村(西井病院)

關口林五郎

井上太郎

吉岡勝衛

中村廣人

八木勝郎

土方久顯

百溪定七郎

瀬尾審三

小口守一

弓削中

小野田肇

加藤銀治郎

志田元秀

森下貫一

橋本文吾

蓮江英男

堀田善二郎

富田勝郎

世田ヶ谷區代田一丁目五一五(寄生蟲)

牛込區若松町五八(衛生)

本郷區弓町一丁目二五(生氣莊)

長野縣小諸町赤坂町(樋口病院)

浅草區代田中町二丁目一〇

中野區昭和通一丁目二一

麻布區新網町一丁目二二

神戸市港區菊水町九丁目一七一

静岡縣田方郡土肥村土肥

澁谷區伊達町五一(醫化學)

北海道俱知安町(俱知安病院)

在ブラヂル

茨城縣日立鎮山本山掛橋役宅

杉並區馬橋二丁目一二三

大森區新井宿四丁目九八四

滿洲國遼陽滿鐵醫院外科

横濱市中區老松町五一(病理)

静岡市安東三丁目六二

(静岡日赤病院)

小方則太郎

小澤武雄

田村信介

田中周吉

辻岡元

武藤藤太郎

布留文夫

寺田泰三

相見三郎

酒井欣郎

森豐明

細江靜男

濱名元中

若林研爾

神山地眞氣

成内顯三郎

森山成一

栗本勝之進

世田ヶ谷區等々力町三丁目七七七
 杉並區阿佐ヶ谷三丁目五〇四
(芝、濟生會)(電菽窪三、三一六)
 神奈川縣神奈川區幸ヶ谷一
 秋田市中谷地町四四 (秋田病院)
 赤坂區新町四丁目一八
(電青山七、二六四)
 豊島區駒込五丁目九八〇
 清水市入江岡六七八
 四谷區南町七六
 澁谷區千駄ヶ谷町四丁目六一七
 本郷區弓町一丁目二六
 澁橋區諏訪町一 (津田沼戰車隊)
目黒區洗足一四七三ノ四
(電荏原三、六二〇)
 北海道小樽市 (小樽病院)
 澁橋區西大久保二丁目二八三
(電四谷二五五)
 澁谷區永住町一五
(青山五、五〇八)
 滿洲國撫順滿鐵醫院
 中野區大和町八四
(電中野二、一六七)
 長崎縣東彼杵郡松島

。笹島彦次郎
 (休)島田信勝
 明樂治部輔
 照井侃
 井手行平
 (休)伊藤國男
 板橋剛
 島中卓助
 門橋勇
 (休)龍野一男
 中村寬
 野崎寬三
 古山實
 小平正
 齋藤修二
 宮尾啓
 伊藤原
 萩尾又八

下谷區中根岸一 (ウグヒス莊)
 豊島區西巢鴨二丁目二五二八
(康樂病院)
 兵庫縣加古郡加古川町(加古川病院)
 南洋テニアン島
(南洋興發株式會社醫療室)
 神奈川縣秦野町上乳牛
(秦野町立病院)
 小石川區久堅町六九
(電小石川四、二〇九)
 大森區雪ヶ谷町三九八
 岡山市上出石町五〇(次田方)
(鐵道省岡山診療所)
 福井縣鯖江町下深江
 澁橋區柏木三丁目三五三
 滿洲國哈爾濱鐵路醫院外科
 本郷區駒込林町一七三
 世田ヶ谷區太子堂町三一三
 小石川區西丸町九
 橫濱市中區吉野町三丁目
(大雄山病院)
 葛飾區上平井町二九一四
 府下立川町寶來町三八三七
(飛行第五聯隊)
 本郷區湯島一丁目七

。大岡保司
 大塚廣
 釜江省司
 高橋真雄
 中野宗夫
 (休)長坂謙三
 山口恒造
 重盛福七郎
 木村知孝
 渡邊敬
 佐藤憲一
 山田迪
 今井秀雄
 大內正夫
 渡邊隼
 菅千里
 (休)竹內實
 鵜澤敏三

澁谷區幡ヶ谷笹塚一〇四五
 (芝濟生會病院)
 神田區神保町三丁目三(中野電信隊)
 豊島區駒込四丁目一二
 澁橋區澁橋七二六(丸山方)
 牛込區新小川町二丁目
 江戸川アパート八五號
 中野區高圓寺四丁目五二七
 鎌倉材木座(大庭病院)
 世田ヶ谷區代田一ノ六五二ノ五
 芝區白金三光町二七三
 (電高輪五、〇二八)
 澁橋區下落合四ノ一六六三(鎌田方)
 本郷區元町二ノ二七 望雪館
 (電小石川七、九二八)
 品川區大井龍王子町四七七一
 (電大森三三三)
 中野區川添町二六
 (電中野二、七三〇)
 四谷區須賀町三八
 (電四谷三、六〇八)
 品川區五反田一ノ二五五
 (高輪四、二六〇)三輪病院
 四谷區本村町五(花岡方)
 (電四谷五、九六五)
 中野區橋場町三四
 (電中野三、七七八)
 淺草區雷門二ノ七
 (電淺草四〇五)

葛原信一
 (休)山田庸夫
 小島茂
 佐藤壽郎
 小泉次郎
 久崎章
 岩崎一平
 蓮江信行
 尾村偉久
 大木猪四郎
 渡邊仁七郎
 (休)渡邊昇
 中山一郎
 名倉厚
 小林忠
 小林不二夫
 小坂慶一
 赤倉一郎

澁橋區柏木町五ノ一一八〇(鈴木方)
 市外吉祥寺四六七
 (吉祥寺二六八)
 杉並區高圓寺五三七 清風莊

木本多喜雄
 河田清士
 今井光

編輯後記

田村信介

己の力を省みず刀林編輯に當りましたが、秋も深み行くにつれ、心細いまゝに、随分と厚顔しく、皆様に原稿をお願いして、眞に御迷惑であつたらうと、想像致します。

幸にして各地先輩諸兄からも、在局諸兄からも、盛に御投稿下さいまして、御蔭で曲りなりにも其の任を果し得た事を心から感謝致します、編輯の都合上玉稿の一部を削り、又は形をかえました所もありますが、何とぞ悪からず御許を願ひ上げます、終りに望みまして小平、門橋君を始め、編輯員一同の御努力は勿論、編輯員外にして多大の御援助を賜つた方の多かつた事を深く感謝致します、こゝに小生單に古參なるが故を以つて、編輯後記を記して擱筆する次第であります。

昭和十年十二月二十日印刷
昭和十年十二月二十五日發行

【非賣品】

東京市四谷區西信濃町廿二番地

慶應義塾大學醫學部
外科整形外科教室同窓會

發行者

編輯者

田村信介

印刷人

東京市京橋區入船町二丁目一番地
高橋與作

印刷所

東京市京橋區入船町二丁目一番地
正進社印刷所

不許
複製

東京市四谷區西信濃町廿二番地

慶應義塾大學醫學部
外科整形外科教室

發行所

振替口座東京二九二七五番

